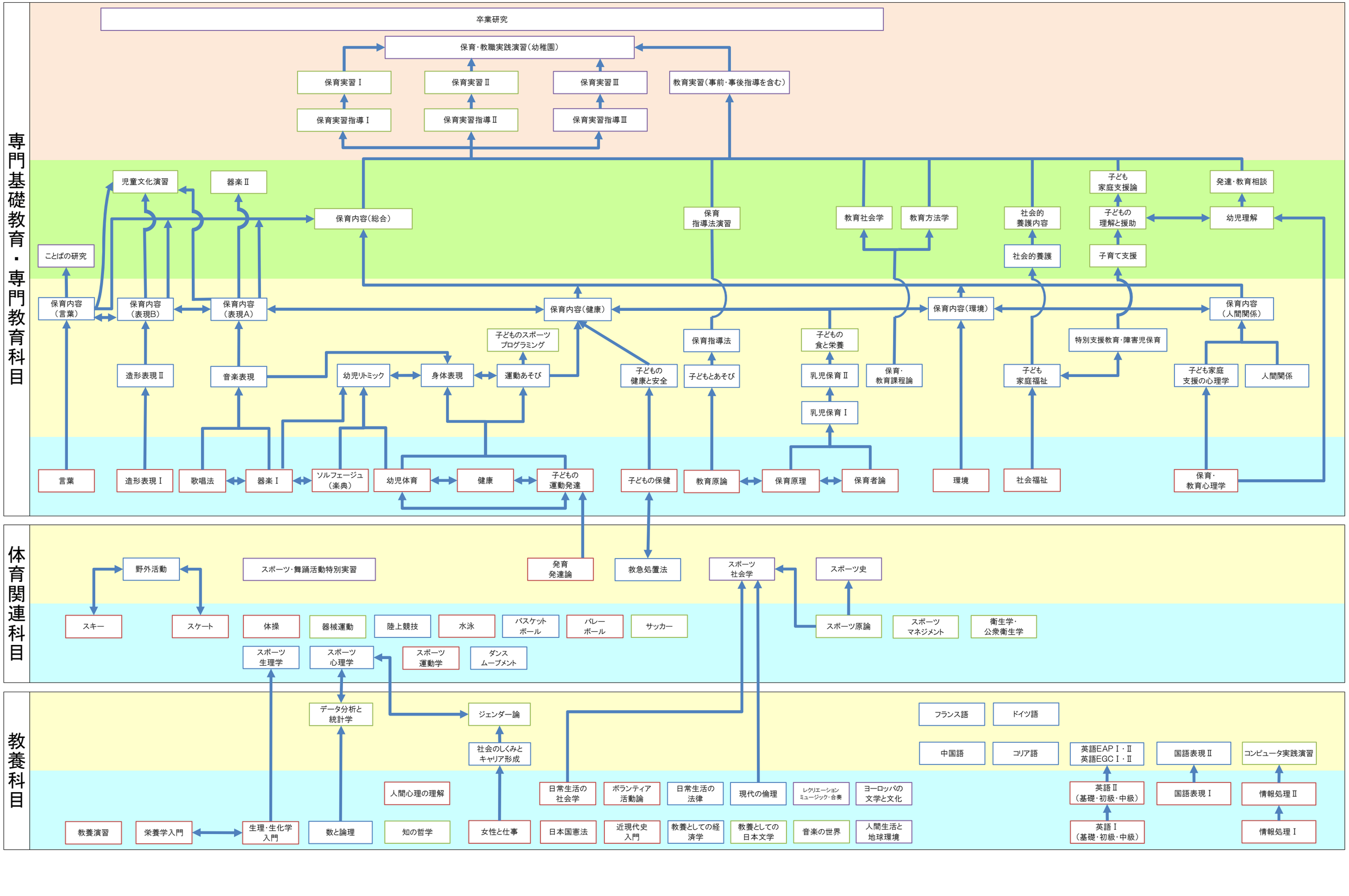
日本女子体育大学 | 2025年度 | シラバス

Japan Women's College of Physical Education

子ども運動学科　カリキュラムマップ



子ども運動学科　科目ナンバー

１桁目：学科コード（S=スポーツ科学科，D=ダンス学科，H=健康スポーツ学科，Ｃ＝子ども運動学科）／２～４桁目：分野コード／５桁目：授業レベル／６～７桁目：枝番

分類		基礎科目（100番台）		初級科目（200番台）		応用科目（300番台）		上級科目（400番台）	
		科目名	ナンバー	科目名	ナンバー	科目名	ナンバー	科目名	ナンバー
教養科目	必修科目	日本国憲法	CLR101	国語表現Ⅱ	CLR201				
		女性と仕事	CLR102						
		教養演習	CLR103						
		情報処理Ⅰ	CLR104						
		情報処理Ⅱ	CLR105						
		国語表現Ⅰ	CLR106						
		英語Ⅰ（基礎）	CLR107						
		英語Ⅰ（初級）	CLR108						
		英語Ⅰ（中級）	CLR109						
		英語Ⅱ（基礎）	CLR110						
		英語Ⅱ（初級）	CLR111						
		英語Ⅱ（中級）	CLR112						
	選択科目	栄養学入門	CLE101	英語ＥＡＰⅠ	CLE201				
		生理・生化学入門	CLE102	英語ＥＧＣⅠ	CLE202				
		近現代史入門	CLE103	英語ＥＡＰⅡ	CLE203				
		人間心理の理解	CLE104	英語ＥＧＣⅡ	CLE204				
		ボランティア活動論	CLE105	ドイツ語	CLE205				
		日常生活の社会学	CLE106	フランス語	CLE206				
		数と論理	CLE107	中国語	CLE207				
		現代の倫理	CLE108	コリア語	CLE208				
		日常生活の法律	CLE109	社会のしくみとキャリア形成	CLE209				
		教養としての経済学	CLE110	データ分析と統計学	CLE210				
		知の哲学	CLE111	ジェンダー論	CLE211				
		教養としての日本文学	CLE112	コンピュータ実践演習	CLE212				
		音楽の世界	CLE113						
		人間生活と地球環境	CLE114						
		ヨーロッパの文学と文化	CLE115						
		レクリエーションミュージック・合奏	CLE116						
専門基礎教育科目	必修科目	保育・教育心理学	CBR101	身体表現	CBR201	幼児理解	CBR301		
		社会福祉	CBR102			発達・教育相談	CBR302		
		子どもの運動発達	CBR103			児童文化演習	CBR303		
		保育原理	CBR104						
		スポーツ運動学	CBR105						
		水泳	CBR106						
		体操	CBR107						
		スポーツ生理学	CBR108						
		スポーツ心理学	CBR109						
		ダンスムーブメント	CBR110						
		スポーツ原論	CBR111						
	選択科目	造形表現Ⅰ	CBE101	発育発達論	CBE201	子ども家庭支援論	CBE301		
		言葉	CBE102	救急処置法	CBE202	器楽Ⅱ	CBE302		
		ソルフェージュ（楽典）	CBE103	人間関係	CBE203	ことばの研究	CBE303		
		環境	CBE104	造形表現Ⅱ	CBE204				
		健康	CBE105	運動あそび	CBE205				
		歌唱法	CBE106	野外活動	CBE206				
		器楽Ⅰ	CBE107	子どものスポーツプログラミング	CBE207				
		バレーボール	CBE108	スポーツ社会学	CBE208				
		スキー	CBE109	スポーツ史	CBE209				
		スケート	CBE110						
		バスケットボール	CBE111						
		陸上競技	CBE112						
		スポーツマネジメント	CBE113						
		衛生学・公衆衛生学	CBE114						
		器械運動	CBE115						
		サッカー	CBE116						
専門教育科目	必修科目	保育者論	CMR101	保育・教育課程論	CMR201	教育社会学	CMR301		
		教育原論	CMR102	保育指導法	CMR202	教育方法学	CMR302		
		幼児体育	CMR103	保育内容（健康）	CMR203	保育内容（総合）	CMR303		
				保育内容（環境）	CMR204	保育指導法演習	CMR304		
				保育内容（言葉）	CMR205				
				保育内容（人間関係）	CMR206				
				保育内容（表現Ａ）	CMR207				
				保育内容（表現Ｂ）	CMR208				
				音楽表現	CMR209				
				特別支援教育・障害児保育	CMR210				
				幼児リトミック	CMR211				
	選択科目	子どもの保健	CME101	子ども家庭福祉	CME201	社会的養護	CME301	保育実習指導Ⅰ	CME401
				乳児保育Ⅰ	CME202	社会的養護内容	CME302	保育実習指導Ⅱ	CME402
				子ども家庭支援の心理学	CME203	子育て支援	CME303	保育実習Ⅰ	CME403
				乳児保育Ⅱ	CME204	子どもの理解と援助	CME304	保育実習Ⅱ	CME404
				子どもの健康と安全	CME205			保育・教職実践演習（幼稚園）	CME405
				子どもとあそび	CME206			保育実習指導Ⅲ	CME406
				子どもの食と栄養	CME207			保育実習Ⅲ	CME407
				スポーツ・舞踊活動特別実習	CME208			教育実習（事前・事後指導を含む）	CME408
								卒業研究	CME409

【卒業認定方針と科目の関連性】

スポーツ科学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学修ならびに研究に必要な基礎的知識およびスキルを修得し発揮できる
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術を修得し発揮できる
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーを修得し実践に生かすことができる
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等に関する知識・理論およびスキルを修得し実生活に応用できる
⑤	キャリア教育	自らの将来を自律的に考え実現するための実学的資質を身につけ活用できる
⑥	スポーツ方法	各種運動・スポーツ種目の基本的な技能や戦術を理解するとともに身につけ、実践することができる
⑦	スポーツコンディショニング	スポーツの技能・競技力を最大限に発揮できる身体的・心理的条件を整えるコンディショニングの知識・理論を身につけ実践できる
⑧	スポーツコーチング	競技力を向上させるトレーニング理論や実践的なプログラミング・コーチング理論を身につけ実践できる
⑨	教職科目	体育教師としての強い使命感、的確な生徒理解力、および豊かな教養を身につけ、学習者の成長発展に寄与する指導力を発揮できる

ダンス学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学修ならびに研究に必要な基礎的知識およびスキルを修得し発揮できる
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術を修得し発揮できる
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーを修得し実践に生かすことができる
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等に関する知識・理論およびスキルを修得し実生活に応用できる
⑤	キャリア教育	自らの将来を自律的に考え実現するための実学的資質を身につけ活用できる
⑥	ダンス芸術	ダンスの身体技能を合理的に構築し、質の高いダンスとして表現できる 作品創作や振付方法、演出方法に関する知識と理論を修得し、高度な表現の実現に応用できる
⑦	ダンス教育	多様な対象に適したダンスの学習目的に応じた内容・方法に関する知識と理論を修得し、幅広くダンス指導に応用できる
⑧	ダンス・マネジメント	ダンス上演やダンス学習を支える環境の管理および方法に関する知識と理論を修得し、実践できる
⑨	教職科目	体育教師としての強い使命感、的確な生徒理解力、および豊かな教養を身につけ、学習者の成長発展に寄与する指導力を発揮できる

健康スポーツ学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学修ならびに研究に必要な基礎的知識およびスキルを修得し発揮できる
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術を修得し発揮できる
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーを修得し実践に生かすことができる
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等に関する知識・理論およびスキルを修得し実生活に応用できる
⑤	キャリア教育	自らの将来を自律的に考え実現するための実学的資質を身につけ活用できる
⑥	スポーツ教育	教員として質の高い保健体育の授業を実践し、運動部活動では児童生徒の心身の実態に則した適正な指導を行うことができる。また、地域のスポーツ指導者として地域住民のニーズと実態に応じたスポーツ活動を提供し指導できる
⑦	健康運動指導	健康や体力について専門的に学び、多様な対象者に健康体力の保持・増進を目的とした健康運動指導を行うことができる
⑧	スポーツマネジメント	地域活動やＮＰＯ及びビジネスとしてのスポーツなどの効果的な仕組み作りやその運営を行うことができる
⑨	教職科目	体育教師としての強い使命感、的確な生徒理解力、および豊かな教養を身につけ、学習者の成長発展に寄与する指導力を発揮できる

子ども運動学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学習・学問に必要とされる基礎的スキルの修得
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術の向上
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーの向上
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等への応用力の向上
⑤	キャリア教育	学生の将来に関わる実学的資質の育成
⑥	子どもの運動能力や感性	子どもの運動能力や感性を育てるための働きかけ方を学ぶ
⑦	子どもの健康と発達	子どもの心身の健康に関わる理論や実践方法を学ぶ
⑧	子育て支援	保育を広くとらえ、特別な配慮を必要とする子どもや保護者などへの支援の理論と方法を学ぶ

科目名	日本国憲法			担当者	中村　安菜	
英文名	Constitutional Law					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	SLR101・DLR101・HLR101・CLR101		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

日本という国の基本的なあり方を決めている日本国憲法。この法がどのような内容であり、どのように役立っているのかを学ぶ。人権に関する規定、統治機構に関する規定ともに出来るだけ具体的・現実的な事件・出来事等と結びつけながら解説する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
憲法に関する基礎的事項・理論について	理論や学説等を理解し自らまとめて説明できる。	憲法に関する理論や学説を教科書や配布資料を参照しながら説明することができる。	理解が不十分で説明できない。
憲法に関する研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら自ら説明することができる。	知見の理解が不十分で説明できない。
憲法の研究知見の活用に関する事項	知見の活用について自らの意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で自らの意見を述べることができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション、憲法とは何か
【　到達目標　】
(1)体育大学生が必修で日本国憲法について学ぶ理由を理解する。
(2)憲法がどのような法であるのかを理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「開講」と「第1講」を熟読する。(4.0hr)

第２回　憲法の歴史：立憲主義の登場と日本における憲法の歩み
【　到達目標　】
(1)立憲主義について理解する。
(2)大日本帝国憲法と日本国憲法の制定過程とその内容の違いについて理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第2講」を熟読する。(4.0hr)

第３回　基本的人権総論
【　到達目標　】
(1)基本的人権の種類を理解する。
(2)基本的人権が誰に、どの程度保障されるのかを理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第3講」・「第4講」を熟読する。(4.0hr)

第４回　法の下の平等
【　到達目標　】
(1)法の下の平等とはどのようなことであるかを理解する。
(2)具体的な事例で不合理な差別とはどのようなことであるかを理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第5講」を熟読する。(4.0hr)

第５回　思想・良心の自由と信教の自由
【　到達目標　】
(1)思想・良心の自由とはどのようなことであるかを理解する。
(2)信教の自由とはどのようなことであるかを理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第6講」を熟読する。(4.0hr)

第６回　学問の自由
【　到達目標　】
(1)学問の自由とはどのようなことであるかを理解する。
(2)大学の自治とはどのようなことであるかを理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第6講」を熟読する。(4.0hr)

第７回　表現の自由総論
【　到達目標　】
(1)表現の自由とは何かを理解する。
(2)表現の自由の重要性を理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第7講」を熟読する。(4.0hr)

第８回 表現内容規制と表現内容中立規制
【　到達目標　】
(1)表現の自由に対する規制の種類を理解する。
(2)表現の自由に対する規制の合憲性判断基準について理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第8講」を熟読する。(4.0hr)

第９回　経済的自由権
【　到達目標　】
(1)職業選択の自由とはどのようなことであるかを理解する。
(2)財産権とはどのようなものであるかを理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第9講」を熟読する。(4.0hr)

第10回　社会権
【　到達目標　】
(1)社会権が保障されることになった歴史的背景を理解する。
(2)生存権等の社会権の具体的内容を理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第11講」を熟読する。(4.0hr)

第11回　労働権・労働基本権
【　到達目標　】
(1)労働権と労働基本権について理解する。
(2)公務員の労働基本権に対する制約について理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第12講」を熟読する。(4.0hr)

第12回　象徴天皇制
【　到達目標　】
(1)憲法上の天皇に関する規定について理解する。
(2)天皇の存在と国民主権主義の関係について理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第24講」を熟読する。(4.0hr)

第13回　国会
【　到達目標　】
(1)国会の地位と構成・役割について理解する。
(2)国会と国民主権の関係について理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第15講」・「第16講」・「第17講」・「第18講」を熟読する。(4.0hr)

第14回　内閣
【　到達目標　】
(1)行政権の概念について理解する。
(2)内閣の地位と構成、役割や権能について理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第19講」を熟読する。(4.0hr)

第15回　裁判所
【　到達目標　】
(1)司法権の概念やその限界、司法権の独立について理解する。
(2)違憲審査制について理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第20講」・「第21講」を熟読する。(4.0hr)

各回の授業の内容は変更される場合がある。

【学修上の留意点】

授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者には適宜、穴埋め式のプリント（Googleクラスルームを通して配布）と補足資料を配布する。受講者には、ただプリントの穴埋めをするだけではなく、講義をよく聴き、自分で重要だと思う点などを積極的にメモすること、自分で考えることが求められる。授業中は、特定のテーマについてディスカッションやグループ学修を導入する。なお、予習・復習として教科書を熟読し、内容を十分に理解することに加え、講義中に興味を持った事柄について、自らすすんで調べ、理解を深めることが肝要である。授業に関する質問は積極的に受け付ける。

【教科書・参考書など】

「現代憲法入門講義　新7版」加藤一彦・植村勝慶編著、北樹出版、2024（新6版とは内容が変更されているため、シラバスで指定されている「新7版」を購入すること。）

【成績評価方法】

期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は当然の前提である）。試験は試験期間中に実施する。なお、シラバスに記載されている成績評価方法に変更がある場合は、適宜授業内で連絡する。

科目名	女性と仕事			担当者	新免　玲	
英文名	Career Development Studies (Women and Work)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	SLR102・DLR102・HLR102・CLR102		卒業認定方針との関連	③⑤

【到達目標】

本学の教育理念に沿い、主体的な生き方を自ら創造するキャリア形成の基礎力を身につけることを目的とします。働く環境がめまぐるしく変化する社会にあって、自らのキャリアについて考える機会を持ち、「働くこと」の意味や「仕事」について、自ら課題を発見し自律的に思考できるようになることを目指します。将来のありたいライフキャリア像に向けて、キャリア形成の心理学理論や研究を学び、演習などを通じて、科学的な自己理解・他者理解、社会の理解を深めつつ、今後の学生生活の目標を設定し、行動計画を立てられるようになることが目標です。２年次の「社会のしくみとキャリア形成」に接続します。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
キャリア形成の基礎力の習得	自らのキャリア形成に向けた行動計画が具体的に立てられて、動き出せている。	自らのキャリア形成に向けた行動計画が具体的に立てられている。	自らのキャリア形成に向けた行動計画が具体的に立てられていない。
働くことの意味や仕事についての理解	自らの課題を発見し、自律的に思考ができている。	自らの課題を発見すべく自律的な思考ができている。	自らの課題の発見や自律的思考はできていない。
自己理解を深めることの必要性	自己理解を深める為に何をすればよいか考え、継続した取り組みプランが描けている。	自己理解を深める為に何をすればよいか考えられている。	自己理解を深めるために何をすればいいのか考えられていない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（＊必ず参加してください）
【　到達目標　（目的とねらい）　】
オリエンテーション（授業への導入・シラバス・学習目標（目的・ねらい）の確認）、毎時の授業の進め方・課題および成績評価についての説明、キャリア形成の意味・心理学的基盤を理解する。

【授業時間外学修】
第2回に向けた準備、自己紹介スライドの作成。第15回までの授業について概観する。(4.0hr)

第２回　キャリアについて学ぶ
【　到達目標　（目的とねらい）　】
ジョハリの窓と自己紹介I（自己理解：強み編）グループ分け、強みについて
キャリアデザインの必要性を理解し、現在の自分を知る、ライフキャリアについて学ぶ

【授業時間外学修】
課題：ジョハリの窓とアンケートの提出。(4.0hr)

第３回　社会で求められるスキルとは
【　到達目標　（目的とねらい）　】
ジョハリの窓を使った自己理解、グループワークの有効性について
自己理解のワーク①強みワークI（自己理解：能力(強み）編）

【授業時間外学修】
課題：自己理解のワークI（強みワークIワークシート１と２）の提出。(4.0hr)

第４回　自己理解を深める①
【　到達目標　（目的とねらい）　】
社会人基礎力、キャリアの発達理論、相手に伝える力を学ぶ。
自己理解のワーク①強みワークI（自己理解：能力(強み）編）続き

【授業時間外学修】
課題：自己理解のワークI（強みワークIワークシート２と３）の提出。(4.0hr)

第５回　自己理解を深める②
【　到達目標　（目的とねらい）　】
3つのステップ：自己理解・職業理解・マッチングの理解のやり方を学ぶ
就職とは、マッチングの連続、仕事の考え方、キャリアプランニングについて考える。
ペアまたはトリオチームで、各自の自己PR書を踏まえた自己PRとフィードバック
【授業時間外学習】
課題：自己理解についての整理、ワークシート１～３を踏まえた自己PR文書の作成と提出。(4.0hr)

第６回　ガイダンス：キャリアデザインのための3つのステップ
【　到達目標　（目的とねらい）　】
3つのステップ：自己理解・職業理解・マッチングの理解のやり方を学ぶ
就職とは、マッチングの連続、仕事の考え方、キャリアプランニングについて考える。

【授業時間外学習】
課題：自分の仕事に対する考え方の整理、自己PR文書の修正。(4.0hr)

第７回　自己理解を深める③
【　到達目標　（目的とねらい）　】
選択理論心理学、マズローの欲求理論
キャリア選択とは、キャリアの転機とその対処
自己理解のワーク②（価値観（欲求））MSCI①の実施
【授業時間外学習】
課題：自己理解のワーク②（価値観（欲求））MSCIの実施、ワークシートの提出。(4.0hr)

第８回　ケーススタディ①　　※ゲスト講師の都合により回が変更になる可能性あり
【　到達目標　（目的とねらい）　】
キャリア形成に関するケーススタディと検討
活躍中の社会人による講演を通して仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成を考える。

【授業時間外学習】
課題：ゲスト講師の話を聴いて自分の考えを整理する。ワークシート提出。(4.0hr)

第9回　自己理解を深める④
【　到達目標　（目的とねらい）　】
キャリア選択とは、キャリアの転機とその対処
自己理解のワーク②（価値観（欲求））MSCI②の実施、アクションプランの整理

【授業時間外学習】
課題：自己理解のワーク②（価値観（欲求））MSCIの実施、ワークシートの提出。(4.0hr)

第10回　ケーススタディ②　　※ゲスト講師の都合により回が変更になる可能性あり
【　到達目標　（目的とねらい）　】
自分の興味や強みとマッチする仕事の探し方
活躍中の社会人による講演を通して仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成を考える。
ワーク①②の振り返り（自己理解：価値観（欲求）,能力（強み）,誘因（興味）のまとめ）
【授業時間外学習】
課題：ゲスト講師の話を聴いて自分の考えを整理する。ワークシート提出。(4.0hr)

第11回　仕事理解を深める①
【　到達目標　（目的とねらい）　】
キャリア・アダプタビリティ、キャリアの多様性、仕事の選び方、情報収集やリソース活用方法を学ぶ。

【授業時間外学習】
課題：興味が持てる1社を選ぶ。自己理解のワーク③強みワークIIの実施とワークシートの提出。(4.0hr)

第12回　仕事理解を深める②
【　到達目標　（目的とねらい）　】
職業理念、職業選択理論、自己理解・職業理解・マッチングの理解の深め方。
自己理解のワーク③強みワークII（業界・仕事理解：誘因（興味）編）

【授業時間外学習】
課題：強みのワークを踏まえて、自己紹介スライド作成に向けた自己PR書の修正と提出（4.0h）

第13回　キャリア形成に必要な自分の伝え方②　1/15
【　到達目標　（目的とねらい）　】
自己理解のワーク④強みワークIII（マッチングの理解編）①プレゼンテーション
自己PR書を踏まえたプレゼンテーションの実施（自己紹介IIの実施とグループ内で相互評価）
代表プレゼンテーションとの比較、スライド作成のために自己PR書内の要素を検討する。
【授業時間外学修】
自己紹介スライド作成・リハーサル（4.0h）

第14回　ケーススタディ③
【　到達目標　（目的とねらい）　】
自己理解のワーク④強みワークIII（マッチングの理解編）①プレゼンテーション
自己紹介スライドによるプレゼンテーション本番（自己紹介IIの実施とグループ内で相互評価）
グループ内で実施と振り返り
【授業時間外学習】
課題：第1回目の提出済自己紹介スライドと第13回作成スライドの比較と改善案の検討・提出（4.0h）

第15回　環境変化が激しい時代におけるキャリア選択と今後の大学生活
【　到達目標　（目的とねらい）　】
第1回目の提出済み自己紹介スライドとの比較・振り返りフィードバック共有、目標達成の確認、
今後について、アクションプラン
心理学的基盤の応用、発展学習の提示。
【授業時間外学修】最終レポート
これまでの学修を踏まえ、自己のキャリア形成について考えを整理する。アクションプランの提出。(4.0hr)

【学修上の留意点】

1. 本授業では、キャリア形成に関する講話やグループワークによる受講生同士のコミュニケーションの機会を増やし、大学での関係性向上や情報交換等、相互に成長する学修を目指します。そのため、出席は毎時行うグループワークなどの演習に参加するために、とても重要です。欠席しても必ず次回に向けて課題提出やグループワークを忘れずに行ってください。
2. 学生は、毎授業開始時、実施中および終了後にレポート（各15回＋最終レポート）を記入し、提出してください。

・課題の締め切りは、他の受講生にも影響が出てしますので、必ず守ってください。事前の相談がなく遅れたら課題の点数は-10%になります。必ず期日前までに教員へ相談し、遅れる場合も事前に相談の上、提出日および提出方法を確定してください。
・授業内容は場合によって変わることがあるので、Phollyや掲示板を見て確認してください。

【教科書・参考書など】

指定書籍：1.「キャリア心理学“強み”デザインガイドブック：自分にワクワクできるワークショップ」ナカニシヤ出版 予価2,200円（ISBN：978-4-7795-1851-5）　2.「キャリアデザインワークブック」ムイスリ出版　予価1,500円（ISBN978-4-89641-345-8）
それ以外のワークシートや動画などの教材は授業内で指示します。　ワークシートや動画などの教材は授業内やPhollyで指示します。毎時の授業時には、上記指定図書2冊と前回の【授業時間外学習】で提示された課題を持参してください。課題は、必ず紙もしくはパソコン等で開けるように用意してください。
参考書：就職四季報、業界地図、日経テレコン、東洋経済デジタル・ライブラリーなどのデータベースコンテンツ
　※毎授業時、次回の課題を含めて提示します。不明な点がある人は、次回まで待たずに必ず個別に確認してください。

【成績評価方法】

覚えたことを書くタイプの試験はありません。成績評価も、あなたが自分なりに考えたことを基本に評価します。高い評価はどのようなものかは講義中に都度示していきます。
具体的な成績評価は、①講義前後の小レポート／ワーク（オンライン提出中心）50%、②授業・グループワークでの貢献度・成果物20%、③学期内のレポート・課題(最終レポート含む）30%、の配分とし、総合して評価する。
課題提出遅延は、Phollyに記載の通り、減点します。　※授業への参加、貢献度：授業中のワーク（個人・ペア（トリオ）・グループでの活動）への参加態度も含みます。

科 目 名	教養演習			担当者		
英 文 名	Preparations for Academic Studies					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR103・DLR103・HLR103・CLR103		卒業認定方針との関連	①③④

【到達目標】

この授業は、大学での学修の基礎となる知識・技術の習得を目的とした初年次教育の授業である。授業では以下の４点を重点的に養成する。①アカデミック・スキルズ(大学での学修・調査・研究に必要な諸技術)の習得、②日本女子体育大学の一員としての自覚と責任の養成、③社会の一員として必要となるソーシャル・スキルズの向上、④教養力の養成。これらの目的を達成するため授業は少人数クラスでの演習形式で行われる。また下記の授業内容に加え、必要に応じて各種の配布物を使った課題およびワークショップ的内容も実施する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
アカデミック・スキルズについて	スキルズを習得し活用できる	ハンドブック等を参照しながら活用できる	習得が不十分で活用できない
ソーシャル・スキルズについて	スキルズを習得し活用できる	ハンドブック等を参照しながら活用できる	習得が不十分で活用できない
レポート・プレゼンテーションについて	やり方を習得し自分で行うことができる	ハンドブック等を参照しながら行うことができる	習得が不十分で行うことができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　アイスブレイク
【　到達目標　】
クラスメイトと「アイスブレイク」の活動を通して、仲間と打ち解けあい、よりよい集団づくりをしていくには何が必要かを体験的に学ぶ。

【授業時間外学修】
学習内容を今後のクラス、部活動、諸活動などの実践の場で活かすよう工夫する。(4.0hr)

第２回　私の学生生活
【　到達目標　】
成人としてのルール・マナー、学生生活で起こりうるトラブルを確認し、自分の大学生活を有意義なものしていくにはどうすればよいか、を自覚的に考える。

【授業時間外学修】授業で確認した内容を踏まえ、今後の大学生活をどう送るかについて各自の自覚を深める。(4.0hr)

第３回　大学とはどんなところか
【　到達目標　】
大学の制度や教職員の働き方など、多くの点で高校と異なることを理解し、より良い大学生活を送る上で、様々な相談窓口があることを知る。授業の種類や単位について学び、単位習得の条件や授業時間以外の学習の必要性を考える。
【授業時間外学修】授業で確認した内容を踏まえ、実際に学内を回って相談窓口を確認し、自らの履修登録内容から学習計画を立てる。(4.0hr)

第４回　日本女子体育大学を知る
【　到達目標　】
日本女子体育大学の創立者である二階堂トクヨの生涯を概観し、本学がどのようにして創立されたのかを理解し、説明できるようになる。また、建学の精神・教育理念を理解し、本学の一員としての自覚と責任を深めて、本学で学ぶことの意義を考える。
【授業時間外学修】創立者二階堂トクヨのことや本学の建学の精神・教育理念を必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。(4.0hr)

第５回　講義ノートをつくる
【　到達目標　】
大学で行われる授業の性質・特徴を踏まえて、講義ノートの意義・留意点を確認する。
担当教員の指示に従ってノートつくりを実践し、各自の改善点を探る。

【授業時間外学修】
講義ノートをつくる技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)

第６回　図書館などの大学施設を活用しよう
【　到達目標　】
大学の学びのサポートにはどのようなものがあるかを理解し、図書館の活用や情報検索の方法、施設利用のマナーや利用手続きなどを体験的に学ぶ。

【授業時間外学修】
学習内容を今後のクラス・部活動・諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。(4.0hr)

第７回　ハラスメントについて学ぶ
【　到達目標　】
ハラスメントの特徴を踏まえて、大学生活で起こりうるハラスメントや、ハラスメント問題の対応と対策を考える。

【授業時間外学修】
学習内容を今後のクラス・部活動・諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。(4.0hr)

第８回　データを読む技術
【　到達目標　】
量的データを扱う際の初歩的な統計的計算方法やスキルを、基本問題の実践を通じて習得する。

【授業時間外学修】
データ解釈の技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)

第９回　データをまとめる技術
【　到達目標　】
質的データを、整理・分析・考察の有効な資料にしていくための「まとめる」スキルを学ぶ。ここでは「マインド・マップ」と「ＫＪ法」を習得する。

【授業時間外学修】
授業で実践したスキルを、今後の授業・研究などで実践してみる。(4.0hr)

第10回　話し合いの技術
【　到達目標　】
集団で物事を決定する際の諸方法の長所・短所を比較考察し、話し合いの目的や決める内容に応じた適切な方法を考える。

【授業時間外学修】
学習内容を今後のクラス・部活動・諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。(4.0hr)

第11回　プレゼンテーションの技術
【　到達目標　】
プレゼンテーションに求められる姿勢・準備方法等を理解し、その効果的な実施方法や手順を習得する。

【授業時間外学修】
学習内容を今後の授業・ゼミ・部活でのプレゼンに活かすよう工夫する。(4.0hr)

第12回　レポート・論文作成の技術
【　到達目標　】
レポート・論文作成に求められる基本姿勢・思考法・研究倫理を理解し、作成の手順等を、内容と形式の両面から習得する。また、レポート・論文作成における不正行為を防ぐ方法を学習し、参考文献を正しく利用することで論考の質を高める技術を実践的に習得する。
【授業時間外学修】
今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。(4.0hr)

第13回　専門への架け橋
【　到達目標　】
「卒業研究」の概要を理解し、先輩たちの体験アンケート結果を参考にして、自分の卒業研究の方向性を考える。

【授業時間外学修】
学習内容を踏まえ、自分が書きたい卒業研究のテーマ・内容を考える。(4.0hr)

第14回　キャリアプランとライフプラン
【　到達目標　】
「キャリア」について理解し、これからの時代（社会情勢やAI）に対し、自分の将来像を考える。数年後、数十年後のライフプランを立てることにより、自分の価値観に合うキャリアを探る。
【授業時間外学修】
学習内容を踏まえ、自分が想像するキャリアプラン・ライフプランを考える。(4.0hr)

第15回　レポート・プレゼンテーション
【　到達目標　】
担当教員の指示の下に、レポート・プレゼンテーションの作業を行う。

【授業時間外学修】
受講生各自がレポート・プレゼンテーションの反省点・改善点を確認する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

この授業は、講義ではなく「演習」である。そこでは受講生ひとりひとりが読み、考え、書き、意見交換をし、調べ、報告する様々な「活動」が中心となる。良識ある態度で授業に臨み、教員・クラスメイトと協力し合って、この演習を有意義なものにすることが望まれる。

【教科書・参考書など】

『教養演習ハンドブック』を用いる。他にも必要に応じて随時ハンドアウト・資料等を配布する。
第２回では、入学時に配布された『ニチジョ info.』、『学生生活スタートブック 学生生活は危険がいっぱい』、『学生便覧』を持参し、第７回では、『キャンパス・ハラスメント防止および問題解決のためのガイドライン』（日本女子体育大学ハラスメント防止委員会編）が、追加資料となる。

【成績評価方法】

スキル・課題の習得度・達成度を50%、レポート・プレゼンテーションの達成度50%で評価する。

科 目 名	情報処理Ⅰ			担当者	牧　琢弥・水野　有希 阿南　大・竹内　由利子	
英 文 名	Information Literacy Ⅰ					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR104・DLR104・HLR104・CLR104		卒業認定方針との関連	②③

【到達目標】

ICT（Information & Communication Technology）の基礎や情報倫理を理解した上で、文書作成、表計算等に関するアプリケーションの活用法を学び、実践することができる。また、ネットワークのしくみの基本を理解し、インターネットやメーラーの活用法やコンピュータウイルスに対する対策についても理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
PCを利用するために必要最低限な知識	PCの利用で問題点などを判断できる知識を習得し、実践することができる。	Web上のマナー・著作権・ネットの仕組みを理解し、説明することができる。	利用するためのネットの仕組や注意点などが、無理できていない。
アプリケーションの大学生としての標準的スキル	与えられた課題を思考・判断して取り組む力を習得し、実践することができる。	Officeアプリの標準的なスキルを習得し、説明することができる。	大学生としての標準的スキルの習得が不十分である。
周辺機器の標準的な利用方法	周辺機器を自律駆に使いこなせる能力を習得し、実践することができる。	ファイルと保存，プリンタなどの設定方法を習得し、説明することができる。	周辺機器の利用と設定に支障がある。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　インターネットについての理解と利用
【　到達目標　】
(1)ポータルサイトの概要やオンライン授業について理解し、利用方法を習得する。
(2)メールの署名の設定し、メールの送り方を理解する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第２回　情報倫理と著作権
【　到達目標　】
(1)情報倫理について概要を学び、ネットを利用することで生じる問題を理解する。
(2)著作権を学び、生活の中で発生する著作権法違反を理解する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第３回　メディアリテラシーとWebコミュニケーション
【　到達目標　】
(1)情報におけるメディアリテラシーの重要性を理解する。
(2)Webコミュニケーションのマナー、活用法や問題点を理解する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第４回　情報化社会の問題と情報セキュリティー
【　到達目標　】
(1)情報化社会における問題点を知り、情報漏洩の経路や原因を理解する。
(2)情報セキュリティーの必要性と対策を理解する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第５回　文書作成法の理解
【　到達目標　】
(1)文書の構成の知識と文書作成ソフトウェアの知識を理解する。
(2)テキストデータ作成と編集について理解する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第６回　文書作成の方法
【　到達目標　】
(1)Wordによる文書レイアウトの操作に関する知識を得る。
(2)文書のレイアウト方法や編集について理解する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第７回　ビジュアル表現法の理解
【　到達目標　】
(1)文書上のオブジェクトについて理解する。
(2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第８回　ビジュアル表現の方法
【　到達目標　】
(1)文書上の図形描画（ドロー系コンテンツ）を習得する。
(2)文書の印刷方法について理解し、習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第９回　数値分析・データ加工法の理解
【　到達目標　】
(1)コンピュータによるデータの蓄積と分析の知識を得る。
(2)表計算ソフトEXCELの基本操作ができるようになる。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第10回　数値分析・データ加工の方法
【　到達目標　】
(1)EXCELによるデータ分析、シートの編集・印刷についての知識を得る。
(2)数値計算・統計計算への応用ができるようになる。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第11回　プレゼンテーション法の理解
【　到達目標　】
(1)PCを使ったプレゼンテーションについて理解する。
(2)PowerPointによるスライド作成を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第12回　プレゼンテーションの方法１
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーション・スライドの応用的利用について理解する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第13回　プレゼンテーションの方法２
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーション・スライドの効果的利用方法を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第14回　OSとアプリケーションとファイルについての理解
【　到達目標　】
(1)OSとアプリケーションについての知識を得る。
(2)Word文書をPDF形式に保存する方法・EXCELをCSV形式に保存する方法等を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第15回　ファイルについての知識および管理の方法
【　到達目標　】
(1)ファイルについての知識および管理方法を習得する。
(2)様々な保存形式について理解する。
(3)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。
【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

【学修上の留意点】

単なるアプリケーションの活用と習得だけでなく、背景にある文書の構成やコンピュータの分析処理の基本的な知識や考え方を学び、情報機器の活用に必要となる情報倫理や著作権などの知識を学ぶことで、専門科目における活用の基礎となるスキルと知識を得ることを目標とする。

【教科書・参考書など】

別途、授業時に指示する。

【成績評価方法】

毎回の提出課題を１００％として評価する。

科 目 名	情報処理Ⅱ			担当者	牧　琢弥・水野　有希 阿南　大・竹内　由利子	
英 文 名	Information Literacy Ⅱ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR105・DLR105・HLR105・CLR105		卒業認定方針との関連	②③

【到達目標】

「情報処理Ⅰ」よりワンランク上の内容を学ぶ。Wordでは、より高度な文書作成（データの差し込み等）を学び、報告書や論文作成に活用できる操作を習得する。Excelでは、高度な計算に加えて、データの並べ替えや抽出等の操作を習得して活用できる。Power Pointでは、相手に伝わるプレゼンテーションを作るための工夫を学び、実際にプレゼンテーションを行うことができる。また、画像や映像ファイルの編集方法を学び、実際に撮影や録画したデータから作品を作り、情報発信することができる。さらに、ネットワークコンピューティング、OSやファイル管理、周辺機器やメディアについても理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
PCを実用的に利用できる高度な知識	実際に発生する問題の解決・判断と知識を習得し、実践することができる。	WebやPCの利用に関する問題意識と適切な判断と知識を取得し、説明することができる。	WebやPC利用上の適切さ・知識が欠如し、説明することができない。
アプリケーションの実際的問題を解決する力	実際の問題に対し、PCアプリやWebによる高度な解決能力を取得し、実践することができる。	PCアプリの実用的課題に対し自律的に計画できる能力を身につけ、説明することができる。	PCアプリによる実用的問題への解決能力が欠如し、説明することができない。
周辺機器を含めたPCの総合的な利用	高度なファイル管理やクラウドの設定を理解し、実践することができる。	ファイル管理・ネットワーク機器・クラウドの設定を標準的理解し、説明することができる。	ファイル管理・ネットワーク機器の利用知識が欠如し、説明することができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　情報ツールとネットワーク・コンピューティング
【　到達目標　】
(1)情報端末機器とWebについての理解する。
(2)情報ツール、Wifiについて理解する。
(3)クラウド（Cloud）について理解する。
【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第２回　パソコンの構成と周辺機器
【　到達目標　】
(1)パソコンの構成を理解する。
(2)パソコンの周辺機器の用途や機能について理解する。
(3)パソコンの設定について理解する。
【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第３回　文書作成の方法（応用）
【　到達目標　】
(1)高度なワード文書の作成に必要な機能を理解する。
(2)文書上のオブジェクトの編集方法を習得する。
(3)校閲、参考資料の機能を理解し、操作方法を修得する。
【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第４回　ビジュアル表現の方法（応用）１
【　到達目標　】
(1)目的・用途に合わせた表や図形の編集方法を習得する。
(2)画像編集ソフトの活用を修得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第５回　ビジュアル表現の方法（応用）２
【　到達目標　】
(1)複雑な図形表現の方法を習得する。
(2)作成されたオブジェクトの利用方法を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第６回　ビジュアル表現の方法（応用）３
【　到達目標　】
(1)文書上のオブジェクトについて理解する。
(2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第７回　数値データの分析１
【　到達目標　】
(1)EXCELの式と関数によるデータ処理を理解する。
(2)絶対参照の利用方法を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第８回　数値データの分析２
【　到達目標　】
(1)統計に必要な関数の利用方法を習得する。
(2)データに条件をつけて分析・表示させる方法を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第９回　数値データのビジュアル化
【　到達目標　】
(1)分析に適したグラフを理解する。
(2)分析結果をグラフで表現する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第10回　データベースのデータの活用
【　到達目標　】
(1)データベースについて理解する。
(2)データベースのデータを文書に差し込む方法を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第11回　マルチメディアデータの取込と編集
【　到達目標　】
(1)知的財産権について理解する。
(2)マルチメディアのファイルについて理解する。
(3)マルチメディアをPCで取込む方法や編集ソフトの利用方法を習得する。
【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第12回　スライドを使ったプレゼンテーション１
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーション内容に適したスライド作成を理解する。
(2)グループワークによりプレゼンテーション用スライドを作成する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第13回　スライドを使ったプレゼンテーション２
【　到達目標　】
(1) スライドの作成を完了する。
(2) プレゼンテーションを行うための資料作成を行う。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第14回　スライドを使ったプレゼンテーション３
【　到達目標　】
(1)スライドを使ってプレゼンテーションを行う。
(2)他のグループによる評価を行い、プレゼンテーションしたグループにフィードバックする。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第15回　ファイル管理とPCの設定
【　到達目標　】
(1)高度なファイル操作・管理・設定を習得する。
(2)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

【学修上の留意点】

「情報処理Ⅰ」で学んだ事を踏まえて、アプリケーションのスキルアップをするとともに、ネットワーク・コンピューティングの仕組みと活用についての実践的知識を習得することで、専門科目、卒業研究などに活用可能な知識を得ることを目標とする。

【教科書・参考書など】

別途、授業時に指示する。

【成績評価方法】

毎回の提出課題を１００％として評価する。

科目名	国語表現Ⅰ		担当者	石元　みさと・並木　真理子 高橋　良久		
英文名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅰ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR106・DLR106・HLR106・CLR106		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

・国語力や読解力、文章力を養い、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力を高めることを目的とする。
・自ら主体的に言語生活の充実を図るとともに、言葉に関する視野を広げ、実生活に活きて働く基本的なリテラシーを養う。
・文章を読んだり書いたりすることを通して、批判的思考力を養う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
言語運用能力を高める	十分な言語運用能力を得られた	標準的な言語運用能力を得られた	十分な言語運用能力を得られなかった
言語に関するリテラシーを養う	十分な言語リテラシーを得られた	標準的な言語リテラシーを得られた	十分な言語リテラシーを得られなかった
批判的思考力を養う	十分な批判的思考力を習得できた	批判的思考力を習得できた	批判的思考力を身につけられなかった

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定）
【　到達目標　】
この授業の目的とねらい、学習方法を理解し、各自が学習目標を設定する。

【授業時間外学修】授業内容を復習し、自身の立てた目標を達成するために必要なことをリストアップする。(4.0hr)

第２回　国語力（知識）を身につける①（敬語）
【　到達目標　】
・尊敬語、謙譲語、丁寧語の違いを理解する。

【授業時間外学修】
日常生活（他授業やアルバイト）での会話でも敬語を使えるようにする(4.0hr)

第３回　国語力（知識）を身につける②（文法）
【　到達目標　】
・「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」の使用を防ぐために、動詞と助動詞の活用について学ぶ。

【授業時間外学修】
テレビやインターネットの中の「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」を探してみる(4.0hr)

第４回　国語力（知識）を身につける③（仮名遣い・語彙）
【　到達目標　】
・送り仮名などの仮名遣いについて理解し、適切に使えるようにする。

【授業時間外学修】
SPIに頻出する「二語の関係」の問題に取り組む。(4.0hr)

第５回　国語力（知識）を身につける④（手紙・メール）
【　到達目標　】
・手紙のマナーや書き方について理解を深める。
・Eメールのマナーや書き方について理解する。

【授業時間外学修】
実際にEメールを作成してみる。(4.0hr)

第６回　読解力を身につける①（文章整序・長文読解）
【　到達目標　】
・文章の構成について理解し、文章整序問題に取り組む。

【授業時間外学修】
新聞記事や他授業で用いる教科書、論文なども積極的に読んでみる。(4.0hr)

第７回　読解力を身につける②（要約）
【　到達目標　】
・文章の話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。

【授業時間外学修】
新聞記事などの興味がある文章についても要約をしてみる。(4.0hr)

第８回　読解力を身につける③（根拠の検討、分析）
【　到達目標　】
・文章中の事実と意見を区別できるようにする。

【授業時間外学修】
教科書や論文などの文章についても分析をしてみる。(4.0hr)

第９回　文章力を身につける①（レポートの書き方）
【　到達目標　】
・構成について学ぶ。

【授業時間外学修】
新聞や書籍、インターネットなどからレポート執筆に必要な情報を集める。(4.0hr)

第10回　文章力を身につける②（成文化）
【　到達目標　】
・根拠や理由で主張に肉付けする。

【授業時間外学修】
書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)

第11回　文章力を身につける③（接続詞）
【　到達目標　】
・接続詞や接続助詞の働きについて理解する。

【授業時間外学修】
新聞記事や評論を接続詞に注目して読む。(4.0hr)

第12回　文章力を身につける④（文構造）
【　到達目標　】
・主語述語を対応させて、文のねじれを防ぐ方法を学ぶ。

【授業時間外学修】
新聞記事や評論を主語述語に注目して読む。(4.0hr)

第13回　文章力を身につける⑤（反論）
【　到達目標　】
・他受講生が書いたレポートを読んで、気づいた点（良い点・疑問点・反論点・改善点など）を具体的に指摘できるようにする。

【授業時間外学修】
他受講生のレポートからの気づきを自分のレポートにも反映する。(4.0hr)

第14回　文章力を身につける⑥（修正）
【　到達目標　】
・レポートを読んだ他受講生からの指摘をふまえ、レポートがより良くなるように修正する。

【授業時間外学修】
書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)

第15回　目標達成度確認・国語表現Ⅱへの課題
【　到達目標　】
自己評価により目標達成度を測り、国語表現Ⅱへの課題を確認する。

【授業時間外学修】
授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)

【学修上の留意点】

ほぼ毎時間、小テストやレポート提出、意見交換が課され、出欠を兼ねる。本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないので、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。手元に辞書を用意し、すぐに意味が調べられるようにすること(電子辞書も可、オンラインならばコトバンクやWeblioなどを利用することを推奨)。

【教科書・参考書など】

教科書：授業内にて適宜、資料を配布する。
参考図書：『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド ： 大学生・大学院生のための自己点検法29』佐渡島紗織、坂本麻裕子、大野真澄編著（大修館書店）2015年、『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』佐渡島紗織［ほか］著（大修館書店）2020年

【成績評価方法】

毎回の提出物やグループワークの取り組み60%、試験課題40%

科目名	英語Ⅰ（基礎）			担当者	加賀　岳彦	
英文名	English Ⅰ (Elementary)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR107・DLR107・HLR107・CLR107		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

この授業では英語の基礎を確認・再学習し、その応用演習を行う。要点は、1）基本語彙を覚える、2）文法・発音の基礎を復習・確認する、3）平易な英文・対話文でコミュニケーションができるようになる、の3点である。また受講生の必要に応じて英語になじむための活動や、各自がこれから自立して英語を学習していけるようになるための演習を取り入れる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英語の基礎的な語彙・文法を習得する	授業で学習した語彙・文法が身についている	授業で学習した語彙・文法が辞書・ノートを参照して理解・運用できている	授業で学習した語彙・文法が習得できていない
基礎的な英文を理解し、表現する	授業で学習した英文を辞書・ノートなしで理解・表現できる	授業で学習した英文を辞書・ノートを参照して理解・表現できる	授業で学習した英文を理解・表現できない
英語学習を主体的に行う	授業前・授業・授業後に自発的な学習を行う	自発的な学習を自分のペースで行う	自発的な学習姿勢が身についていない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。
受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。
自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。
【授業時間外学修】
試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)

第２回　英語基礎演習① Be More Polite (1)
【　到達目標　】
大学生の使う英語には「丁寧さ」が求められる。初対面の人とのコミュニケーションで用いる politeな表現を実践的に学習する。
また日常生活で頻繁に使う表現や疑問文の politeな表現の仕方を練習し、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第３回　英語基礎演習② Be More Polite (2)
【　到達目標　】
前回学習した内容を応用して、さらに英語でpoliteに表現する方法・知識を学習し、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第４回　英語基礎総合演習③　My Major & Degree (1)
【　到達目標　】
「大学生」の自己紹介は、高校生の時と同じであってはならない。大学生になった自分を英語で自己紹介し、自分を理解してもらうための「大学生ヴァージョン」の表現を実践的に学ぶ。
また自分の「専門」や将来の希望を英語で表現する方法・語彙を習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第５回　英語基礎演習④　My Major & Degree (2)
【　到達目標　】
前回の学習内容を応用して、さらに「大学生になった」自分のこと、専門、将来の希望等を明確に英語で表現する方法を習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題を行う。(4.0hr)

第６回　英語基礎演習⑤　My Sports/Dance Experiences (1)
【　到達目標　】
自分が行ってきた、あるいは行っているスポーツ・ダンスなどの「経験」を、分かりやすく的確に英語で表現する方法を学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第７回　英語基礎演習⑥　My Sports/Dance Experiences (2)
【　到達目標　】
前回の学習内容を応用して、さらに自分のスポーツ・ダンスの経験、およびそれに付随するさまざまな「経験」を英語でどのように表現するかを学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題を行う。(4.0hr)

第８回　英語基礎演習⑦　Review (1)
【　到達目標　】
第2回から第7回までの総復習を行い、各自の弱点を把握するとともに、ここまで学習した知識をさらに拡充させる。
【授業時間外学修】
総復習の内容をもう一度点検する。(4.0hr)

第９回　英語基礎演習⑧　My Habit (1)
【　到達目標　】
「習慣」がその人をつくるとよく言われる。とすれば「習慣」も重要な「自己」の一部である。
この回では自分の生活上の「習慣」に関する語彙・英語表現を学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第10回　英語基礎演習⑨　My Habit (2)
【　到達目標　】
前回の内容に引き続き、自分の生活上の「習慣」に関する語彙・英語表現を、アクティヴィティを通じてさらに広く学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第11回　英語基礎演習⑩ My Personality (1)
【　到達目標　】
自分の「性格・個性」を英語で表現できる日本人は少ない。自分の性格を簡潔かつ平易に英語で表現するための語彙・文のつくり方、表現法を実践的に学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、担当教員の指示に従って予習を行う。(4.0hr)

第12回　英語基礎演習⑪　My Personality (2)
【　到達目標　】
前回の学習内容を応用して、自分のみならず、他者の性格・個性を理解するのに必要かつ有効な語彙・表現方法を実践的に学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題を行う。(4.0hr)

第13回　英語基礎演習⑫　My Health (1)
【　到達目標　】
「健康」は世界の誰とでも共有できるテーマである。国際的な自分の「健康状態」を伝えたり「体調不良」を英語で表現する際に有用な語彙・表現法を実践的に学習し、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、担当教員の指示に従って予習を行う。(4.0hr)

第14回　英語基礎演習⑬　My Health (2)
【　到達目標　】
前回の学習内容を応用して、自分が「健康のために」どのようなことに注意したり行っているかを英語で表現する演習を行い、その語彙・表現法を習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題を行う。(4.0hr)

第15回　英語基礎演習⑭　Review (2)
【　到達目標　】
第9回から第14回までの総復習を行い、各自の弱点を把握するとともに、ここまで学習した知識をさらに拡充させる。
【授業時間外学修】
総復習の内容をもう一度点検する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

予習・復習を継続し、毎回課される小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題の結果は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。

【教科書・参考書など】

授業用のハンドアウトを使用する。
辞書を持参すること（電子辞書可）。

【成績評価方法】

原則として、授業への出席・参加(小テスト等を含む)50%、期末試験50%から評価する。

科目名	英語Ⅰ（初級）			担当者	穴沢　良子	
英文名	English Ⅰ (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR108・DLR108・HLR108・CLR108		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

この授業では、英語の基礎知識の復習・確認をしながら、日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・表現力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生がこれから自立的学習を行っていけるようになるための学習指導も取り入れる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英語の語彙・表現	語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	教科書・辞書を参照しながら語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	語彙・表現の理解が不十分で正しく使用できない。
英語のリスニング・リーディング	英語の特徴を理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴を必要最低限理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴について理解が不十分で聞いたり読んだりできない。
日常生活・一般生活レベルの英語表現	簡単な英語を使用して英語で表現できる。	辞書や資料等を参考にしながら、簡単な英語を使用して英語で表現できる。	理解が不十分で英語で表現できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。
受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。
自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。
【授業時間外学修】
試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)

第２回　英語初級総合演習①
【　到達目標　】
英語の基礎について復習しながら、理解を深める。英語の特徴について学ぶ。
〈学修内容（テキストUnit 1）〉
テーマ：Unusual Summer Jobs　文法事項：YesかNoで答えられる疑問文の作り方
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　英語初級総合演習②
【　到達目標　】
英語の基礎について復習しながら、理解を深める。英語の特徴について学ぶ。
〈学修内容（テキストUnit 2）〉
テーマ：Choosing a “Sub-Circle” at College　文法事項：WH-Questions の作り方
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　英語初級総合演習③
【　到達目標　】
英語の基礎について復習しながら、理解を深める。英語の特徴について学ぶ。
〈学修内容（テキストUnit 3）〉
テーマ：Funny Pet Videos on TikTok　文法事項：疑問詞+ yes/no 疑問文
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　英語初級総合演習④
【　到達目標と学修内容（テキストUnit 4）】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 4）〉
テーマ：Ordering Clothes and Shoes Online　文法事項：動名詞（-ing）
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　英語初級総合演習⑤
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 5）〉
テーマ：ChatGPT　文法事項：Makeを使った言い回し
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　英語初級総合演習⑥
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 6）〉
テーマ：Fried Chicken is Popular　文法事項：every と each の使い方
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　英語初級総合演習⑦
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 7）〉
テーマ：Shower or Bath?　文法事項：Take を使った言い回し
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　英語初級総合演習⑧
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 8）〉
テーマ：Food Trucks on Campus　文法事項：不定詞の用法
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　英語初級総合演習⑨
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 9）〉
テーマ：What Makes a Good Meeting Spot？　文法事項：再帰代名詞
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　英語初級総合演習⑩
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit10）〉
テーマ：Foods That Should Be Eaten Every Day　文法事項：名詞と名詞用法の不定詞
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　英語初級総合演習⑪
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 11）〉
テーマ：Smartphone Gigabytes 文法事項：How + 形容詞/副詞…? どのくらいの程度か尋ねる
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　英語初級総合演習⑫
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 12）〉
テーマ：Christmas Lights… at Halloween?! 文法事項：時を表す前置詞
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　英語初級総合演習⑬
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 13）〉
テーマ：Animal Cafés　文法事項：場所を表す前置詞
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　英語初級総合演習⑭
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 14）〉
テーマ：Gel Nails　文法事項：make + 名詞 + 形容詞
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題に取り組む。(4.0hr)

【学修上の留意点】

英語辞書を必ず持参すること（紙の辞書または電子辞書）。
主体的に授業に参加すること。
授業内で与えられた課題に取り組み、発表する。教員はこれに対してフィードバックをおこなう。
各自予習・復習を継続しておこなうこと。

【教科書・参考書など】

『エッセイと会話の基礎英語読本 Read On, Getting Started』Jonathan Lynch, Atsuko Yamamoto, Kanako Watanabe著、三修社、価格2,000円+税

【成績評価方法】

平常点50%、試験25%、課題25%を原則とし、総合的に評価する。

科目名	英語Ⅰ（初級）			担当者	小山　さや香	
英文名	English Ⅰ (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR108・DLR108・HLR108・CLR108		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

この授業では，英語の基礎知識の復習・確認をしながら，日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・表現力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生がこれから自立的学習を行っていけるようになるための学習指導も取り入れる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英語の語彙・表現	語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	教科書・辞書を参照しながら語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	語彙・表現の理解が不十分で正しく使用できない。
英語のリスニング・リーディング	英語の特徴を理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴を必要最低限理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴について理解が不十分で聞いたり読んだりできない。
日常生活・一般生活レベルの英語表現	簡単な英語を使用して英語で表現できる。	辞書や資料等を参考にしながら、簡単な英語を使用して英語で表現できる。	理解が不十分で英語で表現できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。
受験上の注意点を把握し，集中して試験に取り組む。
自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。
【授業時間外学修】
試験における反省点を把握し，教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)

第２回　イントロダクション・ Unit 1: People　Lesson A
【　到達目標　】
英語の基礎について復習しながら，理解を深める。
英語の語彙や文法を学ぶ。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　Unit 1: People　Lessons B and C
【　到達目標　】
英語の基礎について復習しながら，理解を深める。
英語の語彙や文法を学ぶ。□
英語の特徴を理解しながら，リスニング演習に取り組む。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　Unit 1: People　Lessons C and D
【　到達目標　】
英語の基礎について復習しながら，理解を深める。
英語の語彙や文法を学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，リーディング演習に取り組む。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　Unit 1: People　Lesson E, Review
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
Unit 1で習った語彙・文法を理解し、使えるようにする。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　Unit 2: A Day in the Life　Lessons A and B
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　Unit 2: A Day in the Life　Lessons C and E
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニング・ライティングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　Unit 2: A Day in the Life　Lesson D
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリーディングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　Unit 2: A Day in the Life　Review
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
Unit 2で習った語彙・文法を理解し，使えるようにする。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　Unit 3: Going Places　Lessons A and B
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　Unit 3: Going Places　Lessons C and E
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニング・ライティングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　Unit 3: Going Places　Lesson D
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリーディングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　Unit 3: Going Places　Review
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
Unit 3で習った語彙・文法を理解し，使えるようにする。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　Units 1-3　復習
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニング・リーディングに取り組む。
Units 1-3で習った語彙・文法・表現を復習・理解し，使えるようにする。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　Units 1-3　まとめ
【　到達目標　】
前期に習った英語表現について復習しながら，理解を深める。
前期に習った語彙・文法・表現を復習・理解し，使えるようにする。
【授業時間外学修】
前期の学習内容を振り返ると共に不確かな点を復習し，知識の定着を図る。(4.0hr)

【学修上の留意点】

主体的に授業に参加し，各自予習・復習を継続しておこなうこと。

【教科書・参考書など】

World English 1A, Third Edition: Combo Split 1A with Spark Access + e-Book (1 year access), National Geographic Learning. (ISBN: 9798214085395)
※クラス分け後の初回授業時に購入サイトのURLをお知らせします

【成績評価方法】

原則として、平常点50%、試験・課題50%とし、総合的に評価する。

科 目 名	英語Ⅰ（中級）			担当者	中村　大輔	
英 文 名	English Ⅰ (Intermediate)					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR109・DLR109・HLR109・CLR109		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

この授業では、英語の基礎知識(語彙・文法・発音等)を踏まえて、コミュニケーションの実践および学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。また受講生が自立的学習を行っていけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英語基礎知識の強化	高校レベル以上の英語基礎知識を習得できる	高校レベルでの未習得知識を習得できる	高校レベルでの未習得知識を習得できない
英語receptive skillsの熟達	授業で扱ったトピックに関して授業外で listening・readingを基礎レベルで運用できる	授業で扱ったトピックに関して授業内で listening・readingを基礎レベルで運用できる	reading・speakingを基礎レベルで運用できない
自立学習の促進	授業外で積極的に英語を学習する意欲を持つ	授業外で英語を予習する意欲を持つ	授業外で英語を学習する意欲を持たない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。
受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。
自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。
【授業時間外学修】
試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)

第２回　Introduction　英語総中級合演習①: Unit 1: Roomates (1)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第３回　英語総中級合演習②: Unit 1: Roommates (2)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第４回　英語中級総合演習③: Unit 2: Checking out (1)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第５回　英語中級総合演習④: Unit 2: Checking out (2)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第６回　英語中級総合演習⑤: Unit 3: Get in Shape (1)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第７回　英語中級総合演習⑥: Unit 3: Get in Shape (2)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第８回　英語中級総合演習⑦: Unit 4: Money Manegement (1)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第９回　英語中級総合演習⑧: Unit 4: Money Manegement (2)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第10回　英語中級総合演習⑨: Unit 5: Close Ties (1)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第11回　英語中級総合演習⑩: Unit 5: Close Ties (2)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第12回　英語中級総合演習⑪: Unit 6: Time to Celebrate (1)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第13回　英語中級総合演習⑫: Unit 6: Time to Celebrate (2)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第14回　英語中級総合演習⑬: Unit 7:Animals in Danger (1)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第15回　英語中級総合演習⑭: Unit 7: Animals in Danger (2)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
Unit1-14の復習（4.0 hr）

【学修上の留意点】

予習をして授業に参加すること。授業時の私語を慎むこと。

【教科書・参考書など】

角山　照彦, Andrey Dubinsky, David Edward Keane.(2018). New Connection.Book 2. CEFR A2-B1.『４技能を高める英語演習』. 成美堂

【成績評価方法】

平常点（授業内発表、小テスト等）50%、試験50%で判断する。

科目名	英語Ⅱ（基礎）			担当者	加賀　岳彦	
英文名	English Ⅱ (Elementary)					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR110・DLR110・HLR110・CLR110		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

この授業では、「英語Ⅰ（基礎）」を踏まえて、さらに英語の基礎全般を確認しながら、大学生向けの英語の表現力およびコミュニケーション力の向上を図る。また、これから受講生が自立（自律）して英語を学習していけるようになるための演習を行う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英語の基礎的な語彙・文法を習得する	授業で学習した語彙・文法が身についている	授業で学習した語彙・文法が辞書・ノートを参照して理解・運用できている	授業で学習した語彙・文法が習得できていない
基礎的な英文を理解し、表現する	授業で学習した英文を辞書・ノートなしで理解・表現できる	授業で学習した英文を辞書・ノートを参照して理解・表現できる	授業で学習した英文を理解・表現できない
英語学習を主体的に行う	授業前・授業・授業後に自発的な学習を行う	自発的な学習を自分のペースで行う	自発的な学習姿勢が身についていない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　授業説明および英語基礎演習①
【　到達目標　】
この授業の目標・内容・計画を確認する。
受講生各自が、自己の英語学習の改善点を意識し、自立的学習を行っていけるよう方向づけを行う。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第２回　英語基礎演習②　Specific Questions (1)
【　到達目標　】
他者とコミュニケーションをするとき疑問文は欠かせない表現形式であり、情報をさらに細かく知りたいときはそれに適した表現をしなければならない。この回では、受講生が既に学んだ質問文・疑問文を、より細かく聞いていく際に必要な英語表現の技法を実践的に学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第３回　英語基礎演習③　Specific Questions (2)
【　到達目標　】
前回に引き続き、さまざまな質問文・疑問文を、より細かく聞いていく際に必要な英語表現の技法を実践的に学び、習得する。特に語彙面の習得を重視する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第４回　英語基礎演習④　Specific Questions (3)
【　到達目標　】
前回に引き続き、さまざまな質問文・疑問文を、より細かく聞いていく際に必要な英語表現の技法を実践的に学び、習得する。今回は、相手にとって失礼だったりぶしつけにならない常識的で丁寧な疑問文の作り方を重点的に学ぶ。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、予習を行う。(4.0hr)

第５回　英語基礎演習⑤　Thanking & Apologizing (1)
【　到達目標　】
英語での感謝表現はThank you.だけではない。大学生から社会人まで知っておくべき様々な「感謝表現」を実践的に学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第６回　英語基礎演習⑥　Thanking & Apologizing (2)
【　到達目標　】
人間はミスを犯せば「謝罪」しなければならない。英語には I'm sorry.以外にも「謝罪」の表現がさまざまにある。この回では英語の多様な謝罪表現を実践的に学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、予習を行う。(4.0hr)

第７回　英語基礎演習⑦　Super Politeness
【　到達目標　】
人に何かを頼んだり依頼する際は「丁寧」でなければならないし、それが初対面の人や関係が遠い人に対してはなおさらである。この回では、英語でも最上レベルの丁寧表現を使った依頼の仕方を実践的に学習し、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題を行う。(4.0hr)

第８回　英語基礎演習⑧　Review (1)
【　到達目標　】
第2回から第7回までの総復習を行い、各自の弱点を把握するとともに、ここまで学習した知識をさらに拡充させる。
【授業時間外学修】
総復習の内容をもう一度点検する。(4.0hr)

第９回　英語基礎演習⑨　Expressing Emotions
【　到達目標　】
英語による「感情表現」を学ぶ。その語彙と表現法を実践的に学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第10回　英語基礎演習⑩　Advice & Encouragement (1)
【　到達目標　】
よりよい人間関係を築くためには「アドバイス」や「励まし」は欠かせない。この回では、相手に「アドバイス」を求めたり、「アドバイス」を与えたりする際に有用な語彙・表現法を実践的に学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第11回　英語基礎演習⑪　Advice & Encouragement (2)
【　到達目標　】
英語には「励まし」の表現が豊富にある。今回はさまざまな「励まし」の表現、およびそれにもちいる語彙を実践的に学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、予習を行う。(4.0hr)

第12回　英語基礎演習⑫　Judgement & Opinion (1)
【　到達目標　】
人は日々刻々と何らかの「判断」を下しながら生きている。この回では、日常生活レベルでよく用いる「判断」を表す語彙を学び、文を作って練習し、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第13回　英語基礎演習⑬　Judgement & Opinion (2)
【　到達目標　】
前回の Judgementを基に、この回では自分の「意見」を構成する練習を行う。そのための語彙、表現方法を学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、予習を行う。(4.0hr)

第14回　英語基礎演習⑭　New Goals
【　到達目標　】
大学生の自分が今抱いている様々な「目標」を英語で語れるようになることを目指す。「目標」を表現するのに有用な語彙、表現方法を学習し、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題を行う。(4.0hr)

第15回　英語基礎演習⑮ Review (2)
【　到達目標　】
第9回から第14回までの総復習を行い、各自の弱点を把握するとともに、ここまで学習した知識をさらに拡充させる。
【授業時間外学修】
総復習の内容をもう一度点検する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

予習・復習を継続し、毎回課される小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題の結果は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。

【教科書・参考書など】

授業用のハンドアウトを使用する。
辞書を持参すること（電子辞書可）。

【成績評価方法】

原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。

科目名	英語Ⅱ（初級）			担当者	穴沢　良子	
英文名	English Ⅱ (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR111・DLR111・HLR111・CLR111		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

この授業では、「英語Ⅰ（初級）」を踏まえ、さらに日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また、受講生がこれから自立的学習を行っていけるようになるための学習指導も引き続き行う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英語の語彙・表現	語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	教科書・辞書を参照しながら語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	語彙・表現の理解が不十分で正しく使用できない。
英語のリスニング・リーディング	英語の特徴を理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴を必要最低限理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴について理解が不十分で聞いたり読んだりできない。
日常生活・一般生活レベルの英語表現	簡単な英語を使用して英語で表現できる。	辞書や資料等を参考にしながら、簡単な英語を使用して英語で表現できる。	理解が不十分で英語で表現できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　イントロダクション・英語初級総合演習①
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を確認する。
授業時間外学習の方法を振り返り、継続・改善する点を把握する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。「英語Ⅰ（初級）」の復習を行う。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第２回　英語初級総合演習②
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学び、日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
〈学修内容（テキストUnit 1）〉
テーマ：A New Way to Wake Up　文法事項：形式主語や形式目的語のit
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　英語初級総合演習③
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学び、日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
〈学修内容（テキストUnit 2）〉
テーマ：Frame Styles For Glasses　文法事項：名詞の数量表現
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　英語初級総合演習④
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学び、日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
〈学修内容（テキストUnit 3）〉
テーマ：Pizza Party Etiquette　文法事項：比較級・最上級の不規則変化
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　英語初級総合演習⑤
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学び、日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
〈学修内容（テキストUnit 4）〉
テーマ：Why Do Young People Love Starbucks?　文法事項：集合名詞
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　英語初級総合演習⑥
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学び、日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
〈学修内容（テキストUnit 5）〉
テーマ：Gift Certificates in Convenience Stores　文法事項：和製英語
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　英語初級総合演習⑦
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 6）〉
テーマ：Gift Exchange Party-What Present Would You Buy?　文法事項：仮定法過去
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　英語初級総合演習⑧
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 7）〉
テーマ：Is Learning How to Drive a Manual Car Necessary?　文法事項：書き言葉thusの主な使い方
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑨
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 8）〉
テーマ：Eating While Walking　文法事項：　知覚動詞
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　英語初級総合演習⑩
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 9）〉
テーマ：How Do You Keep Your Keys?　文法事項：　反対語
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　英語初級総合演習⑪
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 10）〉
テーマ：Tablet-Based Lessons Versus Paper Textbook-Based Lessons　文法事項：　副詞
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　英語初級総合演習⑫
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 11）〉
テーマ：Where Do You Want To Go?　文法事項：動名詞の役割
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　英語初級総合演習⑬
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 12）〉
テーマ：Is Shaking Hands Finished?　文法事項：主語＋used to＋動詞の原型
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　英語初級総合演習⑭
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 13）〉
テーマ：Unusual Souvenirs That Foreign Visitors Buy in Japan　文法事項：日本文化紹介
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　英語初級総合演習⑮
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 14）〉
テーマ：Smartphone Charging　文法事項：再帰代名詞による強調用法
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題に取り組む。(4.0hr)

【学修上の留意点】

英語辞書を必ず持参すること（紙の辞書または電子辞書）。
主体的に授業に参加すること。
授業内で与えられた課題に取り組み、発表する。教員はこれに対してフィードバックをおこなう。
各自予習・復習を継続しておこなうこと。

【教科書・参考書など】

『Read On. Think On 超入門、考える基礎英語読本』Jonathan Lynch, Atsuko Yamamoto, Kanako Watanabe著、三修社、価格2,000円+税

【成績評価方法】

平常点50%、試験25%、課題25%を原則とし、総合的に評価する。

科目名	英語Ⅱ（初級）			担当者	小山　さや香	
英文名	English Ⅱ (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR111・DLR111・HLR111・CLR111		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

この授業では、「英語Ⅰ（初級）」を踏まえ，さらに日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また，受講生がこれから自立的学習を行っていけるようになるための学習指導も引き続き行う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英語の語彙・表現	語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	教科書・辞書を参照しながら語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	語彙・表現の理解が不十分で正しく使用できない。
英語のリスニング・リーディング	英語の特徴を理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴を必要最低限理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴について理解が不十分で聞いたり読んだりできない。
日常生活・一般生活レベルの英語表現	簡単な英語を使用して英語で表現できる。	辞書や資料等を参考にしながら、簡単な英語を使用して英語で表現できる。	理解が不十分で英語で表現できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　イントロダクション・ Unit 4: Food　Lesson A
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を確認する。
授業時間外学習の方法を振り返り、継続・改善する点を把握する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第２回　Unit 4: Food　Lessons A and B
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　Unit 4: Food　Lessons C and E
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニング・ライティングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　Unit 4: Food　Lesson D
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリーディングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　Unit 4: Food　Review
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
Unit 4で習った語彙・文法を理解し，使えるようにする。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　Unit 5: Sports　Lessons A and B
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　Unit 5: Sports　Lessons C and E
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニング・ライティングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　Unit 5: Sports　Lesson D
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリーディングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　Unit 5: Sports　Review
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
Unit 5で習った語彙・文法を理解し，使えるようにする。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　Unit 6: Destinations　Lessons A and B
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　Unit 6: Destinations　Lessons C and E
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニング・ライティングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　Unit 6: Destinations　Lesson D
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリーディングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　Unit 6: Destinations　Review
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
Unit 6で習った語彙・文法を理解し，使えるようにする。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　Units 4-6　復習
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニング・リーディングに取り組む。
Units 4-6で習った語彙・文法・表現を復習・理解し，使えるようにする。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　Units 4-6　まとめ
【　到達目標　】
後期に習った英語表現について復習しながら，理解を深める。
後期に習った語彙・文法・表現を復習・理解し，使えるようにする。

【授業時間外学修】
後期の学習内容を振り返ると共に不確かな点を復習し，知識の定着を図る。(4.0hr)

【学修上の留意点】

主体的に授業に参加し、各自予習・復習を継続しておこなうこと。

【教科書・参考書など】

World English 1A, Third Edition: Combo Split 1A with Spark Access + e-Book (1 year access), National Geographic Learning. (ISBN: 9798214085395)

【成績評価方法】

原則として、平常点50%、試験・課題50%とし、総合的に評価する。

科 目 名	英語Ⅱ（中級）			担当者	中村　大輔	
英 文 名	English Ⅱ (Intermediate)					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR112・DLR112・HLR112・CLR112		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

この授業では、「英語Ⅰ（中級）」を踏まえて、英語のコミュニケーションの実践および英語を用いた学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。また、受講生が自立的学習を行っていけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。 さらに、speaking 及び writingの育成を図る活動を適宜導入し、基礎的な英語productive skillsの習得を図る。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
発展的英語知識の獲得	初歩的な学術英語表現を獲得できる	日常生活における発展的英語表現を獲得できる	高校レベル以上の知識を獲得できない
英語receptive skillsの熟達	授業で扱っていないトピックに関するlistening・readingで発展的英語知識を運用できる	授業で扱ったトピックに関するlistening・readingで発展的英語知識を運用できる	listening・readingを基礎レベルで運用できない
自立学習におけるテーマの発展	自ら興味を抱いたテーマを継続的に学習できる	授業で扱ったテーマを自ら継続的に学習できる	授業で扱ったテーマを継続的に学習できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　Introduction 英語中級総合演習①: Unit 8: A Fine Art (1)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第２回　英語中級総合演習②: Unit 8: A Fine Art (2)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第３回　英語中級総合演習③: Unit 9: Tune in (1)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第４回　英語中級総合演習④: Unit 9: Tune in (2)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第５回　英語中級総合演習⑤: Unit 10: Music to Our Ears (1)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第６回　英語中級総合演習⑥: Unit 10: Music to Our Ears (2)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第７回　英語中級総合演習⑦: Unit 11: Study Abroad (1)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）□

第８回　英語中級総合演習⑧:　Unit 11: Study Abroad (2)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第９回　英語中級総合演習⑨: Unit 12: Technology and You (1)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第10回　英語中級総合演習⑩: Unit 12: Technology and You (2)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第11回　英語中級総合演習⑪: Unit 13: Right and Wrong (1)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第12回　英語中級総合演習⑫: Unit 13: Right and Wrong (2)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第13回　英語中級総合演習⑬: Unit 14: Your Career starts now (1)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第14回　英語中級総合演習⑭:　Unit 14: Your Career starts now (2)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
Unit 8-14の復習（4.0 hr）□

第15回　英語中級総合演習⑮: 発展的課題
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識を初見の課題で積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習（4.0 hr）□

【学修上の留意点】

予習をして授業に参加すること。授業時の私語を慎むこと。

【教科書・参考書など】

角山　照彦, Andrey Dubinsky, David Edward Keane.(2018). New Connection.Book 2. CEFR A2-B1.『４技能を高める英語演習』. 成美堂

【成績評価方法】

平常点（授業内発表、小テスト等）50%、試験50%で判断する。

科目名	国語表現Ⅱ			担当者	石元　みさと・並木　真理子 高橋　良久	
英文名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR201・DLR201・HLR201・CLR201		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

・国語表現Ⅰで培った国語力や読解力、文章力の基礎的・基本的な知識を基に、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力の一層の伸長を図るとともに、アカデミック・ライティングについての学びを深める。
・新聞やインターネットを活用し、メディア・リテラシーや情報リテラシーを身につける。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
言語運用能力を高める	十分な言語運用能力を得られた	標準的な言語運用能力を得られた	十分な言語運用能力を得られなかった
言語に関するリテラシーを養う	十分な言語リテラシーを得られた	標準的な言語リテラシーを得られた	十分な言語リテラシーを得られなかった
アカデミック・ライティングについて	理解して活用できた	理解できた	理解できなかった

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定）
【　到達目標　】
国語表現Ⅰでの学習を振り返り、各自が学習目標を設定する。

【授業時間外学修】
興味や関心のある新聞記事を探す。(4.0hr)

第２回　国語力（知識）を身につける①（敬語）
【　到達目標　】
・尊敬語、謙譲語、丁寧語の違いを理解する。
・場面ごとに敬語を適切に使えるようにする。

【授業時間外学修】
日常生活（他授業やアルバイト）での会話でも敬語を使えるようにする(4.0hr)

第３回　国語力（知識）を身につける②（文法）
【　到達目標　】
・「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」の使用を防ぐために、動詞と助動詞の活用について学ぶ。
・使役表現、可能表現を適切に使えるようにする。

【授業時間外学修】
テレビやインターネットの中の「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」を探してみる(4.0hr)

第４回　国語力（知識）を身につける③（仮名遣い・語彙）
【　到達目標　】
・送り仮名などの仮名遣いについて理解し、適切に使えるようにする。
・語彙力を養うために、類義語や対義語などについて学ぶ。

【授業時間外学修】
SPIに頻出する「二語の関係」の問題に取り組む。(4.0hr)

第５回　読解力を身につける①（文章整序・長文読解）
【　到達目標　】
・文章の構成について理解し、文章整序問題に取り組む。
・接続詞やキーワードについて学び、長文読解に取り組む。

【授業時間外学修】
新聞記事や他授業で用いる教科書なども積極的に読んでみる。(4.0hr)

第６回　読解力を身につける②（専門的な文章を読む）
【　到達目標　】
・論文などの専門的な文章であっても、話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。

【授業時間外学修】
新聞記事や他授業で用いる教科書なども積極的に読んでみる。(4.0hr)

第７回　読解力を身につける②（要約）
【　到達目標　】
・文章の話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。
・文と文とのつながりを考えながら、一つの文章として読めるように要約する。

【授業時間外学修】
新聞記事などの興味がある文章についても要約をしてみる。(4.0hr)

第８回　読解力を身につける③（根拠の検討、分析）
【　到達目標　】
・文章中の事実と意見を区別できるようにする。
・客観的な事実・データを根拠にした理由に説得力があるか検討、分析する。

【授業時間外学修】
教科書や論文などの文章についても分析をしてみる。(4.0hr)

第９回　アカデミック・ライティングの基礎①（レポートの書き方）
【　到達目標　】
・構成について学ぶ。
・構成メモ（設計図）を書く。

【授業時間外学修】
新聞や書籍、インターネットなどからレポート執筆に必要な情報を集める。(4.0hr)

第10回 アカデミック・ライティングの基礎②（成文化）
【　到達目標　】
・根拠や理由で主張に肉付けする。
・話し言葉や原稿用紙の使い方に注意してレポートを書き上げる。

【授業時間外学修】
書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)

第11回　文章力を身につける①（接続詞）
【　到達目標　】
・接続詞や接続助詞の働きについて理解する。
・前後の文脈を考えて適切に接続詞・接続助詞を使えるようにする。

【授業時間外学修】
新聞記事や評論を接続詞に注目して読む。(4.0hr)

第12回　文章力を身につける②（文構造）
【　到達目標　】
・主語述語を対応させて、文のねじれを防ぐ方法を学ぶ。
・修飾語について理解する。

【授業時間外学修】
新聞記事や評論を主語述語に注目して読む。(4.0hr)

第13回　文章力を身につける③（反論）
【　到達目標　】
・他受講生が書いたレポートを読んで、気づいた点（良い点・疑問点・反論点・改善点など）を具体的に指摘できるようにする。

【授業時間外学修】
他受講生のレポートからの気づきを自分のレポートにも反映する。(4.0hr)

第14回　文章力を身につける④（修正）
【　到達目標　】
・レポートを読んだ他受講生からの指摘をふまえ、レポートがより良くなるように修正する。

【授業時間外学修】
書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)

第15回　目標達成度確認・今後の言語生活に向けて
【　到達目標　】
自己評価により目標達成度を測り、今後の言語生活に対する見通しを持つ。

【授業時間外学修】
授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)

【学修上の留意点】

ほぼ毎時間、小テストやレポート提出、意見交換が課され、出欠を兼ねる。本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないので、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。手元に辞書を用意し、すぐに意味が調べられるようにすること(電子辞書も可、オンラインならばコトバンクやWeblioなどを利用することを推奨)。

【教科書・参考書など】

教科書：授業内にて適宜、資料を配布する。
参考図書：『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド ： 大学生・大学院生のための自己点検法29』佐渡島紗織、坂本麻裕子、大野真澄編著（大修館書店）2015年、『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』佐渡島紗織［ほか］著（大修館書店）2020年

【成績評価方法】

毎回の提出物やグループワークの取り組み60%、試験課題40%

科目名	栄養学入門			担当者	古泉　佳代 ・ 趙　秋華	
英文名	Primary Nutrition					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE101・DLE101・HLE101・CLE101		卒業認定方針との関連	①

【到達目標】

食生活は心身の健康と密接な関わりがあり、そのバランスや豊かさが生活の安定に直結する。特に幼少期からの食生活習慣の形成は、そのあとに続く成人期、高齢期の生活と健康に重要な意味を持ち、また、食は心の健康や社会生活にも大きな影響を及ぼす。
本授業では、栄養に関する基本的な知識を学ぶことを目的とし、「正しく食べる」ことの意味とその影響について考え、受講生自身の食生活への意識、行動も高めることをねらいとする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
食生活を取り巻く環境に関する基礎事項	食生活を取り巻く環境を理解し、自らの言葉で説明できる	食生活を取り巻く環境を理解し、教科書及び資料を用いて説明できる	食生活を取り巻く環境を理解できない
食生活と健康に関する基礎事項	栄養素に関する基礎事項を理解し、自らの言葉で説明できる	栄養素に関する基礎事項を理解し、教科書及び資料を用いて説明できる	栄養素に関する基礎事項を理解できない
食生活と文化に関する基礎事項	フードリテラシーや、味わい、食文化を理解し、自らの言葉で説明できる	フードリテラシーや、味わい、食文化を理解し、教科書及び資料を用いて説明できる	フードリテラシー、味わい、食文化を理解できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス・食生活と社会環境
【　到達目標　】
(1)自分の食生活を振り返り、食べることについて考えることができる。
(2)食生活は色々な環境が関係していることに気付く。

【授業時間外学修】
毎日の食事から食生活を振り返り、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第２回　食を取り巻く環境の変化
【　到達目標　】
(1)フードシステムの複雑化にともなって生じている食生活の課題を認識する。

【授業時間外学修】
食に関するニュースを検索し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第３回　食料の供給と課題
【　到達目標　】
(1)食料自給率の低下とその背景を理解する。
(2)農業再生に向けた取組みの現状を把握する。

【授業時間外学修】
フードロスに関するニュースを検索し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第４回　食品の安全性①食中毒・リスク分析
【　到達目標　】
(1)食品由来の危害要因と健康へのリスクについて理解する。
(2)食中毒とその危害要因、食中毒の予防について知識を得て行動できるようにする。
(3)リスク分析の考え方と3つの構成要素について理解する。
【授業時間外学修】
食中毒予防を実践し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第５回　食品の安全性②食品の安全性を確保するための制度
【　到達目標　】
(1)わが国の食品の安全性を確保するための法律と制度について知る。
(2)食品の容器・包装の表示を読み、表示の役割について考えることができる。
(3)食品の安全性やフードシステムについて、ディスカッションできる。
【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第６回　食生活と健康①食物と栄養（栄養バランス）
【　到達目標　】
(1)栄養バランスの評価方法を理解し、栄養バランスの良い食事を考えることができる。

【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第７回　食生活と健康②炭水化物
【　到達目標　】
(1)炭水化物の種類、代謝を理解できる。
(2)炭水化物の種類を理解することができる。

【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第８回　食生活と健康③食物と栄養（脂質）
【　到達目標　】
(1)脂質の種類、代謝を理解できる。
(2)脂質の摂取方法について考えることができる。

【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第９回　食生活と健康⑧食生活と健康
【　到達目標　】
(1)青年期の食生活と健康との関わりについて理解する。
(2)エネルギーバランスからウエイトコントロールを考えることができる。
(3)栄養バランスの良い食事をするために重要な点についてディスカッションできる。
【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第10回　食生活と健康⑥たんぱく質
【　到達目標　】
(1)たんぱく質の種類、代謝を理解できる。
(2)たんぱく質の摂取方法について考えることができる。

【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第11回　食生活と健康⑦ビタミン・ミネラル・水
【　到達目標　】
(1)ビタミン・ミネラルの種類、代謝を理解できる。
(2)水の出納を理解できる。
(3)ビタミン、ミネラル、水の摂取方法について考えることができる。
【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第12回　食生活と健康⑨食の情報を読み解くリテラシー・飲み物の糖度
【　到達目標　】
(1)食情報のリテラシーの重要性について理解する。
(2)「健康食品」の表示の実態を知り、問題点について指摘できるようにする。
(3)飲み物の糖度について理解できる。(4)糖質の摂取方法について考え、ディスカッションできる。
【授業時間外学修】
健康によい根拠は何かを考え、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第13回　食生活と文化①食物のおいしさ
【　到達目標　】
(1)おいしさの要因や味わい教育、おいしさの表現方法について知る。
(2)おいしさの要因を理解することができる。
(3)おいしさについて、ディスカッションできる。
【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第14回　食生活と文化②日本の食文化・共食の現代的課題
【　到達目標　】
(1)自然環境と歴史のなかで、日本食文化がどのように形成されたかを理解できる。
(2)共食の意義と家族や地域における共食の歴史変遷を知り、有効的な活用について考えることができる。
【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第15回　食育とフード・リテラシー
【　到達目標　】
(1)わが国における食育の推進について、現状と課題を理解できる。
(2)フード・リテラシーとは何か、自分らしい「食」を実現し、「食」を楽しむために、どのようなリテラシーが必要か考えることができる。
【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、フード・リテラシーを生かした食生活を実践する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイントを用いて講義の要点を示し、口頭で詳細を説明する。受講生は、授業前までにGoogleドライブにアップされた資料をダウンロード、印刷等で用意し、各自準備する必要がある。授業内では、教科書で単語や事例を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、自分自身の食生活を振り返りながら、受講することが大切である。また、授業内で学生同士のディスカッションや食体験を取り入れるため、自分だけなく他者の食生活にも興味を持ちながら受講することも大切である。
講義では、毎回、授業内容に関する理解度確認テストを実施し、理解度の確認を行う。

【教科書・参考書など】

教科書　編著者　金子佳代子・松島悦子「白熟教室　食生活を考える」（アイ・ケイコーポレーション出版）
参考資料は、適宜配布する。

【成績評価方法】

試験を試験期間中に別途実施する。期末テストでの評価は60%、レポート（1題）の評価を10%、理解度テストを30%、併せて100%で評価する。合格基準は60%である。

科目名	生理・生化学入門			担当者	大澤　拓也	
英文名	Introduction to Human Physiology and Biochemistry					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE102・DLE102・HLE102・CLE102		卒業認定方針との関連	①

【到達目標】

生理学・生化学とは、からだの中でどのようなことが起きているのか、からだの仕組みを機能の観点から明らかにする学問である。本講義では、スポーツ科学や健康科学に関連した基礎的な生理学・生化学を学習する。また、身体運動や環境の変化に対する生理的な適応およびそのメカニズムを理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
知識・理解に関する観点	講義内容を単元ごとでなく、複数の単元をリンクさせて理解することができる。	講義内容を単元ごとに理解することができる。	講義内容を理解できていない。
思考・判断に関する観点	講義内容を自身の生活や運動時などの具体例を挙げながら、自分の言葉で説明できる。	講義内容を講義で上げた例を使って説明できる。	講義内容に関して例を挙げられない。
関心・意欲に関する観点	講義内容に新しさや面白さを発見して、自分でそれを活かす想像ができる、また疑問を持つことができる。	講義内容を実際にあてはめることができる、また疑問を持つことができる。	講義内容を実際にあてはめることができない、また疑問を持たない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション・概論
【　到達目標　】
講義の進め方、生理学や生化学とはどんなことかを理解する。
日常生活やスポーツ・ダンス時における生理応答を考え、その機能を理解する。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第２回　筋（1）
【　到達目標　】
筋線維タイプ、筋収縮の種類、筋の損傷・痛みを理解する。
「筋肉痛はどんなときに起きるか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第３回　筋（2）
【　到達目標　】
運動や食事、加齢による筋の変化を理解する。
「筋トレしてすぐにマッチョになるか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第４回　神経
【　到達目標　】
神経の種類、運動に関係する自律神経、運動神経・感覚神経を理解する。
「緊張するとなぜ心臓がドキドキするか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第５回　呼吸
【　到達目標　】
呼吸の仕組み、運動時の呼吸の変化、最大酸素摂取量を理解する。
「運動をするとなぜ呼吸が荒くなるか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第６回　循環（1）
【　到達目標　】
心臓や血管の役割、運動による変化を理解する。
「運動するとなぜ心臓がバクバクするか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第７回　循環（2）
【　到達目標　】
運動時や運動後の血流・血圧の変化を理解する。
「運動後なぜすぐに脚を止めてはいけないか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第８回　代謝
【　到達目標　】
エネルギー代謝の種類と特徴、乳酸の役割、糖と脂肪の利用を理解する。
「乳酸によってからだは疲れるか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第９回　ホルモン（1）
【　到達目標　】
筋活動や興奮、血糖値の調節に関するホルモンを理解する。
「筋トレと有酸素運動のどちらが先か」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第10回　ホルモン（2）
【　到達目標　】
性ホルモンや月経を理解する。
「なぜ月経が止まることがあるか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第11回　血液
【　到達目標　】
血液の成分や役割、運動による変化を理解する。
「コロナ感染時、指につけた機器は何だったか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第12回　骨
【　到達目標　】
骨の構造、運動や年齢による変化を理解する。
「カルシウムを取るだけで骨は強くなるか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第13回　脂肪
【　到達目標　】
脂肪の種類や代謝、測定法を理解する。
「1週間で3kg痩せられるか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第14回　体温
【　到達目標　】
暑熱環境や寒冷環境下におけるヒトの体温調節を理解する。
「5月と8月の気温30度はなぜ暑さが違うか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第15回　睡眠
【　到達目標　】
睡眠時の生理応答、睡眠が運動パフォーマンスに及ぼす影響を理解する。
「大学生はなぜ１限や3限が眠いか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

【学修上の留意点】

要点をまとめた穴埋め形式のパワーポイント資料を用いて、口頭でその詳細を説明して講義を進める。講義内では、質疑応答や設問解答による発言、生理学的な実験に関する映像資料の視聴、生理学的測定等を行い理解を深める。また、講義終了時に小レポート、翌回開始時に小テストを実施する。

本講義の理解には、講義内容を自身の経験や実際のスポーツ・ダンス時の身体を想像すること、学んだことを他者(友人や家族など)に話をすることが大切である。

【教科書・参考書など】

特定の教科書・参考書を準備する必要はない。ただし、図書館等で借りられる「運動生理学」「筋」「持久力」、また各運動種目に関する書籍は講義の理解を深める。また、日常にあふれている身体にかかわる情報（例：健康、ダイエット、新たなトレーニング方法など）を疑いながら見聞きすることも重要である。

【成績評価方法】

講義各回での発言・レポートを30%、筆記試験の結果を70%として総合的に評価する。

科目名	近現代史入門			担当者	小薗　崇明	
英文名	Introductory Course to the Modern Japanese History					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE103・DLE103・HLE103・CLE103		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

本授業はアジア・太平洋戦争への過程とその戦争の実態、さらには戦争体験から戦後の高度成長期の日本について、国際関係のなかで位置づけながら講義する。過去の出来事は現代の問題と関連しているが、そのような連続性に注目しながら授業を展開する。歴史的な知識を習得するとともに、様々な資料から歴史を解釈する力を身につけることを目標とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
近現代史を学ぶための知識を身に付ける。	標準的な近現代史のテキストが、参考書なしでも読める。	標準的な近現代史のテキストが、参考書を使いながらであれば読める。	標準的な近現代史のテキストが、参考書を使っても読めない。
読み、書き、発表する能力・技術を身に付ける。	自分の力で、テキストを読み、何を読み取れたかを自分の言葉で書き、他人に説明できる。	アドバイスを受ければ、テキストを読み、何を読み取れたかを自分の言葉で書き、他人に説明できる。	アドバイスを受けても、テキストを読み、何を読み取れたかを自分の言葉で書き、他人に説明できない。
知りたいテーマを設定し、調べて回答することができる。	自分の力で、知りたいテーマを設定し、調べて回答することができる。	アドバイスを受ければ、知りたいテーマを設定し、調べて回答することができる。	アドバイスを受けても、知りたいテーマを設定し、調べて回答することができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　イントロダクション
【　到達目標　】
この講義のテーマ、進め方、評価方法などを理解できる。受講を希望する方は必ず出席すること。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第２回　関東大震災と東京大空襲（１）モノから考える
【　到達目標　】
関東大震災の被害についてモノ資料から理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第３回　関東大震災と東京大空襲（２）絵画から考える
【　到達目標　】
関東大震災の被害について絵画資料から理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第４回　関東大震災と東京大空襲（３）天災と人災
【　到達目標　】
関東大震災の被害について民族問題から理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第５回　関東大震災と東京大空襲（４）震災の記憶と防空
【　到達目標　】
関東大震災の記憶が東京大空襲の被害にどのように関連するか理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第６回　関東大震災と東京大空襲（５）空襲体験の記憶と継承
【　到達目標　】
個人の空襲体験から、東京大空襲について理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第７回　アジア・太平洋戦争（１）総力戦とは何か
【　到達目標　】
アジア・太平洋戦争について、映像から理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第８回　アジア・太平洋戦争（２）統計データーから考える
【　到達目標　】
アジア・太平洋戦争について、統計データーから理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第９回　戦後日本と高度成長（１）日本国憲法
【　到達目標　】
戦後の日本について、特に日本国憲法を中心に理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第10回　戦後日本と高度成長（２）朝鮮戦争と高度成長
【　到達目標　】
戦後の日本について、特に朝鮮戦争と高度成長を中心に理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第11回　沖縄の戦後史（１）沖縄戦
【　到達目標　】
沖縄戦について、映像から理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第12回　沖縄の戦後史（２）沖縄の音楽
【　到達目標　】
戦後の沖縄について、音楽から理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第13回　沖縄の戦後史（３）島ぐるみ闘争
【　到達目標　】
戦後の沖縄について、特に島ぐるみ闘争の理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第14回　沖縄の戦後史（４）ウルトラマンから考える
【　到達目標　】
戦後の沖縄について、沖縄出身のウルトラマンの脚本家を通して理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第15回　戦後日本の平和と民主主義について考える
【　到達目標　】
アジア・太平洋戦争の後、日本の社会はどのような変遷をたどってきたのか、東アジア情勢を中心にした、国際関係のなかで理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料等を提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。また、授業中に意見や感想を求める。毎回レスポンスカードを配布し、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書は、吉田裕『アジア・太平洋戦争　シリーズ日本近現代史6』（岩波書店、2007年）。その他、毎回資料を配布し参考書は随時指示する。

【成績評価方法】

ワークシートと期末レポートで評価する。ワークシート40%、期末レポート60%

科目名	人間心理の理解			担当者	三好　昭子	
英文名	Personality Psychology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE104・DLE104・HLE104・CLE104		卒業認定方針との関連	③

【到達目標】

本講義は、人間の心と行動についてデータに基づき偏りなく、論理的に考えることができるようになることを目的とする。人間が物理的世界をどのように主観的にとらえているのかをふまえ、それぞれ主観的な世界をもつ人間が、他者や自分自身といった人間の心（パーソナリティや知能を含む）をどのようにとらえ、研究してきたのかを理解し説明できるようになる。対人場面での実践的な問題を通して人間心理の多様性を理解し、他者理解とともに自己洞察を深め日常生活に活かすことができるようになる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
人間心理に関する重要キーワードや理論について	自分の言葉で説明できる。	ノートや参考書を参考にしながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
人間心理についてデータに基づき偏りなく論理的に考える	自分自身でデータに基づき偏りなく論理的に考えることができる。	解説があればデータに基づき偏りなく論理的に考えることができる。	解説があってもデータに基づき偏りなく論理的に考えることができない。
人間心理に関する重要キーワードや理論により自己洞察を深め日常生活に活かす	自分自身で自己洞察を深め日常生活に活かすことができる。	適切な教示があれば自己洞察を深め日常生活に活かすことができる。	適切な教示があっても自己洞察を深め日常生活に活かすことができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　心理学とは
【　到達目標　】
(1)心理学の定義を説明することができる。
(2)人間心理を科学的に研究するということを理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
心理学という学問についての課題を行う。(4.0hr)

第２回　感覚・知覚
【　到達目標　】
(1)人間が外界をどのように知覚するかを理解し説明することができる。
(2)同じものを見ても見え方が異なることを理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
人間の感覚・知覚についての課題を行う。(4.0hr)

第３回　対人認知・印象形成
【　到達目標　】
(1)印象形成の特徴を理解し説明することができる。
(2)対人認知の歪みについて理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
印象形成と対人認知に関する課題を行う。(4.0hr)

第４回　態度変容
【　到達目標　】
(1)態度変容に影響を与える要因について理解し説明することができる。
(2)態度変容をうながすテクニックが悪用される危険性について説明することができる。

【授業時間外学修】
態度変容に関する課題を行う。(4.0hr)

第５回　グループダイナミクス（集団力学）
【　到達目標　】
(1)向社会的行動（思いやり）について理解し説明することができる。
(2)他者への同調・服従について理解し説明することができる。
(3)他者への同調・服従がまねく危険性について説明することができる。
【授業時間外学修】
向社会的行動や同調・服従に関する課題を行う。(4.0hr)

第６回　恋愛
【　到達目標　】
(1)恋愛に関する社会心理学的研究について理解し説明することができる。
(2)恋愛のタイプ分けテストに基づき自己分析することができる。

【授業時間外学修】
恋愛に関する課題を行う。(4.0hr)

第７回　パーソナリティ①類型論
【　到達目標　】
(1)クレッチマーの類型論について理解し説明することができる。
(2)ユングの類型論によるタイプ分けテストに基づき自己分析することができる。

【授業時間外学修】
類型論に関する課題を行う。(4.0hr)

第８回　パーソナリティ②特性論
【　到達目標　】
(1)共通特性について理解し説明することができる。
(2)ギルフォードの特性論について理解し説明することができる。
(3)Big Fiveについて理解し自己分析することができる。
【授業時間外学修】
特性論に関する課題を行う。(4.0hr)

第９回　パーソナリティ③構造論
【　到達目標　】
(1)フロイトの構造論について理解し説明することができる。
(2)レヴィンの構造論について理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
構造論に関する課題を行う。(4.0hr)

第10回　防衛機制に基づく個人差と無意識による自己理解
【　到達目標　】
(1)防衛機制に基づく個人差について理解し説明することができる。
(2)投影法を実施し、自己分析することができる。

【授業時間外学修】
防衛機制に基づく個人差と投影法に関する課題を行う。(4.0hr)

第11回　知能とは何か
【　到達目標　】
(1)知能の定義について理解し説明することができる。
(2)知能テストについて理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
知能と知能テストに関する課題を行う。(4.0hr)

第12回　知能の発達
【　到達目標　】
(1)行動遺伝学について理解し説明することができる。
(2)知能やパーソナリティに対する遺伝と環境の影響について理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
知能の発達に関する課題を行う。(4.0hr)

第13回　アイデンティティとは
【　到達目標　】
(1)アイデンティティとは何かを理解し説明することができる。
(2)自分のアイデンティティについて自己洞察を深めることができる。

【授業時間外学修】
アイデンティティに関する課題を行う。(4.0hr)

第14回　アイデンティティからの人間理解
【　到達目標　】
(1)アイデンティティを求める人間の傾向について理解し説明することができる。
(2)アイデンティティから恋愛を説明することができる。

【授業時間外学修】
アイデンティティ概念の応用に関する課題を行う。(4.0hr)

第15回　アイデンティティを超えて
【　到達目標　】
(1)自我感覚の拡大について理解し説明することができる。
(2)真の自己実現について理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
自我感覚の拡大と自己実現に関する課題を行う。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするため、毎回Phollyの「アンケート課題」を提出する必要がある。次回の授業で解説によるフィードバックをおこなう。適宜、心理テストを実施し自己分析をおこなうため、深く自分と向き合うことが求められる（それを辛いと感じる方は受講のタイミングを検討する必要がある）。また授業で学んだ知識を日常生活で活かせるようグループワークをおこなうことがあるため積極的に受講することが求められる。資料は毎回、Phollyの参考資料にアップロードする。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。資料は毎回、Phollyの参考資料にアップロードする。
参考書：鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃・河内十郎　2020　『心理学　第5版補訂版』　東京大学出版会
　　日本青年心理学会企画　2023　『心のなかはどうなっているの？　高校生の「なぜ」に答える心理学』福村出版

【成績評価方法】

時間外学習としてのPholly「アンケート課題」20%、期末試験の結果（試験は試験期間中に別途実施）を80%として総合的に評価する。合格基準は60%である。

科目名	ボランティア活動論			担当者	宮原　麻季	
英文名	Citizenship Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE105・DLE105・HLE105・CLE105		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

「ボランティア活動」は市民社会活動の一つとして私たちの生活の中で聞き馴染みのあるもので、災害対応をはじめとして地球規模の社会課題解決に向けて一人ひとりの主体的な参加に期待が寄せられている現状がある。本講義では、私たちを取り巻く社会課題をトピックとして取り上げ、それらと自身の暮らしとのつながりへの気づきを促進するとともに、課題解決の取り組み事例を学ぶ。時間外学習として実際にボランティア活動を体験しながら、市民社会におけるボランティア活動の意義を考察することを目的とする。授業履修後も継続的にボランティア活動に参加し、自らの市民性を高め、社会に貢献する人材となることが、本講義の最終的なねらいである。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ボランティアと市民社会についての理解と関係性	ボランティアや市民が活動する望ましい市民社会のあり方について自分ごととして独自の考えを展開できている	ボランティアや市民活動の現状と相互の関係性について説明できる	理解が不十分で説明できない
SDGsなどの社会課題に関する基本的な知識と情報	右記に加えてSDGsに代表される社会問題への対策について幅広い情報収集と分析ができている	SDGsとは何か、およびSDGｓに代表される社会問題の現状について説明できる	理解が不十分で説明できない
社会課題に取り組む多様なアクターの意義と役割	ボランティア活動の実践を通して、社会課題への取組の意義を体得し、市民として実生活に応用できる	NPO、NGOなど市民活動の多様なアクターの取組と役割について説明できる。	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（趣旨、学習の進め方）/市民と市民社会
【　到達目標　】
(1)「ボランティア活動論」の全体の流れを理解する。
(2)市民及び市民社会について理解する。
(3)自分の学習目標を決める。
【授業時間外学修】
自分の学習目標を決める。（4.0hr）

第２回　ボランティアの役割と背景
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動の果たす役割を理解する。
(2)ボランティア活動を重視する背景を理解する。
【授業時間外学修】
実施できそうなボランティア活動の情報収集を行い、実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第３回　ボランティアを支えるNPO
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動を始めるためのステップを理解する。
(2)ボランティアを支えるNPOなどのしくみを理解する。
(3)ボランティア活動計画書の目的と書き方を理解する
【授業時間外学修】
ボランティア活動計画書の作成を進め、実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第４回　ボランティア活動のための自己理解
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動における対人関係の側面を理解する
(2)自分自身を理解し、ボランティア活動の実践における自身の課題を明確にする
【授業時間外学修】
ボランティア活動計画書を完成させ、実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第５回　社会課題①　SDGsと自身のつながり
【　到達目標　】
(1)自分の暮らしと世界とのつながりに気づき課題を理解する。
(2)なぜSDGsが必要なのか、どういう枠組みなのかを説明できる。
【授業時間外学修】
SDGｓに関する情報収取を行う。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第６回　社会課題②　児童労働の現実 - 家事使用人の児童労働を事例に
【　到達目標　】
(1)具体的な事例とグループワークを通じて、当事者に寄り添う気持ちを形成する
【授業時間外学修】
児童労働についてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第７回　社会課題③　児童労働から考える子どもの権利
【　到達目標　】
(1)子どもの権利条約および児童労働の現状を理解する。
(2)児童労働の課題解決のための取り組みを理解し、自分にできる行動を見つける。
【授業時間外学修】
子どもの権利条約について調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第８回　社会課題④　課題解決としてのフェアトレード－生産者の姿
【　到達目標　】
(1)フェアトレードが必要な背景と概要について理解する
(2)フェアトレードの取り組みを理解し、自分にできる行動を見つける。
【授業時間外学修】
フェアトレードについてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第９回　社会課題⑤ 課題解決としてのフェアトレード－日本でできること
【　到達目標　】
(1)フェアトレードの取り組みを理解し、日本国内で活動に関わる人・団体について学びを深める。
(2)フェアトレードの取り組みの中で日本で自分でできる行動を見つける。
【授業時間外学修】
フェアトレードについてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第10回　社会課題⑥　多文化共生社会の形成
【　到達目標　】
(1)多文化共生社会について自分の暮らしとの繋がり中で理解する。
(2)日本に住む在住外国人が抱える課題とその背景について説明できる。
【授業時間外学修】
共生社会についてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第11回　社会課題⑦　自然災害とボランティア
【　到達目標　】
(1)自然災害発生時の緊急救援について理解する。
(2)どこでも起こり得る災害について、学生に求められる役割と対応について説明できる。
【授業時間外学修】
防災対策についてさらに調べて学修を展開する。ボランティア活動レポートを作成する。（4.0hr）

第12回　ボランティア活動体験と報告（１）
【　到達目標　】
(1)自分のボランティア活動を振り返り発表し、学習目標の達成度について自己評価できる。
(2)他者のボランティア活動発表と自身の体験を重ねて学びを得る
【授業時間外学修】
実際にボランティア活動を行い、レポートを作成する。（4.0hr）

第13回　ボランティア活動体験と報告（２）
【　到達目標　】
(1)自分のボランティア活動を振り返り発表し、学習目標の達成度について自己評価できる。
(2)他者のボランティア活動発表と自身の体験を重ねて学びを得る
【授業時間外学修】
実際にボランティア活動を行い、レポートを作成する。（4.0hr）

第14回　ボランティア活動体験と報告（３）
【　到達目標　】
(1)自分のボランティア活動を振り返り発表し、学習目標の達成度について自己評価できる。
(2)他者のボランティア活動発表と自身の体験を重ねて学びを得る
【授業時間外学修】
実際にボランティア活動を行い、レポートを作成する。（4.0hr）

第15回　再考　市民社会のなかの私（学習目標到達度の検証）
【　到達目標　】
(1)授業で取り上げたトピックを振り返り、市民社会と自身の関わりについて言語化できる。
【授業時間外学修】
関心の高いトピックにおける自分自身の今後の関わり方について情報収集をして検討を進める

【学修上の留意点】

パワーポイントや映像等を用いて学修を進める。本授業は、日常生活および自分自身との向き合いを大切にするため、グループワークやディスカッションへの積極的な参加と自己洞察を求める。ボランティア活動計画書の作成、ボランティア活動体験発表（学生によるプレゼンテーション）、活動レポートの作成および相互評価によるフィードバックを行う。各テーマの理解度テストを行う。

【教科書・参考書など】

資料プリント、映像教材等を使用。授業時に指示する。

【成績評価方法】

各回の授業時での課題、理解度テスト70%、ボランティア活動発表およびレポート30%として評価する。合格基準は60%以上である。

科目名	日常生活の社会学	担当者	田北　康成
英文名	Introductory Sociology		

単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE106・DLE106・HLE106・CLE106		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

私たちの日常生活が複雑さを増す中で何が本当に大切かを見分ける知性が求められている。学校、家族、友人関係など日常生活の経験を糸口にして社会学とはどんな考え方をする学問であるのかを学んでいく。また社会調査という実証の方法についても学ぶ。実際にそれを活かして日常生活を検証してみることを目的とする。授業内で得られた社会学的思考は、自分の生き方の自由度を広げていくための知的で有効なアイテムとして実感できることを授業のねらいとしている。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
社会学の基礎的事項・理論について	理論を理解し自らまとめて説明できる。	理論を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
社会学の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。
社会学の研究知見の実生活への応用に関する事項	研究知見を修得し自らの判断で実生活に積極的に応用できる。	知見の応用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら活用することができる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
(1)本講義の方針、評価方法の説明、履修予定者の状況を把握する。
(2)身の回りの「あたりまえ」を疑い、別の視点からも捉え直して考える習慣を身につける。
(3)日常生活が世界とどこまで、どのように繋がっているかを想像できるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：「日本」という国の好きなところ、きらいなところを考えておく。(4.0hr)

第２回　社会学はどのような考え方をし、どのように調べるのか
【　到達目標　】
(1)学問的な「問い」と「答え」を導き出す方法を知る。
(2)社会学の実証研究の方法として量的調査、質的調査共に様々なアプローチがあることを学ぶ。
【授業時間外学修】
予習課題：「スマホ」「インターネット」に頼らない旅行計画を立ててみる。(4.0hr)

第３回　社会で生きる「私」と家族
【　到達目標　】
相互行為と「自我」の意味の形成についての基本的な知識と理解をする。
「地位」と「役割」とは何かについて考えることができるようにする。
家族集団にはどのような特徴があるかを考えられるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：「家族」について考えていること、感じていることを整理しておく。(4.0hr)

第４回　性の多様なあり方を考える
【　到達目標　】
(1)生物学的な区分と社会化の過程で作られるジェンダーの違いを学ぶ。
(2)さまざまな性のあり方が知られていく一方で、より固着化していく心理を読み解けるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：子どものときに読んだ絵本やマンガ、遊び方を調べておく。(4.0hr)

第５回　メディアが動かす社会　「ダイエット」をめぐる言説を考える
【　到達目標　】
(1)メディア・情報・コミュニケーションの基本的な知識と理解を得る。
(2)「ダイエット」に関する言説がどのように広まり、誤った認識として広められているかの理解を深める。
【授業時間外学修】
予習課題：「ダイエット」と「健康」についてどのような経験があるか、まとめておく。(4.0hr)

第６回　社会で生活するための社会学―労働・産業・消費―
【　到達目標　】
(1)労働・消費などの活動と企業・産業について基本的な知識と理解を得る。
(2)産業構造の変化とともに、私たちの生活に及んできている影響について考えられるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：子どもの時になりたかった職業、現在考えているキャリアをまとめておく。(4.0hr)

第７回　「格差」の社会学
【　到達目標　】
(1)階層・階級・社会的不平等についての基本的な知識と理解をする。
(2)近年の格差拡大論、階層の変化とジェンダーの観点から「格差社会」を考えられるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：どのくらいの給料ならば満足できるかを考えておく。(4.0hr)

第８回　生活空間としての地域社会について考える（1）
【　到達目標　】
(1)都市・農村などの地域社会・コミュニティについての基本的な知識と理解を得る。
(2)身近な「社会」である地域社会の特徴を知る。
【授業時間外学修】
予習課題：将来、いなかと都会のどちらに住みたいか、その理由も考えておく。(4.0hr)

第９回　生活空間としての地域社会について考える（2）
【　到達目標　】
(1)「ゲマインシャフト」「ゲゼルシャフト」「中間集団」「コミュニティ」などの概念を学ぶ。
(2)コミュニティの繋がり､協力態勢について､主体的な居住者として考えられるようにする。
【授業時間外学修】予習課題：自分が住んでいる地区のゴミ集積所、避難場所、掲示板、広報誌を調べておく。(4.0hr)

第10回　グローバル社会とエスニシティ（1）
【　到達目標　】
(1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。
(2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：「方言」について考えることをまとめておく。(4.0hr)

第11回　グローバル社会とエスニシティ（2）
【　到達目標　】
(1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。
(2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：「日本」の好きなところと、きらいなところをまとめておく。(4.0hr)

第12回　グローバル社会とエスニシティ（3）
【　到達目標　】
(1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。
(2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。
(3)海外にルーツをもつ隣人とどのように共生していくか、考えられるようにする。
【授業時間外学修】予習課題：海外に旅行／移住・留学をしてみたいと思うか、否か、その理由を考えておく。(4.0hr)

第13回　グローバル社会とエスニシティ（4）
【　到達目標　】
(1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。
(2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。
(3)「国境」の先にある社会と「日本」のつながりを意識できるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：「国境」と往来の自由について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)

第14回　「宗教」から社会をとらえる
【　到達目標　】
(1)文化・表象・宗教について基本的な知識と理解を得る。
(2)宗教を手がかりとして、社会と文化についての理解を深める。
【授業時間外学修】
予習課題：「日本の宗教」についての自分の考えをまとめておく。(4.0hr)

第15回　逸脱行動と社会問題・犯罪社会学
【　到達目標　】
(1)「自由」「権利」とは何か､なぜ「秩序」が作られ､「逸脱行動」が非難されるかを考える。
(2)法規制の厳罰化や社会的制裁の強化がもたらす影響について考えられるようにし、難しい判断を迫られるような状況にも主体的に取り組むことができるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：許せない他人の癖や行動、ネット上の炎上事件などを調べておく。(4.0hr)

【学修上の留意点】

この授業は、社会学的な思考方法とそれに基づく現実の社会についての理解が求められている。ほぼ毎回、授業開始時に身近な質問が用意されており、授業を受けたことにより考えた内容を問いかけるので、好奇心を持って主体的な参加をしてほしい。毎回の授業後、Phollyでレスポンスシートの提出を課する。記述／質問内容のなかから、履修生全体の学修効果が見られるものについて、次の授業時に匿名で紹介したり、回答したりすることがある。

【教科書・参考書など】

教科書は不使用。
参考書は随時指示するが、下記の文献を事後学習に役立ててほしい。
①篠原清夫・栗田真樹編著（2016）『大学生のための社会学入門』晃洋書房、②田中正人編著（2019）『社会学用語図鑑』プレジデント社

【成績評価方法】

各回のレスポンスシートの評価合計（100%）とし、提出回数や内容によって総合評価とする（提出回数のみでは合格点に達しないことがある）。
※合格基準はいずれも60%である。

科目名	数と論理			担当者	水野　有希	
英文名	Arithmetic and Logic					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE107・DLE107・HLE107・CLE107		卒業認定方針との関連	③

【到達目標】

これまで学んできた数学の知見をおさらいし具体的な問題を解くことで、基本的な数学についての理解を深めます。数の計算、代数の基礎を学び、教員採用試験や企業の適性検査に頻繁に出題されている特殊な計算手法や、集合、論理パズル、表や資料の読み取り方について学習します。社会人になってから求められる実務をこなす基礎能力を身につけ、課題解決に向けた論理的思考を習熟します。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
数学的思考の基本的な概念や原理・法則に関する事項	基本的な概念や原理・法則を十分に理解し、自ら説明できる。	基本的な概念や原理・法則を教科書等を参照にしながら説明できる。	基本的な概念や原理・法則の体系的な理解が不十分で説明できない。
数学的思考を活用した考察に関する事項	数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現で自ら説明できる。	資料等を参照しながら事象を考察し、数学的な表現で説明できる。	数学を活用して事象を考察するのに理解が不十分で説明できない。
体育・スポーツに係る問題の探求に関する事項	数学的思考で論理的論拠に基づいた判断や、問題解決の過程を自ら説明できる。	資料等を参考に、問題解決に向けた判断や解決までの過程を説明できる。	数学的思考を用いて問題解決に向けた判断や考察が不十分で、解決に至らない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　計算の基礎１、整数の基礎
【　到達目標　】
(1)四則算、計算の順序について復習する。
(2)約数と倍数について学ぶ。

【授業時間外学修】
授業時に実施した基礎問題の復習をする。(4.0hr)

第２回　計算の基礎２、平方根
【　到達目標　】
(1)正負、小数点、分数の計算について復習する。
(2)平方根の計算について学ぶ。

【授業時間外学修】
実数および平方根の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第３回　方程式１
【　到達目標　】
(1)１次方程式、連立方程式について学ぶ。
(2)２次方程式について学ぶ。

【授業時間外学修】
方程式の公式および計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第４回　方程式２、関数１
【　到達目標　】
(1)２次方程式を復習し、応用を修得する。
(2)比例と反比例、１次関数について学ぶ。

【授業時間外学修】
比例反比例、１次関数の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第５回　関数２
【　到達目標　】
(1)１次関数を復習し、応用を修得する。
(2)２次関数について学ぶ。

【授業時間外学修】
２次関数の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第６回　関数３
【　到達目標　】
(1)２次関数を復習し、応用を学習する。
(2)２次不等式について学ぶ。

【授業時間外学修】
２次不等式の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第７回　数列
【　到達目標　】
(1)関数の領域（不等式）、応用について学ぶ。
(2)等差数列、等比数列について理解し、応用について学ぶ。

【授業時間外学修】
関数の領域（不等式）、数列の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第８回　平面図形
【　到達目標　】
(1)関数と平面図形の応用について学ぶ。
(2)平行線と角、円周角の定義について学ぶ。

【授業時間外学修】
平面図形の公式および計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第９回　空間図形
【　到達目標　】
(1)平面図形の応用と展開図について学ぶ。
(2)立体図形の面積や断面図、体積について学ぶ。

【授業時間外学修】
図形の面積や体積の求め方の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第10回　比の計算
【　到達目標　】
(1)比の算出方法について復習する。
(2)割合と値段について学ぶ。
(3)定価・原価・損益について学ぶ。
【授業時間外学修】
百分率や歩合の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第11回　特殊算
【　到達目標　】
(1)仕事算について理解する。
(2)濃度・速さについて理解する。

【授業時間外学修】
濃度・速さの公式や計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第12回　場合の数と確率
【　到達目標　】
(1)順列と組み合わせについて学ぶ。
(2)確率について学ぶ。

【授業時間外学修】
順列と組み合わせの公式および計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第13回　集合と命題
【　到達目標　】
(1)集合（全体集合、補集合、共通部分、和集合）について学ぶ。
(2)対偶、三段論法の応用について学ぶ。

【授業時間外学修】
集合や命題の対偶の考え方の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第14回　推論と表や資料の読み取り
【　到達目標　】
(1)命題の真・偽について論理的に判断する方法を学ぶ。
(2)表や資料から命題の真・偽について判断する方法を学ぶ。

【授業時間外学修】
推論の考え方、表や資料の見方について予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第15回 数理処理の応用と実践
【　到達目標　】
(1)教採や公務員試験、SPIなどの過去問を確認する。
(2)これまで学んだ内容について確認する。

【授業時間外学修】
これまで学んだ問題について予習、過去問の復習をする。(4.0hr)

【学修上の留意点】

講義は指定の教室で実施し、対面形式とします。毎回、授業日の数日前に講義プリントを配布・配信（本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップ）し、講義時間までにプリントの問題を解くようにしてください。知識を固めるためには、実際に解いてみることが一番です。講義では、公式や法則の説明、問題の解説した後、単元の理解や修得状況の確認のため、後半に20分程度の時間を取り確認問題を解きます。解答はオンライン（フォーム）で提出し、提出後すぐに採点結果がフィードバックされますので、間違えた問題は必ず復習をしてください。

講義後は、復習や振り返りを行うために、講義の解説動画と講義プリントの模範解答（授業時に解説した部分を抜粋したファイル）を、本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップします。事後学習で活用し、論理的思考力（ロジカルシンキング）を効果的に鍛えましょう。

【教科書・参考書など】

講義中に指示します。

【成績評価方法】

毎回行う確認課題50%、期末試験50%（試験は試験期間中に別途実施）として評価します。確認課題は出された授業時間内で必ず提出して下さい。指定された時間外の提出は、いかなる理由であっても認めません。なお、試験を受けるためには、原則として全授業時間数の３分の２以上に出席していることが条件となります。

科目名	現代の倫理			担当者	宇多村 俊介	
英文名	Ethics in Modern Life					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE108・DLE108・HLE108・CLE108		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

倫理学は古くかつ新しい学問分野です。古くは古代ギリシャにまで遡る歴史があり、いかに生きるべきかについて幾多の哲学者たちが連綿と考えつづけてきている点でいにしえの主題であり、また一方では、ますます混迷化の様相を呈する現代にあって、倫理的諸問題が過去のどの時代にもなかった諸条件のもとで現れている点でつねに新しい主題をなしています。この講義では、こうした裾野から私たちを取りまく具体的な問題を手掛かりに、いくつかの倫理学の基本概念と原則を検討し、現代の倫理的な問への視角を学びます。個々の論題に対し、各受講者が倫理学的に何が問題かを把握し、自ら考える端緒としてほしい。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
倫理的思考のもつ特質に関する事項	行動の科学としての倫理的思考のもつ特質を理解し、その視点から考えることができる。	行動の科学としての倫理的思考のもつ特質を、資料等を見ながら説明することができる。	倫理的思考のもつ特質の理解が不十分で、その枠組みの中で考えることができない。
主要な倫理学説・基本原則の考察	各概念による道徳的な善悪導出の機構を理解し、問題点を含め意見を述べることができる。	各概念に基づく善悪導出の機構を理解し、その観点から道徳現象を説明することができる。	各概念の理解が不十分で、その視点から道徳現象を捉えることができない。
現代的諸課題(応用倫理)の考察	各論の倫理的問題の所在を理解し、自ら考え意見を表明することができる。	各論の倫理的問題の所在を、資料等を見ながら説明することができる。	各論の倫理的問題の所在の理解が不十分で、自らの思考に取り入れることができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション：倫理的思索が生まれるとき
【　到達目標　】
倫理的な問のもつ特質を理解するとともに、考察に関わる基礎概念の学習を通して倫理と倫理的思索についての輪郭をつかむ。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>に取り組む。(4.0hr)

第２回　「善」とは何かという問：定義
【　到達目標　】
倫理的な脈絡での「善・よい」を把握した上で、「～とは何か」という問を問うために必要な思考の手続きとして定義の構成を理解し、善の定義を試み、その問題点を考察する。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第３回　普遍化可能性１：社会契約
【　到達目標　】
道徳規則が万人に対する要請として現れる仕組みと可能性を、社会契約の観点から考察することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第４回　普遍化可能性２：自由意志
【　到達目標　】
自由をめぐる二つの考えを把握し、自由意志に基づく道徳的要請が成立する仕組みとその問題点を理解する。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第５回　普遍化可能性３：功利の原理(1)
【　到達目標　】
現代社会の行為原則として功利の原理のもつ特質とその倫理的含みを理解する。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第６回　功利の原理(2)：他者危害の原則
【　到達目標　】
功利の原理が下敷きにする自由主義的な行為原則のはらむ問題点を、とくに自己決定権、他者危害の原則について考えることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第７回　正義：自由と平等
【　到達目標　】
自由と平等が民主主義の二つの(別個の)伝統であることを把握し、格差（是正）原理を通してそれらの両立可能性について考えることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第８回　自然と文明：道具的理性批判
【　到達目標　】
自然と人間、人間と文明がはらむ倫理的問題を、(道具的)理性の批判的検討を仲立ちにして理解する。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第９回　環境倫理：未来に対する責任
【　到達目標　】
現在の個および種としての行為が、未来の他者に及ぼす影響について考え、未来に対する責任を自覚することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第10回　情報化社会の倫理：情報時代と監視社会
【　到達目標　】
メディア文化の来歴を把握し、監視・管理社会にともなう倫理的な諸論題を理解して、その問題点を考えることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第11回　生命倫理１：人間の尊厳
【　到達目標　】
生命倫理の基本概念を把握し、とくに安楽死をめぐる事案を通して現代医療で生じる諸論題の倫理的問題の所在を理解する。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第12回　生命倫理２：生殖医療
【　到達目標　】
テクノロジーの発達と介入によって生じる、生殖医療をめぐる倫理的問題の所在を理解する。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第13回　科学技術時代の倫理：科学者の社会的責任と市民の役割
【　到達目標　】
技術的応用をめぐる科学者の社会的責任論の類型を批判的に吟味することを通して、科学技術の来歴と特質がもつ倫理的含みを考えることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第14回　倫理的相対主義：多元社会と寛容
【　到達目標　】
倫理の相対主義の問題点を理解し、多元的社会での合意形成の可能性について考えることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第15回　規範なき時代とニヒリズム
【　到達目標　】
残された、しかし重要な問題として、なぜ道徳的でなければならないか、その可能性を考えることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

【学修上の留意点】

暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理するために、授業中に７～８回、課題ミニレポートを書き、提出してもらいます。これを除く各回、講義内容を踏まえた考察カードを書いてもらいます。とくに寸評を要する考察や疑問は翌週冒頭に取り上げ理解度を確認してもらいます。予備知識は問いませんが，各回の主題に沿って原理的に考えることを求めます。事例や具体的状況のなかで倫理的問題の所在がどこにあるのかをつかむには相応の資料を読み一定の思考の手続きを踏むことを要します。新しい事柄やものの見方を学ぶ意欲をもって臨んでください。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。

【成績評価方法】

各回主題への取り組み状況を踏まえた上で，授業内の課題ミニレポート40%、定期試験60%で成績を評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	日常生活の法律			担当者	中村　安菜	
英文名	Law in Everyday Life					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE109・DLE109・HLE109・CLE109		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

私たちが日常生活の中で実際に接する可能性の高い法律問題を選び、それらに関係する基本的な用語や制度を理解する。あわせて、法的問題を解決する場合に必要な思考方法の習得も目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
日常生活に密接な法律の基礎的事項・理論について	理論や学説を理解し自らまとめて説明できる。	理論や学説を教科書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
日常生活に密接な法律の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。
日常生活に密接な法の研究知見の活用に関する事項	知見の活用について意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参照しながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　私たちの日常生活に関わる様々なルールについて
【　到達目標　】
(1)私たちの日常生活には様々なルールが存在していることを理解する。
(2)様々なルールのなかで法律が持つ特性を理解する。

【授業時間外学修】
日本に存在している法律の数を調べる。(4.0hr)

第２回　アルバイトと法律①
【　到達目標　】
(1)契約について理解する。
(2)労働基準法の内容について理解する。

【授業時間外学修】
自分のアルバイトの契約内容について調べる。(4.0hr)

第３回　アルバイトと法律②
【　到達目標　】
(1)労働に関連する法的問題について理解する。
(2)ブラックアルバイトについて理解する。

【授業時間外学修】
ブラックバイトの具体的な事例を調べる。(4.0hr)

第４回　恋愛関係と法律①
【　到達目標　】
(1)恋愛関係による法的問題の存在を理解する。
(2)ストーカー規制法について理解する。

【授業時間外学修】
恋愛関係において発生する問題を調べる。(4.0hr)

第５回　恋愛関係と法律②
【　到達目標　】
(1)DV防止法について理解する。

【授業時間外学修】
DV防止法に関する具体的な事件を調べる。(4.0hr)

第６回　恋愛関係と法律③
【　到達目標　】
(1)リベンジポルノ防止法について理解する。

【授業時間外学修】
リベンジポルノ防止法に関する具体的な事件を調べる。(4.0hr)

第７回　夫婦と法律
【　到達目標　】
(1)婚姻の成立と効果に関する法規定について理解する。
(2)夫婦に関する法的問題について理解する。

【授業時間外学修】
婚姻届けの記載事項を調べる。(4.0hr)

第８回　家族と法律
【　到達目標　】
(1)法的な親子関係の発生について理解する。
(2)親子関係の存否をめぐる問題について理解する。

【授業時間外学修】
親子関係に関する民法の規定がどのように改正されたのかを整理する。(4.0hr)

第９回　戸籍制度
【　到達目標　】
(1)戸籍制度とはどのような者なのかを理解する。
(2)無戸籍が発生する原因を理解する。

【授業時間外学修】
無戸籍者に対する行政の取り組みについて調べる。(4.0hr)

第10回　表現物と法律①
【　到達目標　】
(1)知的財産の種類について理解する。
(2)特許制度について理解する。

【授業時間外学修】
実際に特許をとっている製品を調べる。(4.0hr)

第11回　表現物と法律②
【　到達目標　】
(1)著作権法について理解する。
(2)著作権法において規定されている諸権利について理解する。

【授業時間外学修】
著作権法違反が問題となった事例を調べる。(4.0hr)

第12回　ペットの飼育と法律①
【　到達目標　】
(1)法律における「ペット」の位置づけを理解する。
(2)ペットに関する諸法律の存在について理解する。

【授業時間外学修】
遺棄される動物の数を調べる。(4.0hr)

第13回　ペットの飼育と法律②
【　到達目標　】
(1)動物愛護管理法の内容について理解する。
(2)動物愛護管理法の改正と飼い主の責任について理解する。

【授業時間外学修】
動物愛護に関する具体的な社会的取り組みについて調べる。(4.0hr)

第14回　人身の自由、犯罪の取り調べと裁判の進め方
【　到達目標　】
(1)日本国憲法で保障されている人身の自由について理解する。
(2)取り調べ、起訴から判決までの流れについて理解する。

【授業時間外学修】
日本国内の地方裁判所・高等裁判所の数と所在地を調べる。(4.0hr)

第15回　日々の暮らしと法律
【　到達目標　】
(1)マンションをめぐる法的問題について理解する。
(2)この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。

【授業時間外学修】
全体の授業を通して自分が関心をもった事項についてより深く調べ、まとめる。(4.0hr)

各回の授業の内容は変更される場合がある。

【学修上の留意点】

授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者には適宜、穴埋め式のプリント（Googleクラスルームを通して配布）と補足資料を配布する。受講者には、ただプリントの穴埋めをするだけではなく、講義をよく聴き、自分で重要だと思う点などを積極的にメモすることが求められる。授業中は、特定のテーマについてディスカッションやグループ学習を導入する。なお、予習・復習として教科書を熟読し、内容を十分に理解することに加え、講義中に興味を持った事柄について、自らすすんで調べ、理解を深めることが肝要である。なお、履修者の理解促進のため、東京弁護士会が主催する出張法教育授業を導入する場合がある。

【教科書・参考書など】

この授業では、教科書等の指定はない。

【成績評価方法】

期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提である）。試験は試験期間中に実施する。なお、シラバスに記載されている成績評価方法に変更がある場合は、適宜授業内で連絡する。

科 目 名	教養としての経済学			担当者	髙橋　信勝	
英 文 名	Introductory Economics					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE110・DLE110・HLE110・CLE110		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

目的：市場経済社会を俯瞰できるように経済学の基礎理論を学び、経済学的思考の涵養を図る。
ねらい：この授業では、経済学の基礎理論をベースにして、私たちの生活にとって「政治」とともに係りを断つことができない「経済」について学ぶ。新聞の経済トピックの解説や問題演習を随時取り入れて、受講者の理解を深める。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
経済学の基礎の修得	経済学の基礎を修得し、具体例を挙げて説明できる。	教科書等を参照して、経済学の基礎を説明できる。	経済学の基礎の修得が不十分であり、説明できない。
経済学的視点の修得	経済学的視点にもとづいて経済社会を理解し、説明できる。	経済学的視点にもとづいて身近な生活を理解し、説明できる。	経済学的視点の修得が不十分であり、経済社会と生活の理解がままならず説明できない。
経済学的視点の活用	経済社会の問題について、経済学的視点にもとづいて説明できる。	身近な生活の問題について、経済学的視点にもとづいて説明できる。	経済学的視点にもとづいて、経済問題に関する見解を示せない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　経済学への誘い（１）
【　到達目標　】
市場経済社会の成り立ちを知り、経済学を学ぶ意義を考える。
経済システムと経済問題、経済学の3つの部門（理論、歴史、政策）について学ぶ。
経済学の学問的特質を理解する。
【授業時間外学修】
経済学の偉人について調べる（ケネー）。(4.0hr)

第２回　経済学への誘い（２）
【　到達目標　】
希少性、機会費用、サンクコスト等を学ぶ。
経済学的思考が日常生活のなかで、どのように役立つのかを理解する。
【授業時間外学修】
経済学の偉人について調べる（スミス）。(4.0hr)

第３回　企業と経済
【　到達目標　】
企業とは何か、国民経済における企業の役割を学ぶ。
企業経営におけるイノベーションの必要性、企業間の競争の意義について理解する。
【授業時間外学修】
経済学の偉人について調べる（シュンペーター）。(4.0hr)

第４回　GDPと三面等価の原則
【　到達目標　】
ストックとフロー、GDP・GNI・NDP、三面等価の原則、経済成長、景気循環について学ぶ。
国民経済の数量的把握について理解する。
【授業時間外学修】
経済学の偉人について調べる（ケインズ）。(4.0hr)

第５回　中央銀行の機能と金融政策（１）
【　到達目標　】
貨幣とは何か、貨幣需要、貨幣供給について学ぶ。
中央銀行の機能と金融政策を学ぶ。
金融政策の枠組みについて理解する。
【授業時間外学修】
経済史の重要テーマについて調べる（イギリスの産業革命）。(4.0hr)

第６回　中央銀行の機能と金融政策（２）
【　到達目標　】
前回のつづき。
【授業時間外学修】
経済史の重要テーマについて調べる（日本の産業革命）。(4.0hr)

第７回　インフレとデフレ
【　到達目標　】
インフレとデフレとは何かを学び、その国民経済への影響について理解する。
【授業時間外学修】
経済史の重要テーマについて調べる（世界恐慌）。(4.0hr)

第８回　有効需要論（１）
【　到達目標　】
有効需要、45度線分析、乗数、インフレギャップとデフレギャップを学ぶ。
経済のマクロ分析について理解する。
【授業時間外学修】
経済史の重要テーマについて調べる（高度経済成長）。(4.0hr)

第９回　有効需要論（２）
【　到達目標　】
前回のつづき。
【授業時間外学修】
日本の財政について調べる（歳入）。(4.0hr)

第10回　IS-LM分析（１）
【　到達目標　】
財市場とIS曲線との関係、貨幣市場とLM曲線との関係を学ぶ。
IS-LM分析にもとづく財政政策・金融政策を学ぶ。
市場経済への公的介入についての理解を深める。
【授業時間外学修】
日本の財政について調べる（歳出）。(4.0hr)

第11回　IS-LM分析（２）
【　到達目標　】
前回のつづき。
【授業時間外学修】
日本の財政について調べる（国債残高と財政赤字）。(4.0hr)

第12回　国際収支と為替レート（１）
【　到達目標　】
国際収支、円安と円高、為替レートと貿易収支の関係を学ぶ。
変動相場制と固定相場制、為替レートと物価の関係を学ぶ。
世界経済と日本経済とのかかわりを理解する。
【授業時間外学修】
貿易論の重要テーマについて調べる（リカードウの比較生産費説）。(4.0hr)

第13回　国際収支と為替レート（２）
【　到達目標　】
前回のつづき。
【授業時間外学修】
貿易論の重要テーマについて調べる（リストの経済発展段階論と貿易論）。(4.0hr)

第14回　戦後の日本経済
【　到達目標　】
高度経済成長、バブル、人口減少社会の到来等、戦後の日本経済史について学ぶ。
戦後の日本経済の歩みを回顧し、今日の日本経済が直面している問題について理解を深める。
【授業時間外学修】
貿易論の重要テーマについて調べる（経済のグローバル化）。(4.0hr)

第15回　授業の総復習と問題演習
【　到達目標　】
授業を振り返り、重要なポイントを再確認する。
問題演習に取り組み、知識の定着を図る。
【授業時間外学修】経済学上の対抗思想（経済成長至上主義と定常状態論、大きな政府と小さな政府）を調べる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業理解の第一のカギは継続的な出席である。授業ではキーワードを板書し、教科書とレジュメを参照しながら説明する。詳細な板書は行わないので、受講生はノートを整理し直すこと。理解度を確認するため、問題演習を単元ごとに実施し、後続の授業で解説する。

【教科書・参考書など】

教科書名：『経済認識の扉』高橋信勝・著（八千代出版）。参考文献等は、適宜、紹介する。

【成績評価方法】

問題演習（30%）と期末試験（70%）にもとづいて評価する。試験は、試験期間中に実施する。単位付与の基準は60%である。※詳細は初回授業時に説明する。

科 目 名	英語ＥＡＰⅠ			担当者	中村　大輔	
英 文 名	English for Academic Purposes Ⅰ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE201・DLE201・HLE201・CLE201		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

学術論文を理解するためには語彙･文法知識だけでは不十分であり、英文の論理構造に関する知識も必要である。この授業では学術語彙リスト掲載語彙や文章のアウトラインやフローチャート作成等のreading skillsを習得し、逐語訳することなく英文の論理構造を把握できるようになることをねらいとする。また受講生が今後それぞれの目標・キャリアに応じて自立的に英語を学習していけるようになるための指導や演習も取り入れる。予習を前提としている授業なので、受講生は充分に準備した上で授業に臨むことになる。
350~550語程度で書かれた文章を扱う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英文論理構造の理解	自分の専門分野の論文の論理構造を把握できる	身近な社会問題に関する論文の論理構造を把握できる	topic sentenceやsupporting details等の論理関係を把握できない
英語reading skillsの習得	初見の文章の理解においてreading skillsを使用できる	reading skillsへの意識を高められる	reading skillsを理解できない
学術語彙リスト掲載語彙の獲得	学術語彙リスト掲載の語彙を使用して自らの考えを表現できる	学術語彙リスト掲載の語彙を使用して文章を理解できる	学術語彙リスト掲載の語彙を使用できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション:EAPとは
【　到達目標　】
授業の進め方・学習の仕方を理解する。
授業担当者が提示する英語初期演習を行う。

【授業時間外学修】
Chapter 1に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第２回　英文読解演習 (1): Chapter 1: Work and College
【　到達目標　】
文章のアウトラインを作成できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 2に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第３回　英文読解演習 (2): Chapter 2: A New Way to Apply to College
【　到達目標　】
情報を表にまとめることができるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 3に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第４回　英文読解演習 (3):Chapter 3: How Alike Are Identical Twins
【　到達目標　】
文章のアウトラインを作成できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 4に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第５回　英文読解演習 (4):Chapter 4: A Healthy Diet for You and Your Family
【　到達目標　】
文章の流れをフローチャートで表すことができるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 5に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第６回　英文読解演習 (5):Chapter 5: Volunteer Vacations
【　到達目標　】
情報を表にまとめることができるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 6に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第７回　英文読解演習 (6):Chapter 6: Improving Lives with Pet Therapy
【　到達目標　】
Pie Chartを理解できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 7に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第８回　英文読解演習 (7):Chapter 7: Robots
【　到達目標　】
Pie Chartを理解できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 8に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第９回　英文読解演習 (8):Chapter 8: A Blind Man sees Again
【　到達目標　】
図を理解できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 9に関する問題演習を行い、テキストを読んでおく。(4.0hr)

第10回　英文読解演習 (9): Chaptrer 9: Alfred Nobel
【　到達目標　】
文章を要約して表にまとめることができるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 10に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第11回　英文読解演習 (10): Chapter 10: Marie Curie
【　到達目標　】
物語の時系列をタイムラインで表すことができるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 11に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第12回　英文読解演習 (11):Chapter 11: Oil as an Important World Resource
【　到達目標　】
比較的長めの文章のアウトラインを作成できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 12に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第13回　英文読解演習 (12): Chapter 12: Earthquakes
【　到達目標　】
イラストとテキストから文章の流れをフローチャートを作成できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
速読に関する問題演習を行う。(4.0hr)

第14回　英文読解演習 (13):Passage cloze (1)
【　到達目標　】
これまで扱った文章の要約を作成できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Reading skillsの総復習を行う。(4.0hr)

第15回　英文読解演習 (14): Passage cloze (2)
【　到達目標　】
これまで扱った文章の要約を作成できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
総復習から見えてきた各自の課題点をもう一度復習する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

・講義の理解度確認手段として課題をほぼ毎回出す。授業では冒頭で課題に関する解説を行うことで課題へのフィードバックを行うとともに、課題で習得したスキルを用いて文章構造を把握する問題演習を行う。指定された箇所の予習を確実に行った上で授業に出席すること。
・授業には辞書を携帯すること。
・履修者のレベルは英語１・2（初級・中級）レベルを想定し、文章の大まかな流れは説明するが逐語訳は一切行わない。初回の授業でテキストの難易度を確認すること。

【教科書・参考書など】

Yamashina, M., Yokoyama, M., & Okino, Y.(2024). Reading Access. Skills for Academic Success. New Edition. 『読解力の基礎を固めるためのリーディングスキル<新版>』センゲージラーニング

【成績評価方法】

原則として、授業内発表50%、試験・課題50%とし、総合的に評価する。

科 目 名	英語ＥＧＣⅠ			担当者	渡邊　浩子	
英 文 名	English for General Communication Ⅰ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE202・DLE202・HLE202・CLE202		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

This course (English for General Communication I) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
SPEAKING	伝えたい内容を80%以上伝えることができる。	伝えたい内容を50%以上伝えることができる。	伝えたい内容を伝えることができない。
LISTENING	内容を80%以上理解できる。	内容を50%以上理解できる。	内容をほぼ理解できない。
VOCABULARY	語義を英語で説明できる。	語義を日本語で説明できる。	語義を知らない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　Introductions
【　到達目標　】
Previewing contents and goals of the course
【授業時間外学修】
Preview syllabus (4.0hr)

第２回 Hello
【　到達目標　】
Speaking about yourself
【授業時間外学修】
Review vocabulary (4.0hr)

第３回 Small Talk
【　到達目標　】
Listening in context
【授業時間外学修】
Practise model conversation (4.0hr)

第４回　That's a lovely T-shirt.
【　到達目標　】
Listening in context
【授業時間外学修】
Practise model conversation (4.0hr)

第５回　Compliments
【　到達目標　】
Practising vocabulary
【授業時間外学修】
Preview vocabulary (4.0hr)

第６回　Pardon
【　到達目標　】
Practising vocabulary
【授業時間外学修】
Preview vocabulary (4.0hr)

第７回　I really enjoyed it.
【　到達目標　】
Listening in context
【授業時間外学修】
Practise model conversation (4.0hr)

第８回　Information
【　到達目標　】
Answering with additional information
【授業時間外学修】
Preview vocabulary (4.0hr)

第９回　Is that right?
【　到達目標　】
Listening in context
【授業時間外学修】
Review vocabulary (4.0hr)

第10回　Backchanneling
【　到達目標　】
Listening in context
【授業時間外学修】
Practise model conversation (4.0hr)

第11回　How about you?
【　到達目標　】
Previewing vocabulary
【授業時間外学修】
Preview vocabulary (4.0hr)

第12回　Showing interest
【　到達目標　】
Discussing your interest
【授業時間外学修】
Preview vocabulary (4.0hr)

第13回 Reading a story
【　到達目標　】
Reading comprehension
【授業時間外学修】
Reading preparation (4.0hr)

第14回　Preparations for Mid-term Presentations
【　到達目標　】
Previewing the mid-term presentation
【授業時間外学修】
Prepare Mid-term Presentation (4.0hr)

第15回　Presentations　Test
【　到達目標　】
Course Review
【授業時間外学修】
Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)

【学修上の留意点】

Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer!

授業時のスマートフォンの使用厳禁

【教科書・参考書など】

担当者が配布するプリント

【成績評価方法】

Participation 40%, Presentations 30% and Tests 30%

科 目 名	英語ＥＡＰⅡ			担当者	中村　大輔	
英 文 名	English for Academic Purposes Ⅱ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE203・DLE203・HLE203・CLE203		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

学術論文を理解するためには語彙･文法知識だけでは不十分であり、英文の論理構造に関する知識も必要である。この授業では英語EAP1に引き続き学術語彙リスト掲載語彙や文章のアウトラインの把握等のreading skillsを習得し、逐語訳することなく英文の論理構造を把握できるようになることをねらいとする。また受講生が今後それぞれの目標・キャリアに応じて自立的に英語を学習していけるようになるための指導や演習も取り入れる。予習を前提としている授業なので、受講生は充分に準備した上で授業に臨むことになる。なお、英語EAP1よりも１段階難易度を上げた文章(語数500～700語程度）を扱う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英文論理構造の理解	専門分野以外の学術論文の論理構造を把握できる	専門分野の論文の論理構造を把握できる	topic sentenceやsupporting details等の論理関係を把握できない
英語reading skillsの習得	初見の文章の理解においてreading skillsを使用できる	reading skillsへの意識を高められる	reading skillsを理解できない
学術語彙リスト掲載語彙の獲得	学術語彙リスト掲載の語彙を使用して自らの考えを表現できる	学術語彙リスト掲載の語彙を使用して文章を理解できる	学術語彙リスト掲載の語彙を使用できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション:EAPとは
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の進め方を理解する。
時間外学習の方法を把握する。

【授業時間外学修】
Chapter 1に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第２回　英文読解演習 (1) : Chapter 1: Our Internal Clock
【　到達目標　】
情報をベン図で表すことができるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 2に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第３回　英文読解演習 (2) :Chapter 2: Is It Ok to Be Late?
【　到達目標　】
文章の流れをフローチャートで表すことができるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 3に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第４回　英文読解演習 (3) : Chapter 3: Technology Competes with Family Time
ベン図を利用して類似点/相違点をまとめることができるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 4に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第５回　英文読解演習 (4) : Chapter 4: Sign Language for Everyone
【　到達目標　】
文章のアウトラインを作成できるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 5に関する問題演習を行い、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　英文読解演習 (5) : Chapter 5: Our Kinds are growing up too fast!
【　到達目標　】
情報を表を使用して整理できるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 6に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第７回　英文読解演習 (6) : Chapter 6: Loneliness: How Can We Overcome It?
【　到達目標　】
文章の流れをフローチャートで表すことができるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 7に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第８回　英文読解演習 (7) :Chapter 7: Solving Crimes with Modern Technology
【　到達目標　】
線グラフを理解できるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 8に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第９回　英文読解演習 (8) :Chapter 8: The Reliability of Eyewitnesses
【　到達目標　】
アウトラインを利用して情報を整理できるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 9に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第10回　英文読解演習 (9) :Chapter 9: Innocent until Proven Guilty
【　到達目標　】
文章の流れをフローチャートで表すことができるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 10に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第11回　英文読解演習 (10) : Chapter 10: Saving Lives with New Organs
【　到達目標　】
棒グラフを理解できるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 11に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第12回　英文読解演習 (11) : Chapter 11: Objects from Space: Hits and Misses
【　到達目標　】
イラストレーションから情報を読み取ることができるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 12に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第13回　英文読解演習 (12) : Chapter 12: Medicine Today
【　到達目標　】
線グラフを理解することができる。

【授業時間外学修】
これまで扱ったReading Skillsの復習に取り組む。(4.0hr)

第14回　英文読解演習（１３）：未読文章読解演習
【　到達目標　】授業で扱ったreading skillsを初見文章へ応用できるようになる。

【授業時間外学修】
これまで扱ったreading skillsの復習に取り組む。(4.0hr)

第15回　学術論文理解のための英語力とは
【　到達目標　】
授業全体のふり返りを行う。
今後の学習目標を設定する。

【授業時間外学修】
授業内容を復習し、自身の課題を設定する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

・講義の理解度確認手段として課題をほぼ毎回出す。授業では冒頭で課題に関する解説を行うことで課題へのフィードバックを行うとともに、課題で習得したスキルを用いて文章構造を把握する問題演習を行う。指定された箇所の予習を確実に行った上で授業に出席すること。
・授業には辞書を携帯すること。
・履修者のレベルは英語１・2（中級）レベルを想定し、文章の大まかな流れは説明するが逐語訳は一切行わない。初回の授業でテキストの難易度を確認すること。

【教科書・参考書など】

Yamashina, M., Yokoyama, M., & Okino, Y. (2023).Reading Choice. Skills for Academic Success. New Editioon.『現代のトピックを読むためのリーディングスキル<新版>』センゲージラーニング

【成績評価方法】

原則として、授業内発表50%、試験・課題50%とし、総合的に評価する。

科 目 名	英語ＥＧＣⅡ	担当者	渡邊　浩子
英 文 名	English for General Communication Ⅱ		

単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE204・DLE204・HLE204・CLE204		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

This course (English for General Communication Ⅱ) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
SPEAKING	伝えたい内容を80%以上伝えることができる。	伝えたい内容を50%以上伝えることができる。	伝えたい内容を伝えることができない。
LISTENING	内容を80%以上理解できる。	内容を50%以上理解できる。	内容をほぼ理解できない。
VOCABULARY	語義を英語で説明できる。	語義を日本語で説明できる。	語義を知らない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　Introductions
【　到達目標　】
Previewing the contents and goals of the course
【授業時間外学修】
Preview syllabus(4.0hr)

第２回　Thank you so much
【　到達目標　】
Practising vocabulary
【授業時間外学修】
Review vocabulary (4.0hr)

第３回　Thanking
【　到達目標　】
Listening in Context
【授業時間外学修】
Practise model conversation (4.0hr)

第４回　Execuse me, but…
【　到達目標　】
Practising vocabulary
【授業時間外学修】
Preview vocabulary (4.0hr)

第５回　Complaints
【　到達目標　】
Listening in context
【授業時間外学修】
Preview vocabulary(4.0hr)

第６回　This is my fault
【　到達目標　】
Practising vocabulary
【授業時間外学修】
Preview vocabulary(4.0hr)

第７回　Apologies
【　到達目標　】
Practising vocabulary
【授業時間外学修】
Practise model conversation (4.0hr)

第８回 I'd rather not say
【　到達目標　】
Dealing with undesirable questions
【授業時間外学修】
Preview vocabulary(4.0hr)

第９回　Requests
【　到達目標　】
Practising polite requests
【授業時間外学修】
Preview vocabulary(4.0hr)

第10回　Invitations
【　到達目標　】
Practising vocabulary
【授業時間外学修】
Practise model conversation (4.0hr)

第11回 Saying "no"
【　到達目標　】
Practising vocabulary
【授業時間外学修】
Preview vocabulary(4.0hr)

第12回　Softeners
【　到達目標　】
Listening in context
【授業時間外学修】
Practise model conversation (4.0hr)

第13回　Reading a Story
【　到達目標　】
Reading comprehension
【授業時間外学修】
Reading Preparation(4.0hr)

第14回　Preparations for Mid-term Presentations
【　到達目標　】
Previewing the mid-term presentation
【授業時間外学修】
Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)

第15回　Presentations Test
【　到達目標　】
Course Review
【授業時間外学修】
Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)

【学修上の留意点】

Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer!

授業時スマートフォンの使用厳禁

【教科書・参考書など】

担当者配布のプリント

【成績評価方法】

Participation 40%, Presentations 30% and Tests 30%

科 目 名	ドイツ語			担当者	藤由　順子	
英 文 名	German Language					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE205・DLE205・HLE205・CLE205		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

初級レベルのドイツ語の基礎知識を確実なものにする。ドイツ社会の特徴と全体像をつかむことをめざす。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
基本的なドイツ語運用に必要な文法の理解	ドイツ語の言語的特徴を理解し運用する。	資料を参照しながらドイツ語を運用する。	理解が不十分で説明できない。
ドイツ語圏の文化・社会に対する関心の向上	文化・社会への関心を自学へ導き発展させる。	文化・社会への関心を自学へ導く。	ドイツ語圏の文化・社会に関心がない。
ドイツ語で表現	自分のことや意見を表現できる。	資料を参照しながら自分のことや意見を表現できる	理解が不十分で全く表現できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　授業内容の説明、テキスト等の紹介／発音とアルファベートの確認
【　到達目標　】
音声的基礎を踏まえ、コミュニケーション能力を高める。
あいさつやとっさの一言が言える。

【授業時間外学修】
アルファベートの確認をし、文字と単語の発音練習をする。(4.0hr)

第２回　発音、基本表現、基礎的文法事項の確認
【　到達目標　】
日常生活レベルの語彙を知り、アクセントや発音の特徴をつかむ。
初めて見る地名や人名を正確に発音できる。

【授業時間外学修】
語彙の発音と意味を確認する。(4.0hr)

第３回　ドイツ語の文構造／自己紹介（1）
【　到達目標　】
「動詞が二番目にくる」というドイツ語文の特徴を理解する。
規則動詞、不規則動詞の人称変化をおさえて、自分について簡単な説明ができる。
例）私は～出身です／～を専攻しています。
【授業時間外学修】
基本的な文を覚える。／基本的な動詞を調べる。(4.0hr)

第４回　ドイツ語の名詞と冠詞の役目を知る、主語となる代名詞を知る
【　到達目標　】
名詞が内包する三要素「性・数・格」を捉えて、その名詞の文中での役割を意識できる。
例）私の父が／一人の友人に／そのピアノを／それは／あなたは／彼は、などを表現できる。
英語のa,an,the,myと異なる、冠詞の役目を確認する。
【授業時間外学修】
格変化の表の見方に慣れる。／自分と関連する名詞を調べる。(4.0hr)

第５回　映画鑑賞（1）
【　到達目標　】
ドイツ人の仕草や言い回しなどから日本との文化の違いを感じ取る。
映画内で登場したフレーズを覚えて、使ってみる。

【授業時間外学修】
映画を観て感じたことを感想としてまとめる(4.0hr)

第６回　映画鑑賞（2）
【　到達目標　】
ドイツ社会の置かれている状況を考える。

【授業時間外学修】
映画を観て感じたことを感想としてまとめる(4.0hr)

第７回　数詞、複数形
【　到達目標　】
1から12までを確実に言える。13から20までの法則を押さえる。
頻度や回数、継続、曜日、時刻を表現する。（頻繁に、5回、日曜日には、等）
sをつけて複数形を作る英語と異なり、名詞を複数形にするのが単純ではないことを知る。
【授業時間外学修】
自分の予定や身近なことを表してみる。例）私には二人の姉がいる。／靴は3足しかない。(4.0hr)

第８回　人称代名詞、前置詞の格支配
【　到達目標　】
主語だけでなく、目的語になる代名詞を学習して「彼に」・「私たちを」・「それを」などを体得す

状況を説明する、「～と一緒に・～の後で・～のために・～の上で」等を言える。
【授業時間外学修】
自分が何を愛しているのか、口頭や文章で表現する練習をする。(4.0hr)

第９回　映画鑑賞（3）
【　到達目標　】
ドイツ人の仕草や言い回しなどから日本との文化の違いを感じ取る。
映画内で登場したフレーズを覚えて、使ってみる。

【授業時間外学修】
映画を観て感じたことを感想としてまとめる(4.0hr)

第10回 映画鑑賞（4）
【　到達目標　】
東西ドイツの歴史を知り、その実態の一端を映画から受け止める。
映画内で登場したフレーズを覚えて、使ってみる

【授業時間外学修】
映画を観て感じたことを感想としてまとめる。(4.0hr)

第11回　否定表現
【　到達目標　】
否定冠詞を使っての否定文を作る。
否定詞を用いた否定文の法則をしる。
例）兄弟はいない／～を知らない
【授業時間外学修】
自分に関連した否定文を作ってみる。（例：私は魚を食べない、等）(4.0hr)

第12回　助動詞
【　到達目標　】
話法の助動詞を学び、ドイツ語特有の語順を理解する。
例)私は～できる／～したい／～しなければならない。

【授業時間外学修】
自分のしたいこと、できること、好きなことを表現してみる。(4.0hr)

第13回　映画鑑賞（5）
【　到達目標　】
ドイツ語フレーズやアクセントに意識を置いてドイツ映画を観る。
ドイツ人の仕草や言い回しなどから日本との文化の違いを感じ取る。

【授業時間外学修】
映画内で登場したフレーズを覚えて、使ってみる。(4.0hr)

第14回　映画鑑賞（6）
【　到達目標　】
ドイツの社会・歴史的背景を映画から読み取る。

【授業時間外学修】
映画を観て感じたことを感想としてまとめる。(4.0hr)

第15回　理解度の確認と補足説明
【　到達目標　】
習得した文法項目を用いて、自分が表現したい事、相手に尋ねたい事を伝える。

【授業時間外学修】
自分の分からない所を書き出す。(4.0hr)

【学修上の留意点】

※半期しかないので、日本あるいは外国において自分の言いたいことをドイツ語で表現することを常に意識して、授業に集中して臨んでください。

発音練習を自宅で行うようにしてください。理解度確認小テストやレポート課題は実施します。これらを受けて次回授業にフィードバックを行いますので、間違いや指摘されたより適切な表現をしっかり確認して、ドイツ語表現の幅を広げてください。授業の進度や世界情勢に応じて、映画鑑賞の回を変動させることもあります。

【教科書・参考書など】

『お菓子で学ぶドイツ語』小野森都子　平山茂樹　藤由順子著（朝日出版社）
独和辞典はできれば用意してください。小さいものでも電子辞書でも古いものでも構いません。

【成績評価方法】

リアクションペーパー・レポート課題の提出、理解度確認のための小テスト40%、試験結果を60%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。

科 目 名	フランス語			担当者		
英 文 名	French					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE206・DLE206・HLE206・CLE206		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

はじめてフランス語を学ぶ学生を対象とする。音楽や映画を通してフランス語圏の文化を発見するとともに、フランス語の発音・リズム・表現に触れ、この言語が持つ特有の音楽性や詩情の豊かさを体感する。それによって、フランス語を使う人々の表現世界を理解することを目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
フランス語に関する基本的な知見について	フランス語の成り立ちを説明できる	教科書を参照すればフランス語の成り立ちを説明できる	フランス語の成り立ちを説明できない
フランス語の発音と綴り字の規則について	規則を理解し、自律的に運用できる	教科書等を参照すれば発音が理解できる	理解が不十分であり、発音できない
フランス語の文法事項について	名詞の性数を理解し、動詞の活用を運用できる	辞書等を用いれば名詞の性数、動詞の活用が理解できる	動詞の活用や名詞の性数が理解できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】

第１回　オリエンテーション：挨拶・アルファベ・綴りと発音、フランスとフランス文化
【　到達目標　】
(1)フランス語の挨拶やアルファベ、綴り、発音に触れ、フランスとフランス文化の特徴を理解する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、プリント「フランス語の成り立ち」を読む。(3.0hr)

第２回　フランス語について：沿革と発音の特徴、フランス語の魅力
【　到達目標　】
(1)フランス語の歴史と文化的背景を理解して、フランス語の魅力を発見する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、プリント「フランスとフランス語圏」を読む。(3.0hr)

第３回　フランス語の童謡①
【　到達目標　】
(1)歌の表現世界を理解する。
(2)フランスのシャンソンの背景や表現を理解する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第４回　フランス語の童謡②
【　到達目標　】
(1)歌の表現世界を理解する。
(2)フランス語の特徴的な読み方の規則を理解する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、指示に従って音声を録音・提出。(3.0hr)

第５回　フランス語の文法①
【　到達目標　】
(1)フランス語の基本的な構造を理解する。
(2)主語、動詞の活用を理解する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、プリント「フランス語の文法①」を読む。指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第６回　歌手 Angèle の楽曲「Balance ton quoi」とフランス語の綴り字
【　到達目標　】
(1)歌の表現世界を理解する。
(2)フランス語の発音と綴り字の規則を理解する。
(3)現代フランス語圏の諸事情、現代フランス語の進化に触れる。
【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第７回　『アナと雪の女王』より「ありのままで」：フランス語の母音・子音
【　到達目標　】
(1)歌の表現世界の理解。
(2)フランス語の特徴的な発音や有声音と無声音の違いを理解する。

【授業時間外学習】
プリント「「ありのままで」の訳・発音のポイント解説」を読む。指示に従って課題に取り組む。(4.0hr)

第８回　『アナと雪の女王』『モアナと伝説の海』より：楽曲の翻訳比較
【　到達目標　】
(1)歌の表現世界の理解。
(2)フランス語圏における女性のエンパワーメントの活動と多様性を知る。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第９回　フランス語の文法②
【　到達目標　】
(1)名詞・形容詞の性数一致を理解する。
(2)冠詞の用法を理解する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、プリント「フランス語の文法②」を読む。指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第10回　フランス語の文法③
【　到達目標　】
(1)動詞の時制を理解する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、プリント「フランス語の文法③」を読む。指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第11回　絵本・おとぎ話の読解①
【　到達目標　】
(1)動詞の過去形を理解する。
(2)頻出単語を把握する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第12回 絵本・おとぎ話の読解②□
【　到達目標　】
(1)前置詞を理解する。
(2)前置詞と定冠詞の縮約を理解する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第13回　歌手 Zaz の楽曲「Je veux」で学ぶ聞き取り
【　到達目標　】
(1)聞き取りの発音上のポイントを把握する。
(2)聞き取りと文法の関係を理解する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第14回　映画『ディリリとパリの時間旅行』で学ぶ聞き取りと場面の再現
【　到達目標　】
(1)指定された場面をスクリプトを元に再現する。

【授業時間外学習】
指示に従って課題を提出。(4.0hr)

第15回　講義総括
【　到達目標　】
(1)名詞・冠詞・形容詞、動詞、前置詞について文法をまとめる。
(2)発音の規則をまとめる。

【授業時間外学習】
授業を振り返り、自分なりのまとめを行う(4.0hr)

【学習上の留意点】

半期の授業なので、毎回集中して授業に臨むこと。授業内容に則した課題を出すので、授業を欠席しないこと。
課題に対するフィードバックは授業内、または個人的に授業時間外に行う。
グループ学習者、学生によるプレゼンテーション、レスポンスカードあり。

【教科書・参考書など】

授業時に適宜プリント配布

【成績評価方法】

試験結果40%、復習・予習課題30%，小テスト30%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。

科 目 名	中国語			担当者	李　棋	
英 文 名	Chinese					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE207・DLE207・HLE207・CLE207		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

本講義は、初めて中国語を学習する学生を対象に開講します。中国語の文法や漢字に慣れてもらうため、受講生には基礎的な課題を出します。最終目標としては、中国語で自己紹介が出来る水準を目指します。その他に、中国の社会や文化なども紹介して、中国に対する興味や関心を広げることを目的とします。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
初歩の中国語を読んで理解できる。	動詞や形容詞を用いた表現や、完了形を用いた中国語の文章を、全て理解できる。	動詞や形容詞を用いた基本的な中国語の短文が理解できる。	中国語の文章が理解できない。
初歩の中国語の文章を作成できる。	日常生活で用いる単語を使いながら、中国語で自己紹介をすることができる。	定型句を用いて短文を駆使して、中国語で自己紹介をすることができる。	中国語の作文ができない。
初歩の中国語の発音ができる。	講義で学習した中国語の単語を、全て正しく発音できる。	基本的な中国語の単語を正しく発音できるようになる。	正しく中国語の発音ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション：中国語について
【　到達目標　】
(1)言語としての中国語の特性を理解する。

【授業時間外学修】
身近な中国語などを探して、中国語に興味を持つ。(4.0hr)

第２回　発音の基礎：発音記号、四声、子音
【　到達目標　】
言語としての中国語の音声（声調・子音）を習得する。

【授業時間外学修】
授業で習った発音を繰り返し発声する。(4.0hr)

第３回　発音の基礎：母音
【　到達目標　】
言語としての中国語の音声（母音）を習得する。

【授業時間外学修】
授業で習った発音を繰り返し発声する。(4.0hr)

第４回　基礎構文（Ⅰ）：「是」の構文
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)是を使った構文を習得する。

【授業時間外学修】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第５回　基礎構文（Ⅰ）：「是」の構文の応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)是を使った構文の否定形、疑問形を習得する。

【授業時間外学修】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第６回　基礎構文（Ⅱ）：目的語がある構文
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)目的語がある構文を習得する。

【授業時間外学修】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第７回　基礎構文（Ⅱ）：目的語がある構文の応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)目的語がある構文の否定形、疑問形を習得する。

【授業時間外学修】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第８回　基礎構文（Ⅲ）：形容詞がある構文と応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)形容詞がある構文を習得する。

【授業時間外学修】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第９回　基礎構文（Ⅳ）：「在」の構文と応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)在を使った構文を習得する。

【授業時間外学修】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第10回　基礎構文(Ⅴ)：完了形
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)完了形がある構文を習得する。

【授業時間外学修】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第11回　基礎構文（Ⅴ）：完了形の応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)完了形がある構文の否定形、疑問形を習得する。

【授業時間外学修】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第12回　作文：自己紹介
【　到達目標　】
自分について紹介する文章を作る。

【授業時間外学修】
自分で作成した中国語の文章を推敲して完成させる。(4.0hr)

第13回　作文：日常の表現
【　到達目標　】
日常表現をするための語彙を増やす。

【授業時間外学修】
普段目に付いたものを中国語で練習する。(4.0hr)

第14回　中国の文化（Ⅰ）：中国文化と中国語Ⅰ
【　到達目標　】
(1)中国語の成り立ちと中国文化を理解する。
(2)中国語の語彙を増やす。

【授業時間外学修】
授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。(4.0hr)

第15回　中国の文化（Ⅱ）：中国文化と中国語Ⅱ
【　到達目標　】
(1)中国文化の中で成長した中国語について理解する。
(2)中国語の語彙を増やす。

【授業時間外学修】
授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。(4.0hr)

【学修上の留意点】

講義期間中に1度課題を出します。課題の結果は、講義内で解説によるフィードバックをおこないます。参加学生が中国語を用いた会話などを行うことで、中国語を身につけていけるように指導します。普段から復習を心がけ、中国語に触れる機会を増やしましょう。

【教科書・参考書など】

講義用の参考書(講義担当者作成)を準備します。初回のオリエンテーションにて詳細をお伝えします。

【成績評価方法】

授業時の課題が30%、学期末の筆記試験（試験は試験期間中に別途実施）が70%となります。

科目名	コリア語			担当者	李　　美賢	
英文名	Korean language					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE208・DLE208・HLE208・CLE208		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

日ごろからK-ドラマや映画、K-POPなどに関心の高い学生さんが多いはず！大好きなこれらのコンテンツをさらに理解できるよう、韓国語の文字であるハングルの読み書きなどを基本から学びます。韓国語の文字（ハングル）や発音、基礎的な文法、挨拶言葉をはじめとする日常的な会話表現を学び、習得します。また、異国文化の背景にある文化や習慣などにも触れることにより、会話における自然なやり取りやご自分の意見がちゃんとアピール出来るよう、身に着けていきます。さらなるコミュニケーション能力を高めていくことを目標とします。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
韓国語の初級レベルに達するための参加意欲	欠席ゼロで、学習に関する質問を積極的にする	欠席ゼロで、質問に対する答えを積極的にする	何度の欠席、目線を合わせず他のことをする
韓国語の初級レベルの話す能力	自分の意見をきれいな発音で上手に話せる	勇気を出して自分の意見を積極的に言おうとする	呼ばれても何も答えようとしない
韓国語の初級レベルの理解力	フレーズの聞き取りや書き取りができる	フレーズの書き取りより聞き取りができる	フレーズの聞き取り、書き取りが全くできない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション：ハングルとはどういう文字か
【　到達目標　】
(1)言語としての韓国語の特性を理解する。
(2)韓国語の文字であるハングルの成立の文化的背景を理解する。
(3)ハングルの仕組みについて理解する。
【授業時間外学修】
韓国語と日本語の共通点や相違点、ハングルの特性や仕組みについて学習する。(4.0hr)

第２回　ハングルの発音：基本母音字
【　到達目標　】
(1)ハングルの発音・リズムを理解する。
(2)基本母音字を習得する。
【授業時間外学修】
ハングルの仕組みを明確に理解したうえで、基本母音を学習する。(4.0hr)

第３回　ハングルの発音：子音字（１）
【　到達目標　】
(1)ハングルの発音・リズムを理解する。
(2)ハングルの子音（平音・激音）を習得する。
【授業時間外学修】
基本母音字と子音字の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)

第４回　ハングルの発音：子音字（２）
【　到達目標　】
(1)ハングルの子音（濃音）を習得する。
【授業時間外学修】
基本母音字と子音字の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)

第５回　ハングルの発音：合成母音字
【　到達目標　】
(1)合成母音字を習得する。
【授業時間外学修】
子音字と合成母音字の組み合わせ及びその発音を学習する。発音の仕組みについて理解する。(4.0hr)

第６回　ハングルの発音：パッチム、挨拶
【　到達目標　】
(1)文字としてのパッチムを習得する。
【授業時間内学習】
パッチムという概念の理解とその発音を勉強し、基本的な挨拶を学習する。(4.0hr)

第７回　日本語のハングルの表記
【　到達目標　】
(1)日本語の固有名詞のハングル表記を習得する。
(2)辞書の引き方、キーボードの打ち方を習得する。
【授業時間外学修】
日本語の固有名詞のハングル表記を学習し、自分の名前をハングルで書く、辞書を引く、などを学習する。(4.0hr)

第８回　日常生活の表現：肯定表現
【　到達目標　】
(1)日常会話の表現世界の理解。不可欠の肯定表現を習得する。
【授業時間外学修】
「～は～です」の表現を勉強し、自己紹介や挨拶の表現を学習する。(4.0hr)

第９回　日常生活の表現：疑問表現
【　到達目標　】
(1)日常会話の表現世界の理解。質問の仕方や答え方を習得する。
【授業時間外学修】
質問の方法を学習し、趣味の聞き方や答え方などを学習する。(4.0hr)

第10回　日常生活の表現：否定表現
【　到達目標　】
(1)日常会話の表現世界の理解。不可欠の否定表現を習得する。
【授業時間外学修】
「～ではありません」の表現を勉強し、否定の仕方を学習する。(4.0hr)

第11回　日常生活の表現：用言の表現（１）
【　到達目標　】
(1)日常会話の表現世界の理解。不可欠の基礎の用言の表現を理解する。
【授業時間外学修】
動詞・形容詞などの用言の丁寧形（その１：ハムニダ体）を学習する。(4.0hr)

第12回　日常生活の表現：用言の表現（２）
【　到達目標　】
(1)日常会話の表現世界の理解。不可欠の基礎の用言の表現を理解する。
【授業時間外学修】
動詞・形容詞などの用言の丁寧形（その２：ヘヨ体）を学習する。(4.0hr)

第13回　日常生活の表現と韓国文化：過去形
【　到達目標　】
(1)日常会話の表現世界の理解。不可欠の過去形の表現を習得する。
【授業時間外学修】
用言の過去形の作り方を勉強し、過去の出来事の説明の仕方を学習する。(4.0hr)

第14回　日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（１）
【　到達目標　】
(1)韓国語の漢数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。
【授業時間外学修】
漢字語数詞を勉強し、日にちや値段などの言い方を学習する。(4.0hr)

第15回　日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（２）
【　到達目標　】
(1)韓国語の固有数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。
【授業時間外学修】
固有語数詞を勉強し、時間や人数や年齢などの言い方を学習する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

予習・復習を継続し、日常的に韓国語に触れる（ドラマ、映画、歌など）ようにすることが語学の上達の上で重要である。ほぼ毎回、各課ごとの応用練習帳の作成及び提出の課題が出される。課題の結果、間違いやすい部分や注意すべき点などに関して、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。また、1ー2回ほど理解度の確認のため、小テストや中間テストを行う。テスト結果は、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

「教科書名」：『楽しく学べる韓国語１』（李美賢・李貞旼）著（白水社）　※『楽しく学べる韓国語』の改訂版

【成績評価方法】

各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。試験は試験期間中に別途実施。

科目名	社会のしくみとキャリア形成			担当者	新免　玲	
英文名	Career, Business and Social System					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE209・DLE209・HLE209・CLE209		卒業認定方針との関連	④⑤

【到達目標】

自らのキャリアについて考える機会を持ち、将来のありたいライフキャリアに向けて、リーダーシップとグループダイナミズム（集団心理学）を学び、科学的な自己・他者・社会の理解を通して、今後の学生生活の目標を設定し、行動計画を立てられるようになることを目指します。
・個人のライフキャリアのなかで、「学ぶこと」や「働くこと」の意義や目的を理解する。
・ロールモデルとなる社会人からの話を聴き、社会生活において求められる各種能力と自身の現状を把握する。
・「ありたいライフキャリア（リーダーシップ像）」に向けた学生生活(学修を含む)の目標及び行動計画を立てることができる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
①「ありたいライフキャリア（リーダーシップ像）」を考える	自分がイキイキと活動できそうなライフキャリア（ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ像）について具体的なイメージを持ち、活動ができている	自分がイキイキと活動できそうなライフキャリア（ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ像）について具体的なイメージが持てている	自分がイキイキと活動できそうなライフキャリア（ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ像）について具体的なイメージが持てていない
②「グループダイナミズム（集団心理学）」を理解し、グループワークの進め方を学ぶ	グループワークにおける、役割分担や進め方について理解し、自分なりのやり方が検討できている。	グループワークにおける、役割分担や進め方について理解している。	グループワークにおける、役割分担や進め方について理解できていない。
③「ありたいライフキャリア（リーダーシップ像）」に向けた学生生活の目標および行動計画を立てる	「ありたいライフキャリア（リーダーシップ像）」に向けた学生生活の目標を持ち、行動計画を立て、具体的に動き出せている。	「ありたいライフキャリア（リーダーシップ像）」に向けた学生生活の目標を持ち、行動計画を立てられている。	「ありたいライフキャリア（リーダーシップ像）」に向けた学生生活の目標が不明確だったり、行動計画が立てられていない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（＊必ず参加してください）3つの学修到達目標について
【　到達目標　】
授業への導入・シラバス・学習目標（目的・ねらい）の確認、毎時の授業の進め方・課題および成績評価についての説明、キャリア形成の意味・心理学的基盤を理解します。

【授業時間外学修】
3つの学習到達目標を踏まえて、自分なりの目標を立てる(4.0hr)

第２回 キャリア、生き方について考える
【　到達目標　】
キャリアデザインの必要性を理解し、現在の自分を知る、ライフキャリアについて学びます。
個人のライフキャリアのなかで、「学ぶこと」や「働くこと」の意義を知り、今できることを考えま

【授業時間外学修】
将来のありたいライフキャリアに向けて、好きなことややりたいことについて考える(4.0hr)

第３回　社会で必要なコミュニケーションについて
【　到達目標　】
グループダイナミズム（集団心理学）を理解し、グループワークの重要性について考えます。
グループワークにおける、役割分担、進め方について学びます。

【授業時間外学修】
自分自身のコミュニケーションの経験、特徴、課題を考える(4.0hr)

第４回　コミュニケーション　実践編
【　到達目標　】
アセスメントで自分のコミュニケーションタイプを知ります。
グループワークにおける自身の課題について考え、グループワークをスムーズに行うための改善策について考え、理解を深めます。
【授業時間外学修】
具体的なコミュニケーション課題について考える(4.0hr)

第５回　自分のこれまでの物語を整理する
【　到達目標　】
ライフラインチャート（モチベーションチャート）の実施。自分の傾向、大切にしたいことを考えて理解を深めます。

【授業時間外学修】
ライフラインチャートの作成を通じて、自分のライフストーリーを整理する(4.0hr)

第６回　自分の強みを知る
【　到達目標　】
強みを言語化し、過去の経験からどのように培ったのかワークを通じて整理します。
強みのワークシート１＆２を実施します。

【授業時間外学修】
強みのワークを通じて、過去の経験から強みの根拠を整理する(4.0hr)

第７回　自分の動機づけを知る
【　到達目標　】
動機づけの方程式について学び、モチベーション（動機付け）の要素を知ります。
過去のエピソードから、自分の動機づけの方程式を作成します。

【授業時間外学修】
動機づけの方程式の理解と1エピソードにおける自分の動機づけの要素を整理する(4.0hr)

第８回　ケーススタディ①　　※ゲスト講師の都合により回が変更になる可能性あり
【　到達目標　】
活躍中の社会人による講演を通して仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成を考える。
参考にしたい社会人（ロールモデル）を選定し、インタビューを計画します。
インタビューの仕方について学び、備えます。
【授業時間外学習】
インタビューの実施準備・質問文の作成(4.0hr)

第９回　インタビューの実施（仕事の6分類編　※中間試験2/2)
【　到達目標　】
仕事の6分類について学び、インタビューに備えます。

【授業時間外学修】
インタビューの実施準備・質問文の作成。(4.0hr)

第10回　インタビューのシミュレーション
【　到達目標　】
前の2回で学んだインタビュー内容を踏まえて、インタビュー本番のシミュレーション・準備をします。
グループワークにおける、ロールプレイング。インタビュー実施時のマナー等について確認します。

【授業時間外学修】
インタビューの実施と報告(4.0hr)

第11回　インタビュー結果について、グループ内で共有
【　到達目標　】
グループワークでインタビューした社会人について共有し、学び合います。
インタビューを通じて学んだこと、感想を共有します。

【授業時間外学修】
グループワークを通じて学んだロールモデルについての情報を整理してまとめる(4.0hr)

第12回　ビジネスモデルについて学ぶ①
【　到達目標　】
ビジネスモデル（5W2H）の調べ方を学び、仕事・企業研究の仕方を理解します。
強みのワークシートを用いて、1企業（仕事）のビジネスモデルについて理解を深めます。

【授業時間外学修】
ロールモデルの仕事・所属する企業のビジネスモデルを理解する(4.0hr)

第13回　ビジネスモデルについて学ぶ②
【　到達目標　】
グループワークでビジネスモデルを共有します。
複数の社会人の仕事・所属する企業のビジネスモデルを学びます。

【授業時間外学修】
グループワークを通じて学んだビジネスモデルを整理してまとめる(4.0hr)

第14回　ありたいライフキャリアに向けた今後の学生生活アクションプラン
【　到達目標　】
これまでの学びの振り返り、目標達成の確認、今後の目標設定をします。
これまでの学修を踏まえ、自分のありたいライフキャリア（リーダーシップ像）について考えを整理して、アクションプランを作成します。
【授業時間外学修】
自分の将来のありたいライフキャリアを描き、今後の大学生活におけるアクションプランを作成する。(4.0hr)

第15回　ありたいライフキャリアに向けた今後の学生生活アクションプラン
【　到達目標　】
グループ内で、アクションプランについてのプレゼンテーション実施とフィードバックコメント。
アクションプランを修正・現状の完成版の作成します。

【授業時間外学修】
最終レポート作成を行う(4.0hr)

【学修上の留意点】

1. 本授業では、キャリア形成に関する講話やグループワークによる受講生同士のコミュニケーションの機会を増やし、大学での関係性向上や情報交換等、相互に成長する学修を目指します。そのため、出席は毎時行うグループワークなどの演習に参加するために、とても重要です。欠席しても必ず次回に向けて課題提出やグループワークを忘れずに行ってください。
2. 学生は、毎授業開始時、実施中および終了後にレポート（各15回＋最終レポート）を記入し、提出してください。

・課題の締め切りは、他の受講生にも影響が出てしますので、必ず守ってください。事前の相談がなく遅れたら課題の点数は-10%になります。必ず期日前までに教員へ相談し、遅れる場合も事前に相談の上、提出日および提出方法を確定してください。
・授業内容は場合によって変わることがあるので、Phollyや掲示板を見て確認してください。

【教科書・参考書など】

指定書籍：1.「キャリア心理学“強み”デザインガイドブック：自分にワクワクできるワークショップ」ナカニシヤ出版 予価2,200円（ISBN：978-4-7795-1851-5）　2.「キャリアデザインワークブック」ムイスリ出版　予価1,500円（ISBN978-4-89641-345-8）
それ以外のワークシートや動画などの教材は授業内で指示します。　ワークシートや動画などの教材は授業内やPhollyで指示します。毎時の授業時には、上記指定図書2冊と前回の【授業時間外学習】で提示された課題を持参してください。課題は、必ず紙もしくはパソコン等で開けるように用意してください。
参考書：就職四季報、業界地図、日経テレコン、東洋経済デジタル・ライブラリーなどのデータベースコンテンツ、他
※毎授業時、次回の課題を含めて提示します。不明な点がある人は、次回まで待たずに必ず個別に確認してください。

【成績評価方法】

覚えたことを書くタイプの試験はありません。成績評価も、あなたが自分なりに考えたことを基本に評価します。高い評価はどのようなものかは講義中に都度示していきます。具体的な成績評価は、①講義前後の小レポート／ワーク（オンライン提出中心）50%、②授業・グループワークでの貢献度・成果物20%、③学期内のレポート・課題(最終レポート含む）30%、の配分とし、総合して評価。課題提出遅延は、Phollyに記載の通り、減点します。　※授業への参加、貢献度：授業中のワーク（個人・ペア（トリオ）・グループでの活動）への参加態度も含みます。

科 目 名	データ分析と統計学			担当者	水野　有希	
英 文 名	Data Analysis and Statistics					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE210・DLE210・HLE210・CLE210		卒業認定方針との関連	③

【到達目標】

情報化社会の現代では、溢れる情報から必要な情報を的確に読み取る能力が必要不可欠です。この情報をどのように分析して、どのように結論として導いていくか、その手段として統計学が重要な役割を担っています。本講義では、統計学がどのような場面で使用されているか、実例を多数紹介しながら理解を深め、統計学の基本的な考え方と統計手法を学びます。また、卒業研究や課題レポートなどのデータ分析に活用できるスキルを身につけます。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
統計学の基本的事項・理解に関する事項	基本的な概念や原理・法則を体系的に十分に理解し、自ら説明できる。	基本的な概念や原理・法則を資料等を参照にしながら説明できる。	基本的な概念や原理・法則の体系的な理解が不十分で説明できない。
統計学の実践的な活用に関する事項	事象を適切な分析から考察し、統計学的な表現を用いて自ら説明できる。	資料等を参照に事象を分析し、統計学的な表現を用いて説明できる。	統計学を活用して事象を考察するのに理解が不十分で説明できない。
体育・スポーツ研究の科学的根拠に関する事項	統計学的思考を用いて根拠に基づいた分析や論理的に考察を自ら説明できる。	資料等を参考に、根拠に基づいた分析や論理的に考察を説明できる。	根拠に基づいた分析が不十分で科学的根拠が説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　統計の心構え、ビックデータとAI
【　到達目標　】
(1)世の中にある情報（データ）にどのようなものがあるか理解する。
(2)データの特徴や分析により、様々な課題解決につながることを理解する。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習（度数分布表・ヒストグラム）をする。(4.0hr)

第２回　データの種類・尺度水準、度数分布表とヒストグラム
【　到達目標　】
(1)データの特徴を表すものに代表値がある。代表値とは何か、どのようなものがあるのかを、データの種類や尺度から学ぶ。
(2)データの特徴にはばらつきをとらえるものとして度数分布表やヒストグラムを学ぶ。
【授業時間外学修】
提出課題（尺度水準）の復習をする。(4.0hr)

第３回　データのばらつきを数値に表すには
【　到達目標　】
(1)ばらつきの度合いを数値として表すものには何があるかを学ぶ。
(2)代表値とばらつきを関数を使って算出する方法を学ぶ。

【授業時間外学修】
提出課題（分散・標準偏差）の復習をする。(4.0hr)

第４回　散布図と相関、相関係数
【　到達目標　】
(1)散布図を作成し、パターンを理解する。
(2)相関係数の求め方を学ぶ。

【授業時間外学修】
提出課題（相関係数）の復習をする。(4.0hr)

第５回 回帰直線
【　到達目標　】
(1)回帰直線を使って予測する方法を学ぶ。

【授業時間外学修】
提出課題（回帰直線）の復習をする。(4.0hr)

第６回　データ収集の方法
【　到達目標　】
(1)質的データや量的データの収集の方法を理解する。
(2)アンケート作成の基本を学ぶ。

【授業時間外学修】
アンケート項目を考えアンケートを作成する。(4.0hr)

第７回　仮説検定と有意差について
【　到達目標　】
(1)推計統計学において仮説検定がなぜ必要かを理解する。
(2)確率の意味を復習する。

【授業時間外学修】
提出課題の復習をする。(4.0hr)

第８回　正規分布とその他の分布
【　到達目標　】
(1)どのような分布があるかを学ぶ。
(2)一般のデータを標準正規分布に変換する方法を学ぶ。
(3)標準正規分布表から確率を求める方法を学ぶ。
【授業時間外学修】
提出課題（正規分布）の復習をする。(4.0hr)

第９回　平均と分散の推定と区間推定
【　到達目標　】
(1)データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。
(2)サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。

【授業時間外学修】
提出課題（平均・分散の推定）の復習をする。(4.0hr)

第10回　t検定（対応あり）
【　到達目標　】
(1)平均の差の検定の種類を理解する。
(2)実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。

【授業時間外学修】
提出課題（対応のあるt検定）の復習をする。(4.0hr)

第11回　t検定（対応なし）
【　到達目標　】
(1)実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。

【授業時間外学修】
提出課題（対応のないt検定）の復習をする。(4.0hr)

第12回　分散分析（一元配置）
【　到達目標　】
(1)実際の例をとらえながら、一元配置分散分析を理解する。

【授業時間外学修】
提出課題（一元配置分散分析）の復習をする。(4.0hr)

第13回　分散分析（二元配置）
【　到達目標　】
(1)実際の例をとらえながら、対応ありの二元配置分散分析を理解する。
(2)実際の例をとらえながら、対応なしの二元配置分散分析を理解する。

【授業時間外学修】
提出課題（二元配置分散分析）の復習をする。(4.0hr)

第14回　カイ二乗検定
【　到達目標　】
(1)仮説検定の考え方を理解する。
(2)カイ二乗値について理解し、求め方と利用方法を学ぶ。

【授業時間外学修】
提出課題（カイ二乗検定）の復習をする。(4.0hr)

第15回　実践課題
【　到達目標　】
(1)実際のデータを使って分析を行う。

【授業時間外学修】
分析方法と表やグラフについて復習する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

講義は情報処理実習室で授業を実施します。Excelを使い分析することがほとんどですので、初回講義までにExcelの基本操作を復習し、受講の準備を怠らないようにしてください。講義では、できるだけ実際の例を示しながら解説し、数学の苦手な学生も理解ができるように工夫します。講義資料は当日9:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップしますので、事前に講義内容を確認するようにしてください。講義では事前に配信した資料をもとに解説し、講義で行った知識を固めるために、講義の後半15～20分は課題を遂行する時間を取ります。間違えた箇所は復習を心掛けてください。講義後は、講義資料や解説動画（一部）をGoogle Drive 上に1週間掲載しますので、復習や振り返りを行うようにしてください。

【教科書・参考書など】

講義中に指示します。

【成績評価方法】

毎回行われる確認課題(講義中に提出するもの)60%、実践課題(第15回)40%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。

科 目 名	知の哲学			担当者	宇多村 俊介	
英 文 名	Philosophy of Knowledge					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE111・DLE111・HLE111・CLE111		卒業認定方針との関連	①③

【到達目標】

この授業は「知」をめぐる哲学上のいくつかの局面から主題を選びながら、物事や資料、読み物を理知的に解読する習慣を養うことに主眼を置いています。これは、何を素材にするにせよ、日常的に筋道立って考え解釈するための基礎作業をなしていて、大学生として最低限、身につけておくべき論理的思考・批判的思考の諸原則と技能とを含みます。取り上げる主題としては、眼前の身近な素材や事例を用いながら、ことによると普段は当然視しているであろう事柄を批判的に捉え直す視角を学びます。各受講生がことばと思考を自覚的に使用し、みずから暮らしを哲学する端緒として欲しい。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
知をめぐる問題の所在と接近法	問題の所在を理解し、知へ接近する道程を多元的に説明することができる。	知の成立条件や知へ到る思考の過程を、資料等を見ながら説明することができる。	理解が不十分で、従前の意識と思考の枠組みから出ることができない。
思考の諸技能と明晰な言語使用	批判的思考の諸要件と諸段階を理解し、実践することができる。	批判的思考の諸要件と諸段階を、資料等を見ながら運用を試みることができる。	原則や概念の理解が不十分で、各諸技能を運用することができない。
知への視角と現代の知の諸相に関する事項	各主題の観点から世界や自己のあり様を分析し意見を述べることができる。	資料等を参照しながら、各主題の観点に基づいて事例を分析し考えることができる。	各主題への理解が不十分で、新しい視点を事例の分析と思考に取り入れることができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション：哲学することと知へのアプローチ
【　到達目標　】
哲学的な問のもつ特性を理解するとともに、「考える」という作業の一端を実践して、知へアプローチする上でのその意義を自覚する。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の<検討課題>に取り組む。(4.0hr)

第２回　知の成立条件と定義：必要条件と十分条件
【　到達目標　】
定義の構成と充たすべき要件を理解した上で、知の古典的な定義とその問題点を考察することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第３回　意味と明晰さ：曖昧と漠然
【　到達目標　】
ことばを明晰に使用し、無用な混乱を避けるための分析的な諸観点を弁別して理解し、各種の事例に適用することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第４回　立論の批判的評価の諸段階１：推論の２類型
【　到達目標　】
立論(論証)の構造と、そこに体現される推論の２つの類型を把握した上で、立論の健全さを評価することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第５回　立論の解剖学：樹形図の方法
【　到達目標　】
複合的な立論を分析する手段として樹形図の方法を把握し、任意の立論の論理構造を理解することができる。同時に、この方法から取り出される書き手としての一般原則を把握し、運用することができる。
【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第６回　立論の批判的評価の諸段階２：問と論駁
【　到達目標　】
対話的な討論の枠組みのなかで立論の目的を把握し、いくつかの問のもつ機能と諸特質を弁別して理解することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第７回　　立論の批判的評価の諸段階３：歪んだ思考
【　到達目標　】
成功する立論の充たすべき諸要件に対する違反として欺瞞的な立論（虚偽）の分類と形式を把握し、虚偽を犯した個々の立論をそれと分析することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第８回　知覚経験と認識：現象と実在
【　到達目標　】
知の四つの源泉およびそれらに対応する認識の手段、能力として、感覚・知覚、表象、概念の諸特質を把握して、知覚経験のもつ限界と知覚経験の記述に客観性が成立する諸条件とについて考察することができる。
【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第９回　感情：感情と認識
【　到達目標　】
感情の三つの様態を弁別し、それぞれの認識の三能力との対応関係を理解して、みずからの生活意識を省みることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第10回　思考と行為：プラグマティックな意味基準
【　到達目標　】
行為の一段階として思考を捉える視点からプラグマティズムの守則を理解し、観念や言明を明晰化する方法として適用することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第11回　コミュニケーションの哲学：社会的自我
【　到達目標　】
コミュニケーションという用語の意味、その基本要素と諸段階を確認した上で、自我の社会性および主体性を理解し、コミュニケーションの可能性の基盤を考えることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第12回　現代の知の諸相１：情報時代の知
【　到達目標　】
現代の知の一形態として集合知の特性を理解し、その正当性の根拠と成立条件、および限界について考えることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第13回　現代の知の諸相２：科学的接近法
【　到達目標　】
問題解決のための着想を評価する技能として説明上の仮説を理解し、仮説を評価するための検討項目に照らして、任意の仮説を評価することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第14回　現代の知の諸相３：俗悪なものの形而上学
【　到達目標　】
形而上学的な次元が日常的な思考や行動をどう左右するかを理解し、その観点から任意の事例を分析することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第15回　知の主体的責任と知的誠実性
【　到達目標　】
授業を振り返り、知を表明し伝達することの意味と責任を自覚することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

【学修上の留意点】

暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理してもらうために、また、いくつかの思考の技能への一定の習熟を図るために、授業時に５～６回、課題ミニレポートを書き、提出してもらいます。これを除く各回、講義内容を踏まえた考察カードを書いてもらいます。とくに寸評を要する考察や疑問、解答例のある課題については翌週の解答・解説によって理解度を確認してもらいます。予備知識は問いませんが、各回、必ずしも馴染みのない概念や観点を学びます。集中して聴き、把握したことを実地に適用する心構えでいて下さい。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。

【成績評価方法】

各回主題への取り組み状況を踏まえた上で，授業内の課題ミニレポート30%、定期試験70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科 目 名	教養としての日本文学			担当者	石元 みさと	
英 文 名	Introduction to Japanese Literature					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE112・DLE112・HLE112・CLE112		卒業認定方針との関連	①④

【到達目標】

現代日本の児童文学作品を通時的・共時的に概観し、児童文学の変化を考察し、マンガやアニメなどの他ジャンルとの関わりにも目を配り、児童文学というジャンルの可能性について検討する授業である。
現代児童文学の状況とその作品に関心を持ち、分析するための基本的な知識を得ることを目標とする。また、関わりのある他ジャンルにも視野を広げ、起こっている現象や問題に意識的になり、自分なりの解釈・分析をできるようになることを目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
現代児童文学の状況とその作品について	背景やジャンルなども含め総合的に説明できる。	基本的な知識を説明できる。	理解が不十分で説明できない。
関心を持つ作品について	自分なりの解釈・分析ができる。	先行論をもとにした解釈・分析ができる。	先行論の理解はできる。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
教養として文学を読むことの意義、授業のねらいと方針、学習方法を理解する。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第２回　解釈するとはどういうことか
【　到達目標　】
作品を読むことについて学び、どういう点に注目すべきか理解する。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第３回　昔話
【　到達目標　】
昔話の特徴について学ぶ。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第４回　昔話の特徴を活かして創作する
【　到達目標　】
昔話についてグループワークをする（創作）。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第５回　創作民話を学ぶ
【　到達目標　】
創作民話『龍の子太郎』について理解する。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第６回　ナンセンス作品を学ぶ
【　到達目標　】
ナンセンス作品について理解する。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第７回 絵を読むとはどういうことか
【　到達目標　】
絵本『すてきな三にんぐみ』を取り上げ、絵を読み解く。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第８回　エンターテインメント作品を読む
【　到達目標　】
『ズッコケ三人組』を取り上げ、エンターテインメントについて理解する。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第９回　詩を読む
【　到達目標　】
「わたしと小鳥とすずと」を扱い、教科書での読まれ方を考える。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第10回　ボーダーレス化する児童文学
【　到達目標　】
1990年代に広がったボーダーレスな作品について学ぶ。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第11回　作品を分析する１
【　到達目標　】
「デューク」を取り上げ、作品を詳細に分析する。ドラマ版を視聴し、他者の解釈を学ぶ。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第12回　作品を分析する２
【　到達目標　】
『西の魔女が死んだ』を取り上げ、作品のテーマについて考える。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第13回　作品を分析する３
【　到達目標　】
『西の魔女が死んだ』を取り上げ、作品のモチーフを分析する。映画版を視聴し、他者の解釈を学ぶ。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第14回　児童文学とメディアミックス
【　到達目標　】
『DIVE!!』を取り上げ、近年盛んに行われているメディアミックスついて考える。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第15回　まとめ
【　到達目標　】
これまで扱った作品を振り返り、自分なりの解釈・分析をする。
【授業時間外学修】
授業全体を振り返り、自己評価を行う。(4.0hr)

【学修上の留意点】

・毎時間、授業内で小レポート（作品の感想）を課す。その提出をもって出席とみなす。
・読み書きの自主学習が多いためハードである。積極的に学習に取り組む覚悟がなければ本科目は単位習得できないので､中途半端な気持ちで選択しないようにすること。
・グループワーク発表、最終レポートを課す。
・受講人数によって内容を変更する場合がある。

【教科書・参考書など】

教科書　授業時にレジュメを配布する。読み聞かせ、もしくは取り上げる作品のダイジェストを配布するが、できる限り事前に作品全体に目を通してから授業に臨んでほしい。
参考書　授業時に適宜紹介する。

【成績評価方法】

・毎回の課題提出(30%)・グループワーク発表（20%）、最終レポート(50%)
・生成AIを使用したり剽窃をしたりした者には単位を出さない。

科 目 名	音楽の世界			担当者	松橋　輝子	
英 文 名	The World of Music					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE113・DLE113・HLE113・CLE113		卒業認定方針との関連	④⑤

【到達目標】

音楽とは何か。音楽の構造や楽器に関する基礎的知識、文化としての西洋音楽の歴史を学ぶ。履修者は、解説された事項を理解し、様々な音楽の聴取体験を重ね、音楽に関する基礎的概念を身に着けるとともに、音楽と社会の関わりについても考察することが求められる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
音楽の基礎的概念について	授業で扱った概念をすべて自分の言葉で説明できる	それぞれの概念の意味するところを事典などを参考にしながら理解することができる	それぞれの概念の意味が理解できない
音楽と社会との関わりの分析	自分独自の方法論で分析ができる	授業で説明された分析が理解できる	授業で説明された分析が理解できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　序説～人間と音楽
【　到達目標　】
人間は音楽をどのような場面で必要とし、どのように音楽と関わってきたのか。
ギリシア語の〈ムーシケー〉に遡り、音楽の概念、音楽の歴史性を考える。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第２回　さまざまな楽器（1）
【　到達目標　】
楽器の分類法について学び、楽器の構造、奏法、歴史を理解する。
体鳴楽器、膜鳴楽器、気鳴楽器について理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第３回　さまざまな楽器（２）
【　到達目標　】
弦鳴楽器、電鳴楽器について理解する。
オーケストラの歴史、編成について理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第４回　声
【　到達目標　】
歌唱法、声種について理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第５回　ノイズ・環境音楽
【　到達目標　】
ノイズを素材としていかに音楽を構成することが出来るのか、実例を鑑賞しながら考察する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第６回 音楽の基礎（１）
【　到達目標　】
音階の定義を学び、異なる音階に基づく音楽がもたらす聴覚的効果について理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第７回　音楽の基礎（２）
【　到達目標　】
音楽の様々な基本形式を学び、作品の構造を理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第８回　音楽の基礎（３）
【　到達目標　】
音楽の様々なジャンルを学び、それぞれの音楽の文化的な位置づけを理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第９回　楽譜について（１）
【　到達目標　】
さまざまな種類の楽譜とその変遷について理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第10回　楽譜について（２）
【　到達目標　】
自筆譜から出版楽譜、作品目録、批判校訂譜について理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第10回　西洋音楽の歴史（１）
【　到達目標　】
西洋音楽史の時代区分を確認し、ルネサンス時代までの音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第12回　西洋音楽の歴史（２）
【　到達目標　】
西洋音楽史の時代区分を確認し、バロック時代の音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第13回 西洋音楽の歴史（３）
【　到達目標　】
古典派、ロマン派時代の音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第14回　西洋音楽の歴史（４）
【　到達目標　】
近代の音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第15回 日本における西洋音楽の受容
【　到達目標　】
日本において西洋音楽がいかに受容されてきたのか、主に歴史的視点から考察する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

【学修上の留意点】

教科書は指定せず、授業内容の要点をまとめたパワーポイントを授業後に資料としてデータで配布する。パワーポイント上に授業中、授業後に視聴すべき参考動画のリンクを埋め込む。音楽という科目の性格上、視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席をしないことが大前提となる。なお、各授業時にコメントの提出を求める。このコメントの内容も成績評価の対象とする。受講に際して音楽の知識の有無は問わないが、授業に真摯に向き合うことの出来る学生の参加を求める。

【教科書・参考書など】

参考書は授業の際に随時紹介する。

【成績評価方法】

各授業回で課すコメントの内容50%、学期末レポート50%の割合で評価する。

科目名	ジェンダー論			担当者	藤山　新	
英文名	Gender Issues					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE211・DLE211・HLE211・CLE211		卒業認定方針との関連	③④

【到達目標】

本講義では、日常生活の様々な場面に潜在するジェンダーにまつわる事象や問題について、自分自身に関係のあることとして認識し、理解を深めることを目的とする。また、本学の特徴に合わせ、セクシュアル・マイノリティやセクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント、デートDVなど、学校や体育、スポーツの場面で指導的立場に立つうえで必要な知識を身につけることを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ジェンダーに関する基礎的知識	知識を理解し、現実社会の課題の理解に応用できる	知識について、配布資料等を参照しながら説明することができる	知識を十分に説明できない
スポーツ場面におけるジェンダー課題について	課題について理解し、それについての自らの意見を述べることができる	課題について理解し、配布資料等を参考に意見を述べることができる	課題の理解が不十分で、意見を述べることができない
保健体育科の教育場面におけるジェンダー課題について	課題について理解し、それについての自らの意見を述べることができる	課題について理解し、配布資料等を参考に意見を述べることができる	課題の理解が不十分で、意見を述べることができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　イントロダクション
【　到達目標　】
(1)セックスおよびジェンダーの概念とその変遷を理解する。
(2)ジェンダー・ギャップ指数（GGI）を通じて、国際社会における日本の位置づけを知る。
(3)ジェンダーの視点から、どのような事柄が課題となりうるのかを把握する。
【授業時間外学修】授業内で提示するジェンダー・ギャップ指数のリポートを閲覧し、日本が特に経済と政治の分野で女性の参画が少ない状況を詳細に把握する。(4.0hr)

第２回　フェミニズムの歴史
【　到達目標　】
(1)フェミニズムの全体的な歴史を知る。
(2)現代のフェミニズムのありかたを理解する。
(3)現代における男性とフェミニズムの関係を理解する。
【授業時間外学修】授業内で提示する参考文献のうち、男性学に関する文献を読み、現代のフェミニズムの特徴を理解する。(4.0hr)

第３回　男女共同参画社会ってなんですか
【　到達目標　】
(1)男女共同参画社会推進法の理念を理解する。
(2)男女共同参画社会を推進するための具体的な取組を知る。
(3)スポーツ場面における男女共同参画に関する取組を知る。
【授業時間外学修】内閣府男女共同参画局HPより、第5次男女共同参画基本計画の説明資料を閲覧し、どの分野でどのような課題と取組があるのかを調べる。(4.0hr)

第４回　セクシュアル・マイノリティの基礎知識
【　到達目標　】
(1)人間の「性」の多様性と多層性について理解する。
(2)セクシュアル・マイノリティに関する今日的な話題・課題を理解する。
(3)当事者の仲間としてできること、大切にすべきことを理解する。
【授業時間外学修】授業内で提示する「マリッジフォーオール・ジャパン」のWEBサイトを閲覧し、同性婚をめぐる訴訟の経緯と現状を調べる。(4.0hr)

第５回　「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」という考え方
【　到達目標　】
(1)「性と生殖に関する自己決定権」が確立されるために必要な事柄を理解する。
(2)アスリートと生理に関する課題と社会的な動向について知る。
(3)フェムテックをめぐる社会的な動向と課題について理解する。
【授業時間外学修】授業内で紹介する、アスリートと生理について情報発信しているWebサイト内の動画を閲覧し、正確な知識と情報を得る。(4.0hr)

第６回　実は身近なデートDV
【　到達目標　】
(1)デートDVの構造と実態を理解する。
(2)誰もがデートDVの被害者、加害者になりうることを理解する。
(3)「ピア・サポート」の概要と重要性を理解する。
【授業時間外学修】授業中に示すデートDV防止に取り組む団体等のWebサイトを閲覧し、ピア・サポートの重要性について、授業内容とも関連させて理解を定着させる。(4.0hr)

第７回　スポーツ・ジェンダー学という世界
【　到達目標　】
(1)スポーツ・ジェンダー学の特徴を理解する。
(2)ジェンダーの視点でスポーツをとらえた時に見えてくる課題について知る。
(3)オリンピックへの女性の参加の歴史について知る。
【授業時間外学修】あらかじめ『よくわかるスポーツとジェンダー』の「Ｉ総論」を自身のスポーツへの取組と関連させながら読んで、授業に臨む。(4.0hr)

第８回　女子ボクシングの昨日・今日・明日
【　到達目標　】
(1)日本における女子ボクシングの歴史的経緯と現状を知る。
(2)メディアにおける女子ボクサーの描かれ方の特徴を理解する。
(3)スポーツが男／女らしさイメージの問い直しにつながる可能性があることを認識する。
【授業時間外学修】授業内容を踏まえ、スポーツ新聞やボクシング専門誌に目を通し、男性と女性のボクサーの報じられ方の異同について調べる。(4.0hr)

第９回　近代スポーツとジェンダー
【　到達目標　】
(1)「近代スポーツ」の概念とその歴史的展開を理解する。
(2)「近代スポーツ」と「男らしさ」の結びつきを理解する。
(3)女性とスポーツに関する国際的なムーブメントの歴史とその意義を把握する。
【授業時間外学修】授業内容のうち、「ブライトン宣言」についてWebで調べ、その内容と意義について理解を定着させる。(4.0hr)

第10回　保健体育科教育とジェンダー
【　到達目標　】
(1)トマス・アーノルドと二階堂トクヨの相違点について理解する。
(2)保健体育科教員の男女比の偏りがもたらす問題について理解する。
(3)競技スポーツに偏っている体育のカリキュラムに対するオルタナティブを考える。
【授業時間外学修】授業内で紹介するPEGP研究プロジェクトのリーフレットをWEBで閲覧し、体育が苦手な生徒に対するアプローチの方法を検討する。(4.0hr)

第11回　セクシュアル・マイノリティと学校教育
【　到達目標　】
(1)セクシュアル・マイノリティ当事者が特に体育の場面で体験しがちな困難を理解する。
(2)当事者の体験を踏まえ、教員やスポーツの指導者として、セクシュアル・マイノリティ当事者と接するうえで必要な知識や心構えを理解する。
【授業時間外学修】第4回及び第10回の授業内容とも関連させながら、教員やスポーツの指導者としてセクシュアル・マイノリティ当事者への配慮のありかたを考える。(4.0hr)

第12回　スポーツにおける多様な性1
【　到達目標　】
(1)近年のオリンピックなどで生じた、多様な性をめぐる出来事を的確に理解する。
(2)スポーツにおけるホモフォビアの存在とその現状を理解する。
(3)日本スポーツ協会による指導者への啓発・情報提供の取組の概要を知る。
【授業時間外学修】授業内で提示する日本スポーツ協会のハンドブックを読み、授業内容とあわせ、指導者として知っておくべき事柄を理解する。(4.0hr)

第13回　スポーツにおける多様な性2
【　到達目標　】
(1)トランスジェンダーのアスリートの競技参加に伴う課題を知る。
(2)DSDs（性分化疾患）のアスリートの競技参加に伴う課題を知る。
【授業時間外学修】授業内で紹介する、トランスジェンダーのアスリートの競技参加に関するIOCのルールについて、その変遷をまとめる。(4.0hr)

第14回　メディアとスポーツとジェンダーと
【　到達目標　】
(1)メディアにおける量的なジェンダー格差について理解する。
(2)メディアにおける女性アスリートの描かれ方とその変化について理解する。
(3)メディアコンテンツの分析ツールについて知る。
【授業時間外学修】授業内で紹介する、IOCの表象ガイドラインをWEBで閲覧し、スポーツ団体やアスリートがジェンダー平等な報道を促すためにできることを検討する。(4.0hr)

第15回　日常生活世界に見るジェンダー
【　到達目標　】
(1)スポーツ界特有のセクシュアルハラスメントやパワーハラスメントの構造を理解する。
(2)スポーツ場面における盗撮問題について、その概要を理解する。
(3)育児休業の期間や取得率の男女差、育休後の女性の復職率などの実態を知る。
【授業時間外学修】授業内で提示する男女共同参画白書令和6年版（Web版）の該当箇所を参照し、日本におけるジェンダー問題の現状を数量的に把握する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

・パワーポイントを提示しながらの講義形式で行います。必要に応じ、映像資料等も使用する予定です。
・毎時間ハンドアウトを配布します。授業内容を理解するためには、単なるハンドアウトの穴埋めにとどまらず、積極的にノートを取ることを推奨します。受講者は主体的に授業に参加し、わからない点は積極的に質問するなどしてください。授業中に質問しにくい場合には、授業の前後、およびメールでの質問にも応じます。
・下記に示した参考書や、授業内で紹介する関連書籍・資料等には、積極的に目を通すことを推奨します。
・理解度を確認するためのリアクションペーパーを複数回提出してもらいます。リアクションペーパーの内容については、次回以降の授業で一部を共有し、解説によるフィードバックを行います。

【教科書・参考書など】

教科書　特に指定しない。
参考書　『よくわかるスポーツとジェンダー』飯田貴子・熊安貴美江・來田享子著（2018）ミネルヴァ書房、『データで見るスポーツとジェンダー』日本スポーツとジェンダー学会著（2016）八千代出版、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江著（2013）ミネルヴァ書房

【成績評価方法】

リアクションペーパー30%、期末試験70%で評価する。※試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	コンピュータ実践演習			担当者	水野　有希	
英文名	Lecture and Practice in Information and Communication Technology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE212・DLE212・HLE212・CLE212		卒業認定方針との関連	②③④

【到達目標】

会社や大学、家庭など、ありとあらゆるところに情報技術が利用されています。そのような社会に生きる私たちにとって、情報技術は理論的にも実践的にも重要です。本講義では、情報技術の進歩が私たちの生活や社会にどのように影響を及ぼしているか、どのような利点と欠点が出てきたかをとらえます。また、実践として、インターネットやメールを利用した情報操作、レポート作成、画像処理、関数の応用やデータベース操作を身に付け、ホームページや資料作成などの様々な手法による情報発信技術について学びます。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
情報技術や情報倫理の基本的事項	情報発信を通して、情報の科学的な見方・考え方を自ら説明できる	情報の科学的な見方・考え方を、資料等を参考に説明できる。	情報の科学的な見方・考え方の理解が不十分で説明できない。
情報発信技術の実践的活用に関する事項	Webやアプリを用いた情報発信と情報収集の技術を修得し、自ら説明できる。	資料等を参照してWebやアプリを用いた情報発信と情報収集の技術が説明できる。	情報発信・情報収集の技術の修得が不十分で説明できない。
体育・スポーツ研究のための情報技術活用に関する事項	論文・プレゼン資料作成の高度なスキルを修得し、自ら説明できる。	論文・プレゼン資料作成に必要なスキルを修得し、資料等を参考に説明できる。	論文・プレゼン資料作成に必要なスキルの修得が不十分で説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　情報技術について
【　到達目標　】
(1)情報技術とは何かを理解する。
(2)情報技術が利用されている例を見ながら理解を深める。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第２回　インターネットの仕組みと現状、情報倫理について
【　到達目標　】
(1)インターネットの仕組みを理解する。
(2)インターネットの現状を把握し、利点と欠点を理解する。
(3)情報についてのマナー、セキュリティー、プライバシー、知的財産権について学ぶ。
【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第３回　レポート・論文作成の基礎
【　到達目標　】
(1)レポートや論文の体裁や作成の注意点などを理解する。
(2)長い文章を意識したWordの技術を学ぶ。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第４回　レポート・論文作成の応用
【　到達目標　】
(1)注釈、図表番号、目次の作成技術を学ぶ。
(2)レポートや論文に添付する抄録や要約について学ぶ。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第５回　スライドデザイン技術の基礎
【　到達目標　】
(1)見やすい、わかりやすい、伝わりやすい資料作成について学ぶ。
(2)情報の整理、要素の配置や構成について学び、資料作成技術を修得する。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第６回　スライドデザイン技術の応用
【　到達目標　】
(1)画像処理アプリケーションソフトについて学ぶ。
(2)訴求力の高い、効果的な資料作成技術を修得する。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第７回　ホームページ作成の基礎
【　到達目標　】
(1)Googleサイトを利用したホームページの作成技術を理解する。
(2)ホームページ作成におけるマナーや問題点を理解する。

【授業時間外学修】
さまざまなHPから効果的な情報発信方法を体験する。(4.0hr)

第８回　ホームページ作成の実践
【　到達目標　】
(1)画像データの編集技術について学ぶ。
(2)ホームページを作成・公開までの一連の作業を修得する。

【授業時間外学修】
さまざまなHPから効果的な情報発信方法を体験する。(4.0hr)

第９回　クラウドの活用：アンケート調査の基礎
【　到達目標　】
(1)GoogleDriveを利用したアンケートの作成、集計技術を理解する。
(2)アンケートの質問項目に関する作成手順や注意事項を理解する。
（※ グループワークを行います）
【授業時間外学修】
アンケートフォームからアンケートを体験する。(4.0hr)

第10回　クラウドの活用：アンケート調査の応用
【　到達目標　】
(1)クラウドを用いたデータ集計やデジタルデータの扱い方を理解する。
(2)回収したデジタルデータの整理方法について学ぶ。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第11回　データベースの基本操作
【　到達目標　】
(1)データベースとは何かについて学ぶ。
(2)質的データと量的データの違いを理解する。
(3)フィルターやピボットの操作について学ぶ。
【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第12回　グラフの作成
【　到達目標　】
(1)基本的なグラフについて復習し、グラフの応用技術を学ぶ。
(2)目的に応じた、効果的なグラフの作成について学ぶ。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第13回　Excelの上級
【　到達目標　】
(1)Excel関数の応用(IF関数やVLOOKUP関数など)について学ぶ。
(2)データの特徴を捉えるためのデータ整理技術や簡単な統計処理について学ぶ。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第14回　資料作成の基礎
【　到達目標　】
(1)officeアプリを互換し、資料（報告書）を作成する。
(2)既存の情報（公的機関、論文など）を活用した効果的な資料作成技術を修得する。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第15回　資料作成の応用
【　到達目標　】
(1)TPOに応じた資料作成技術を習得する。
(2)情報発信方法について「振り返り」をして、効果的な情報発信技術を学ぶ。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

【学修上の留意点】

講義は情報処理実習室で実施します。1年生に行った情報処理Ⅰ・Ⅱの知識を基礎として、講義では応用的な内容を学習します。講義資料は当日9:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップしますので、事前に講義内容を確認するようにしてください。講義では事前に配信した資料をもとに解説し、後半20分は課題を解く時間とします。解いた課題については、次回解説を行います。間違えた人は必ず復習をしてください。講義後は、講義資料や解説動画（一部）をGoogle Drive 上に1週間掲載しますので、復習や振り返りを行うようにしてください。

【教科書・参考書など】

資料を配付します。

【成績評価方法】

毎回行われる確認課題(講義中に提出)40%、HP作成課題・グループワーク課題（第７，９回）20%、最終レポート40%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。

科目名	人間生活と地球環境			担当者	新津　修平	
英文名	Human life and Earth Environment					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE114・DLE114・HLE114・CLE114		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

本講義の前半では、生物の共通性について概説し、生命の誕生の歴史とともに、多様な生物が生息する地球環境がどのように形成されてきたのかを説明する。後半では、人間の活動が自然環境に与える影響を解説し、環境問題の現状について理解を深める。そのうえで、自然環境の保全に向けたさまざまな取り組みを学び、持続可能な社会の実現に向けた課題を考察する。最終的に、人間生活の基盤である地球環境の健全性を維持するために、私たちに何ができるのか？を考える。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
地球環境の成立と生物多様性の創出	理論を十分理解し、研究知見の要点や活用について意見を示すことができる。	基礎的事項や理論の要点を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
人間活動による自然環境・生物への影響	理論を十分理解し、研究知見の要点や活用について意見を示すことができる。	基礎的事項や理論の要点を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
地球環境の維持・保全のための取組	理論を十分理解し、研究知見の要点や活用について意見を示すことができる。	基礎的事項や理論の要点を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
「人間生活と地球環境」の授業の概要とねらいを理解する。
【授業時間外学修】
事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。(4.0hr)

第２回　生物とは何かー生物の共通性ー
【　到達目標　】
生物の基本的な共通性と生命の定義について理解する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第３回　生物と地球環境
【　到達目標　】
生物と環境の関係性を学び、生態系における生物の役割を理解する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第４回　生態系の機能と物質循環
【　到達目標　】
生態系の構造と機能、および物質循環の仕組みを把握する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第５回　地球環境の成立と生命の誕生
【　到達目標　】
地球環境の形成過程と生命の起源について理解する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第６回　生物の多様性とその体系
【　到達目標　】
地球上の生物の多様性とその分類体系の基礎を学ぶ。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第７回　人間活動と生態系
【　到達目標　】
人間活動が生態系に及ぼす影響を理解する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第８回　公害と環境汚染
【　到達目標　】
主要な公害や環境汚染の原因と影響について学ぶ。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第９回　地球温暖化がもたらす影響
【　到達目標　】
地球温暖化の原因とその影響、対策について理解する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第10回　酸性化する大気と海洋
【　到達目標　】
大気や海洋の酸性化の原因とその影響を学ぶ。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第11回　オゾン層の破壊
【　到達目標　】
オゾン層の役割とその破壊がもたらす影響を理解する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第12回　地球のエネルギー資源
【　到達目標　】
地球のエネルギー資源の現状と持続可能な利用について学ぶ。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第13回　水と人間活動
【　到達目標　】
水資源の利用とその管理の重要性を理解する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第14回　生態系の危機と生物多様性の保全
【　到達目標　】
生態系の危機的状況と生物多様性保全の取り組みについて学ぶ。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第15回　ごみ問題と循環型社会の構築
【　到達目標　】
ごみ問題の現状と循環型社会の構築に向けた取り組みを理解する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

【学修上の留意点】

講義では、毎回配布する講義スライドの詳細を説明するので、しっかりノートをとること。各講義の最後に小テストを実施する。小テストは、講義内容の理解度を確認する選択式と講義内容を踏まえた問いに対する記述式を併用する。結果については、次回の講義の最初に解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書は特に使用せず、講義スライドを資料として配布する。

【成績評価方法】

講義内容の理解度を確認するために、各講義の最後に選択式および記述式の小テストを実施。成績は小テストの達成度を100%として評価する。合格基準は60%である。

科目名	ヨーロッパの文学と文化			担当者	加賀　岳彦	
英文名	European Literature and Culture					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE115・DLE115・HLE115・CLE115		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

ヨーロッパの文学は、日本をも含む世界中の文学・芸術・思想に多大な影響を及ぼしてきた。この授業では、ヨーロッパ文学の古典から現代までの代表的作品を、まずはその文化的背景、時代、社会と関連づけながら理解し、そして現代に生きる我々の諸問題と結び付けて考察していく。なお講義の性質上、ヨーロッパ文学と類縁関係にあるアメリカ文学、およびヨーロッパ文学から大きな影響を受けた近代日本文学をも視野に置き、頻繁に言及する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ヨーロッパの歴史の時系列的な流れ	時系列的な流れを理解し説明できる	時系列的な流れをノート等を参照しながら理解し説明できる	時系列的な流れの理解が不十分で説明できない
各時代におけるヨーロッパ文学の特徴	各時代の文学の特徴を理解し説明できる	各時代の文学の特徴をノート等を参照しながら理解し説明できる	各時代の文学の特徴の理解が不十分で説明できない
授業で学習したヨーロッパの文化的な諸側面	諸側面を理解し説明できる	諸側面をノート等を参照しながら理解し説明できる	諸側面の理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　授業概要の説明・ヨーロッパの地理・歴史の概観
【　到達目標　】
授業内容を理解する。
ヨーロッパの地理・歴史についての基礎概念を理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第２回　ヨーロッパ文学の源流　ギリシャ神話
【　到達目標　】
ヨーロッパ文化の源流であるギリシャ神話の自然観・世界観・人間観を理解し、20世紀文学への影響等を考察する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第３回　ヨーロッパ文学の源流　古典ギリシャ文学①
【　到達目標　】
ギリシャ神話を知識を基に、西洋最古の文学であるホメロスの英雄叙事詩『イリアス』を考察する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第４回　ヨーロッパ文学の源流　古典ギリシャ文学②
【　到達目標　】
『イリアス』に続き、ホメロスの英雄叙事詩『オデュッセイア』を概観し、20世紀文学への影響などを考察する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第５回　ヨーロッパの古典思想　古典ギリシャ哲学
【　到達目標　】
その後のヨーロッパ文明に大きな影響を与えたギリシャ哲学を概観し、特にプラトンの思想を具体的に考察する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第６回　ユダヤ＝キリスト教①　『旧約聖書』
【　到達目標　】
ギリシャ文学と並び、後世のヨーロッパ文化を決定づけた『旧約聖書』の主要個所を精読し、その世界観・特徴・歴史的重要性を考察する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第７回　ユダヤ＝キリスト教②　『新約聖書』
【　到達目標　】
前回の『旧約聖書』を踏まえて、『新約聖書』の主要個所を精読し、イエスの思想およびキリスト教の特徴を理解し、後世のヨーロッパ文化に与えた影響を考察する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第８回　ヨーロッパ中世の文化
【　到達目標　】
ヨーロッパ「中世」という時代の歴史的背景を捉えた上で、カトリック、マリア崇敬などに見られる中世文化の諸特徴を考察する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第９回　ヨーロッパ中世の文学
【　到達目標　】
ヨーロッパ中世文学を考察する。ここでは中世期にヨーロッパ中に広まった「アーサー王伝説」およびその物語群を考察し、19～20世紀への影響等を追っていく。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第10回　ルネサンスの文学①
【　到達目標　】
中世からの時代の変化を十分踏まえながら、ルネサンス文学の特徴と本質は何なのかを、セルヴァンテスの『ドン・キホーテ』の主要個所の精読を通して考察する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第11回　ルネサンスの文学②
【　到達目標　】
前回に続きルネサンスの文学を考察する。ここではウィリアム・シェイクスピアの作品を題材に、その表現方法やテーマから、ルネサンス文学の特徴と魅力を掴む。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第12回　宗教改革
【　到達目標　】
宗教改革（Reformation）は単に宗教上の運動にとどまらず、その後のヨーロッパ近代社会の発展に様々な影響を与えた。その内実を、ルター、カルヴァンのテキストを通して理解していく。
【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第13回　ヨーロッパ近代の文学①
【　到達目標　】
宗教改革以降、ヨーロッパの近代文学には何がどのように描かれ、どのような発展と分岐を経ていったのかを概観し、その多様な特徴を理解する。主にディケンズの作品を扱う。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第14回　ヨーロッパ近代の文学②
【　到達目標　】
18～19世紀のヨーロッパ・アメリカにおけるデモクラシー・平等といった近代諸概念を、文学はどう扱い表現していったのか、その特徴を理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第15回　ヨーロッパの現代文学
【　到達目標　】
「戦争の世紀」と言われる20世紀、ヨーロッパでは多くの新思潮が抬頭してきた。それらの傾向と方向性を捉えた上で、モダニズム、実存、不条理など、20世紀ヨーロッパ文学が描き出した人間存在の諸問題を考察する。
【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業時に配布する資料・テキストをしっかり読み、毎回の授業の復習として授業の要点を各自ノートにまとめておくことを勧める。また授業で触れた作品を自分で読んでみたり、その映画作品を観たりすると、理解が格段に深まる。

【教科書・参考書など】

授業時に資料集を配布する。また随時、重要文献・映像資料等を指示する。

【成績評価方法】

原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。

科 目 名	レクリエーションミュージック・合奏			担当者	堤　　由衣	
英 文 名	Recreation music (Ensemble)					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE116・DLE116・HLE116・CLE116		卒業認定方針との関連	④⑤

【到達目標】

高校までの音楽科の授業を発展させる形で、「音を合わせる」ということを学ぶ。合奏や合唱の経験を通して豊かな表現力を養い、協力して一つの曲を完成させる喜びを味わう。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
楽譜についての基礎的な知識について	自ら楽譜を読み、演奏することができる。	楽譜を読み解く際、教員のサポートを得ながら演奏をすることが出来る。	楽譜を用いて演奏することが出来ない。
合奏への参加方法・演奏の習熟	自分の担当する楽器の、その曲における役割を理解し、音楽に対して創意工夫が出来る。	楽器の正しい扱いや発音の原理を理解し、演奏に参加出来る。	楽器の演奏方法を習得できず、合奏に参加出来ない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】

第１回　楽譜の基礎知識①/声のアンサンブル導入
【　到達目標　】
基本的な楽譜の読み方を理解する。歌唱に必要な身体の使い方を理解する。

【授業時間外学修】
楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)

第２回　楽譜の基礎知識②/声のアンサンブル①
【　到達目標　】
校歌の音楽的特徴を理解したうえで、二部合唱で歌う。

【授業時間外学修】
校歌のメロディーを確認する。(4.0hr)

第３回　楽譜の基礎知識③/声のアンサンブル②
【　到達目標　】
ミュージカルの有名曲を通して、合唱を楽しむ。

【授業時間外学修】
楽曲の正しいリズムを習得する。(4.0hr)

第４回　音楽の形式①/楽器のアンサンブル①
【　到達目標　】
各国の伝統的なリズムに触れ、違いを理解する。
カスタネット正しい持ち方や基本的な奏法を理解する。

【授業時間外学修】
打楽器の基本的な取り扱いを習得する。(4.0hr)

第５回　音楽の形式②/楽器のアンサンブル②（発表）
【　到達目標　】
カスタネットやトライアングル等によるアンサンブルを楽しむ。

【授業時間外学修】
第４回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)

第６回　リコーダー導入
【　到達目標　】
リコーダーの正しい持ち方や基本的な奏法を理解する。

【授業時間外学修】
リコーダーの取り扱いを習得する。(4.0hr)

第７回　リコーダー運指①
【　到達目標　】
初歩的な楽曲を用いながら、リコーダーの運指を理解する。

【授業時間外学修】
学修したリコーダーの運指を復習する。(4.0hr)

第８回　ボディーパーカッション①/リコーダー運指②
【　到達目標　】
身体を打ち鳴らして出る様々な音を発見する。リコーダーで１オクターブの音域を使って演奏する。

【授業時間外学修】
学修したリコーダーの運指を復習する。(4.0hr)

第９回　ボディーパーカッション②/リコーダー運指③
【　到達目標　】
グループごとに創意工夫をして、ボディーパーカッションのアレンジをする。
リコーダーのサミングを習得する。

【授業時間外学修】
第８回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)

第10回　ボディーパーカッション③（発表）
【　到達目標　】
第９回でアレンジした曲を演奏し、互いの演奏を聴き合う。

【授業時間外学修】
第９回で取り組んだ内容の復習をする。(4.0hr)

第11回　トーンチャイム導入
【　到達目標　】
トーンチャイムの正しい持ち方や基本的な奏法を理解する。

【授業時間外学修】
トーンチャイムの基本的な取り扱いを習得する。(4.0hr)

第12回　楽器のアンサンブル：トーンチャイム①
【　到達目標　】
自らのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。

【授業時間外学修】
トーンチャイム演奏における楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)

第13回　楽器のアンサンブル：トーンチャイム②/リコーダー①
【　到達目標　】
トーンチャイムのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。

【授業時間外学修】
リコーダーの奏法：タンギングの復習をする。(4.0hr)

第14回　楽器のアンサンブル：トーンチャイム③/リコーダー②
【　到達目標　】
トーンチャイム：リズム、メロディーが際立つ演奏をする。リコーダー：チューニングを学ぶ。

【授業時間外学修】
担当するパートの復習をする。(4.0hr)

第15回　リコーダー＆トーンチャイム（発表）
【　到達目標　】
今までに学修したことを生かし、より音楽的に仕上げる。

【授業時間外学修】
第14回の授業内容を復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

ソプラノリコーダーは、履修する全学生が指示の通りに購入すること。
アンサンブルは一人でも欠けると成立しないため、欠席しないことを条件に課す。

【教科書・参考書など】

適宜楽譜を配布する。

【成績評価方法】

授業における課題達成度および授業内演奏の習熟度50%、授業内課題提出50%で評価する。

科 目 名	保育・教育心理学	担当者	角田　和也
英 文 名	Developmental and Educational Psychology		

単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CBR101		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。また、子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。さらに、乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
発達を捉える視点について	発達を捉える視点について自らの意見を示すことができる	発達を捉える視点について理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない
子どもの発達過程について	子どもの発達過程について自らの意見を示すことができる	子どもの発達過程について理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない
子どもの学びと保育について	子どもの学びと保育について自らの意見を示すことができる	子どもの学びと保育について理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　保育・教育心理学について学ぶ意味
【　到達目標　】
(1)実践と理論の往還について理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第２回　保育は子どもの何を育てるのか？
【　到達目標　】
(1)主体としての心を育むためのかかわりについて理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第３回　人はいかに学ぶか (1)
【　到達目標　】
(1)学習に関する理論（行動主義、認知主義）を理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第４回　人はいかに学ぶか (2)
【　到達目標　】
(1)学習に関する理論（社会的構成主義）について理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第５回　人はいかに学ぶか (3)
【　到達目標　】
(1)学習に関する理論（状況論）について理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第６回　やる気について (1)
【　到達目標　】
(1)内発的動機づけと外発的動機づけについて説明できる。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第７回　やる気について (2)
【　到達目標　】
(1)動機づけを阻害するものを理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第８回 記憶（１）
【　到達目標　】
(1)記憶のメカニズムについて理解する。
(2)知識の種類やその性質について理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第９回　記憶（２）
【　到達目標　】
(1)記憶のプロセスについて理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第10回　メタ認知
【　到達目標　】
(1)学習を振り返り、コントロールする意義について理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第11回　学びの評価
【　到達目標　】
(1)保育・教育実践や子どもの学びを評価する際の視点やバイアスについて理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第12回　集団の捉え方
【　到達目標　】
(1)集団心理について理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第13回 インクルーシブ教育の考え方と新しい障害観
【　到達目標　】
(1)インクルーシブ教育の考え方を理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第14回　乳幼児期・児童期の発達
【　到達目標　】
(1)乳幼児期・児童期の発達特徴について理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第15回　青年期の発達
【　到達目標　】
(1)青年期の発達特徴について理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成。(4.0hr)

【学修上の留意点】

①基本的にPowerPoint画像や動画を使用し、プロジェクターもしくはモニターに投影して授業を進める。使用する穴埋め方式のプリント教材に即して説明するが、口頭で補足および詳細な説明も併せて行うので、集中してメモを取り、保育実践時に活用できるオリジナル資料の作成を目指す必要がある。
②授業内容の理解を深めることを目的とした実践的な課題レポートの作成を、単元毎に授業時間外学習で求める。この課題は後日インターネット上の指定されたURLから提出してもらい、評価に反映させる（下欄「成績評価方法」の「提出物の総合評価」に該当）。また、提出された課題は、提出翌週以降の授業内で授業資料として使用し、主に口頭でさらに補足や追加の説明を加えながら、他の受講者の意見を共有し自身のものの見方・考え方を広げ、より実践力を高めるようフィードバックしていく（当然メモは必須）。
③期末試験は、授業時に説明した基本的な事項や知識の定着の確認、および授業時間外学習で取り組んだ課題とその後のフィードバックで学習した実践的な力の定着の確認を目的として実施する。したがって、ルーブリックの「標準的な到達レベル」から「理想的な到達レベル」で出題されることになるので、授業時間外での日常的な自主学習・復習および実践的な研鑽を積み重ねることが単位取得のためには必須である。
④出席を確認するため、授業は座席指定で行う。前方での受講を希望する場合は、その旨を申告することで座席の配置を考慮する。

【教科書・参考書など】

教科書：市販の教科書は使用せず、毎回授業時に配布するプリント教材を使用する。
参考書：プリント教材内に授業回ごとの参考文献を示してあるので、そちらを参照のこと。

【成績評価方法】

・提出物の総合評価（50%）と期末試験の結果（50%）を合算して総合成績（100%）を算出する。合格基準は60%である。
・試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	社会福祉			担当者	小堀　哲郎	
英文名	Social Welfare					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CBR102		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

子ども家庭支援を行う専門職として必要な社会福祉の考え方、社会福祉法制度、社会福祉実践について学ぶことを目的とする。
我が国では少子高齢化が加速度的に進み、多様な生活問題のリスクが増えつつある。社会福祉は、すべての人が生きていく上で必ず利用する制度やサービスである。ライフステージに応じた生活問題とその支援について、基本的知識を習得することをねらいとする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
社会福祉の法制度や実施体制の習得について	法制度や実施体制を十分理解し、説明できる	法制度や実施体制を、資料を参照しながら説明できる	社会福祉の法制度や実施体制の理解が不十分で、説明できない
社会福祉の動向と課題の理解と、課題解決に向けた論理的思考について	動向や課題について十分理解し、課題解決に向け、論理的に考えることができる	動向や課題について理解し、課題解決に向け、ある程度論理的に考えることができる	動向や課題の理解が不十分で、課題解決に向け、論理的に考えることができない
子ども家庭支援を行う専門職としての資質と職務遂行に必要な理論・方法の習得について	社会福祉の理論・方法を十分理解し、専門職として的確な説明と意見表明ができる	社会福祉の理論・方法を理解し、専門職として的確に説明できる	社会福祉の理論・方法の理解が、専門職として不十分で、的確に説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　社会福祉の意義、理念、歴史
【　到達目標　】
(1)現代社会における社会福祉の意義、理念を理解する。
(2)社会福祉の歴史的変遷を理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)

第２回　子ども家庭支援と社会福祉（１）少子高齢化社会
【　到達目標　】
(1)少子高齢化の進行をめぐる社会の変容について理解する。
(2)少子高齢化社会における子育て支援に関する今後の課題を理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)

第３回　子ども家庭支援と社会福祉（２）現代の生活問題
【　到達目標　】
(1)子ども家庭をめぐる現代の生活問題とその支援について、多角的に理解する。
(2)日常的に社会福祉の動向と課題を捉え、主体的に考察できる。

【授業時間外学修】
配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)

第４回　社会福祉の制度と実施体系
【　到達目標　】
(1)社会福祉の制度と法体系を理解し、概要を説明できる。
(2)社会福祉行財政、実施機関、社会福祉施設等を理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)

第５回　社会福祉と子ども家庭福祉
【　到達目標　】
(1)社会福祉と子ども家庭福祉の関係性について理解する。
(2)社会福祉と子どもの人権擁護、子ども家庭支援との関係性について理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)

第６回　社会保障・公的扶助
【　到達目標　】
(1)社会保障の概要を理解する。
(2)生活保護制度について理解する。
(3)生活困窮者自立支援制度について理解する。
【授業時間外学修】
配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)

第７回　障害者福祉
【　到達目標　】
(1)インクルージョン、共生社会、合理的配慮等の障害者福祉の理念を理解する。
(2)障害者福祉の制度や実施体系の概要を理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)

第８回　高齢者福祉
【　到達目標　】
(1)高齢者福祉の制度や実施体系の概要を理解する。
(2)介護保険制度について理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)

第９回　母子保健・医療福祉
【　到達目標　】
(1)母子保健施策の概要を理解する。
(2)保育・教育・療育・保健・医療等の連携について理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)

第10回　地域福祉・ボランティア活動
【　到達目標　】
(1)在宅福祉・地域福祉の推進について理解する。
(2)ボランティア活動、NPO活動の役割を理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)

第11回　利用者保護制度
【　到達目標　】
(1)情報提供と第三者評価について理解する。
(2)利用者の権利擁護と苦情解決について理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)

第12回　社会福祉における相談援助
【　到達目標　】
(1)相談援助の意義と原則について理解する。
(2)相談援助の方法と技術について理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)

第13回　社会福祉の専門職
【　到達目標　】
(1)社会福祉の専門職・実践者について理解する。
(2)社会福祉専門職としての保育士について理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)

第14回　これからの社会福祉の課題
【　到達目標　】
(1)在宅福祉・地域福祉の推進について理解する。
(2)社会福祉の今後の課題を理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)

第15回　諸外国の動向
【　到達目標　】
(1)諸外国の社会福祉の動向を理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業は教員による講義形式に加え、アクティブラーニングを導入する。毎回の授業の際に「授業内レポート」等を作成し、評価に算入する。私語その他、他の学生に迷惑となる行為は厳禁。場合によっては退出してもらうこともある。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。適宜、資料等を配布。
参考書等については授業時に紹介する。

【成績評価方法】

各回の授業課題（45%）、期末レポート課題（55%）。

科 目 名	子どもの運動発達			担当者	森田　陽子	
英 文 名	Development of Children's Movement					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CBR103		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

子どもの誕生から就学前までの発育に伴う運動発達を、運動学的な観点から捉えて学習する。子どもの体力低下が問題視されている現在、幼稚園教諭や保育士等にとって必要な子どもの運動に関する知識や、子どもたちが自ら運動発生させられる環境について理解し、実践できるよう学習する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
子どもの運動発達の基礎的事項・理論について	子どもの運動発達の基礎的事項・理論について説明できる。	子どもの運動発達の基礎的事項・理論について授業資料を参照しながら説明できる。	子どもの運動発達の基礎的事項・理論について説明できない。
子どもの運動発達の応用的事項・理論について	子どもの運動発達の応用的事項・理論について説明ができる。	子どもの運動発達の応用的事項・理論について授業資料を参照しながら説明ができる。	子どもの運動発達の応用的事項・理論について説明ができない。
子どもの運動発達の現代的な課題について	子どもの運動発達の現代的な課題について、今後の方向性の理解ができる。	子どもの運動発達の現代的な課題について理解ができる。	子どもの運動発達の現代的な課題について理解ができるない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　近年の子どもたちの状況
【授業時間外学修】
(1)近年の子どもたちの育ちに見る変化と実態を理解する。
(2)乳幼児期とはどのような時期なのかを理解する。

【授業時間外学修】
近年の子どもたちの状況についての学びをレポートする。(4.0hr)

第２回　運動とは何か１（運動能力の低下からみえてくるもの）
【　到達目標　】
運動能力の低下から見えてくる幼児期の運動の在り方や、運動能力検査から見た課題を知り、運動がなぜ幼児に必要かということを理解する。

【授業時間外学修】
運動能力の低下からみえてくるものについて、本時の学びをレポートする。(4.0hr)

第３回　運動とは何か２（運動することで期待できる効果）
【　到達目標　】
運動がなぜ幼児に必要かという観点から、運動することで期待できる効果について理解する。

【授業時間外学修】
運動することで期待できる効果について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)

第４回　遊びと運動１（生活としての運動）
【　到達目標　】
遊びと運動の観点から、生活としての運動とはどういうことを意味するのかを知る。また、子どもの生活と運動との関連について理解する。

【授業時間外学修】
生活としての運動について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)

第５回　遊びと運動２（遊びの中の運動）
【　到達目標　】
遊びと運動の観点から、遊びの中の運動、運動と遊びについて理解する。

【授業時間外学修】
遊びの中の運動について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)

第６回　遊びと運動３（動機づけと運動）
【　到達目標　】
遊びと運動の観点から、動機づけと運動、特に子どもの運動遊びに関連した動機づけについて理解する。

【授業時間外学修】
動機づけと運動について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)

第７回　運動指導のポイント１（運動量を考える）
【　到達目標　】
運動指導のポイントの観点から、子どもの運動量について理解するとともに、生活の見直しという点にも目を向ける。

【授業時間外学修】
運動量について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)

第８回　運動指導のポイント２（運動の質を考える）
【　到達目標　】
運動指導のポイントの観点から、運動の質を考える。運動パターンのバリエーションを考え、運動指導の質を高める。

【授業時間外学修】
運動の質について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)

第９回　運動指導のポイント３（環境を工夫する、安全を考える）
【　到達目標　】
運動指導のポイントの観点から、運動にふさわしい環境、安全についての基本的な考え方を理解する。

【授業時間外学修】
環境の工夫、安全について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)

第10回　運動指導のポイント４（援助の仕方を考える）
【　到達目標　】
運動指導のポイントの観点から、子どもの特性に合った援助の仕方を理解する。

【授業時間外学修】
援助の仕方について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)

第11回　運動指導のポイント５（遊びの変化や発展を考える）
【　到達目標　】
運動指導のポイントの観点から、子どもの遊びの変化や発展を理解する。

【授業時間外学修】
遊びの変化や発展について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)

第12回　運動にかかわる現代的課題１（幼小の連携、家庭との連携）
【　到達目標　】
運動にかかわる現代的課題の観点から、幼小の連携、家庭との連携における課題を理解する。

【授業時間外学修】
幼小の連携、家庭との連携について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)

第13回　運動にかかわる現代的課題２（個人差のある場合の指導）
【　到達目標　】
運動にかかわる現代的課題の観点から、個人差のある場合の指導について理解する。

【授業時間外学修】
個人差のある場合の指導について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)

第14回　運動にかかわる現代的課題３（現代の子どもと運動）
【　到達目標　】
運動にかかわる現代的課題の観点から､現代の子どもについて理解し､いかに運動的なアプローチをかけるかを理解する。

【授業時間外学修】
現代の子どもと運動について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)

第15回　保育士、幼稚園教諭、子どもの運動指導者に必要な今後の方向性の理解
【　到達目標　】
現場における運動指導を事例として挙げる。それについてこれまでの講義で理解したことを基に今後現場で必要とされる子どもの運動発達について考える。そこから保育士、幼稚園教諭、子どもの運動指導者等に必要な方向性を理解する。
【授業時間外学修】
第1回～第15回の学びをレポートする。(4.0hr)

【学修上の留意点】

保育現場において、子どもの体力不足に対応できる指導力を身につけた幼稚園教諭や保育士等が求められている。幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力等を培うことができるよう学習する。
授業時間外の学習に積極的に取り組むこと。毎回の授業を自筆のノートにまとめ、理解に繋げること。

【教科書・参考書など】

・「0歳児から5歳児　運動あそび12ヶ月」小学館（2022年）
・『幼稚園教育要領』(最新版）文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版）内閣府文部科学省厚生労働省、『保育所保育指針』(最新版）厚生労働省

【成績評価方法】

授業の習熟度・理解度・課題提出50%、最終試験50%。

科目名	保育原理			担当者	百瀬　ユカリ	
英文名	Principle of Child Care					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CBR104		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

保育の意義及び保育の基本、子ども観の変遷や保育の思想の歴史的経緯と、保育所・幼稚園・認定こども園の成立の経緯や保育制度について理解している。また、子どもの最善の利益や子どもの権利保障、発達保障など保育の理念や保育の意義について、現代の子どもや子育てにかかわる課題を踏まえ説明できる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保育の意義、保育の基本(保育の原理)について	保育の意義、保育の基本、保育の原理について具体的に説明できる。	保育の意義、保育の基本、保育の原理について教科書等を参照しながら説明できる。	保育の意義、保育の基本、保育の原理について理解していない。
保育の思想と歴史的変遷を学び、保育観・子ども観について	保育の思想及び歴史的変遷と保育観・子ども観について総合的に説明できる。	保育の思想及び歴史的変遷と保育観・子ども観について基本的な事項を説明できる。	保育の思想及び歴史的変遷と保育観・子ども観について基本的な事項を説明できない。
現代社会の保育の意義と課題について	保育制度成立の経緯について理解し、保育の現状、今日的課題を総合的に説明できる。	保育制度成立の経緯について理解し、保育の現状、今日的課題の基本的な事項を説明できる。	保育の現状、今日的課題を理解していない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　はじめに：「保育原理」のオリエンテーション
【　到達目標　】
「保育」の意味を考え、「保育原理」で学ぶ全体像を理解している。
【授業時間外学修】
テキストの「はじめに」と「目次」を読み、保育原理の全体像を掴む。(4.0hr)

第２回　「保育」の意味を考える１
【　到達目標　】
児童福祉法、児童憲章を視点として保育の意味を理解している。
【授業時間外学修】
テキストの児童福祉法、児童憲章を読み、保育の意味を考える。(4.0hr)

第３回　「保育」の意味を考える２
【　到達目標　】
保育士の専門性とその修得に必要な学びについて理解している。
【授業時間外学修】
保育士に必要な専門性について確認する。(4.0hr)

第４回　保育の場について知る１　―家庭について―
【　到達目標　】
家庭における保育について、子育てをめぐる社会の変化を通して理解している。
【授業時間外学修】子育てをめぐる社会の変化について資料を読み、家庭における保育の社会背景を考える。(4.0hr)

第５回　保育の場について知る２　―保育所について―
【　到達目標　】
保育所保育についての意義及び目的を理解している。
【授業時間外学修】
保育所保育指針の保育所の役割を読み、改めて保育士の役割を考える。(4.0hr)

第６回　保育の場について知る３　―幼稚園・認定こども園について―
【　到達目標　】
幼稚園、認定こども園について、保育の意義及び目的を理解している。
【授業時間外学修】
幼稚園の現状、認定こども園の現状を調べ、最近の傾向を知る。(4.0hr)

第７回　西洋の保育の思想・歴史を学ぶ
【　到達目標　】
西洋における近代保育思想・歴史について理解している。
【授業時間外学修】
コメニウス・ルソー・フレーベル・ペスタロッチの保育思想を調べて確認する。(4.0hr)

第８回　日本の保育の思想・歴史を学ぶ
【　到達目標　】
日本における保育思想・歴史について理解している。
【授業時間外学修】
倉橋惣三の保育思想を調べて確認する。(4.0hr)

第９回　保育をどのように考え、進めるべきか
【　到達目標　】
保育所保育指針に学ぶ保育原理の考え方を理解している。
【授業時間外学修】保育所保育指針の保育所保育の特性日本の保育施設が誕生する頃の時代背景を調べる。(4.0hr)

第10回　保育所保育の内容
【　到達目標　】
「保育内容」の構造とポイントを知り、「養護」と「教育」の一体化について理解している。
【授業時間外学修】
保育所保育指針を読み、保育内容への理解を深める。(4.0hr)

第11回　保育の計画と保育の質の向上
【　到達目標　】
保育の計画の意義と保育の循環について理解している。
【授業時間外学修】
保育の計画について、どのような計画があるのかを調べる。(4.0hr)

第12回　多様化する保育ニーズ
【　到達目標　】
多様化する保育形態、保育ニーズについて理解している。
【授業時間外学修】
多様化する保育ニーズについて調べる。(4.0hr)

第13回　保育者に求められる子育て支援
【　到達目標　】
子育て支援の必要性とその実際を理解している。
【授業時間外学修】
地域子ども・子育て支援事業について調べ、概要について確認する。(4.0hr)

第14回　保育者のあり方を考える
【　到達目標　】
社会状況の変化からみた保育者の存在について理解している。
【授業時間外学修】
自分の関心のある保育の時事問題について調べ、考えをもつ。(4.0hr)

第15回　保育の現状と課題
【　到達目標　】
今後の保育の課題について、国内外の現状に目を向け、社会的背景をもとに説明できる。
【授業時間外学修】
これまでに学んだ内容を整理し、再確認する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

教科書を中心に、必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら進める。毎時間配布する小レポートを作成し、復習に役立て、理解度の確認をすること。小レポートの内容は、次回の授業時にフィードバックを行う。保育原理は保育に関する基盤となる科目であり、自ら保育の全体像を描く努力をしてほしい。なお、理解度確認のため、授業内試験を行う。

【実務経験のある教員による授業科目】

保育現場での実務経験のある教員が、さまざまな保育の場における保育の実態や、我が国における保育の現状と課題、保育思想と歴史、保育の意義や社会的役割について講義を行う。

【教科書・参考書など】

教科書：『新・保育原理[第４版]－すばらしき保育の世界へ－』三宅茂夫編（株式会社みらい）
参考書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領／幼稚園教育要領／保育所保育指針』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）
その他適宜参考資料を提示、配布する。

【成績評価方法】

授業内の小レポート及び課題提出により50%､理解度確認のための試験結果を50%として総合的に評価する。

科目名	スポーツ運動学			担当者	森井　大樹	
英文名	Sport Movement Theory					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CBR105		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

スポーツ運動学の基礎的理論・事項及び研究知見について理解し、実戦場面（自らの運動経験）と絡めて説明できる。これらを踏まえて、スポーツ運動学の実践への応用について自らの運動経験と照合でき、実戦場面を想定して説明できる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スポーツ運動学の基礎的理論・事項について	理論を理解し、実践場面を想定して説明が可能	理論を教科書等の参照により、説明が可能	理解が不十分で、説明が不可能
スポーツ運動学の研究知見について	研究知見を利用し、実践場面を想定して説明が可能	研究知見に関わる資料等を利用して、説明が可能	研究知見の理解が不十分で、説明は不可能
スポーツ運動学の実践への応用について	理論・研究知見を踏まえて運動経験との照合ができ、実践場面を想定して説明が可能	理論・研究知見を踏まえて運動経験との照合しての説明が可能	理論・研究知見への理解が不十分で、説明が不可能

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　スポーツ運動学とはどんな学問か
【　到達目標　】
科学の学問的特徴を理解する。
スポーツ運動学の学問的特徴を理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第２回　スポーツ種目の分類
【　到達目標　】
スポーツ種目は勝敗の決定方式によって三つの競技領域に分類できることを理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第３回　運動技能の構造
【　到達目標　】
運動技能を構成する要因である「技術」「戦術」「体力」の関係について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第４回　運動における意識の特徴
【　到達目標　】
潜在意識の概念について理解する。
運動習熟のメカニズムについて理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第５回　運動学における「コツ」と「カン」
【　到達目標　】
運動学的な「コツ」と「カン」の概念について理解する。
コツとカンの関係性について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第６回　動感の言語化
【　到達目標　】
運動における「できる」と「わかる」を運動学的に理解する。
運動構造の認識について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第７回　運動構造の運動学的認識①局面構造について
【　到達目標　】
運動形式（循環性運動、非循環性運動、運動組み合わせ）について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第８回　運動構造の運動学的認識②運動リズムについて
【　到達目標　】
運動学における運動リズムの概念について理解する。
運動のリズム化を促す要因（分節化，アクセント，時間の長短）について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第９回　運動構造の運動学的認識③動きの系統生について
【　到達目標　】
運動発生の順序性について理解する。
動きの類縁性について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第10回　運動の発生と習熟位相
【　到達目標　】
運動学習の位相論について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第11回　運動技能の上達過程
【　到達目標　】
コツを掴む過程について理解する。
運動の意味付けについて理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第12回　運動における空間の捉え方
【　到達目標　】
客観的事実と人間の感覚の特徴について理解する。
運動学における空間の概念について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第13回　運動における時間の捉え方
【　到達目標　】
客観的な時間について理解する。
運動学的な時間感覚について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第14回　できれば教えられるのか
【　到達目標　】
運動を覚える能力と教える能力の関係性について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第15回　運動を指導する能力
【　到達目標　】
運動指導に必要な能力（観察・交信・代行・処方）について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

【学修上の留意点】

スポーツ運動学における発生論、構造論、伝承論の領域を相互関連的に理解する必要があり、パワーポイント画面を写すだけでは表層的な理解に留まる恐れがある。自らメモをとるとともに、自己のスポーツやダンスの経験と照らし合わせながら理解することが最も重要である。また、書く力、表現する力といった総合的な能力を陶冶することが求められる。毎回の小レポートの記述を求める。さらに、スポーツ運動学では、一つの正解を覚える、または、一つの正解しかないという発想を捨てることが求められる。

【教科書・参考書など】

教科書：配布プリント
参考書：「マイネル　スポーツ運動学」Ｋ．マイネル著、金子明友訳（大修館書店）
「教師のための運動学」金子明友・監修　吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）
「スポーツ運動学序説」朝岡正雄・著（不昧堂出版）、「スポーツ運動学」金子明友・著（明和出版）

【成績評価方法】

小レポート２０％　最終レポートもしくは試験８０％
試験の場合は、試験期間中に別途実施する。

科 目 名	水泳			担当者	森田　陽子	
英 文 名	Swimming					
単 位 数	1	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別				専門基礎・必修
授業形態	実技	科目ナンバー	CBR106		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

幼児教育や生涯体育の基礎となる種目に取り組む.水泳に関する基礎知識を理解し、正しい泳法を習得する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
水泳の基礎的事項・理論	基礎的事項・理論について説明ができる。	基礎的事項・理論について授業資料を参照しながら説明できる。	基礎的事項・理論についての理解が不十分で説明できない。
水泳の基礎的事項・実技	基礎実技を体得し、模範的な実践ができる。	基礎実技を体得し、実践ができる。	基礎実技の体得が不十分で実践ができない。
水泳の基礎的事項等の理解とその応用（指導）	基礎的事項（理論・実技）に基づき年齢に応じた関わりができる。	基礎的事項（理論・実技）に基づいた関わりができる。	基礎的事項（理論・実技）に基づいた関わりができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
(1)授業の進め方を理解する。
(2)各泳法を映像で確認する。

【授業時間外学修】
水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)

第２回　幼稚園・保育園における水あそびの現状
【　到達目標　】
(1)保育現場の水あそび事情を知る。

【授業時間外学修】
水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)

第３回　水と事故・入水に当たっての諸注意
【　到達目標　】
(1)子どもと水の事故について知る。
(2)着衣泳を体験する。

【授業時間外学修】
水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)

第４回　浮きやすい姿勢を意識して泳ぐ
【　到達目標　】
(1)浮きやすい姿勢を体得する。

【授業時間外学修】
水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)

第５回　進みやすい姿勢を意識して泳ぐ
【　到達目標　】
(1)進みやすい姿勢を体得する。

【授業時間外学修】
水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)

第６回　水を押す方向を意識して泳ぐ
【　到達目標　】
(1)水を押す方向を意識して泳ぐ。

【授業時間外学修】
水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)

第７回　補助用具を使用して泳ぐ
【　到達目標　】
(1)手や足に補助用具をつけて泳ぎ、正しい技術の習得をする。

【授業時間外学修】
水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)

第８回　苦手な泳ぎを撮影し自分の泳ぎを確認する
【　到達目標　】
(1)撮影した映像を見て各自の泳ぎを修正する。

【授業時間外学修】
水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)

第９回　よりスムースな基本泳法の習得
【　到達目標　】
(1)正しいフォームをマスターする。
(2)苦手な泳法に取り組む。

【授業時間外学修】
水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)

第10回　リズム水泳
【　到達目標　】
(1)音楽にあわせて水の中で体を動かすことを楽しむ。

【授業時間外学修】
水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)

第11回　着衣泳
【　到達目標　】
(1)着衣泳を体験し、安全教育について理解する。

【授業時間外学修】
水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)

第12回　幼稚園・保育園における水遊びの実際①
【　到達目標　】
(1) 子どもへの水遊びの指導の実際を知る。
＊附属幼稚園の子どもたちとの水遊び

【授業時間外学修】
水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)

第13回　幼稚園・保育園における水遊びの実際②
【　到達目標　】
(1) 子どもへの水遊びの指導の実際を知る。
＊附属幼稚園の子どもたちとの水遊び

【授業時間外学修】
水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)

第14回　幼稚園・保育園における水遊びの実際③
【　到達目標　】
(1) 子どもへの水遊びの指導の実際を知る。
＊附属幼稚園の子どもたちとの水遊び

【授業時間外学修】
水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)

第15回 手作りの水遊びの遊具
【　到達目標　】
(1)身近にあるものを使って、手作りの水遊びの遊具を作成する。
(2)子どもたちの年齢に合った手作りの水遊びの遊具を作成することを心がける。

【授業時間外学修】
子どもたちと手作り遊具を使った水遊びを楽しむ(1.0hr)

【学修上の留意点】

それぞれの泳法（自由形・平泳ぎ・背泳ぎ）の技術を習得すること。それぞれの特性に合わせた体の使い方を理解すること。怪我や事故のないように、自己の体調管理には十分気をつけて授業に臨むこと。

【教科書・参考書など】

授業の中で、随時紹介する。

【成績評価方法】

各種目の習熟度40%、実技テスト（自由形・平泳ぎ・背泳ぎ各25m）60%。

科 目 名	体操			担当者	木皿　久美子	
英 文 名	Gymnastics					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・必修
授業形態	実技	科目ナンバー	CBR107		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

手軽に行うことのできる色々な運動や律動的な運動の実践を通して、自分の体を知り、自分の体の状態に応じて体の調子を整えたり、運動の実践を通して仲間と積極的に交流ができるようにする。また、運動に自主的に取り組むとともに、体力の違いに配慮しようとすること、健康・安全を確保することができるようにすることを目的とする。自分自身はもちろん、幼児にとっての運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、それぞれ個々の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
体操の基礎的な動きの習得について	見本となるデモンストレーションができる。	体操の基礎的な動きを習得することができる。	体操の基礎的な動きを習得することができない。
体操の基礎的な知識について	理解し自ら説明できる。	資料等を参照しながら説明することができる。	理解が不十分で説明できない。
幼児の体操の意義について	幼児を想定して、運動プログラムを構成することができる。	幼児の体の構造や発達のレベルに応じた動きが想定できる。	幼児の体の構造や発達のレベルに応じた動きが想定できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーションと体気づき、体ほぐし
【　到達目標　】
体操のねらい、学習の方法、授業の進め方について理解する。

【授業時間外学修】
からだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。(1.0hr)

第２回　ストレッチ体操：アライメントチェックとストレッチの基本
【　到達目標　】
体の歪みをチェックし、日常生活で体を歪める原因となる姿勢や行動について考える。

【授業時間外学修】学習したストレッチ体操や徒手体操を日常生活に取り入れ、自身のからだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。(1.0hr)

第３回　ストレッチ体操：2人組のストレッチ体操
【　到達目標　】
自分と相手の体と心に気づき、調整しながら運動が行える。

【授業時間外学修】学習したストレッチ体操や徒手体操を日常生活に取り入れ、自身のからだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。(1.0hr)

第４回　ストレッチ体操：音楽に合わせたストレッチ体操
【　到達目標　】
音楽に合わせた一連のストレッチ運動を覚えて実施する。

【授業時間外学修】学習したストレッチ体操や徒手体操を日常生活に取り入れ、自身のからだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。(1.0hr)

第５回　手具体操（ボール）の特性について
【　到達目標　】
ボールの特性を活かした運動を実践できる。
ボールの動きと巧みさの関係を理解する。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第６回　手具体操（ボール）とトレーニング体操
【　到達目標　】
ボールの特性を活かした運動を実践できる。
2人組やグループになり、他者に応じたボールコントロールを体験する。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第７回　手具体操（長縄とび）の特性について
【　到達目標　】
長縄跳びの特性を考え、実践できる。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第８回　手具体操（長縄とび）の発展と方法
【　到達目標　】
長縄跳びの特性と効果について理解し、正しく実践できる。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第９回　手具体操（短縄とび）の効果について
【　到達目標　】
タイミングの良い運動と発展させた運動が実践できる。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第10回　手具体操（短縄とび）の効果について
【　到達目標　】
短縄跳びの特性と効果について理解し、正しく実践できる。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第11回　手具体操（フープ）の特性について
【　到達目標　】
フープの特性を活かした運動を実践できる。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第12回　手具体操（フープ）の発展と方法
【　到達目標　】
グループになり、フープを操作する面白さを体感する。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第13回　リズム体操：実技課題の実践①（リズム体操の構成）
【　到達目標　】
音楽のリズムと動きのリズムを調和させながら、フレーズの動きを実践できる。
様々なステップを実践することで、動きのリズムを習得する。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第14回　リズム体操：実技課題の実践②（リズム体操の発展）
【　到達目標　】
これまで習得した動きの修正を行い、更にスムーズな一連の動きになるよう実践を重ねる。
一連の動きを自然な動きで実践できる。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第15回　体操の課題発表
【　到達目標　】
これまで習得した良い動きを、のびのびとした動作で発表できる。
他者の動きを観察し、自己の参考にする。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

【学修上の留意点】

二人組や数人のグループで行う内容が多いので、互いに不快感を与えないような服装や身だしなみ、態度を大切にしてほしい。自分の「からだ」について理解を深め、ひとの動き方などを参考にして、できない動きや不慣れな動きのコツを習得できるよう工夫し、良い動き方を身に付けられるよう努める。

毎時間授業内容に関する復習課題を提示し、学期末には実技テストを行い、理解度の確認を行う。課題の内容は、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

実技試験70%、レポート30%

科 目 名	スポーツ生理学			担当者	大澤　拓也	
英 文 名	Sport Physiology					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門基礎・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CBR108		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

スポーツ生理学は、ヒトが身体運動をした際の生理的反応や習慣的運動による適応のメカニズムを探究する学問である。本講義では、日常生活における一般的な身体活動やスポーツ活動に伴う生理的反応および適応の仕組みに関する知識を学ぶ。また、この講義を通してスポーツや健康に関連する領域の基盤となる「動くからだ」への興味および関心を高めて、生理学的な視点に立った探究心を深める。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
安静時における人体生理学に関する基礎事項について	安静時の生理的諸機能を理解し自らまとめて説明できる。	安静時の生理的諸機能を教科書を参照しながら説明できる。	安静時の生理的諸機能の理解が不十分で説明できない。
一過性の運動に対する生理的反応について	運動時にみられる生理機能を理解し自らまとめて説明できる。	運動時にみられる生理機能を教科書を参照しながら説明できる。	運動時にみられる生理機能の理解が不十分で説明できない。
習慣的身体活動や運動トレーニングに伴う生理的反応について	運動継続に伴う生理機能の変化を理解し自らまとめて説明できる。	運動継続に伴う生理機能の変化を教科書を参照しながら説明できる。	運動継続に伴う生理機能の変化の理解が不十分で説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション・概論
【　到達目標　】
講義の進め方、スポーツ生理学とはどんなことかを理解する。

【授業時間外学修】
関連する講義（生理・生化学入門など）の復習を行う。

第２回　スポーツと骨格筋・神経
【　到達目標　】
骨格筋の構造、筋収縮の仕組み、筋線維タイプを理解する。
「筋収縮がどのように行われているか」を説明できるようになる。

【授業時間外学修】
教科書第１章を中心に予習・復習を行う。(4.0h)

第３回　スポーツとエネルギー供給機構
【　到達目標　】
３つのエネルギー供給機構、運動による変化を理解する。
「どのようにATPが作られるか」を説明できるようになる。

【授業時間外学修】
教科書第２章を中心に予習・復習を行う。(4.0h)

第４回　スポーツと呼吸
【　到達目標　】
最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値、呼吸交換比を理解する。
「運動するとどのように呼吸が変化するか」を説明できるようになる。

【授業時間外学修】
教科書第３章を中心に予習・復習を行う。(4.0h)

第５回　スポーツと循環（1）
【　到達目標　】
心臓や血管の構造と機能、運動時の変化を理解する。
「どのように血液は全身をめぐるか」を説明できるようになる。

【授業時間外学修】
教科書第４章を中心に予習・復習を行う。(4.0h)

第６回　スポーツと循環（2）
【　到達目標　】
血圧、血流再配分、トレーニングによる循環指標の変化を理解する。
「どのようにすれば心拍数をトレーニングに利用できるか」を説明できるようになる。

【授業時間外学修】
教科書第４章を中心に予習・復習を行う。(4.0h)

第７回　スポーツと代謝
【　到達目標　】
吸収期と空腹期の糖質・脂質・タンパク質代謝を理解する。
「食事をしても絶食でもなぜ血糖値は維持されるか」を説明できるようになる。

【授業時間外学修】
教科書第５章を中心に予習・復習を行う。(4.0h)

第８回　スポーツと内分泌・ストレス
【　到達目標　】
運動や食事、ストレスによるホルモンの変化を理解する。
「有酸素運動と筋トレをどのように組み合わせるとよいか」を説明できるようになる。

【授業時間外学修】
教科書第１～５章を中心に予習・復習を行う。(4.0h)

第９回　スポーツと脳機能
【　到達目標　】
脳の構造と機能、および運動による変化を理解する。
「なぜ運動は脳によいと言われるか」を説明できるようになる。

【授業時間外学修】
教科書第７章を中心に予習・復習を行う。(4.0h)

第10回　スポーツと遺伝子
【　到達目標　】
遺伝子が運動能力の個人差に及ぼす影響を理解する。
「なぜ私はこの種目が得意か」を説明できるようになる。

【授業時間外学修】
教科書第８章を中心に予習・復習を行う。(4.0h)

第11回　スポーツと内分泌・ストレス
【　到達目標　】
エネルギーバランス、５大栄養素の特徴を理解する。
「からだを作るために何を意識するとよいか」を説明できるようになる。

【授業時間外学修】
教科書第９章を中心に予習・復習を行う。(4.0h)

第12回　スポーツと体組成、発育発達
【　到達目標　】
体脂肪率・骨格筋量の測定、意義、応用を理解する。
発育発達期の運動機能とトレーナビリティを理解する。
「測定法を変えるとなぜ体脂肪率は変わるのか」を説明できるようになる。
【授業時間外学修】
教科書第１０・１１章を中心に予習・復習を行う。(4.0h)

第13回　スポーツと発育発達
【　到達目標　】
体温調節の仕組み、運動による変化を理解する。
「寒いときなぜふるえるのか」を説明できるようになる。

【授業時間外学修】
教科書第１２章を中心に予習・復習を行う。(4.0h)

第14回　スポーツと体温調節
【　到達目標　】
体温調節の仕組み、運動による変化を理解する。
「夏の熱中症予防に何が効果的か」を説明できるようになる。

【授業時間外学修】
教科書第１３－１４章を中心に予習・復習を行う。(4.0h)

第15回　スポーツと身体不活動
【　到達目標　】
運動不足や宇宙滞在による身体の変化を理解する。
「なぜ宇宙でトレーニングをするか」を説明できるようになる。

【授業時間外学修】
教科書第１５章を中心に予習・復習を行う。(4.0h)

【学修上の留意点】

・講義は下記の教科書を用いるので必ず準備すること。
・前期に開講する「生理・生化学入門」を受講していることが望ましい。未受講者は書籍や動画等を用いて予習を十分に行うこと。
・内容は広範囲であり、難易度も高い。講義中は話している内容も含めてノートを取ること、復習を行うことが大切である。

【教科書・参考書など】

・必須テキスト：はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ３　スポーツ生理学　富樫健二編著、化学同人

【成績評価方法】

・講義各回での発言・小テスト・小レポートを15%、筆記試験の結果を85%として総合的に評価する。

科 目 名	スポーツ心理学			担当者	佐々木　万丈	
英 文 名	Sport Psychology					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門基礎・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CBR109		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

スポーツ心理学に関連する理論や研究知見および最新の研究成果に関わる基礎的事項を理解し説明できる。また、スポーツ競技者やダンサーとその指導者、健康運動活動に取り組む人々とその指導実践担当者、さらに、幼児を対象に運動あそび等を通じて発達を支援する保育者として、学修したスポーツ心理学の知見を有効に活用することができる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スポーツ心理学の基礎的事項・理論について	理論を理解し自らまとめて説明できる。	理論を教科書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。
スポーツ心理学の研究知見の活用に関する事項	知見の活用を具体的に提案できる。	知見の活用法を理解しており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　スポーツ心理学概説
【　到達目標　】
(1)スポーツ心理学の定義を理解し、説明することができる。
【授業時間外学修】

【授業時間外学修】
復習課題（授業のまとめ）と予習課題（不安の役割を調べる）に取り組む。(4.0hr)

第２回　スポーツと不安
【　到達目標　】
(1)不安には状態不安と特性不安が仮説的に定義されていることを理解し、説明できる。
(2)逆U字理論を理解し説明できる。
(3)不安と覚醒水準の関係を理解し、競技場面の緊張の調整に対する活用法を説明できる。
【授業時間外学修】
復習（授業のまとめ）と予習（ストレスの解説を読み自分の経験を整理）に取り組む。(4.0hr)

第３回　スポーツとストレス
【　到達目標　】
(1)スポーツ選手の認知や行動の問題の理解と改善に、心理学的ストレス研究がどのように貢献できるのかを説明できる。
(2)競技場面のストレス状況を解消するための認知的評価と対処行動の活用法を説明できる。
【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（動機づけの解説を読みその定義を考える）に取り組む。(4.0hr)

第４回　スポーツと動機づけ（１）
【　到達目標　】
(1)動機づけ、欲求、誘因について理解し、説明できる。
(2)内発的動機づけおよび外発的動機づけを理解し、それぞれの理論的背景を説明できる。
(3)自己決定理論を理解し、スポーツ活動を適正に実施するための活用法を説明できる。
【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（資料を読みやる気を高める方法を考える）に取り組む。(4.0hr)

第５回　スポーツと動機づけ（２）
【　到達目標　】
(1)期待価値理論、原因帰属理論、社会的学習理論、達成目標理論をそれぞれ理解し、説明することができる。
(2)動機づけの諸理論を活用したスポーツ場面のやる気を高める方法について説明できる。
【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（運動技能の分類について整理する）に取り組む。(4.0hr)

第６回　スポーツと運動学習
【　到達目標　】
(1)運動学習における運動技能と認知技能について理解し、説明することができる。
(2)練習方法の種類について理解し、練習内容・手順について具体的に提案できる。

【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（ガイダンス仮説､文脈干渉効果などを調べる）に取り組む。(4.0hr)

第７回　運動学習とフィードバック
【　到達目標　】
(1)練習の違い（ブロックとランダム）、文脈干渉効果、ガイダンス仮説を説明できる。
(2)フィードバックの種類と方法を理解し、説明できる。
(3)運動学習の理論的背景に基づいた効果的な練習法を考案し説明することができる。
【授業時間外学修】
復習(授業まとめ)と予習(自分の心理的競技能力のレベルを測定する)に取り組む。(4.0hr)

第８回　スポーツと心理的競技能力
【　到達目標　】
(1)スポーツ選手に必要な心理的要素について理解し、説明できる。
(2)自らの心理的競技能力を把握し、向上のための方法を具体的に提案できる。

【学修上の留意点】
復習（授業まとめ）と予習（自らを振り返りケガの要因をまとめる）に取り組む。(4.0hr)

第９回　スポーツ傷害・障害と選手の心理
【　到達目標　】
(1)スポーツ選手の傷害・障害発生を心理学的に理解し、説明することができる。
(2)ストレス理論を用いたスポーツ傷害・障害の予防及び対処の方法を説明できる。
(3)リハビリテーションの心理的留意事項を理解し、効果的な取り組みの方法を説明できる。
【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（バーンアウト、学習性無力感について調べる）に取り組む。(4.0hr)

第10回　スポーツとバーンアウト
【　到達目標　】
(1)スポーツ選手のバーンアウトや体育学習者の学修性無力感の発症機序を説明できる。
(2)バーンアウトや学習性無力感に陥らないための対処法を、具体的に提案できる。

【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（配布資料を読んで自分の引退後を考える）に取り組む。(4.0hr)

第11回　スポーツとキャリアトランジション
【　到達目標　】
(1)スポーツ選手の競技引退に関わる問題や課題を理解し、説明することができる。
(2)部活動引退後の自らのキャリア形成に関する展望を具体的に立案し提示できる。

【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（ライフスキルの定義を調べ、内容を整理する）に取り組む。(4.0hr)

第12回　スポーツとライフスキル
【　到達目標　】
(1)スポーツ活動により獲得される心理社会的スキルの内容を説明できる。
(2)心理社会的スキルがライフスキルに般化することを理解し、その影響要因を説明できる。
(3)ライフスキルの形成に寄与するスポーツ活動の在り方を理解し、指導法を提案できる。
【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（LGBTを告白したスポーツ選手を調べる）に取り組む。(4.0hr)

第13回　スポーツとジェンダー
【　到達目標　】
(1)ジェンダーの概念、LGBTQなどの基本的事項を理解し、説明できる。
(2)スポーツ活動場面のジェンダー問題や課題を具体的に説明できる。
(3)スポーツ活動に関わるジェンダー問題の課題解決について自らの考えを表明できる。
【授業時間外学修】復習（授業まとめ）と予習（神経性やせ症、神経性過食症、過食性障害について調べる）に取り組む。(4.0hr)

第14回　スポーツと摂食障害
【　到達目標　】
(1)摂食障害の一般的な症状について理解し、説明することができる。
(2)国内外のスポーツ選手の摂食障害の実態とその原因を理解し、説明できる。
(3)スポーツ競技者の摂食障害を防ぐための認知・行動的留意事項を提案できる。
【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（平均が頻繁に使用される理由を考える）に取り組む。(4.0hr)

第15回　スポーツ心理学研究法
【　到達目標　】
(1)心理学研究法（質問紙法、面接法、事例研究法）の違いを理解し、説明できる。
(2)量的研究で用いられる統計分析法の種類を理解し、使用目的を説明することができる。
(3)度数分布、平均、標準偏差を求め、標本の特徴をまとめ、説明することができる。
【授業時間外学修】
本時の復習課題に取り組むと共に、改めて全体をノートに基づき振り返る。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者は、指摘された重要事項を整理しながら記録すると共に、集中してメモを取り、運動やスポーツの実践あるいはその指導に役立つオリジナルのノートの作成を目指さなければならない。また、毎時間、その時間の内容に関する復習課題と次時の内容に関する予習課題を提示する。特に、復習課題では、授業で説明された理論や心理学的知見を、スポーツの活動や指導の実践場面で具体的にどのように活用するのか、自らの考えをまとめ説明することが課題となる。したがって、授業以外の時間を有効に使い、学修事項の理解を深め、知識としての定着を図る努力が必要である。復習課題に対する回答には、評価とコメントを付しフィードバックするので、受講者は内容を確認の上、以降の自らの学修の参考にしなければならない。

【教科書・参考書など】

教科書として「基礎から学ぶスポーツの心理学」（著者：佐々木万丈、出版社：勁草書房）を使用する。また、 適宜、参考資料を配付する。

【成績評価方法】

各授業回の予習課題と復習課題は提出が必須であり、毎回評価する。さらに期末試験を実施する。15回分の予習課題に対する評価、15回分の復習課題に対する評価、および期末試験の得点を総合して成績処理（S・A・B・C・D）を行う。なお、期末試験は100点満点で実施し60点に満たない場合は、予習課題と復習課題の評価を合わせても合格にはならないこととする。

科 目 名	身体表現			担当者	渡邊　孝枝	
英 文 名	Body Expression					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門基礎・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CBR201		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

子どもの身体表現の意義と発達の様子を理解し、発達段階に即した身体表現の指導と援助の方法を習得する。また、動きの特性を理解し、動きを読み取る力と自分自身の表現力を高め、動きによるコミュニケーションの技能を高めることを目的に、手遊びやリズムダンス、創造的な身体表現などを構成して発表を行い、自己・相互評価を展開する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
子どもの身体表現の意義について	理論を理解し自らまとめて説明できる。	教科書等を参考にしながら理論を説明できる。	理解が不十分で説明できない。
子どもの身体表現の指導と援助について	子どもの実際と発達に対し最適な指導と援助の計画・実践・評価ができる。	子どもの実際と発達を踏まえた指導と援助の計画・実践・評価ができる。□	子どもの身体表現の指導・援助について計画・実践・評価ができない。
動きを読み取る力および表現力について	より良く表現するための動きの探究および仲間との協働に積極的に取り組むことができる。	より良く表現するための動きの探究と仲間との協働ができる。	より良く表現するための動きの探究と仲間との協働ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
(1)授業の進め方、評価の方法を理解する。
(2)身体表現のねらいについて理解する。

【授業時間外学修】
授業への取り組みの心構えをつくる。(4.0hr)

第２回　からだで遊ぼう①音楽に合わせて動く
【　到達目標　】
(1)からだを使った遊びで（道具を使わない）、楽しく実技をする。
(2)リズムに乗ってからだを解放し、身体を自由に動かす。

【授業時間外学修】
子どもたちがリズムに乗って身体を動かし、表現することが育むことを考える。(4.0hr)

第３回　からだで遊ぼう②真似っこダンス
【　到達目標　】
(1)模倣しあうことを体験し、動きを通してコミュニケーションを促進することを学ぶ。

【授業時間外学修】
模倣することが持つ意味や発達について調べる。(4.0hr)

第４回　題材を工夫する①新聞紙で遊ぼう！
【　到達目標　】
(1)日常で使う身近な物を使い、自由な発想を引き出す。
(2)出てきた発想から様々な動きを創作する。

【授業時間外学修】
身近なもので、どんな身体表現ができるか考える。(4.0hr)

第５回　題材を工夫する②子どもの時に親しんだ遊びを工夫する
【　到達目標　】
(1)幼い頃に親しんだ遊びを題材に、イメージや動きを広げる。

【授業時間外学修】
幼い頃に親しんだ遊びをどんな身体表現として展開できるか考える。(4.0hr)

第６回　変身を楽しむ①動物ごっこ
【　到達目標　】
(1)動物に変身し、表現することを楽しむ。
(2)音楽に合わせて、即興的に動物になりきって表現する。

【授業時間外学修】
子どもが変身を楽しむ事例等を調べて、変身の持つ意味を考える。(4.0hr)

第７回　変身を楽しむ②忍者ごっこ
【　到達目標　】
(1)忍者に変身し、表現することを楽しむ。
(2)他者と共同し、イメージを共有して動きを生み出す。（忍者の術を考案する）□

【授業時間外学修】
洗濯の様子を観察し、記述する。(4.0hr)

第８回　身体表現活動①洗濯しよう
【　到達目標　】
(1)音楽に合わせたイメージや動きを、グループで工夫する。
(2)音楽に合わせた動きをグループで工夫し、発表する。

【授業時間外学修】
風船や紙飛行機のイメージにふさわしい音楽について構想する。(4.0hr)

第９回　身体表現活動②風船と紙飛行機
【　到達目標　】
(1)音楽に合わせたイメージや動きを、グループで工夫する。
(2)音楽に合わせた動きをグループで工夫し、発表する。

【授業時間外学修】
宇宙について調べる。(4.0hr)

第10回　身体表現活動③宇宙旅行①
【　到達目標　】
(1)他の表現手法を用いてイメージを膨らませる。
(2)音楽に合わせた動きをグループで工夫する。

【授業時間外学修】
発表時のシミュレーションをする。(4.0hr)

第11回　身体表現活動④宇宙旅行②発表
【　到達目標　】
(1)音楽に合わせた動きをグループで工夫し、発表する。

【授業時間外学修】
発表して感じたこと、また他者の発表を見て感じたことをまとめる。(4.0hr)

第12回　模擬保育の計画
【　到達目標　】
(1)身体表現活動の方法と発達に応じた計画・援助について理解する。
(2)題材に合わせた指導をグループで計画する。

【授業時間外学修】
模擬保育の指導案の作成及び模擬保育のシミュレーションをする。(4.0hr)

第13回　模擬保育の実施
【　到達目標　】
(1)指導案をもとに、模擬保育を実施できる。
(2)先生役、子ども役（年長児）として参加することで、身体表現活動実践時の課題を見つける。

【授業時間外学修】
先生役として模擬保育を実践し、子ども役として模擬保育に参加したことの気づきをまとめる(4.0hr)

第14回　子どもの身体表現を考える一本授業の振り返り一
【　到達目標　】
(1)身体表現と、身体表現活動の関係を理解する。
(2)身体表現活動時の実践的な課題とその解決に向けた検討ができる。

【授業時間外学修】
教科書及び参考図書を読み、考えたことをまとめる。(4.0hr)

第15回　子どもの身体表現を支え、育むことについて
【　到達目標　】
(1)子どもを中心に据えた身体表現について、実際の映像を見て考える。
(2)遊びや生活における子どもの身体表現を見つめ、その環境や援助について考える。

【授業時間外学修】
授業で学んだことを自分の言葉でまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

身体表現を育む多様な活動や遊びを実際に行いながら、遊びのねらい、保育者の援助、環境設定、安全への配慮についても学ぶ。身体を動かすことに喜びを持って、身体を動かすことを楽しみながら積極的に授業に参加すること。毎時間授業内容に関して、授業記録（身体表現ノート）の作成及び学期末の提出を求める。また、授業後にコメント票の記入を求め、コメント表の内容は翌週以降に授業内でフィードバックする。

【教科書・参考書など】

教科書　「コンパス　保育内容表現」建帛社、2019年4月、編者：島田由紀子・駒久美子
参考書　「子どもを中心に保育の実践を考える」、厚生労働省、2019年6月

【成績評価方法】

実技試験及び身体表現活動の発表50%、授業記録（身体表現ノート）20%、期末レポート30%

科目名	ダンスムーブメント			担当者	中村　恩恵	
英文名	Dance Movement					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門基礎・必修
授業形態	実技	科目ナンバー	CBR110		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

音楽と融合したナチュラルで快い情緒的な動きやリズミカルな動きなど、ダンスムーブメントの基礎的な技能を習得し、ダンスの表現特性について理解するとともに、自己の表現力も高め、豊かな身心の育成をはかる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ダンスの基礎的事項について	理論を理解し他者に指導できる	理論を教科書等を参照しながら説明できる	理解が不十分で説明できない
ダンスの研究知見に関する事項	研究知見の要点をまとめ説明できる	研究知見を資料等を参照しながら説明できる	知見の理解が不十分で説明できない
ダンス実技に関する事項	指示がなくとも身体を自由に動かすことができる	他者の指示に沿って身体を動かすことができる	理解が不十分で動くことができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　授業の進行についてのオリエンテーション
【　到達目標　】
授業の進行について理解する。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第２回　リズムダンス基礎編
【　到達目標　】
様々なリズムに合わせて動くことができる。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第３回　リズムダンス発展編
【　到達目標　】
リズムに合わせたダンスステップをマスターする。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第４回　リズムダンス応用編
【　到達目標　】
学んだダンスステップを組み合わせてシークエンスを創作できる。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第５回　リズムダンステスト
【　到達目標　】
授業前半で学んだことを確認しダンスに必要な要素の理解を深める。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第６回　オノマトペを使った身体表現
【　到達目標　】
様々な質感の身体表現をマスターする。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第７回　イマジネーションを使った身体表現
【　到達目標　】
イメージに合わせて自由に身体を動かせるようになる。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第８回　絵本を題材とした身体表現
【　到達目標　】
課題の絵本をテーマに舞踊表現ができる。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第９回　わらべ歌を題材とした身体表現
【　到達目標　】
遊びを通した身体表現をマスターする。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第10回　新聞紙を使った自由な身体表現
【　到達目標　】
自由な身体表現をマスターする。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第11回　オリジナル体操の創作
【　到達目標　】
オリジナル体操を作ることを通じて創作をマスターする。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第12回　絵本を使った課題作品の創作（題材決め）
【　到達目標　】
テーマ性のある作品の創作法をマスターする。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第13回　絵本を使った課題作品の創作（コンセプト・シーン割・配役決め）
【　到達目標　】
音読、キャラクター、小道具、体操の動きなどを取り入れて作品を作ることができる。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第14回　絵本を使った課題作品の創作（振付）
【　到達目標　】
テーマ性のある舞踊作品を創作することができる。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第15回　課題発表と達成度の確認
【　到達目標　】
全体の確認をする事によって、ダンスに必要な要素を理解する。
【授業時間外学修】
全体の復習とまとめをする事によって、ダンスについて更に理解を深める。(1.0hr)

【学修上の留意点】

幼児を対象としたダンスのグループ作品の創作に取り組みます。本授業の理解を深めるためには、各自が関連する学科で得た知見を総合的に用い、想像力を持って創作に取り組むことが大切です。理解度を測るために毎回の授業で小レポートを提出していただきます。レポートへのフィードバックは、次回の授業内に行います。

【教科書・参考書など】

特にありません。

【成績評価方法】

時間毎のレポート30%、実技試験20%、課題作品の成果50%の割合で総合的に評価する。

科目名	スポーツ原論			担当者	都筑　真	
英文名	Principle of Sports					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門基礎・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CBR111		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

古代から現代に至るまでのスポーツや体育に関する歴史や哲学を概観しながら、これまでのスポーツや体育のあり様や諸問題について理解し、説明できるようになる。これまでのスポーツや体育のあり様を学ぶことを通じて、現在のスポーツや体育が抱える諸問題をより深く理解し、さらにそのことを通じて、これからのスポーツや体育のあり方について自らの考えを表明できるようになる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スポーツ史学やスポーツ哲学の基礎的事項	基礎的事項を理解し自らまとめて説明できる。	基礎的事項を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
スポーツ史学やスポーツ哲学の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。
スポーツ史学やスポーツ哲学の研究知見の活用に関する事項	知見の活用について意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
(1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。

【授業時間外学修】
参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)

第２回　古代のスポーツ
【　到達目標　】
(1)ギリシャやローマなどの古代のスポーツのあり様を理解し、説明することができる。
(2)古代のスポーツと現在のスポーツとの類似点や相違点について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第３回　中世のスポーツ
【　到達目標　】
(1)ヨーロッパや日本などの中世のスポーツのあり様を理解し、説明することができる。
(2)中世のスポーツと現在のスポーツとの類似点や相違点について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第４回　近代のスポーツ①
【　到達目標　】
(1)イギリスにおける近代スポーツの発展過程を理解し、説明することができる。
(2)イギリスで近代スポーツが発展した理由について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第５回　近代スポーツ②
【　到達目標　】
(1)近代スポーツが国際的に普及していく過程を理解し、説明することができる。
(2)近代スポーツが国際的に普及した意義について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第６回　近代オリンピックの創始
【　到達目標　】
(1)近代オリンピックが何故創始されたのかを理解し、説明することができる。
(2)日本の近代オリンピックとの関わりを理解し、説明することができる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第７回　近代オリンピック開催を脅かしてきた様々な問題
【　到達目標　】
(1)近代オリンピックの開催を脅かしてきた問題について理解し、説明することができる。
(2)近代オリンピックが戦争やボイコットなどと関係する理由について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第８回　体育とスポーツの違いと体育の目的
【　到達目標　】
(1)体育とスポーツの概念を整理し、両者の違いを理解し、説明することができる。
(2)体育は何を目的として行われているのかを理解し、説明することができる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第９回　体育の理念の変遷
【　到達目標　】
(1)体育の理念の変化について理解し、説明することができる。
(2)体育において求められる人間像の変化について理解し、説明することができる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第10回　社会変化と今後の体育
【　到達目標　】
(1)社会の変化やスポーツ需要の変化を理解し、説明することができる。
(2)社会やスポーツ需要の変化を踏まえ、今後の体育のあり方について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第11回　スポーツのグローバリゼーションとナショナリズム
【　到達目標　】
(1)スポーツのグローバリゼーションの背景や具体例を理解し、説明することができる。
(2)スポーツのグローバリゼーションの長所や問題点について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第12回　スポーツと政治
【　到達目標　】
(1)スポーツ界が掲げる「政治的中立」という理想と現実について理解し、説明することができる。
(2)スポーツと政治の関係について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第13回　スポーツとドーピング
【　到達目標　】
(1)スポーツ界におけるドーピング問題と反ドーピングの取り組みを理解し、説明することができる。
(2)ドーピング問題の解決に向けて自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第14回　スポーツとジェンダー
【　到達目標　】
(1)スポーツにおける男性中心主義とそれを解消する取り組みについて理解し、説明することができる。
(2)性の多様なあり方がスポーツにもたらす課題について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第15回　「スポーツ・フォー・オール」運動
【　到達目標　】
(1)ヨーロッパにおける「スポーツ・フォー・オール」運動の背景や展開、そしてその影響を受けて日本で展開されてきた「生涯スポーツ」の推進について理解し、説明することができる。
(2)今後の「生涯スポーツ」推進策について自らの考えを表明できる。
【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義ではほぼ毎回、講義内容に関する小レポートを課し、理解度の確認を行う。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。「スポーツ史」と併せて履修することが望ましい。

【教科書・参考書など】

特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『教養としての体育原理』（友添秀則／岡出美則編、大修館書店）を講義の参考書として利用すること。

【成績評価方法】

講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。合格基準は60%である。

科 目 名	幼児理解			担当者	倉盛　美穂子	
英 文 名	Understanding Children					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門基礎・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CBR301		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

幼児理解は、よりよい保育・教育実践のための基本となるものである。本授業では、幼児理解の意義や原理を理解した上で、幼児の生活や遊びの観察を通して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を習得することを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
子どもを理解するとは	子ども理解の意義や原理を理解し、具体例を交えながら説明できる	子ども理解の意義や原理を理解し、説明できる	子ども理解の意義や原理の理解が不十分で、説明することが難しい
子どもを理解する方法	子どもを理解する方法を理解し、具体例を交えながら説明できる	子どもを理解する方法を理解し、説明できる	子どもを理解する方法の理解が不十分で、説明することが難しい
発達過程で生じるつまづきの理解	発達過程で生じるつまづきの意味を理解し、具体例を交えながら説明できる	発達過程で生じるつまづきの意味を理解し、説明できる	発達過程で生じるつまづきの意味の理解が不十分で、説明することが難しい

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　幼児理解とは
【　到達目標　】
(1)幼児理解の意義を理解する。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第２回　子どもを理解する方法　観察法 - 発達を捉える -
【　到達目標　】
(1)観察法の種類とその手法について理解する。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第３回　子どもを理解する方法　観察法 - 学びを捉える -
【　到達目標　】
(1)子どもや大人の行動を観察し、記録することができる。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第４回　子どもを理解する方法　質問紙法 - 個人差を捉える -
【　到達目標　】
(1)質問紙法の種類とその手法について理解する。

【授業時間外学修】
観察結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)

第５回　子どもを理解する方法　共感的理解
【　到達目標　】
(1)事例を通じて共感的理解について理解を深める。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第６回　感情の発達
【　到達目標　】
(1)感情の発達について理解する。

【授業時間外学修】
観察結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)

第７回　社会性の発達
【　到達目標　】
(1)子ども発達や学びの過程で生ずる葛藤やつまづきについて理解する。

【授業時間外学修】
観察結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)

第８回　社会性の発達（2）
【　到達目標　】
(1)モノや人との関わりについて理解する。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第９回　個と集団
【　到達目標　】
(1)集団の中での個の育ちを理解する。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第10回　保育環境と子どもの発達（1）
【　到達目標　】
(1)保育環境と子どもの発達との関係を理解する　－乳児期－

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第11回　保育環境と子どもの発達（2）
【　到達目標　】
(1)保育環境と子どもの発達との関係を理解する　－幼児期－

【授業時間外学修】
観察結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)

第12回　環境の変化や移行
【　到達目標　】
(1)環境移行が子どもに及ぼす影響について考える。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第13回　発達の課題に応じた援助と関わり（1）
【　到達目標　】
(1)特別な配慮を要する子どもに関する理解を深める。

【授業時間外学修】
実験結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)

第14回　発達の課題に応じた援助と関わり（2）
【　到達目標　】
(1)気になる子どもに関する理解を深める。

【授業時間外学修】
実験結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)

第15回　保護者の心情理解と発達支援
【　到達目標　】
(1)保護者の心情及び基礎的な対応の方法を理解する。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

【学修上の留意点】

・講義では、授業のターゲットとなる年齢や事象をイメージするために、映像教材を活用する。事例をもとにディスカションしながら、対象者や問題への理解を深める。質問は適宜受けつけ、次回の授業冒頭に全員で共有する。
・毎授業後、受講者は授業内容に関する作問課題の作成及び解答を行い、Phollyで提出すること。また、授業で解説された内容をあらためてノートに整理しておくこと。

【教科書・参考書など】

教科書
「子どもの理解と援助」清水益治・森俊之（編）中央法規

【成績評価方法】

毎授業後の課題提出　35%、期末試験　65%

科目名	発達・教育相談			担当者	角田　和也	
英文名	Developmental Consultation and Educational Counseling in Preschool					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門基礎・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CBR302		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

本来、発達・教育相談の対象年齢は幅広いが、ここでは乳幼児への対応を中心とした保育現場で日常的に行われている発達相談および教育相談についての知識や技術を学習する。また、実際の保育現場で保育者が乳幼児とかかわる際に生じる問題や、特別な配慮が必要となる子どもたちへのかかわり方についても、発達相談および教育相談の視点からはどのように対処していく必要があるのかを学習する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
発達・教育相談の基本的事項・理論について	基本的事項・理論について理解し自らまとめて説明ができる	基本的事項・理論について理解している	理解が不十分で説明できない
子ども理解に必要な相談技術とカウンセリングマインドについて	相談技術・カウンセリングマインドについて工夫しながら日常的に活用できる	相談技術・カウンセリングマインドについて理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない
発達・教育相談の展開について	既出の知見を基に展開の方法・問題点について自らの意見を示すことができる	展開の方法・問題点について既出の知見を理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション／発達・教育相談
【　到達目標　】
(1)発達相談、教育相談とは何かを理解する。
(2)保育場面での「相談」の概要を理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成。(4.0hr)

第２回　発達・教育相談の実際
【　到達目標　】
(1)（前回の授業を受けて）保育者のかかわりが実際にどのような「相談」の流れの中で展開されるのか、その全体像を把握する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成。(4.0hr)

第３回　幼児教育における発達・教育相談の意義
【　到達目標　】
(1)保育者を目指す学生が発達・教育相談を学ぶ意義を理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第４回　発達・教育相談の基本的事項①　実践のための基本的な理論・概念①
【　到達目標　】
(1)発達・教育相談の実践に必要な、臨床心理学（カウンセリング）の基本理論・概念を理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第５回 発達・教育相談の基本的事項②　実践のための基本的な理論・概念②
【　到達目標　】
(1)前回の授業内容を踏まえ、発達・教育相談で実践されている臨床心理学（カウンセリング）の理論・概念について理解を深める。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第６回　発達・教育相談の基本的事項③　カウンセリングマインドの必要性
【　到達目標　】
(1)発達・教育相談の実践に必要なカウンセリングマインドについて理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第７回　子ども理解の方法①　「きく」ことについて①
【　到達目標　】
(1)子ども理解に必要な「きく」ということについて理解を深める。
(2)「きく」方法を実践するためのポイントを理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第８回　子ども理解の方法②　「きく」ことについて②
【　到達目標　】
(1)前回の授業をうけて、さらに「きく」際に注意するポイントについての理解を深める。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第９回　子ども理解の方法③　「話す」ことについて①
【　到達目標　】
(1)子ども理解に必要な「話す」ということについて理解を深める。
(2)「話す」方法を実践するためのポイントを理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第10回　子ども理解の方法④　「話す」ことについて②
【　到達目標　】
(1)不快に思われない話し方について理解を深める。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第11回　子ども理解の方法⑤　「みる」ことについて①
【　到達目標　】
(1)子ども理解に必要な「みる」ということについて理解を深める。
(2)「みる」方法を実践するためのポイントを理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第12回　子ども理解の方法⑥　「みる」ことについて②
【　到達目標　】
(1)みられている側の気持ちを理解する。
(2)「みる」際に注意するさらなるポイントについて理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第13回　発達・教育相談の展開①　「私」が発達相談・教育相談を行うために
【　到達目標　】
(1)テーマに沿って、実際に発達・教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を考えることができる。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第14回　発達・教育相談の展開②　連携の必要性について
【　到達目標　】
(1)実際に発達・教育相談を行う際に欠くことのできない学校内・外における連携について、理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第15回　発達・教育相談の展開③　組織的な取り組みの必要性について
【　到達目標　】
(1)発達・教育相談の実践には、組織的な展開が必要であることを理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成。(4.0hr)

【学修上の留意点】

①基本的にPowerPoint画像や動画を使用し、プロジェクターもしくはモニターに投影して授業を進める。使用する穴埋め方式のプリント教材に即して説明するが、口頭で補足および詳細な説明も併せて行うので、集中してメモを取り、保育実践時に活用できるオリジナル資料の作成を目指す必要がある。
②授業内容の理解を深めることを目的とした実践的な課題レポートの作成を、授業時間外学習で毎回求める。この課題は後日インターネット上の指定されたURLに提出してもらい、評価に反映させる（下欄「成績評価方法」の「提出物の総合評価」に該当）。また、提出された課題は、翌週の授業で授業資料として使用し、主に口頭でさらに補足や追加の説明を加えながら、他の受講者の意見を共有し自身のものの見方・考え方を広げ、より実践力を高めるようフィードバックしていく（当然メモは必須）。
③期末試験は、授業時に説明した基本的な事項や知識の定着の確認、および授業時間外学習で取り組んだ課題とその後のフィードバックで学習した実践的な力の定着の確認を目的として実施する。したがって、ルーブリックの「標準的な到達レベル」から「理想的な到達レベル」で出題されることになるので、授業時間外での日常的な自主学習・復習および実践的な研鑽を積み重ねることが求められる。
④出席を確認するため、授業は座席指定で行う。前方での受講を希望する場合は、その旨を申告することで座席の配置を考慮する。

【教科書・参考書など】

教科書：市販の教科書は使用せず、毎回授業時に配布するプリント教材を使用する。
参考書：テキスト内に授業回ごとの参考文献を示してあるので、そちらを参照のこと。

【成績評価方法】

・提出物の総合評価（50%）と期末試験の結果（50%）を合算して総合成績（100%）を算出する。合格基準は60%である。
・試験は試験期間中に別途実施する。

科 目 名	児童文化演習			担当者	堤　由衣・並木　真理子 本永　直子	
英 文 名	Seminar in Children's Culture					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門基礎・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CBR303		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

子どもにとっての児童文化の意義を理解し、児童文化における「ことば」「音楽」「造形」のあり方について作成・実演を通して学ぶ。
子どもの豊かな経験となるような児童文化の演目を考え、子どもを対象とした発表に向けて学生が協力し合い児童文化作品を作成し演じる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
児童文化についての基礎的事項・理論について	児童文化の理論について、自らまとめ、説明できる。	児童文化の理論について、資料を参照しながら説明できる。	児童文化に対する理解が不十分で説明できない。
児童文化財の作成方法を理解し、積極的に取り組む。	児童文化財の作成方法を理解し、新たなアイデアを加えながら取り組むことができる。	児童文化財の作成方法について資料を参照しながら取り組むことができる。	児童文化財の作成方法の理解が不十分で、取り組むことができない。
児童文化財の演じ方を理解し、積極的に取り組む。	児童文化財の演じ方を理解し、演技を追求しながら積極的に取り組む。	児童文化財の演じ方を理解し、積極的に取り組む。	児童文化財の演じ方に対する理解が不十分であり、演技ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回 授業ガイダンス／子どもにとっての児童文化の意義
【　到達目標　】
児童文化の概念を知り、子どもにとっての児童文化の意義を理解する。
児童文化作品の映像を鑑賞し、子どもの前で演じる児童文化創作の手がかりを得る。
児童文化作品の制作過程とこの授業の流れを理解し、チームごとに発表に向けた意欲を高める。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。（4.0hr）

第２回 児童文化における「ことば」の意義／児童文化発表の演目の決定
【　到達目標　】
子どもにとって、児童文化における「ことば」がどのような意義を持つのかを理解する。
子どもが理解しやすい「ことば」、子どもの心を揺り動かす「ことば」を意識し、絵本から演目を選定する力を身につける。各チームで演目となる絵本を選定し、作品作りについて共通理解を深める。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。（4.0hr）

第３回 児童文化における「造形」「音楽」の意義／役割分担
【　到達目標　】
子どもにとって、児童文化における「造形」及び「音楽」がどのような意義を持つのかを理解する。
子どもの物語理解を深める「造形」「音楽」、子どもの心を揺り動かす「造形」「音楽」を意識して創作する力を身につける。各チームで作成するもの・用意するものなどを話し合い、役割分担を行う。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。（4.0hr）

第４回 台本（演出）・造形・音楽の作成①－題材から児童文化作品のベースを作る－
【　到達目標　】
ことば（台本/演出）：絵本を素材として子どもに分かりやすい物語の展開を考え、台本作りを行う。
造形：絵本を参考に作成するものの絵コンテや型紙を作成し、材料を揃える。
音楽：絵本を参考に音楽を入れる場面を考え、適した楽器や効果音を考える。
【授業時間外学修】
事後学習として、自分のチームの作業状況を共有し、次回の課題を考える（4.0hr）

第５回 台本（演出）・造形・音楽の作成②－作成したベースの共有と作業の展開－
【　到達目標　】
ことば（台本/演出）：造形や音楽の作業状況の情報を共有し、台本に演出を加筆する。
造形：絵コンテや型紙をもとに制作を行う。
音楽：音楽を入れる場面における音や歌の創作を行う。
【授業時間外学修】
事後学習として、自分のチームの作業状況を共有し、次回の課題を考える（4.0hr）

第６回 台本（演出）・造形・音楽の作成③－創意工夫と子どもの視点を盛り込んだ作業－
【　到達目標　】
ことば（台本/演出）：造形や音楽の作業状況の情報を共有し、台本に演出を加筆する。
造形：絵コンテや型紙をもとに制作を行う。
音楽：音楽を入れる場面における音や歌の創作を行う。
【授業時間外学修】
事後学習として、自分のチームの作業状況を共有し、次回の課題を考える（4.0hr）

第７回 台本（演出）・造形・音楽の作成④－創作活動と練習－
【　到達目標　】
ことば（台本/演出）：造形や音楽の作業状況の情報を共有し、台本に演出を加筆する。
造形：絵コンテや型紙をもとに制作を行う。
音楽：音楽を入れる場面における演奏や歌唱の練習を行う。
【授業時間外学修】
事後学習として、自分のチームの作業状況を共有し、次回の課題を考える（4.0hr）

第８回 台本（演出）・造形・音楽の作成⑤－創作活動と練習－
【　到達目標　】
ことば（台本/演出）：造形や音楽の作業状況の情報を共有し、台本に演出を加筆する。
造形：絵コンテや型紙をもとに制作を行う。
音楽：音楽を入れる場面における演奏や歌唱の練習を行う。
【授業時間外学修】
事後学習として、自分のチームの作業状況を共有し、次回の課題を考える（4.0hr）

第９回　中間まとめ・調整
【　到達目標　】
ことば、造形、音楽の具体的作業の中間まとめをし、合同で調整を行う。
【授業時間外学修】
各担当班の指示により、作業を行う。(4.0hr)

第10回　配役決め・パート練習
【　到達目標　】
各チームで上演の役割を決定し、各々練習を開始する。
【授業時間外学修】
各担当班の指示により、作業を行う。(4.0hr)

第11回　通し練習・修正
【　到達目標　】
台本の読み合わせを行いながら、児童文化財や音楽を実際に動かし、修正を行う。
【授業時間外学修】
チームの演目の問題点を把握し、修正の方法を考える。(4.0hr)

第12回　全体練習・リハーサル・調整
【　到達目標　】
役割全体や台本を通して練習、修正を行う。
映像を撮り、子どもを想定した視点で修正を行う。
【授業時間外学修】
他の班の抱えている問題点を把握し、修正の方法を考える。(4.0hr)

第13回　全体練習・ゲネプロ・調整
【　到達目標　】
発表本番通りの会場設営をし、ゲネプロを行う。
映像を撮り、子どもを想定した視点で修正を行う。
【授業時間外学修】
それぞれの役割・仕事を確認し、手順に従って動けるよう準備する。(4.0hr)

第14回　作品発表①（上演）
【　到達目標　】
鑑賞者の前で上演し、子どもの反応から児童文化作品のあり方について振り返りを行う。
他チームの上演に来場する子どもへの対応を行い、子どもが心地よく過ごせる援助の仕方を学ぶ。
【授業時間外学修】
それぞれの役割・仕事を確認し、手順に従って動けるよう準備する。(4.0hr)

第15回　作品発表②（上演）
【　到達目標　】
鑑賞者の前で上演し、子どもの反応から児童文化作品のあり方について振り返りを行う。
他チームの上演に来場する子どもへの対応を行い、子どもが心地よく過ごせる援助の仕方を学ぶ。
【授業時間外学修】
それぞれの役割・仕事を、責任を持って遂行できるよう準備する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

・実技演習が中心になるので自律的に活動し、動きやすい服装を心掛けること。
・クラスの人数によってチーム編成を行うので、自分のチームでの活動に責任感をもって参加すること。
・基本的な用具（文房具や消耗品等）は各自で用意する。作品制作上必要な、素材、用具（含楽器）の調達も学習の一環とするが、教員が適宜援助する。
・実習期間によって休講及び補講が生じる場合がある。補講日時に関しては早期に知らせるので、各自、出席できるように予定調整すること。また、実習に関わる欠席は公欠ではないので、自分の欠席回数を見誤らないようにすること。
・作品の完成度によっては、各チームで練習日程を組んでもらうこともある。

【教科書・参考書など】

幸田眞希・掃守純一郎・金城久美子・横田左千子 著『手づくり人形劇ハンドブック　子どもといっしょに楽しむ劇表現の世界』2016年 萌文書林
川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子 編著『ことばと表現力を育む児童文化〈第２版〉』2018年 萌文書林

【成績評価方法】

毎回の授業シート50%、および作品制作・作品発表への貢献度50%で評価する。

科目名	発育発達論			担当者	井筒　紫乃	
英文名	Growth and Development					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CBE201		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

ヒトの一生における発育発達と老化の特性についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢においての発育発達特性を考慮した運動をはじめとする身体活動と健康関連指標との関係と運動指導の重要性を理解する。更に、それぞれのステージの身体の発育と運動発達との関係を理解し、そのステージに必要となる運動プログラムの作成方法について、考慮しなければならないことについて理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ヒトの身体の発育や心・運動発達の過程・理論について	理論について自らまとめて説明できる	理論を資料等を参照しながら説明できる	理解が不十分で説明できない
ヒトの心身の発育発達の知見に関する事項	発育発達の要点を自らまとめて説明できる	理論を資料等を参照しながら説明できる	理解が不十分で説明できない
ヒトの心身の発育発達に関わる運動発達の知見に関する事項	発育発達の要点を自らまとめて説明できる	理論を資料等を参照しながら説明できる	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　発育発達とは、心理的特徴
【　到達目標　】
(1)発育発達の概念を理解する。
(2)身体計測の測定法を理解する。

【授業時間外学修】
受講前に、発育と発達の違いについて調べてくること。(4.0hr)

第２回　地球の誕生・人類の誕生と進化
【　到達目標　】
(1)地球の誕生から、人類への進化過程について理解する。
(2)人類はどのように二足歩行を獲得したのかを理解する。

【授業時間外学修】
ノートに、生物の誕生から人類への進化を時系列にまとめる。(4.0hr)

第３回　赤ちゃんの発育発達
【　到達目標　】
(1)出生後、赤ちゃんはどのように発育し、発達していくかを理解する。
(2)生物学的成熟度について理解する。

【授業時間外学修】
受講前に、生まれた時の自身の身長、体重を調べておくこと。(4.0hr)

第４回　発育発達期の身体的特徴（体重・身体組成）
【　到達目標　】
(1)子どもの肥満の弊害について理解する。
(2)やせの問題について理解する。

【授業時間外学修】
受講前に、子どもの肥満と痩身の出現率を調べ、各々の問題点をまとめてくること。(4.0hr)

第５回　幼児期前期（1～3歳）の発育発達
【　到達目標　】
(1)幼児期前期の身体の発育と運動発達について理解する。
(2)幼児期前期の形態・発達の特徴について理解する。

【授業時間外学修】
受講前に、身体組成の計測方法を調べてくること。(4.0hr)

第６回 幼児期後期（4～5歳）の発育発達
【　到達目標　】
(1)幼児期後期の身体の発育と運動発達を理解する。
(2)幼児期後期の形態・発達の特徴について理解する。

【授業時間外学修】
受講前に、スキャモンの発育曲線について調べてくること。(4.0hr)

第７回　小学生期の発育発達
【　到達目標　】
(1)小学生期の身体の発育と運動発達について理解する。
(2)ゴールデンエイジの身体の発育の発達について理解する。

【授業時間外学修】
受講前に、文部科学省による基本的動作スキルの測定法を調べてくること。(4.0hr)

第８回　ジュニア期の運動発達
【　到達目標　】
(1)ジュニア期の身体の発育と運動発達の特性について理解する。
(2)ゴールデンエイジの運動発達の特徴について理解する。

【授業時間外学修】
受講前に、プレゴールデンエイジ、ゴールデンエイジについて調べてくること。(4.0hr)

第９回　中学生期の発育発達
【　到達目標　】
(1)身体活動量や座位行動と健康関連指標との関係について理解する。
(2)日本と世界の身体活動量や座位行動の推奨値を理解する。

【授業時間外学修】
受講前に幼児期運動指針を調べてくること。(4.0hr)

第10回　高校生期の発育発達
【　到達目標　】
(1)高校生期の身体の発育と心の発達を理解する。

【授業時間外学修】
スポーツ庁による全身持久力の測定法を調べてくること。(4.0hr)

第11回　日本と世界の子どもの身体的特徴と生活習慣の現状
【　到達目標　】
(1)日本と世界の子どもの身体的特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。
(2)47都道府県の子どもの身体的特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。

【授業時間外学修】
受講前に、世界の子どもの肥満者と痩身者の出現率を調べてくること。(4.0hr)

第12回　発育発達期の運動プログラム
【　到達目標　】
(1)発育発達期の運動プログラムの留意点を理解する。
(2)発育発達期の運動・スポーツの体力への効果を理解する。

【授業時間外学修】
子どもの運動プログラムを考える際､留意すべき点について意見をまとめてくること｡(4.0hr)

第13回　思春期の女性のからだ
【　到達目標　】
(1)思春期の女性の身体的特徴を理解する。
(2)思春期の身体の変化における心の発達を理解する。

【授業時間外学修】
思春期の女性の身体の変化の留意点ついて意見をまとめてくること。(4.0hr)

第14回　女性とスポーツ
【　到達目標　】
(1)女性選手の三主徴について理解する。
(2)女性の痩せについて理解する。

【授業時間外学修】
受講前に､女性アスリートを指導する際に､留意すべき点について意見をまとめてくること｡(4.0hr)

第15回　ヒトの一生と発育発達
【　到達目標　】
(1)ヒトの一生の発育と成長、心と運動発達を理解する。

【授業時間外学修】
受講前に､14回目まで作成したノートをまとめておくこと。(4.0hr)

【学修上の留意点】

対面形式授業を実施する。各授業回において、パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて資料を配布するため、資料を使用しながら、ノートを作成していく。ほぼ毎時間、講義内容に関する課題について、リアクションペーパーに記入し、提出する。

【教科書・参考書など】

特に指定はしない。

【成績評価方法】

各授業回の課題を40%、期末試験を60%、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。

科 目 名	造形表現Ⅰ			担当者	本永　直子	
英 文 名	Formative Expression Ⅰ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CBE101		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

子どもと造形という観点に立ち、基本的な造形素材の特質および表現技法を学び、指導者としての基礎技能を身につけるとともに、自らの表現力と教材への応用力を養う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
子どもの造形的発達について	理解に基づき、説明することが出来る。	資料等を参照しながら説明すること出来る。	理解が不十分で説明することが出来ない。
造形表現素材への理解と利用について	理解に基づき、適切に用いることが出来る。	資料等を参照しながら適切に用いることが出来る。	理解が不十分で適切に用いることが出来ない。
造形表現技術及び技能について	適切に用いることが出来る。	資料等を参考にしながら適切に用いることが出来る。	理解が不十分で適切に用いることが出来ない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　「造形表現」とは何か／平面表現と面・線・色彩
【　到達目標　】
子どもの遊びから芸術作品まで幅広く捉える。

【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第２回　面と表現（見立てる）
【　到達目標　】
「やぶく」「切る」を使った表現方法を学ぶと共に、切り取った形から見立ての世界を体験することによって、子どもの制作過程への展開を理解する。

【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第３回　面と表現（繋げる）
【　到達目標　】
「貼る」「繋げる」を使った表現方法を学び、実際の制作を通して子どもの制作過程への展開を理解する。

【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第４回　面と表現（切る・貼る）
【　到達目標　】
「切る」「貼る」を使った表現方法を学ぶと共に、実際の制作を通して子どもの制作過程への展開を理解する。

【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第５回　線と表現（打つ・おしつける・描く）
【　到達目標　】
サインペンやパステルなどの描画材を使って、長い線・ぐにゃぐにゃな線・太い線・短い線・色の線・くるくるの線など、様々な線の表現を体験し、子どもの制作過程への展開を理解する。
【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第６回　線と表現（見る・描く）
【　到達目標　】
野菜のかたち、植物のかたち、虫のかたち、動物のかたち、人のかたちなど、様々な形を観察すると共に、良く見て表す線の表現を体験し、子どもの制作過程への展開を理解する。

【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第７回　色彩と表現（三原色・補色）
【　到達目標　】
色の基本的な知識や特質を知り、子どもの制作過程への展開に生かす。

【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第８回　色彩と表現（混ざる）
【　到達目標　】
絵具や色水を通して色の変化がもたらす子どもの心の動きや発見を体験し、子どもの制作過程への展開を理解する。

【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第９回　色彩と表現（変わる）
【　到達目標　】
フィンガーペインティングや小麦粉ねんどなどを通して、手触りや色の変化がもたらす子どもの心の動きや発見を体験し、子どもの制作過程への展開を理解する。

【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第10回　面・線・色と表現
【　到達目標　】
かたちを貼ったり、かたちを残したり、線を描いたり、色を塗ったり、色を吹き付けたり、様々な技法を用いることによって見えてくる世界を「○○な世界」に見立てて表現すると共に、子どもの想像力豊かな造形活動への展開を理解する。
【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第11回　平面表現（絵本をてがかりに）
【　到達目標　】
レオ・レオニやエリック・カールなどの絵本に見られる表現方法を紐解きながら様々な平面技法を学ぶと共に、子どもの制作過程への展開に生かす。

【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。(4.0hr)

第12回　平面表現（広がる・たれる・とびちる）
【　到達目標　】
モダンテクニックの中でも代表的な技法（デカルコマニー・ドリッピング・たらし絵など）を体験し、偶然に出来た様々な形や色と出会った時の心の動きを知ると共に、様々な制作過程に繋がる展開を理解する。
【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第13回　平面表現（うつす・にじむ・あらう）
【　到達目標　】
モダンテクニックの中でも代表的な技法（マーブリング・洗い絵・にじみ絵など）を体験し、偶然に出来た様々な形や色と出会った時の心の動きを知ると共に、子どもの制作過程への展開を理解する。
【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第14回　平面造形表現（組み合わせる）
【　到達目標　】
平面技法を用いて作った色紙をコラージュし、私が行ってみたい・やってみたい夢や願望の「ワンシーン」を画面に表現することで、子どもの制作過程への展開を理解する。

【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第15回　発表・まとめ
【　到達目標　】
コラージュ作品に表現された「ワンシーン」を発表すると共に、その表現を共有し、鑑賞し合うことで、意見を交換する。また、制作と発表の経験を振り返り、子どもの造形表現について話し合うと共に、子どもの造形表現・造形活動について理解を深める。
【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

【学修上の留意点】

実習が中心になるので自律的に活動すること。造形作業のしやすく汚れても良い服装を心掛け、基本的な用具（画材や文房具等）は各自で用意する。適宜、学生相互の作品鑑賞を行い、教員や学生同士で意見を交換することでフィードバックを行う。なお、受講生の状況にあわせて内容の組かえや調整を行うことがある。

【教科書・参考書など】

東山明編著『絵画・製作・造形あそびカンペキBOOk』ひかりの国
樋口一成編著『幼児造形の基礎－乳幼児の造形表現と造形教材－』萌文書林

【成績評価方法】

制作過程を60%、ノートやワークシート等の提出物を30%、課題作品や発表10%として総合的に評価する。

科 目 名	言葉			担当者	並木　真理子	
英 文 名	Language in the Childcare					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CBE102		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】
子どもの言葉を豊かに育むことのできる保育者を目指し、児童文化財に関する知識を身に付け、実践演習を通して保育者に必要とされる言語表現力を身に付ける。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
子どもの言葉を育む保育について	十分に理解し自らまとめて説明できる	内容を理解し、資料等を参照しながら説明できる	理解が不十分で説明できない
児童文化財に関する知識を身につける	知識を習得し活用できる	知識を習得し、資料等を参照しながら説明できる	知識が不十分で説明できない
保育者に必要な言語表現力を身につける	十分に理解し自らまとめて説明できる	内容を理解し、資料等を参照しながら説明できる	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス／保育者の言語表現①
【　到達目標　】
授業の概要や進め方を理解し、学習の心構えを形成する。
保育現場における保育者の言語表現について知り、言語表現を学ぶ意義を理解する。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業計画表を読み込み授業の見通しをもって課題に取り組む。(4.0hr)

第２回　保育者の言語表現②−ストーリーテリング−
【　到達目標　】
保育における発声とお話の必要性を理解し、ストーリーテリングを楽しむ。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、保育者に必要な語り方の練習を行い、課題に取り組む。(4.0hr)

第３回　言葉遊びと手遊び
【　到達目標　】
言葉遊び、手遊びを通して、言葉の面白さ、表現することの楽しさに触れる。

【授業時間外学修】
様々な言葉遊びや手遊びに触れ、実践課題に取り組む。(4.0hr)

第４回　絵本を知る
【　到達目標　】
様々な絵本に触れながら、絵本の種類や特質について理解する。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、絵本の構造や作家への理解を深め、課題に取り組む。(4.0hr)

第５回　読み聞かせの意義と方法
【　到達目標　】
読み聞かせの意義を学び、基本的な方法で練習し合って、読み聞かせのコツを掴む。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、保育者に必要な絵本の読み方の練習を行い、課題に取り組む。(4.0hr)

第６回　読み聞かせの実践と遊びへの展開
【　到達目標　】
対象とする子どもの年齢に合わせて、子どもが楽しめる読み聞かせ法を追求する。
さらに、読み聞かせした絵本から様々な遊びへの展開を考える。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、絵本から広がる遊びの世界を調べ、課題に取り組む。(4.0hr)

第７回 紙芝居を知る
【　到達目標　】
様々な紙芝居に触れながら、紙芝居の歴史や特質、種類について理解する。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、紙芝居と絵本の違いへの理解を深め、課題に取り組む。(4.0hr)

第８回　紙芝居の作成①
【　到達目標　】
紙芝居を作成するための素材作りを行う。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、ミニ紙芝居のお話を考える。(4.0hr)

第９回　紙芝居の作成②
【　到達目標　】
紙芝居の構造を理解し、子どもが楽しめるミニ紙芝居を作成する。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、ミニ紙芝居を仕上げる。(4.0hr)

第10回　紙芝居の実演
【　到達目標　】
グループ内で相互に自作の紙芝居の実演を行って、子どもが楽しめる演出の方法を追及する。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、ミニ紙芝居を仕上げる。(4.0hr)

第11回　ペープサート・人形劇を楽しむ
【　到達目標　】
ペープサート、人形劇の特性を理解し、子どもが楽しめる実践方法を学ぶ。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認し、課題に取り組む。(4.0hr)

第12回　パネルシアターを楽しむ
【　到達目標　】
パネルシアターの特性を理解し、子どもが楽しめる実践方法を学ぶ。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認し、課題に取り組む。(4.0hr)

第13回　児童文化財の作成
【　到達目標　】
オリジナルの絵本の作り方を学び、言葉のリズムを楽しみながら対象年齢に合わせた絵本を作成する。

【授業時間外学修】
発表に向けて、作成、読み聞かせの練習を行う。(4.0hr)

第14回　児童文化財の実演発表
【　到達目標　】
グループごとに自作の絵本の実演発表を行い、他者の実演を観て自己の実演に活かす点を見出す。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、課題に取り組む。(4.0hr)

第15回　子どもの言葉を育む保育者の言語表現力
【　到達目標　】
保育現場における保育者の言語表現力について確認する。

【授業時間外学修】
配布プリントを読み返して、授業での学びを振り返る。(4.0hr)

【学修上の留意点】
・授業は講義と演習を組み合わせて行う。グループワークやディスカッションには積極的に取り組み、言語表現技術の向上に努めること。
　なお、児童文化財ごとに実演発表を行う。
・自主的に絵本等の児童文化財に触れ、児童文化財をみる目を養うこと。
・毎回、授業での学びをまとめる授業シートを記入する。授業シートをもとに次回授業でフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】
教科書：『乳幼児の言葉が生まれ・育っていくために　保育内容　言葉』河合優子 監修／並木真理子・桐川敦子 編集（アイ・ケイコーポレーション）2024年
参考図書：『ベーシック絵本入門』生田美秋・石井光恵・藤本朝巳 編著（ミネルヴァ書房）2013年

【成績評価方法】
授業内発表30%、グループワークや提出物30%、試験課題40%として総合的に評価する。

科 目 名	ソルフェージュ（楽典）			担当者	堤　由衣	
英 文 名	Solfège (Musical Grammar)					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CBE103		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

楽器の演奏、歌唱、創作等、音楽活動において欠かすことの出来ない楽典の知識を深め、読譜力を付けることを目的とする。また、聴音やリズム打ちの練習を通して、音感、リズム感を養う。初回に音楽学習調査を行い、クラス分けを行う。「基礎クラス」では、読譜やリズムの理解ができるようになることを主たる目的として指導を行う。「応用クラス」ではこの授業を通して、作曲や編曲ができるようになるまで指導を行う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ソルフェージュ能力の習熟	音やリズムを、能動的にも受動的にも正確に再現できる	音やリズムを、能動的にも受動的にもある程度再現できる	音やリズムの再現が不正確である
音楽理論の理解	楽曲を理論的に理解することができる	解説があれば楽曲を理論的に理解することが可能である	楽曲を理論的に理解する能力が乏しい
楽譜の理解	読譜が完全にでき、他の曲にも応用ができる	読譜はできているが、応用ができない	読譜能力が不十分である

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　音楽と楽譜
【　到達目標　】
音楽と楽譜の関係を理解する。
【授業時間外学修】
楽譜に興味をもつとともに、授業時に出題する復習問題を解く。(4.0hr)

第２回　五線と音部記号①
【　到達目標　】
五線と2種の音部記号について理解する。
【授業時間外学修】
高音部譜表の音を読めるように練習する。(4.0hr)

第３回　五線と音部記号②
【　到達目標　】
五線と2種の音部記号について理解する。
【授業時間外学修】
低音部譜表の音を読めるように練習する。(4.0hr)

第４回　音符と休符
【　到達目標　】
音符と休符の意味と正しい書き方を覚える。
【授業時間外学修】
授業時に出題する楽曲を写譜する。(4.0hr)

第５回　拍子
【　到達目標　】
拍子と拍の関係を理解し、正しく数えられるようになる。
【授業時間外学修】
授業時に出題する楽曲を写譜する。(4.0hr)

第６回　リズム
【　到達目標　】
付点音符、連符を含めたリズムを正しく打てるようになる。
【授業時間外学修】
復習テストに向け、リズム課題を練習する。(4.0hr)

第７回　音程①
【　到達目標　】
1、4、5、8度音程を理解する。
【授業時間外学修】
授業時に出題する復習問題を解く。(4.0hr)

第８回　音程②
【　到達目標　】
2、3、6、7度音程を理解する。
【授業時間外学修】
次回の復習テストに向け、音程全般を復習する。(4.0hr)

第９回　音階①
【　到達目標　】
長音階を理解する。
【授業時間外学修】
ハ・ト・ヘ長調の音階をピアノで弾き、耳で音を確認する。(4.0hr)

第10回　音階②
【　到達目標　】
短音階を理解する。
【授業時間外学修】
イ短調の音階をピアノで弾き、耳で音を確認する。(4.0hr)

第11回　移調①
【　到達目標　】
移調楽譜の作成が出来るようになる。
【授業時間外学修】
子どものうたを使って、移調楽譜を作成する。(4.0hr)

第12回　移調②
【　到達目標　】
移調楽譜の作成が出来るようになる。
【授業時間外学修】
子どものうたを使って、移調楽譜を作成する。(4.0hr)

第13回　和音とコードネーム①
【　到達目標　】
和音とコードネームを理解する。
【授業時間外学修】
コードネームのついた簡単な曲を使い、自分で伴奏譜を作成する。(4.0hr)

第14回　和音とコードネーム②
【　到達目標　】
セブンスのコードなど、少し難易度の高いコードを理解する。
【授業時間外学修】
ポップスなどで使用されているコードを用いながら、編曲に挑戦する。(4.0hr)

第15回　音楽用語・記号
【　到達目標　】
頻出する音楽用語・記号を理解する。
【授業時間外学修】
「器楽Ⅰ」で使用している「バイエル」の中に使用されている用語を調べる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

高校までの音楽履修歴などを踏まえ、クラスを「基礎クラス」と「応用クラス」に分けて授業を展開する。各回の授業は、それ以前の授業の内容を理解しているという前提の上で行う。

【教科書・参考書など】

『やさしく学ぶ 楽典の森』音楽之友社
文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）
その他、適宜楽譜を配布する。

【成績評価方法】

理解度復習テスト20%、提出課題20%、楽典問題の筆記テスト（聴音を含む）60%の割合で評価する。なお、「基礎クラス」だからと言って「応用クラス」より評価が低くなるわけではなく、どのクラスにおいても内容の理解度によって評価を行う。

科 目 名	環境			担当者	北澤　明子	
英 文 名	Environment					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CBE104		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

現代の幼児を取り巻く環境と幼児と身近な環境との関わりの発達等について学ぶ。子どもの成長にとって望ましい環境を、社会環境（人的環境・物的環境・情報環境・文化的環境）、自然環境の面から捉え、保育者に求められる援助について理解する。特に自然環境について、子どもの成長にとって望ましい自然とのかかわりと保育者の適切な援助方法、環境を通した保育の意義と、保育者に求められる援助、自然と生命を尊重する態度を身につけ、子どもに伝える方法について理解を深める。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
幼児の心身成長における社会環境の役割について	社会環境の役割を十分理解し要点や活用について意見を示すことができる。	社会環境の役割について教科書や資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
幼児の心身成長における物的環境の役割について	物的環境の役割を十分理解し要点や活用について意見を示すことができる。	物的環境の役割について教科書や資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
幼児の心身成長における自然環境の役割について	自然環境の役割を十分理解し要点や活用について意見を示すことができる。	自然環境の役割について教科書や資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション・子どもを取り巻く環境１
【　到達目標　】
「環境」の授業の概要とねらいを理解する。
保育の場にはどのような環境があるのかについて考えまとめる。

【授業時間外学修】
事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておく。(4.0hr)

第２回　子どもを取り巻く環境２
【　到達目標　】
子どもを取り巻く環境がどのように分類できるのかについて理解する。

【授業時間外学修】
子どもを取り巻く環境について復習を行い、次の授業の準備を進める。(4.0hr)

第３回　環境を通した保育とは
【　到達目標　】
環境を通した保育について理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習を行い、保育の場における人的環境について考える。(4.0hr)

第４回　社会環境―人的環境―
【　到達目標　】
保育の場における社会環境の１つである人的環境の役割について理解する。

【授業時間外学修】
人的環境についてのまとめを行い、自宅の物的環境と物が自分に与える影響について考える。(4.0hr)

第５回　社会環境―物的環境１―
【　到達目標　】
保育の場における社会環境の１つである物的環境の役割について理解する。

【授業時間外学修】
自分の好きな玩具を１つ選びその玩具について調べてくる。(4.0hr)

第６回　社会環境―物的環境２―
【　到達目標　】
玩具がひき出す子どもの育ちやその役割・歴史的変遷について理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習を行い、保育の場で出会う物を１つ選び、調べてくる。(4.0hr)

第７回　社会環境―物的環境３―
【　到達目標　】
保育の場にある物的環境をそれぞれ１つ選び、その物が子どもに与える影響やその物から広がる遊びなどについて自分の考えをまとめ、発表する。

【授業時間外学修】
他の学生の発表を聞き、学んだこと考えたことなどを小レポートにまとめる。(4.0hr)

第８回　社会環境―情報環境―
【　到達目標　】
現代の子どもが触れる情報環境の特徴やその課題について理解する。

【授業時間外学修】
家庭で子どもがメディアや情報とどのように出会い、かかわっているのかを調べる。(4.0hr)

第９回　社会環境―文化的環境１―
【　到達目標　】
伝統行事や遊び、芸術など子どもが出会う文化的環境について理解をする。

【授業時間外学修】
授業内で提示した伝統行事の由来について調べる。(4.0hr)

第10回　社会環境―文化的環境２―
【　到達目標　】
伝統行事の由来について、グループごとに発表し、様々な行事の由来を理解する。
子どもが出会うはじめの文化としての絵本について知る。

【授業時間外学修】
自分の好きな絵本を1冊選び、文化的視点からその絵本について考える。(4.0hr)

第11回 社会環境―文化的環境３―
【　到達目標　】
自分の好きな絵本について文化的視点でまとめ、グループで発表することを通して、絵本について理解を深める。

【授業時間外学修】
絵本について小レポートを作成し、提出できるようにする。(4.0hr)

第12回　自然環境１
【　到達目標　】
自然環境にはどのような種類があるのかについて理解する。
自然との関わりに関する教育的効果について理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習を行い、自然遊びを１つ調べる。(4.0hr)

第13回　自然遊び
【　到達目標　】
自然遊びの実践をとおして、その楽しさや意義について理解する。

【授業時間外学修】
実践した自然遊びのなかで面白かった遊びについてまとめる。(4.0hr)

第14回　自然物での制作
【　到達目標　】
自然物での製作活動を通して、自然物の特徴や面白さについて知る。

【授業時間外学修】
自然物の製作活動の感想や学びをまとめる。(4.0hr)

第15回　環境とは
【　到達目標　】
子どもの成長にとって望ましい「自然環境」「社会環境」について総括する。
それぞれの環境が、子どもの成長にどう影響するか、理解する。

【授業時間外学修】
教科書、資料等を読み返し、理解を深める。(4.0hr)

【学修上の留意点】
講義では演習形式により実践やグループワーク等を多く行うため積極的に参加すること。自然の状況などにより内容を前後する場合がある。廃材、自然物、ハサミ、のり、色鉛筆、テープなどの持参をお願いする回がある。その場合、授業内で説明する。

【教科書・参考書など】
参考書：「実践例から学びを深める保育内容・領域　環境　指導法」小櫃智子編著　わかば社

【成績評価方法】
各授業回の振り返り・課題（15%）、レポート（40%）、授業内テスト（45%）で評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。合格基準は60%である。

科目名	健康	担当者	森田　陽子
英文名	Child Health		

単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CBE105		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

乳幼児が自ら積極的に体を動かして活動に取り組み、心身ともに健康な生活を営むためには、どのような援助が必要なのかを理解する。様々な観点からの知識を得ることは、適時に適切な援助ができることに繋がることを学習する。保育者を目指す者として、乳幼児期の発育・発達の基礎を理解し、さまざまな事例を知ることで、実践で役立つ力を身につける。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
「健康」の基礎的事項・理論	「健康」の基礎的事項・理論について説明できる。	「健康」の基礎的事項・理論について授業資料を参照しながら説明できる。	「健康」の基礎的事項・理論について説明できない。
「健康」の応用的事項・理論	「健康」の応用的事項・理論について説明できる。	「健康」の応用的事項・理論について授業資料を参照しながら説明できる。	「健康」の応用的事項・理論について説明できない。
「健康」の保育現場での実践	「健康」について理解し、知見を活用しながら現場での実践に繋げることができる。	「健康」について理解し、現場での実践に繋げることができる。	「健康」について理解不足で、現場での実践に繋げることができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション―健康とは―
【　到達目標　】
(1)授業内容や評価方法について知る。
(2)子どもたちの生活の変化と健康

【授業時間外学修】
この授業での目的とねらいを確認し、各自の学習目標をレポートする。(4.0hr)

第２回　幼児期の健康と生活リズム―その1(栄養) ―
【　到達目標　】
(1)健康の3条件について理解する。
(2)保護者への健康教育について学ぶ。

【授業時間外学修】
幼児期の健康と生活（栄養）についての学びをレポートする。(4.0hr)

第３回　幼児期の健康と生活リズム―その2（休養）―
【　到達目標　】
(1)健康の3条件について理解する。
(2)保護者への健康教育について学ぶ。

【授業時間外学修】
幼児期の健康と生活（休養）についての学びをレポートする。(4.0hr)

第４回　幼児期の健康と生活リズム―その3（運動）―
【　到達目標　】
(1)健康の3条件について理解する。
(2)保護者への健康教育について学ぶ。

【授業時間外学修】
幼児期の健康と生活（運動）についての学びをレポートする。(4.0hr)

第５回　生活の中での健康づくり
【　到達目標　】
(1)幼児期の生活の問題を知る。
(2)保育者（大人）の役割について知る。

【授業時間外学修】
生活の中での健康づくりについての学びをレポートする。(4.0hr)

第６回　子どものからだの発達と運動能力
【　到達目標　】
(1)出生前の発育・発達について知る。
(2)出生後の発育・発達について知る。

【授業時間外学修】
子どものからだの発達と運動能力についての学びをレポートする。(4.0hr)

第７回　体力・運動能力と動きの獲得
【　到達目標　】
(1)体力・運動能力と動きとの関係について学ぶ。

【授業時間外学修】
体力・運動能力と動きの獲得についての学びをレポートする。(4.0hr)

第８回　乳幼児の安全指導
【　到達目標　】
(1)ケガ・事故の実態について学ぶ。
(2)乳幼児への安全指導について学ぶ。

【授業時間外学修】
乳幼児の安全指導についての学びをレポートする。(4.0hr)

第９回　0～2歳児の生活と動き
【　到達目標　】
(1)0～2歳児の生活と動きについて理解する。

【授業時間外学修】
0～2歳児の生活と動きについての学びをレポートする。(4.0hr)

第10回　0～2歳児の生活習慣の獲得
【　到達目標　】
(1)0～2歳児の身辺自立について理解する。
(2)0～2歳児の生活習慣の獲得について理解する。
（附属幼稚園、附属保育園、近隣保育園で子どもの様子を見学・観察する）
【授業時間外学修】
0～2歳児を見学し、その様子からの学びをレポートする。(4.0hr)

第11回　0～2歳児のあそび
【　到達目標　】
(1)生活の中にあるあそびを知る。
(2)戸外遊びを知る。
（附属保育園、近隣保育園で子どもと一緒に遊ぶ）
【授業時間外学修】
0～2歳児のあそびについて、実際の触れ合いの中からの学びをレポートする。(4.0hr)

第12回　3～5歳児の生活習慣の獲得
【　到達目標　】
(1)3～5歳児の身辺自立について理解する。
(2)3～5歳児の生活習慣の獲得について理解する。
（附属幼稚園、近隣幼稚園で子どもの様子を見学・観察する）
【授業時間外学修】
3～5歳児の生活習慣の獲得について、実際に見学・観察した学びをレポートする。(4.0hr)

第13回　3～5歳児の運動あそびの実際
【　到達目標　】
(1)からだを使った運動あそびの実際を知る。
(2)道具を使った運動あそびの実際を知る。
（附属幼稚園、近隣幼稚園で子どもと一緒に遊ぶ）
【授業時間外学修】
3～5歳児の運動あそびの実際について、実際の運動あそびの中からのの学びをレポートする。(4.0hr)

第14回　安全への配慮
【　到達目標　】
(1)危険について理解する。
(2)リスクとハザードの実態について知る。

【授業時間外学修】
安全への配慮についての学びをレポートする。(4.0hr)

第15回　保育者（大人）の役割
【　到達目標　】
(1)子どもの育ちを理解する。
(2)保護者・家庭支援について理解する。
（附属幼稚園、近隣幼稚園で子どもの様子を見学・観察する）
【授業時間外学修】
保育者（大人）の役割についての学びをレポートする。(4.0hr)

【学修上の留意点】

単元に応じた資料を基に講義を行う。さらに内容に即した映像を使ってより理解が深められるように授業を展開していく。
授業時間外の学習に積極的に取り組むこと。毎回の授業を自筆のノートにまとめ、理解に繋げること。

【教科書・参考書など】

テキスト：『保育内容「健康」―幼児期の教育と小学校教育をつなぐ』ミネルヴァ出版（2023年）
参考書：『幼稚園教育要領』（最新版）文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）内閣府文部科学省厚生労働省、
『保育所保育指針』（最新版）厚生労働省

【成績評価方法】

毎回のレポート30%、課題プレゼンテーション30%、最終レポート40%。

科 目 名	歌唱法			担当者	堤　由衣	
英 文 名	Singing					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・選択
授業形態	実技	科目ナンバー	CBE106		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

基礎となる正しい発声法を学ぶことによって、保育現場に立った時、疲労しにくい無理のない声で指導ができるようになることを目標とする。そして、子どもたちに音楽を通して楽しい表現活動を提供できるよう、現場に直結した「歌う」「動く」などの力を養う。また、独唱・合唱などの様々な歌唱形態を体験し、授業内での発表を通して、人前で豊かに表現することを学ぶ。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保育者として必要とされる技量	子どもとともにうたを楽しむことができる	子どもを意識してうたを歌うことができる	子どもを意識してうたを歌うことに対して、苦手意識を持っている
子どものうたに対する習熟度	子どものうたの取り扱いについて習熟している	いろいろな子どものうたを歌うことができる	子どものうたのレパートリーが少ない
正しい発声	きれいな声、正確な音程・リズムで歌うことができる	正確な音程・リズムで歌うことができる	正確な音程・リズムで歌うことができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　声の出るしくみ
【　到達目標　】
声の出るしくみを理解し、声を大切にする必要性を学ぶ。
【授業時間外学修】
毎日発声練習を行う。(1.0hr)

第２回　発声法の訓練
【　到達目標　】
基本的な発声練習に慣れる。
【授業時間外学修】
毎日発声練習を行う。(1.0hr)

第３回　子どものうた①
【　到達目標　】
園生活でよく取り上げられるうたをマスターする。
【授業時間外学修】
授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)

第４回　子どものうた②
【　到達目標　】
春を題材にしたうたを学習する。
【授業時間外学修】
授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)

第５回　子どものうた③
【　到達目標　】
夏を題材にしたうたを学習する。
【授業時間外学修】
授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)

第６回　わらべうた
【　到達目標　】
日本に伝承されているわらべうたを遊びながら覚える。
【授業時間外学修】
授業で習った以外のわらべうたを探す。(1.0hr)

第７回　動きを伴ううた①
【　到達目標　】
手遊びや身体を使いながら歌ううたを実践しながら覚える。
【授業時間外学修】
授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)

第８回　動きを伴ううた②
【　到達目標　】
手遊びや身体を使いながら歌ううたを創作する。
【授業時間外学修】
いろいろな遊びうたを探す。(1.0hr)

第９回　子どものうた④
【　到達目標　】
秋を題材にしたうたを学習する。
【授業時間外学修】
授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)

第10回　子どものうた⑤
【　到達目標　】
冬を題材にしたうたを学習する。
【授業時間外学修】
授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)

第11回　子どものうたの伴奏①
【　到達目標　】
子どものうたの伴奏法を学習する。個人指導を行う。
【授業時間外学修】
子どものうたのピアノ伴奏を練習する。(1.0hr)

第12回　子どものうたの伴奏②
【　到達目標　】
子どものうたの伴奏法をマスターする。個人指導を行う。
【授業時間外学修】
子どものうたのピアノ伴奏を練習する。(1.0hr)

第13回　女声2部合唱①
【　到達目標　】
声の重なり合う美しさを感じるとともに、正確な音程を保つことができるよう心掛ける。
【授業時間外学修】
授業時に学習したうたを復習する。(1.0hr)

第14回　女声2部合唱②
【　到達目標　】
他のパートを聴きながら歌うことができるようになる。
【授業時間外学修】
授業時に学習したうたを復習する。(1.0hr)

第15回　発表会
【　到達目標　】
発表会における自分の役割を確実に果たす。音楽的な演奏ができるよう心掛ける。
【授業時間外学修】
学習したうたを子どもの前でも歌えるように復習する。(1.0hr)

【学修上の留意点】

発声・音楽的な基礎練習は毎回行う。この授業はアクティブラーニングなので、積極的に声を出し歌うことが必要である。2年次の「保育内容（表現Ａ）」で、幼稚園に行き園児といっしょに歌うので、1年次のうちにしっかり声を出し、子どものうたに慣れ親しむこと。一定の水準になるまで繰り返し学習を継続するため、必ずしもシラバス通りには進まない場合もある。

【教科書・参考書など】

『子どものうた140選』ドレミ楽譜出版社
文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）
その他、適宜楽譜を配布する。

【成績評価方法】

子どものうた・2部合唱などの実技演奏能力80%、授業内課題・発表会への取り組み方20%で評価する。

科 目 名	器楽Ⅰ			担当者	堤　由衣・森　立子 辛島　安妃子	
英 文 名	Instrumental Music Ⅰ					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・選択
授業形態	実技	科目ナンバー	CBE107		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

ピアノ演奏技能の基礎を学びながら、高い感性を培うことを目標とする。
少人数のグループレッスンの形態でスタートし、経験度、到達度に応じた個人レッスンも交えて指導する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保育者として必要とされる技量	音楽を通して子どもに働きかけることができる	音楽を子どもの前で披露することができる	音楽を子どもの前で披露するための技術が不十分である
音楽的な表現	強弱などを含め、音楽的に表現できる	強弱などは理解しているが、表現力が乏しい	強弱など表情を出すための技術が不十分である
楽譜の理解	読譜が完全にでき、他の曲にも応用ができる	読譜はできているが、応用ができない	読譜能力が不十分である

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ピアノ演奏のための基本的事項について
【　到達目標　】
楽譜と鍵盤の関係、指番号などピアノ演奏の基本的事項を理解する。
【授業時間外学修】
読譜の練習をする。(1.0hr)

第２回　バイエル14番・31番
【　到達目標　】
1の指から5の指の動きを、いろいろなパターンでマスターする。
【授業時間外学修】
音をしっかり読んだ上で、片手ずつ練習する。(1.0hr)

第３回　バイエル87番・34番
【　到達目標　】
連弾の楽しさを味わう。他の演奏者と呼吸を合わせて弾くことを学ぶ。
【授業時間外学修】
連弾なので、止まらずに演奏できるように練習する。(1.0hr)

第４回　バイエル58番
【　到達目標　】
右手のメロディーを強めに弾くとともに、左手の伴奏を柔らかく演奏する。
【授業時間外学修】
左手の伴奏型を繰り返し練習する。(1.0hr)

第５回　バイエル52番
【　到達目標　】
8分の6拍子を理解して弾く。
【授業時間外学修】
6拍子にならず、2拍子の感じを出して演奏できるようにする。(1.0hr)

第６回　バイエル66番
【　到達目標　】
8分の6拍子を理解して弾く。
【授業時間外学修】
前回に引き続き、2拍子の感じを出して演奏できるようにする。(1.0hr)

第７回　バイエル65番
【　到達目標　】
ハ長調の音階の指使いを理解する。
【授業時間外学修】
ハ長調のスケールを練習する。(1.0hr)

第８回　バイエル73番
【　到達目標　】
臨時記号を理解し、メロディーをレガートに演奏する。
【授業時間外学修】
強弱記号にも注意を払い、演奏に生かす。(1.0hr)

第９回　バイエル78番
【　到達目標　】
3声部構造を理解して弾く。
【授業時間外学修】
左手の5の指の音を保持する場合と保持しない場合を区別して練習する。(1.0hr)

第10回　バイエル80番
【　到達目標　】
二長調の音階を理解し、軽快な３拍子で演奏する。
【授業時間外学修】
装飾音や臨時記号の音を正確に読む。(1.0hr)

第11回　バイエル88番
【　到達目標　】
ト長調の音階を理解するとともに、付点のリズムをレガートに弾く。
【授業時間外学修】
ト長調の音階とその指使いを確認する。(1.0hr)

第12回　バイエル90番
【　到達目標　】
8分の6拍子を理解して弾く。重音のときにメロディーがつながるように演奏する。
【授業時間外学修】同音を連打するときの指使いを正確にし、音のバランスが取れるように練習する。(1.0hr)

第13回　バイエル93番
【　到達目標　】
一時的な平行調への転調を意識して演奏する。
【授業時間外学修】
イ短調の音階とその指使いを確認する。(1.0hr)

第14回　バイエル100番
【　到達目標　】
3部形式とコーダを理解して演奏する。
【授業時間外学修】
ヘ長調の音階とその指使いを確認する。(1.0hr)

第15回　発表会
【　到達目標　】
曲想を感じ表現するとともに、技術の向上と確実な暗譜をめざす。
【授業時間外学修】
緊張の中でも演奏できるように、曲を弾きこむ。(1.0hr)

【学修上の留意点】

毎日の練習を欠かさずおこなう。また、教員が注意した部分を取り出して練習する。

【学修上の留意点】

レッスン時に練習するだけでは進歩しないので、毎日ピアノに触り練習することを課する。個人レベルに差があるため、シラバス通りには進まない場合が多い。教員が認めた場合、ブルクミュラーなどに進む場合もある。

【教科書・参考書など】

「バイエル」（全音楽譜出版）、「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省

【成績評価方法】

実技演奏能力80%、授業における課題達成度・練習量20%で評価する。

科 目 名	バレーボール			担当者	湯浅　暁子	
英 文 名	Volleyball					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・選択
授業形態	実技	科目ナンバー	CBE108		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

バレーボールでは個人の基礎技能(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブ)の定着を図り、バレーボールゲームをおこなう上で必要な基礎技術・戦術を理解・実践し、それらをチームとしての戦術へと発展させていきスムーズなゲームの完成を目指す。またルールやゲームの進め方および審判法を理解し、ゲームの運営について学ぶことも目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
バレーボールの用語、ルール、成り立ちについて	用語、ルールをよく理解し、説明することができる	用語、基本的なルールを理解している	ルールを理解できていない
基本の技術の習得に関する事項	正しいフォームで行うことができる	正しいフォームに近い形で行うことができる	正しいフォームを形成できない
試合形式での実施に関する事項	システムを理解し、試合が行える	試合中のラリーに加わることができる	試合のシステムを理解できていない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　バレーボールの歴史と発展
【　到達目標　】
(1)バレーボールの起源、発展、ルールの変遷等を理解する。

【授業時間外学修】
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第２回　基礎技能の習得Ⅰ(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス)
【　到達目標　】
(1)各パスをおこなうための体の使い方を理解する。
(2)ボールを正確にコントロールする能力を身につける。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第３回　基礎技能の応用(各種レシーブ・トス)
【　到達目標　】
(1)強いボールに対する対応、移動しながらの技能を身につける。
(2)方向転換していろいろな方向へコントロールできる。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第４回　基礎技能の習得Ⅱ(サーブ)
【　到達目標　】
(1)アンダーハンドサーブ、フローターサーブの打ち方をマスターする。
(2)狙ったコースへコントロールできる。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第５回　基礎技能の習得Ⅲ(スパイク)
【　到達目標　】
(1)助走のステップ、スイングを身につける。
(2)タイミングを合わせてボールを打つことができる。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第６回　集団技能の理解と集団での技術・戦術
【　到達目標　】
(1)基礎技能と集団技能の結びつきについて理解する。
(2)集団で発揮する技術・戦術を理解する。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第７回　基本戦術の習得Ⅰ(3段攻撃)
【　到達目標　】
(1)「レシーブ→トス→スパイク」の流れを理解・実践する。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第８回　基本戦術の習得Ⅱ(フォーメーション)
【　到達目標　】
(1)基礎的な守備フォーメーションを理解・実践する。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第９回　ゲームの進め方・ルール・審判法の理解
【　到達目標　】
(1)ゲームを行う上での主なルールを理解する。
(2)主審・線審の役割とシグナル方法を理解する。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第10回　ゲーム実践Ⅰ
【　到達目標　】
(1)オフィシャルルールで実践する。
(2)すべてのポジションの役割を経験する。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第11回　個人技能の評価方法と技能修正方法
【　到達目標　】
(1)オフィシャルルールで実践する。
(2)すべてのポジションの役割を経験する。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第12回　個人技能の評価方法と技能修正方法
【　到達目標　】
(1)個人技能の評価方法を理解し、実践できる。
(2)個人技能の正しい方法への修正をすることができる。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第13回　バレーボールのポジションとその役割の理解
【　到達目標　】
(1)セッター・リベロ・スパイカーについて理解・実践する。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第14回　ゲーム実践Ⅲ
【　到達目標　】
(1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。
(2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第15回　ゲーム実践Ⅳ
【　到達目標　】
(1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。
(2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

【学修上の留意点】

実習の授業なので、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特にアクセサリー類の着用は禁止とし、また髪が長い者は必ず束ねて授業に参加すること。バレーボールはチームスポーツである。そのため、基本的にグループ単位で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。不明な点はそのままにせず、教員に質問する等解決のための努力を怠らないようにすること。

【教科書・参考書など】

教科書は特になし。

【成績評価方法】

基礎技能の実技テストを80%、ゲーム実践の達成度を20%として評価する。

科目名	スキー			担当者	中丸　信吾	
英文名	Skiing					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・選択
授業形態	実習	科目ナンバー	CBE109		卒業認定方針との関連	⑦

【目的とねらい】

この授業の目的は、スキーの基本技術や理論、ルールやマナーを実践を通して学習し、ゲレンデで楽しく安全にスキーをする技術を習得することである。また、本実習を通して、生涯スポーツとして自然の中でスキーを楽しむ素養を身に着けることをねらいとしている。併せて、本実習は宿泊集中授業で行うため、集団生活での配慮行動についても学習することとする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スキーの理論およびルール・マナーの理解	理論やルール・マナーを理解し自ら説明できる。	資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
安全かつ効率の良いスキー技能の習得	急斜面や不整地で安全かつ効率良く滑ることができる。	中斜面で安全かつ効率良く滑ることができる。	緩斜面で滑ることができない。
集団生活での配慮行動	自ら率先して集団生活をよりよくするための働きかけができる。	自ら考えて集団生活での配慮行動ができる。	集団生活の配慮行動ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

2月中旬から下旬において学外での宿泊実習（4泊5日）を行う。実習参加者は、複数回の事前指導に参加するものとする。

【到達目標】

1．スキーの理論およびルール・マナーについて実践を通して理解する。
(1)ターンの原理を理解する。
(2)スキー場でのルール・マナーを理解する。

2．安全かつ効率の良いスキー技能を習得する。
(1)スタンスとポジション
(2)登行、直滑降、制動と停止、プルークファーレン
(3)プルークボーゲン
(4)滑走プルーク
(5)横滑りの展開
(6)シュテム動作
(7)基礎パラレルターン　小回り
(8)基礎パラレルターン　大回り
(9)総合滑降

3．集団生活での配慮行動を実践を通して理解する。

【授業時間外学修】

自由時間を利用し、各回の技術を理解・習得し、滑れるようになる。

【授業時間外学修】

事前・事後指導に参加し、2月に行うスキー実習（参加費￥80,000程度)に参加すること。学外で実施するため、服装、言葉使いなど、日本女子体育大学の学生として相応しい言動を行うこと。宿泊を伴うため、集団生活のあり方を十分理解し、他人に配慮した行動をとること。実習はグループ毎に活動するので、協力しながら積極的に取り組むこと。用具の取り扱いや管理は丁寧に行うこと。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。
参考書：「日本スキー教程」（公財）全日本スキー連盟、2014年

【成績評価方法】

レポート20%、スキー技術の理解度と習熟度70%、集団生活の適応度10%。

科 目 名	スケート			担当者	湯田　淳	
英 文 名	Skating					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・選択
授業形態	実習	科目ナンバー	CBE110		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】
スケートの未経験者及び初級レベルを対象にして集中授業（3泊4日の学外実習）を実施する。スケートの概要（特性、歴史、用具、技術）、滑走の基礎技術、応用技術、グループスケーティング等について学習及び実習を行う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スケート（滑走）の基礎的事項・理論について	理論を理解し自らまとめて説明できる。	理論を参考書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
スケート（滑走）の技能に関する事項	要点を押さえ、状況に応じた十分な滑走ができる。	指示に従って滑走できる。	技能の習得が不十分で滑走できない。
スケート（滑走）の知見・技能の活用に関する事項	知見・技能を十分に活用し、他者の水準に応じた適切な指導ができる。	知見・技能の活用に関する理解はできており、他者の指導ができる。	知見・技能の活用に関する理解が不十分で、他者の指導ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】
５～７月に学内でガイダンスを実施することによってスケートへの理解を深め、９月に学外実習を実施する。

【到達目標】
１．ガイダンス（事前ガイダンス（学内）１）
実習の全体像（宿泊場所、実施場所・施設、日程、時程）を理解する。
２．スケートの概要（事前ガイダンス（学内）２）
ビデオで、スケートの全体構造及びリンクでの安全な行動法を理解する。
３．リンクでの安全な行動法、基礎技術（前進滑走）（学外実習１）
氷上への安全な入退場、安全な転倒法、転倒後の立ち上がり法を実践する。前方への歩行、滑走をできるようにする。
４．グループミーティング（目標設定、集団行動）（学外実習２）
実習での個々の目標を明確にする。集団行動についての理解を深める。
５．講義（学外実習３）
スピードスケート、ホッケー、フィギュアスケート、アイスダンスについてビデオ鑑賞し、解説を行い、概略を理解する。
６．基礎技術（前進滑走，後進滑走）（学外実習４）
前進滑走および後方への歩行、滑走をできるようにする。
７．基礎技術（カーブ滑走）（学外実習５）
前進滑走から半円上を惰力滑走できるようにする。
８．基礎技術（ターン滑走）（学外実習６）
前進滑走から後進滑走、後進滑走から前進滑走へ変換できるようにする。
９．応用技術（連続滑走、停止）（学外実習７）
ストロークを大きくし、長い距離を滑走できるようにする。イの字あるいはハの字でブレーキング及び停止をできるようにする。
１０．グループスケーティング（学外実習８）
2～3人のグループで滑走できるようにする。
１１．グループミーティング（発表準備）（学外実習９）
編成したグループでの演技発表の内容を作成する。
１２．応用技術（組み合わせ滑走）、フォークダンス（学外実習１０）
前進、後進、カーブ、ターン滑走そして停止を組み合わせ、連続してできるようにする。フォークダンス（汽車）を音楽にのってできるようにする。
１３．グループスケーティング、ミニホッケー（導入）（学外実習１１）
実習班全員で音楽に合わせて滑走できるようにする。ミニホッケーに必要な基礎技術を実践する。
１４．試験課題の滑走、グループによる演技発表の準備（学外実習１２）
実習班ごとでの技術試験課題を実践する。編成したグループで演技構成したスケーティングを音楽に合わせて実践する。
１５．試験、グループによる演技発表（学外実習１３）
試験課題を達成できるようにする。編成したグループによるグループスケーティングを発表する。

【授業時間外学修】
自身の滑走動作改善のための課題を確認し、改善のための方策を検討する。

【授業時間外学修】
学外で宿泊して集団生活をしながら行う本実習では、一定期間における食事・睡眠など心身の健康の維持・管理（コンディショニング）が不可欠である。さらに他の学生や一般客そして従業員の方々との交流の中では礼儀やマナーのある行動を必要とする。寒冷な中での実習なので着衣するものに注意が必要である。

【教科書・参考書など】
教科書：教科書は使用しない。
参考書：「改訂　アイススケーティングの基礎」　大学スケート研究会編（アイオーエム）

【成績評価方法】
実技試験の達成度を40%、演技発表の完成度を40%、実習レポートの達成度を20%の割合として評価する。

科目名	救急処置法			担当者	夏井　裕明	
英文名	First Aid					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門基礎・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CBE202		卒業認定方針との関連	⑤⑦

【到達目標】

本講義は臨床スポーツ医学の外科系および内科系として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅲに関する内容を扱う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
外傷各論	頭部・体幹・四肢外傷・障害の応急処置を説明できる	頭部・体幹・四肢外傷・障害の応急処置が理解できている	頭部・体幹・四肢外傷・障害の応急処置が理解できていない
スポーツ医学各論	内科的応急処置を説明できる	内科的応急処置が理解できている	内科的応急処置が理解できていない
心肺蘇生法	心肺蘇生法を実践できる	心肺蘇生法を説明できる	心肺蘇生法が理解できている

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。
【授業時間外学修】
シラバスを参考にして、授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第２回 女性とスポーツⅠ（受精から性成熟期まで）
【　到達目標　】
女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 256 - 260　を読む。(4.0hr)

第３回 女性とスポーツⅡ（妊娠・出産から更年期まで）
【　到達目標　】
女性の一生のうち、妊娠・出産および更年期におけるスポーツ医学的問題を理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 260 - 262　を読む。(4.0hr)

第４回 応急処置総論
【　到達目標　】
RICE処置の内容・方法・効果について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 42 - 47　を読む。(4.0hr)

第５回 頭部のスポーツ外傷
【　到達目標　】
意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 36 - 39、55 - 58、157 - 160　を読む。(4.0hr)

第６回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（鎖骨から肩関節）
【　到達目標　】
鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 62 - 72　を読む。(4.0hr)

第７回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（上腕から手指）
【　到達目標　】
上腕から手指までのスポーツ外傷・障害について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 72 - 89　を読む。(4.0hr)

第８回 体幹のスポーツ外傷・障害（頸部から腰部）
【　到達目標　】
頭部から腰部までのスポーツ外傷・障害について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 58 - 61、89 - 100　を読む。(4.0hr)

第９回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（膝関節）
【　到達目標　】
膝のスポーツ外傷・障害について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 105 - 123　を読む。(4.0hr)

第10回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（大腿、下腿、足部）
【　到達目標　】
大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 100 - 105、123 - 139　を読む。(4.0hr)

第11回 内科的疾患とスポーツⅠ（循環器・呼吸器の急性疾患）
【　到達目標　】
運動中の突然死、過換気症候群、運動誘発性喘息とその対策について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 147 - 153、163 - 171、187 - 198　を読む。(4.0hr)

第12回 内科的疾患とスポーツⅡ（慢性疾患と感染症）
【　到達目標　】
貧血と主な感染症について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 180 - 182を読む。(4.0hr)

第13回 内科的疾患とスポーツⅢ（熱中症）
【　到達目標　】
熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 153 - 157　を読む。(4.0hr)

第14回　心肺蘇生法の理論
【　到達目標　】
心肺蘇生法の理論について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 213 - 220　を読む。(4.0hr)

第15回　心肺蘇生法実習
【　到達目標　】
心肺蘇生法実習を通じて、BLS（Basic Life Support）ができるようになる。
【授業時間外学修】
BLSヘルスケアプロバイダー　マニュアル　を読む。(4.0hr)

【学修上の留意点】

本科目は選択科目である。
第15回の心肺蘇生法実習は夏休みの補講・集中講義期間中に対面で実施する。
パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。講義の最後に小テストを行い、講義内容の理解度を確認する。

【実務経験のある教員による授業科目】

医師およびスポーツドクターとしての臨床経験を活かし、競技スポーツや学校体育、社会体育におけるスポーツの実践や指導に関連する臨床スポーツ医学のうち、外科系の内容について講義を行う。

【教科書・参考書など】

参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第２版）」、小出清一他編、南江堂
「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」、公益財団法人　健康・体力づくり事業財団
「公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ・Ⅲ」、公益財団法人　日本スポーツ協会

【成績評価方法】

期末試験成績（100%）で成績を評価する。合格基準は60%以上である。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	造形表現Ⅱ			担当者	本永　直子	
英文名	Formative Expression Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門基礎・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CBE204		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

１年次の造形表現Ⅰで学んだ基本的な技能や理論を展開させ、主に立体的、空間的創作を通じて、各種造形素材の特質や複合的な表現技法等を学び、指導者としての基礎技能を発展させるとともに、自らの表現力と教材への応用力を高める。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
子どもの造形的発達について	理解に基づき、説明することが出来る。	資料等を参照しながら説明すること出来る。	理解が不十分で説明することが出来ない。
造形表現素材への理解と利用について	理解に基づき、適切に用いることが出来る	資料等を参照しながら適切に用いることが出来る。	理解が不十分で適切に用いることが出来ない。
造形表現技術及び技能について	適切に用いることが出来る。	資料等を参考にしながら適切に用いることが出来る。	理解が不十分で適切に用いることが出来ない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　「造形表現」とは何か／立体表現/造形遊びと素材研究
【　到達目標　】
子どもの遊びから芸術作品まで幅広く捉える。

【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第２回　造形表現と平面
【　到達目標　】
造形表現Ⅰを振り返り、面・線・色彩で表す。また、実際に制作と発表を体験することで、子どもたちと関わるための展開を実践的に理解する。

【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第３回　造形表現と素材（色紙）
【　到達目標　】
「折る」「広げる」「切る」などの行為を加えることによって様々な形に変化する紙の特性を知り、実際に造形活動を行うことで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。

【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第４回　造形表現と素材（新聞紙）
【　到達目標　】
「くしゃくしゃにする」「丸める」「破く」「ねじる」などの行為を加えることによって、様々な形や質感に変化する紙の特性を知り、実際に造形活動を行うことで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。
【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第５回　造形表現と素材（トイレットペーパー）
【　到達目標　】
「包む」「まく」「ちぎる」「やぶく」などの行為を加えることによって、様々な形や質感に変化する紙の特性を知り、実際に造形活動を行うことで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。
【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第６回　造形表現と素材（〇＋水）
【　到達目標　】
〇に水を加え、更に「混ぜる」「ねる」「こねる」などの行為を加えることによって様々な形や質感に変化する特性を知り、実際に造形活動を行うことで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。
【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第７回　造形表現と素材（粘土）
【　到達目標　】
「こねる」「のばす」「たたく」「押し付ける」などの行為を加えることによって様々な形や質感に変化する粘土の特性を知り、実際に造形活動を行うことで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。
【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第８回　造形表現と素材（プラスチック）
【　到達目標　】
「切る」「つなぐ」「重ねる」などの行為を加えることによって、様々な形に変化するプラスチックの特性を知り、実際に造形活動を行うことで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。
【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第９回　造形表現と素材（ビニール袋小・中）
【　到達目標　】
「切る」「結ぶ」「つなぐ」などの行為を加えることによって、様々な形に変化するビニールの特性を体験し、実際に造形活動を行うことで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。
【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第10回　造形表現と素材（ビニール袋大・縦長）
【　到達目標　】
「切る」「結ぶ」「つなぐ」などの行為を加えることによって、様々な形に変化するビニールの特性を知り、実際に造形活動を行うことで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。
【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第11回　造形表現とからだ
【　到達目標　】
ビニールや紙の性質や特性をいかしてお洋服づくりを体験することで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。

【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第12回　造形表現と空間
【　到達目標　】
ビニールや紙の性質や特性をいかして部屋飾り作りを体験することで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。

【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第13回　造形表現と素材（ダンボール大）
【　到達目標　】
「切る」「折る」「貼る」などの行為を加えることによって、ダンボールの性質や特性を知り、「貼る」「吊るす」「ひっかける」「立てかける」など、仕切ることで変化する空間を知ることで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。
【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第14回 造形表現と素材（ダンボール小）
【　到達目標　】
「切る」「折る」「貼る」などの行為を加えることによって、ダンボールの性質や特性を知り、「貼る」「吊るす」「ひっかける」「立てかける」などの仕切ることで様々な空間に変化する空間を知ることで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。
【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第15回　まとめ
【　到達目標　】
これまでの活動や体験を振り返ることで子どもの造形遊び・造形活動について話し合うと共に、子どもの造形表現・造形活動について理解を深める。

【授業時間外学修】
広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

【学修上の留意点】

実習が中心になるので自律的に活動すること。造形作業のしやすく汚れても良い服装を心掛け、基本的な用具（画材や文房具等）は各自で用意する。適宜、学生相互の作品鑑賞を行い、教員や学生同士で意見を交換することでフィードバックを行う。なお、受講生の状況にあわせて内容の組かえや調整を行うことがある。

【教科書・参考書など】

東山明編著『絵画・製作・造形あそびカンペキBOOk』ひかりの国
樋口一成編著『幼児造形の基礎－乳幼児の造形表現と造形教材－』萌文書林

【成績評価方法】

制作過程を60%、ノートやワークシート等の提出物を30%、課題作品や発表10%として総合的に評価する。

科 目 名	運動あそび	担当者	木皿　久美子・森田　陽子
英 文 名	Plays and Games for Children		

単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門基礎・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CBE205		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

設定された運動あそびのテーマについて、対象となる幼児の発達に適した指導案を作成し事前指導を受ける。作成した指導案に基づき附属みどり幼稚園の園児とともに運動あそびを実践する。実践の後にディスカッションを行うことで、次週への課題を得るという演習形式で授業を展開する。事前、実践、事後の指導を通して、子どもを主体にした運動あそびはどのように行われるべきか、子どもがあそびを発見し創造し発展させていく活動の中で保育者がどのように準備し、どのように見守り、どのように関わればよいのかについて学ぶことを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
運動遊びの基礎的事項・理論と実践	運動遊びの基礎的事項・理論と実践を理解し、発育発達に応じた指導案を作成することができる。	運動遊びの基礎的事項・理論と実践を理解し、指導案を作成できる。	運動遊びの基礎的事項・理論と実践の理解が不足し、指導案が作成できない。
運動遊びの応用的事項・理論と実践	運動遊びの応用的事項・理論と実践を理解し、発育発達に応じた指導案を作成することができる。	運動遊びの応用的事項・理論と実践を理解し、指導案を作成することができる。	運動遊びの応用的事項・理論と実践の理解が不足し、指導案が作成できない。
保育現場における運動遊びの指導実践	保育現場における幼児体育の実践において適切な指導や補助、環境構成ができる。	保育現場における幼児体育の実践において、指導や補助、環境構成ができる。	保育現場における幼児体育の実践（適切な指導や補助、環境構成）ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
(1)オリエンテーションを受け、授業の進行について理解する。
(2)指導案の作成の仕方を理解する。
(3)ディスカッションの観点、評価の仕方について理解する。
【授業時間外学修】
指導案立案の準備をする。(4.0hr)

第２回　リーダーの決定、遊具の確認
【　到達目標　】
(1)計画表に基づき指導担当日を決め、原案を検討する。
(2)施設や遊具について確認し、環境構成について考える。
【授業時間外学修】
指導案立案の準備をする。(4.0hr)

第３回　からだを使った運動あそび…年長児
【　到達目標　】
(1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。
【授業時間外学修】
事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)

第４回　手具を使った運動遊び…年中児
【　到達目標　】
(1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。
【授業時間外学修】
事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)

第５回　運動能力測定を実施する…全園児
【　到達目標　】(1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。
(2)担当した種目の測定を実施する。
(3)子どもの様子を観察し、ノートに記録する。
(4)測定結果のデータを整理する。
【授業時間外学修】
事後学習として授業内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)

第６回　ボールを使った運動遊び…年少児
【　到達目標　】
(1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。
【授業時間外学修】
事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)

第７回　巧技台を使った運動遊び…年長児
【　到達目標　】
(1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。
【授業時間外学修】
事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)

第８回　縄を使った運動遊び…年中児
【　到達目標　】
(1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。
【授業時間外学修】
事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)

第９回　布を使った運動遊び…年少児
【　到達目標　】
(1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。
【授業時間外学修】
事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)

第10回　ボールを使った運動遊び…年長児
【　到達目標　】
(1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。
【授業時間外学修】
事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)

第11回　功技台を使った運動遊び…年中児
【　到達目標　】
(1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。
【授業時間外学修】
事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)

第12回　行事を意識した運動あそび…異年齢児
【　到達目標　】
(1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。
【授業時間外学修】
事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)

第13回　手作りの道具を使った運動遊び…年少児
【　到達目標　】
(1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。
【授業時間外学修】
事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)

第14回　伝承遊び…年中児
【　到達目標　】
(1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。
【授業時間外学修】
事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)

第15回　サーキット遊び…年長児
【　到達目標　】
(1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。
【授業時間外学修】
事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

子どもと直接関わる授業なので、学生としてというよりも、教員（保育者）としてふさわしい服装、髪型で出席すること。毎週2・3人のリーダーが運動あそびを展開していくことになるのでその内容について十分に検討して指導案を作成し、事前指導を受けること。実践では内容や言葉かけが年齢に合っていたか、安全面の配慮はなされていたか、子どもが主体で楽しんでいたかなどについて記録する。毎回記録に基づきグループディスカッションをする。ディスカッションによって得られた課題を次週に活かしていく。

【教科書・参考書など】

「0歳児から5歳児　運動あそび12ヶ月」小学館（2022年）

【成績評価方法】

実践指導70%（指導案作成、指導の実践、ディスカッション、実践後提出された指導案）、提出されたノートの内容を30%、を目安に評価する。

科目名	バスケットボール			担当者	佐々木　直基	
英文名	Basketball					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門基礎・選択
授業形態	実技	科目ナンバー	CBE111		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

バスケットボールのゲームを行うために必要とされる基礎的な個人技術を習得し、その上でグループ・チーム戦術へと発展させ、ゲームの中で習得した個人技術、グループ・チーム戦術を発揮することが目的である。さらに、ルールを理解することも目的である。また習得した個人技術、グループ・チーム戦術を実際に指導するための基礎作りが本実習のねらいとなる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
知識と技能について	バスケットボールの知識（技術・戦術やルール）をしっかりと説明でき、技能をゲームで十分に発揮することができる	バスケットボールの知識（技術・戦術やルール）を説明でき、技能をゲームで発揮することができる	バスケットボールの知識（技術・戦術やルール）を説明することができず、技能をゲームで発揮することができない
思考力・判断力・表現力について	グループ活動の中で自らの意見を理解してもらえるよう仲間に伝えることができる	グループ活動の中で自らの意見を仲間に話すことはできる	グループ活動の中で自らの意見を仲間に十分に伝えることができない
学びに向かう力について	授業に対して主体的・積極的に非常によく取り組むことができる	授業に対して主体的・積極的に取り組むことができる	授業に対して主体的・積極的に取り組むことができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　授業のねらいと進め方
【　到達目標　】
1　授業のねらいと進め方、バスケットボールの特性を理解する。
2　導入としてコーディネーショントレーニングの必要性を理解し、実践する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第２回　基礎的な個人技術　ドリブルシュート①
【　到達目標　】
1　ワンハンドでのオーバーハンド・レイアップシュートの技術を理解し、習得する。
2　利き手および非利き手でのワンハンドでのオーバーハンド・レイアップシュートの習得を目指す。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第３回　基礎的な個人技術　ワンハンドシュート①
【　到達目標　】
1　ゴール下でのワンハンドシュートの技術を理解し、習得する。
2　利き手および非利き手でのワンハンドシュートの習得を目指す。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第４回　基礎的な個人技術　パスとキャッチ①
【　到達目標　】
1　ボールキャッチの技術を理解し、習得する。
2　いろいろなパスの技術を理解し、習得する。
3　試しのゲームを実践する。
【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第５回　ゲーム
【　到達目標　】
1　バスケットボールの特性を理解し、ゲームを実践する。
2　チームの仲間と協力してゲームを実践する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第６回　基礎的な個人技術　ドリブルシュート②
【　到達目標　】
1　ドリブルからのワンハンドでのオーバーハンド・レイアップシュートを理解し、習得する。
2　利き手および非利き手でのドリブルを習得する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第７回　基礎的な個人技術　ワンハンドシュート②
【　到達目標　】
1　動きながらのゴール下ワンハンドシュートを理解し、習得する。
2　ワンハンドシュートでのシューティングゲームを実践する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第８回　基礎的な個人技術　パスとキャッチ②
【　到達目標　】
1　走りながらのパスとキャッチを理解し、習得する。
2　走りながらのパスとキャッチを用いた対人ドリルを実践する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第９回　ゲーム〔リーグ戦①〕
【　到達目標　】
1　リーグ戦形式でのゲームを実践する。
2　バスケットボールのルール、試合運営方法を理解する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第10回　グループ戦術　パス＆ラン
【　到達目標　】
1　グループ戦術としてのパス＆ランの原則を理解し、習得する。
2　ゲームの中でパス＆ランが実践できるよう目指す。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第11回　グループ戦術　ドライブ＆合わせ
【　到達目標　】
1　グループ戦術としての１対１（ドライブ）とそこからの合わせの原則を理解し、習得する。
2　ゲームの中でドライブ＆合わせが実践できるよう目指す。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第12回　ゲーム〔リーグ戦②〕
【　到達目標　】(1)ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。
1　リーグ戦形式でのゲームを実践する。
2　バスケットボールのルール、試合運営方法を理解する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第13回　チーム戦術　５人でのセットプレー
【　到達目標　】
1　５人でのセットプレーを理解し、習得する。
2　ゲームの中でセットプレーが実践できるよう目指す。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第14回　ゲーム〔リーグ戦③〕
【　到達目標　】
1　リーグ戦形式でのゲームを実践する。
2　バスケットボールのルール、試合運営方法を理解する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第15回　基礎的な個人技術の総合的検証
【　到達目標　】
1　習得した基礎的な個人技術の習熟度を検証する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

【学修上の留意点】

実習の授業となるため、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリー類は決して身につけない。本実習はグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、バスケットボールのルールを理解し、ゲームでは審判を行うこともあるので、ゲームの知識・理解を深めるように努める。

【教科書・参考書など】

参考書
「バスケットボール指導教本改訂版　上・下巻」（公財）日本バスケットボール協会編（大修館書店）

【成績評価方法】

平常授業での到達目標に対する到達度を60%、スキルテストを40%として評価する。

科 目 名	陸上競技			担当者	中野　美沙	
英 文 名	Track and Field					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門基礎・選択
授業形態	実技	科目ナンバー	CBE112		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

陸上競技は、走・跳・投運動による最大達成を競う競技である。多くの種目の中から、走種目として100m走、跳種目として走り幅跳び、投種目として砲丸投げを取り上げ、それぞれの種目を実習し、基本技能を習得する過程を経験すること、それぞれの種目の学習方法について理解することを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
陸上競技の技能について	基本的な技能だけでなく発展的な技能まで実践できる。	基本的な技能を実践できる。	基本的な技能を実践できない。
陸上競技の理論について	理論を理解し自分の動きに応用できる。	理論を理解し説明できる。	理論の理解が不十分で説明できない。
陸上競技の競技規則について	競技規則を理解し、正しく競技運営を行うことができる。	競技規則を理解し説明できる。	競技規則の理解が不十分で説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　授業内容の説明（採点表）
【　到達目標　】
100m走、走り幅跳び、砲丸投げの種目特性を理解する。また、単位認定の条件（達成記録、習熟度）を確認する。

【授業時間外学修】
陸上競技の種目およびルールを調べる。(1.0hr)

第２回　100m走：中間疾走
【　到達目標　】
短距離走の走り方として、中間疾走の支持局面を意識して実践してみる。

【授業時間外学修】
中間疾走の技術を高めるためにはどのような練習方法があるか調べる。(1.0hr)

第３回　100m走：クラウチングスタート
【　到達目標　】
自分に合ったクラウチングスタートの方法を身につける。

【授業時間外学修】
スターティングブロックに上手く力を加える方法を考えまとめる。(1.0hr)

第４回　100m走：スタート～加速
【　到達目標　】
クラウチングスタートから最高速度に到達するまでの加速局面で、問題点を把握し、その改善を図る。

【授業時間外学修】
スムーズに加速するためにはどのような練習方法があるか調べる。(1.0hr)

第５回　100m走：スタート～中間疾走
【　到達目標　】
100m走記録測定の準備として、100mという距離を体感する。その中で、前半と後半の身体への負担がどのようであるかを実感し、特に後半の走り方をイメージできるようにする。

【授業時間外学修】
100m後半の減速を最小限に抑えるためにはどのような意識が大切かまとめる。(1.0hr)

第６回　100m走記録測定
【　到達目標　】
100m走の記録測定を行う。達成記録がどのレベルにあるかを把握する。

【授業時間外学修】
100m走の内省と記録を照らし合わせ、記録を更新するために必要なことをまとめる。(1.0hr)

第７回　走り幅跳び：基本技術とルール
【　到達目標　】
走り幅跳びの一連の動きを実習しながら、基本技術およびルールを身につける。

【授業時間外学修】
基本技術を高める練習方法を調べる。(1.0hr)

第８回　走り幅跳び：短助走跳躍
【　到達目標　】
短助走跳躍を実践する中で、自分に合った効果的な踏切技術を探り当てる。

【授業時間外学修】
踏切技術を高める練習方法を調べる。(1.0hr)

第９回　走り幅跳び：全助走跳躍
【　到達目標　】
踏切版に足が合う正確な助走距離を見つけ出す。

【授業時間外学修】
ファールをしないためには、どのようなことを意識して助走すれば良いかまとめる。(1.0hr)

第10回　走り幅跳び：記録測定①
【　到達目標　】
走り幅跳びの記録測定を行う。達成距離がどのレベルにあるかを把握する。

【授業時間外学修】
走り幅跳びの内省と記録を照らし合わせ、記録を更新するために必要なことをまとめる。(1.0hr)

第11回　走り幅跳び：記録測定②
【　到達目標　】
前回の記録を更新するための改善点を見つけ出し、より高いレベルにチャレンジする。

【授業時間外学修】前回に比べ改善できた点をまとめ、さらに記録を更新するために必要なことを考察する。(1.0hr)

第12回　砲丸投げ：基本技術とルール
【　到達目標　】
砲丸投げの基本技術である突き出し動作のドリルを実習する。また、砲丸投げのルールを理解する。

【授業時間外学修】
突き出し動作を強くする練習方法を調べる。(1.0hr)

第13回　砲丸投げ：メディシンボールでの突き出し
【　到達目標　】
メディシンボールでの突き出し、砲丸での突き出しを繰り返し行うことによって、合理的な突き出し動作を身につける。

【授業時間外学修】
合理的な突き出し動作をするために意識することをまとめる。(1.0hr)

第14回　砲丸投げ：ホップ、グライドからの投げ
【　到達目標　】
突き出しがより力強く行われるように、サークル内でホップ、ステップの「助走」をつけて行う。うまく加速できる方法を見つけ出す。

【授業時間外学修】
助走のスピードをうまく砲丸に伝えるために意識することをまとめる。(1.0hr)

第15回　砲丸投げ記録測定
【　到達目標　】
砲丸投げの記録測定を行う。その記録がどのレベルにあるか把握する。

【授業時間外学修】
砲丸投げの内省と記録を照らし合わせ､記録を更新するために必要なことをまとめる。(1.0hr)

【学修上の留意点】

各種目の技能を習得するため、ふさわしい服装とシューズを使用すること。また、目標記録到達を手助けする手段としてスパイクシューズの使用が望ましい。適宜ルール等に関する小テストを実施し、授業内でフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

「陸上競技指導教本アンダー16・19［初級編］　基礎から身につく陸上競技」公益財団法人日本陸上競技連盟 編（大修館書店）
「陸上競技指導教本アンダー16・19［上級編］　レベルアップの陸上競技」公益財団法人日本陸上競技連盟 編（大修館書店）

【成績評価方法】

各種目の実技試験における達成記録による評価を70%、動きの習熟度による評価を30%として評価する。

科 目 名	野外活動			担当者	中丸　信吾	
英 文 名	Outdoor Activities					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2				専門基礎・選択	専門基礎・選択
授業形態	実習	科目ナンバー	CBE206		卒業認定方針との関連	⑦

【目的とねらい】

この授業の目的は、自然を活用したキャンプを行い、キャンプに必要な野外生活技術、環境を配慮した活動、登山等の活動、クラフト、キャンプファイヤー等を体験し学ぶことである。また、キャンプを通して自分自身や対人関係の理解、環境への配慮、リスクマネジメントの観点について考えることができるようになることをねらいとしている。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
キャンプに必要な技能や環境配慮行動の習得	技能や環境配慮行動を理解し自ら説明できる。	資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
キャンプを通した対人関係の理解と構築	対人関係を理解し構築することができる。	対人関係を理解することができる。	対人関係を理解できない。
リスクマネジメントの理解と実践	リスクマネジメントを理解し実践することができる。	リスクマネジメントを理解することができる。	リスクマネジメントを理解できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

8月下旬から9月中旬において学外での宿泊実習（3泊4日）を行う。実習参加者は、複数回の事前指導に参加するものとする。

【到達目標】

1．キャンプに必要な技能や環境配慮行動を習得する。
(1)テント・タープ、野外炊事、テント泊、登山、キャンプファイヤー、クラフトの技能を習得する。
(2)人間と自然との関わりについて理解し、歓呼湯(環境？）に配慮した行動を習得する。

2．キャンプを通して対人関係を理解し実践する。
(1)キャンプ生活において協同的な態度を習得する。
(2)キャンプ生活において他者の立場に立った視点で行動する。

3．リスクマネジメントを理解し実践する。
(1)各種活動において安全に活動を行う方法を理解し実践する。
(2)各種活動におけるリスクマネジメントを理解し実践する。

【授業時間外学修】

各回の授業内容を理解し、実践につなげられるようにする。キャンプ実習のレポートを提出する。

【授業時間外学修】

野外教育の理解を深めるため、「野外教育論」を履修することが望ましい。
事前・事後指導に参加し、8月末または9月上旬に行うキャンプ実習（¥30,000程度）に参加すること。学外で実施するため、服装、言葉使いなど、日本女子体育大学の学生として相応しい言動を行うこと。キャンプ中はグループで活動する場面が非常に多いため、各種活動ではグループへ貢献するとともに、各係の役割でリーダーシップを取ることを心がける。装備の取り扱いや管理は丁寧に行うこと。
日本キャンプ協会公認キャンプインストラクター資格を希望する学生は、「野外活動」および「野外教育論」を受講した上、認定試験に合格し資格申請をすることで取得できます。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。
参考書：「キャンプ指導者入門」（公社）日本キャンプ協会、2016年

【成績評価方法】

野外教育の理解とそれに伴う技術の習熟度80%、レポート20%

科 目 名	子ども家庭支援論			担当者	石川　円	
英 文 名	Theory of Child and Family Support					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門基礎・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CBE301		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

本講義では、保育士や幼稚園教諭による子ども家庭支援の基本について学ぶ。実際に起きた事例を分析・考察しながら、子育て家庭の状況やニーズを理解し、支援の展開や保育士の行う相談や支援の意義、役割について理解を深める。これまでの講義や実習で得た保育の専門的な知識をどのように活用するか、グループワークなどを通じて考察し、子育て家庭支援の知識や技術の習得を目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
家族の諸相と社会状況の変化について	変遷と現状を理解し、自らまとめ説明することができる	変遷と現状について、資料を参考にしながら説明することができる	理解が不十分で説明できない
子育て支援体制について	内容を自らまとめ説明することができる	内容を資料を参考にしながらまとめることができる	理解が不十分でまとめられない
事例の分析について	自ら対策を提案し、その根拠を説明することができる	教科書や資料を参考にしながら対策を提案し、その根拠を説明することができる	理解が不十分で提案できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　子ども家庭支援の意義と必要性
【　到達目標　】子育て家庭をとりまく社会状況、子育て家庭が抱える支援の必要性、子育て家庭を取り巻く社会状況と、子育て家庭のニーズを理解する。

【授業時間外学修】
＜予習＞教科書の該当部分を読む
＜復習＞授業内容をノートにまとめる(4.0hr)

第２回 子ども家庭支援の目的と機能
【　到達目標　】保育士等が行う子育て支援の目的、子育て家庭支援の概要について理解する。

【授業時間外学修】
＜予習＞教科書の事例を読む
＜復習＞保育士に求められる支援技術を整理する(4.0hr)

第３回　保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
【　到達目標　】「養護」と「教育」の観点から子ども家庭支援を捉える

【授業時間外学修】
＜予習＞保育士以外の児童福祉に関する仕事を調べる
＜復習＞実習先での多職種連携について調べる(4.0hr)

第４回　「子どもの育ち」の喜びを共有する
【　到達目標　】子どもの育ちの喜びを共有することが必要であること、家庭と連携する意義について考えを深める。

【授業時間外学修】
＜予習＞保護者への質問（講義内で説明する）
＜復習＞予習の内容と講義で学んだことをまとめる(4.0hr)

第５回 保護者の「子育て力」をあげる支援
【　到達目標　】子育て家庭の保護者の心理を理解し、地域の子育て家庭を支援するための役割について理解を深める。

【授業時間外学修】
＜予習＞保護者への質問（講義内で説明する）
＜復習＞地域の保育所の子育て支援を調べる(4.0hr)

第６回 保育士に求められる基本的態度
【　到達目標　】家庭支援の枠組みにおいて、保育士に求められる態度について理解を深める。

【授業時間外学修】
＜予習＞教科書pp.53～63を読む
＜復習＞自己決定について考える(4.0hr)

第７回 家庭の状況に応じた支援
【　到達目標　】様々な家庭の形態や家庭が抱える問題について、幅広く全体像を理解する。

【授業時間外学修】
＜予習＞障害に関連する作品を探し、読む
＜復習＞予習で調べた本を読む(4.0hr)

第８回　地域資源の活用と関係機関との連携・協働
【　到達目標　】子育て家庭が利用できる地域のおける社会資源を調べ、役割を理解する。

【授業時間外学修】
＜予習＞地元の町内会について調べる
＜復習＞地域連携に必要な知識や技術をまとめる(4.0hr)

第９回　子育て家庭福祉の向上を図るための社会資源
【　到達目標　】社会資源の種類と特徴、相談体制のあり方を理解する。

【授業時間外学修】
＜予習＞コロナ禍の自分の生活についてまとめる
＜復習＞相談体制のあり方を整理する(4.0hr)

第10回 子ども家庭支援に関する政策
【　到達目標　】日本の子ども家庭支援施策の変遷、現行の子育て支援制度について理解する。

【授業時間外学修】
＜予習＞生まれた年に起きたできごとを調べる
＜復習＞子育て支援政策の動向を整理する(4.0hr)

第11回 子ども家庭支援の内容と対象
【　到達目標　】保育士等が行う子ども家庭支援における留意点について理解する。

【授業時間外学修】
＜予習＞教科書pp.105～116の事例を読む
＜復習＞講義内で指示するＨＰを閲覧する(4.0hr)

第12回 保育所等を利用する子どもの家庭への支援
【　到達目標　】保育士等が行う子ども家庭支援における留意点について理解する。

【授業時間外学修】
＜予習＞実習施設での子育て支援についてまとめる
＜復習＞保護者への質問（講義内で説明する）(4.0hr)

第13回 地域の子育て家庭への支援
【　到達目標　】地域の子育て家庭に対する支援の動向について理解する。

【授業時間外学修】
＜予習＞地域の子育て支援施設について調べる
＜復習＞自身が暮らす地域の課題について整理する(4.0hr)

第14回 要保護児童およびその家庭に対する支援
【　到達目標　】
事例の内容を分析し、特別なニーズのある子どもとその家族に対しての支援について理解する。

【授業時間外学修】
＜予習＞施設実習で気づいたことをまとめる
＜復習＞社会的養護のあり方について整理する(4.0hr)

第15回 子ども家庭支援の課題と今後の展望
【　到達目標　】
子ども家庭支援の課題と今後の展望について考える。

【授業時間外学修】
期末レポートを作成する。講義で学んだことを整理する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイントもしくは資料を用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。
毎回、予習、授業時間内、復習の課題を書き込むワークシートを用いる。
事例研究の回では事前に資料を読むよう指示をする。資料を紛失したり、忘れたりしないように注意すること。
本講義を理解するためには実習で得た知見や日常生活でのできごと、社会情勢などについて日頃から意識してほしい。

【教科書・参考書など】

【参考文献】その都度、紹介する。

【成績評価方法】

授業への参加態度20%、ワークシート40%、期末レポート40%

科目名	スポーツマネジメント			担当者	上林　功	
英文名	Sport Management					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門基礎・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CBE113		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

近年、スポーツ界においてマネジメントへの関心が高まっている。スポーツが経済的に自立することが迫られているとともに、スポーツによる経済社会の活性化、振興という期待があるからである。そこで、本講義では経営学の系譜を踏まえ、スポーツマネジメントの意味、役割、機能を今日的な状況を踏まえながら学際的に学ぶ。具体的には①スポーツとマネジメントの生成と発展、②スポーツ事業のマネジメント、③スポーツ組織と人材マネジメント、④スポーツ施設のマネジメントの大きく4つの視点からスポーツマネジメントの基本的な考え方や理論を習得する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スポーツマネジメントの基礎的事項（社会的要請や歴史的変遷）	基礎的事項について自らまとめて説明することができる	基礎的事項の要点について理解している	基礎的事項の要点について理解が不十分である
スポーツマネジメントの理論的知見に関する事項	理論的知見について自らまとめて説明することができる	理論的知見の要点について理解している	理論的知見の要点について理解が不十分である
スポーツマネジメントの理論的知見の活用・応用に関する事項	身近な具体的組織事例を挙げて、知見の活用・応用について論述することができる	知見の活用・応用について自身の考えを論述することができる	知見の活用・応用について自身の考えを論述できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス・スポーツマネジメントの概観
【　到達目標　】
(1)スポーツの様々な捉え方について理解する。
(2)スポーツマネジメントの考え方、活動領域について理解する。

【授業時間外学修】
経営、管理、マネジメントとはどのような活動であるか、自分なりに整理する。(4.0hr)

第２回　マネジメントの誕生とスポーツのビジネス化
【　到達目標　】
(1)マネジメントの誕生（科学的管理法～）ついて理解する。
(2)スポーツのビジネス化とその背景、要因について理解する。

【授業時間外学修】
スポーツのビジネス化の背景について身近な事例を調べる。(4.0hr)

第３回　スポーツビジネス（企業）の目的と責任
【　到達目標　】
(1)企業の目的について理解する。
(2)マネジメントの使命や役割、社会的責任について理解する。

【授業時間外学修】
スポーツ関連企業の経営理念や組織体制など、IR情報を調べる。(4.0hr)

第４回　スポーツマーケティングの意義と役割
【　到達目標　】
(1)マーケティングとセリングの違いを理解する。
(2)マーケティングにおける市場細分化とターゲッティングを理解する。

【授業時間外学修】
スポーツ企業がおこなっているマーケティング活動について具体的に調べる。(4.0hr)

第５回　マーケティング戦略とスポーツプロダクト
【　到達目標　】
(1)マーケティング戦略のプロセスとマーケティング・ミックスについて理解する。
(2)基本的な経営戦略（競争戦略）について理解する。

【授業時間外学修】
ヒット商品を具体的に浮かべ、なぜ売れるかをその要因について整理する。(4.0hr)

第６回　ミニテスト１
【　到達目標　】
(1)スポーツビジネスの成り立ちとマーケティング手法を理解する。
(2)スポーツビジネスの成り立ちとマーケティング手法について自分なりの言葉で説明できる。

【授業時間外学修】
スポーツ企業の経営戦略（競争戦略）について調べる。(4.0hr)

第７回　スポーツ組織のマネジメント
【　到達目標　】
(1)組織とは何かを理解する。
(2)組織成立の要件を理解する。

【授業時間外学修】
組織はどのようなものか、集団や群衆との違いについて整理する。(4.0hr)

第８回　スポーツ組織の人間的（情緒的）側面
【　到達目標　】
(1)経営管理における人間関係論を理解する。
(2)人材をマネジメントする際の情緒的側面の重要性を理解する。

【授業時間外学修】
組織における人間関係や規範（暗黙のルール）の影響について整理する。(4.0hr)

第９回　スポーツ組織のモチベーション・マネジメント
【　到達目標　】
(1)モチベーションとはなにかについて理解する。
(2)モチベーションの過程論（プロセス論）について理解する。

【授業時間外学修】
何が満たされるとやる気になるのか、についてこれまでの経験を基に考えてみる。(4.0hr)

第10回　ミニテスト２
【　到達目標　】
(1)スポーツ組織におけるマネジメントについて理解する。
(2)スポーツ組織におけるマネジメントについて自分の言葉で説明できる。

【授業時間外学修】
スポーツ組織のマネジメントについて、具体的な事例を出してまとめる。(4.0hr)

第11回　スポーツ組織におけるリーダーシップ
【　到達目標　】
(1)リーダーシップの役割、機能について理解する。
(2)リーダーシップの代表的理論（特性論・行動理論・状況適合理論）を理解する。

【授業時間外学修】
優れたリーダーはどのような資質や行動特性を有しているのかについて整理する。(4.0hr)

第12回　スポーツ施設の運営と管理
【　到達目標　】
(1)我が国のスポーツ施設の現状を理解する。
(2)スポーツ施設の管理・運営に関する制度や法令を理解する。

【授業時間外学修】
身近なスポーツ施設の運営者と管理者について調べる。(4.0hr)

第13回　スポーツマネジメントとガバナンス
【　到達目標　】
(1)マネジメントとガバナンスの違いについて理解する。
(2)スポーツ組織におけるガバナンス事例について理解する。

【授業時間外学修】
自律的な組織マネジメントについて自分の考えをまとめる。(4.0hr)

第14回　ミニテスト３
【　到達目標　】
(1)スポーツ組織におけるガバナンスについて理解する。
(2)スポーツ組織におけるガバナンスについて自分の言葉で説明できる。

【授業時間外学修】
スポーツ組織におけるガバナンスについて自分の考えをまとめる。(4.0hr)

第15回　スポーツマネジメントの展望
【　到達目標　】
(1)スポーツマネジメントについて改めて概観する。
(2)スポーツマネジメントの展望について自分の言葉で説明ができる。

【授業時間外学修】
スポーツマネジメントの将来的な方策について自分の言葉でまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイントを使用して講義をおこなう。関連資料やVTR等の補助教材も活用し、具体的事例からマネジメントに関する理解を深めていく。受講生は専用のノートを準備し、適宜板書をおこなうこと（講義ノートを作成すること）。毎回の講義後には学生の理解度や疑問点を把握するためのミニッツペーパー（確認テスト/レスポンスカード）を実施し、次回の講義時にフィードバックをおこなう。時間外での主体的な学びを促すための課題（予習・復習課題やレポート等）も課す。さらに、講義形式を中心とした授業の中に、アクティブラーニングの手法を取り入れる。具体的には学生から質問、意見を求めたり、グループ討論の機会を設ける。

【教科書・参考書など】

教科書は特に定めない。
＜参考書＞「スポーツマネジメント（改訂版）」原田宗彦、小笠原悦子（編著）大修館書店、2015年。
※その他の参考文献や参考資料は講義時に紹介する（適宜、配布する）。

【成績評価方法】

各授業回の予習課題と復習課題を課す。各授業回の理解度や予習・復習の状況を把握するための確認テストや課題レポート（講義内での小レポートやミニッツペーパーを含む）を実施する。さらに、全授業終了後に定期試験を実施する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。各授業に係る課題やレポートの評価を20%、第6回、第10回、第14回に実施するミニテストを30%、定期試験を50%とし、あわせて100%として総合評価する。

科目名	衛生学・公衆衛生学			担当者	助友　裕子	
英文名	Hygiene and Public Health					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門基礎・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CBE114		卒業認定方針との関連	④⑦

【到達目標】

我々の健康は、毎日呼吸する空気や飲む水、地球環境や自然的環境、毎日の生活習慣や人間関係、地域や国の社会経済的要因などから強く影響を受けている。これらと健康の関わりを科学的に理解し（衛生学）、地域や国民の健康を実現するための対策について理解する（公衆衛生）ことが、この授業の目的である。
これらの内容は、自立した社会生活の営みや、学校にかかわるすべての人々の健康、学校そのもののあり方、職場や地域を取り巻く社会のあり方の基礎である。こうした基本的理解づくりがこの授業のねらいである。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
衛生学・公衆衛生学の基礎的事項への理解（知識）	衛生学・公衆衛生学の基礎的事項を十分説明している。	衛生学・公衆衛生学の基礎的事項を説明している。	衛生学・公衆衛生学の基礎的事項を説明できない。
衛生学・公衆衛生学の知識の活用（思考力・判断力・表現力）	衛生学・公衆衛生学の知識を活用して思考・判断したことを良く表現している。	衛生学・公衆衛生学の知識を活用して思考・判断したことを表現している。	衛生学・公衆衛生学の知識を活用して思考・判断したことを表現できない。
衛生学・公衆衛生学を学ぶ主体性（態度）	衛生学・公衆衛生学の学修に積極的に取り組もうとしている。	衛生学・公衆衛生学の学修に取り組もうとしている。	衛生学・公衆衛生学の学修に取り組もうとしていない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　健康と公衆衛生
【　到達目標　】
(1)健康には様々な考え方があることを知る。
(2)公衆衛生の定義を知り、その成り立ちを理解する。

【授業時間外学修】
公衆衛生にかかわる身近なサービスについて調べておく。(4.0hr)

第２回　保健統計の活用と応用：健康はどのようにして測られるか
【　到達目標　】
(1)国民の健康状態を測る指標の多様性について理解する。

【授業時間外学修】
政府統計の総合窓口（e-Stat）で健康に関わる統計データを探しておく。(4.0hr)

第３回　疫学：その健康情報はどこからくるか
【　到達目標　】
(1)疫学の起源について知る。
(2)疫学による研究成果が健康情報となる過程を理解する。

【授業時間外学修】
喫煙の健康影響に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)

第４回　ヘルスプロモーション
【　到達目標　】
(1)ヘルスプロモーションの定義、活動方法について知る。

【授業時間外学修】
本学以外の友人や知人と健康づくりの方法について議論しレポートする。(4.0hr)

第５回　世界と日本の健康戦略：SDGsと健康日本21
【　到達目標　】
(1)世界の健康戦略の流れを知る。
(2)世界と日本の健康戦略の流れを理解する。

【授業時間外学修】
教科書で健康指標の年次推移を示しているグラフを選び､説明できるようにしておく｡(4.0hr)

第６回　健康の社会的決定要因
【　到達目標　】
(1)健康の社会的決定要因とはどのようなものか理解する。

【授業時間外学修】
現在の自分の目標について、目標達成の過程における生活への影響をレポートする。(4.0hr)

第７回　生活の場と健康
【　到達目標　】
(1)健康に影響をおよぼすあらゆる生活の場について理解を深める。
(2)WHOのsettingsアプローチ、ヘルスコミュニケーション戦略を理解する。

【授業時間外学修】
一週間のうちに自分が行った場所とその場所がもたらす健康影響を記録しておく。(4.0hr)

第８回　がん対策
【　到達目標　】
(1)がんが身近な疾病であることを理解する。
(2)我が国のがん対策の現状を知る。

【授業時間外学修】
がんに関する情報を収集しておく。(4.0hr)

第９回　感染症対策
【　到達目標　】
(1)感染症の成立の条件、予防の原理を理解する。
(2)主な感染症について理解する。

【授業時間外学修】
咳エチケットの方法とその理由について考えておく。(4.0hr)

第10回　環境保健
【　到達目標　】
(1)人間と環境のかかわりについて理解する。
(2)環境問題とその対策について知る。

【授業時間外学修】
地球環境の変化に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)

第11回　産業保健
【　到達目標　】
(1)労働者を取り巻く現状とその対策について知る。

【授業時間外学修】
働くことの意味について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)

第12回　メンタルヘルス対策
【　到達目標　】
(1)精神疾患の現状とその対策について知る。

【授業時間外学修】
厚生労働省のメンタルヘルスwebsiteを閲覧しておく。URLは後日指示する。(4.0hr)

第13回　親子保健
【　到達目標　】
(1)我が国の母子保健の水準を知る。
(2)母子保健活動の動向について理解する。

【授業時間外学修】
自分の住んでいる自治体の母子保健サービスを調べておく。(4.0hr)

第14回　地域保健
【　到達目標　】
(1)地域の様々な保健活動を知る。
(2)健康なまちづくりについて理解する。

【授業時間外学修】
自分の住んでいる自治体の地域保健サービスを調べておく。(4.0hr)

第15回　災害時の公衆衛生
【　到達目標　】
(1)災害の種類とその備えについて知る。
(2)自地域の防災について関心を持ち、今できる防災活動について考える。

【授業時間外学修】
少子高齢社会の中で自他が健やかに生きるための方法についてレポートする。(4.0hr)

【学修上の留意点】

毎回の講義で、その回のキークエスチョンに関して、私見や講義内容を踏まえたミニレポートを提出する。これにより各回の授業内容を振り返る。授業の導入時と終了時で自分の意見がどう変化したのかも考慮に入れながら、授業内容について理解を深めてもらいたい。なお、この毎回のミニレポート内容については、講義内容を踏まえた受講者自身の気づきが記述されていることが重要である。ミニレポートは、ほぼ毎時間行い、次回の授業時に返却するとともに、必要に応じて授業内で優れた内容について全体で共有する。

【実務経験のある教員による授業科目】

行政や公的機関等における公衆衛生学に関する講義・講演等の活動経験を活かし、地域や国民の健康を実現するための対策について講義を行う。

【教科書・参考書など】

「学生のための現代公衆衛生　改訂8版」野中浩一編著（南山堂）
　このほかに適宜資料を配布する。

【成績評価方法】

授業中の課題達成度を30%、定期試験の結果を70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科 目 名	子どものスポーツプログラミング			担当者	森田　陽子	
英 文 名	Sports Programing for Children					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門基礎・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CBE207		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

子どもの発育・発達に応じて、運動や将来のスポーツ活動や健康な日常生活の基本となる「動き」の習得を促すために、将来、幼稚園教諭や保育士、子どものスポーツ指導を目指す者等がどのように関与すべきかを理解する。具体的には、様々な年代の子ども達に対して、どのような遊びや動きを通してスポーツの基礎となるものを習得させていくのか、積極的に運動に取り組む習慣を身につけさせるにはどうすればよいかについての方法を考案し、実践する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
子どものスポーツプログラミングの基礎的事項・理論と実技	子どものスポーツプログラミングの基礎的事項・理論と実技について十分に理解している。	子どものスポーツプログラミングの基礎的事項・理論と実技について理解している。	子どものスポーツプログラミングの基礎的事項・理論と実技について理解していない。
子どものスポーツプログラミングの応用的事項・理論と実技	子どものスポーツプログラミングの応用的事項・理論と実技について十分に理解している。	子どものスポーツプログラミングの応用的事項・理論と実技について理解している。	子どものスポーツプログラミングの応用的事項・理論と実技について理解していない。
子どものスポーツプログラミングの指導と実践	子どもの発育発達及び実態に合わせてプログラミングし、指導と実践ができる。	子ども実態に合わせてプログラミングし、指導と実践ができる。	子ども実態に合わせてプログラミングすることや、指導・実践ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
ガイダンスでこの授業の必要性やこの授業によって獲得してほしい能力について理解する。
また、実際に身体を動かしながら、体得し実践できる力を養う。

【授業時間外学修】
子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)

第２回　子どもの運動遊びの実際①
【　到達目標　】
「歩く」「走る」「跳ぶ」を実際に行いながら、遊びのねらい、援助、環境設定、安全への配慮を学ぶ。

【授業時間外学修】
子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)

第３回　子どもの運動遊びの実際②
【　到達目標　】
「道具を使わない運動遊び」を実際に行いながら、遊びのねらい、援助、環境設定、安全への配慮を学ぶ。

【授業時間外学修】
子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)

第４回　子どもの運動遊びの実際③
【　到達目標　】
「道具を使った運動遊び」を実際に行いながら、遊びのねらい、援助、環境設定、安全への配慮を学ぶ。

【授業時間外学修】
子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)

第５回　子どもの運動遊びの指導
【　到達目標　】
２・３・４回の授業で行った、「子どもの運動遊び」の学びから、その指導案を考案する。

【授業時間外学修】
子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)

第６回　発表・グループワーク
【　到達目標　】
実際に指導を行い、それぞれの良い点、修正点を検討し、よりよいものを完成させる。

【授業時間外学修】
子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)

第７回　子どもの体力向上を目指す遊び①
【　到達目標　】
「走動作」を獲得させる動き作りのために、発育発達段階を考慮しながら、その発育にあった遊びの導入・展開を創作する。

【授業時間外学修】
子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)

第８回　子どもの体力向上を目指す遊び②
【　到達目標　】
「跳動作」を獲得させる動き作りのために、発育発達段階を考慮しながら、その発育にあった遊びの導入・展開を創作する。

【授業時間外学修】
子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)

第９回　子どもの体力向上を目指す遊び③
【　到達目標　】
「投動作」を獲得させる動き作りのために、発育発達段階を考慮しながら、その発育にあった遊びの導入・展開を創作する。

【授業時間外学修】
子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)

第10回　子どもの体力向上を目指す遊びの指導
【　到達目標　】
７・８・９回の学びから、現代社会の問題点である「子どもの体力向上」を目指し、幼稚園や保育園でできる運動遊びについて、その指導案を考案する。

【授業時間外学修】
子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)

第11回　発表・グループワーク
【　到達目標　】
「体力向上のための」遊びや運動の指導を実際に行い、それぞれの考え方やその問題点を検討し、よりよいものを完成させる。

【授業時間外学修】
子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)

第12回　総合的実践指導①
【　到達目標　】
これまでの授業の学びの中から、幼稚園や保育園の子どもたちに「運動遊び」「スポーツ指導」をする際の指導案を立案し、実践する。
（附属幼稚園、附属保育園、近隣保育園の子どもたちの参加）
【授業時間外学修】
子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)

第13回　総合的実践指導②
【　到達目標　】
これまでの授業の学びの中から、幼稚園や保育園の子どもたちに「運動遊び」「スポーツ指導」をする際の指導案を立案し、実践する。
（附属幼稚園、附属保育園、近隣保育園の子どもたちの参加）
【授業時間外学修】
子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)

第14回　総合的実践指導③
【　到達目標　】
これまでの授業の学びの中から、幼稚園や保育園の子どもたちに「運動遊び」「スポーツ指導」をする際の指導案を立案し、実践する。
（附属幼稚園、附属保育園、近隣保育園の子どもたちの参加）
【授業時間外学修】
子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)

第15回　総合的実践指導④
【　到達目標　】
これまでの授業の学びの中から、幼稚園や保育園の子どもたちに「運動遊び」「スポーツ指導」をする際の指導案を立案し、実践する。（附属幼稚園、附属保育園、近隣保育園の子どもたちの参加）
15回の授業で学んできた「動き」「遊び」に対しての学びをまとめる。
【授業時間外学修】
授業で学んだ内容についてレポートにまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

実技を伴う授業なので、必ず運動できる服装に着替えること。自分たちが考案した指導案を実践するなかで、運動が発生する感覚を、子どもが実際に身につけられるかを検証しながら考えることが大切である。また他の班の考案した指導案を実施し、お互いに意見を出しながら各自の指導案を完成させる。完成した指導案を全員が共有し、各々が現場で実践できるように学習する必要がある。尚、本授業は実際に園児が参加する場合もあることから、幼児への対応（言葉遣い含む）、服装等には留意すること。後半には附属幼稚園や附属保育園、または近隣の幼稚園、保育園の子ども達と一緒に授業を展開する。

ただし、子どもと直接関わることができない場合は、学生が子ども役となり授業を展開していくこととする。状況に応じて臨機応変に対応していく。

【教科書・参考書など】

開講時に随時紹介する。

【成績評価方法】

授業の習熟度、積極性・理解度50%、指導案・実技指導50%で評価する。

科 目 名	器楽Ⅱ			担当者	堤　由衣・森　立子	
英 文 名	Instrumental Music Ⅱ					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門基礎・選択
授業形態	実技	科目ナンバー	CBE302		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

器楽Ⅰ（1年次）で学んだピアノ演奏の基礎をふまえ、さらに演奏技術の向上をめざす。また、「子どものうた」の伴奏にも取り組む。
レベルに応じた個人レッスンをおこなうが、各自が演奏技術だけでなく、豊かで自然な表現力を持って演奏することができることを目標とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保育者として必要とされる技量	音楽を通して子どもに働きかけることができる	音楽を子どもの前で披露することができる	音楽を子どもの前で披露するための技術が不十分である
音楽的な表現	強弱などを含め、音楽的に表現できる	強弱などは理解しているが、表現力が乏しい	強弱など表情を出すための技術が不十分である
楽譜の理解	読譜が完全にでき、他の曲にも応用ができる	読譜はできているが、応用ができない	読譜能力が不十分である

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　バイエルの復習
【　到達目標　】
器楽Ⅰで学習したバイエルをもとに、基礎を再確認する。
【授業時間外学修】
1年次の最後に弾いた曲を復習する。(1.0hr)

第２回　ブルクミュラー2番
【　到達目標　】
一定の速さの中で、16分音符が均等に弾けるようにする。
【授業時間外学修】
音をしっかり読んだ上で、片手ずつ練習する。(1.0hr)

第３回　ブルクミュラー3番
【　到達目標　】
音楽的表現を試みるとともに、ペダルの踏み方を学ぶ。
【授業時間外学修】
この曲の情景を言語化し、物語を創作する。(1.0hr)

第４回　ブルクミュラー5番
【　到達目標　】
滑らかな運指を学ぶ。
【授業時間外学修】
指使いに注意しながら、ヘ長調の音階を練習する。(1.0hr)

第５回　子どものうた①
【　到達目標　】
２年次「音楽表現」で学習した「子どものうた」の伴奏に再度取り組む。
【授業時間外学修】
「子どものうた」（既習曲５曲）を復習する。(1.0hr)

第６回　ブルクミュラー10番
【　到達目標　】
ニ長調に慣れる。ゆっくりした速さの中で、音楽的に表現する。
【授業時間外学修】
指使いに注意しながら、ニ長調の音階を練習する。(1.0hr)

第７回　ブルクミューラー15番
【　到達目標　】
左手のメロディーを生かしながら、緊迫感のある演奏をする。
【授業時間外学修】
同主調への転調を感じ取り、その変化を言語化して説明ができるようにする。(1.0hr)

第８回　ブルクミューラー18番
【　到達目標　】
右手の16部休符を休みととらえず、メロディーがつながっていくような演奏を心掛ける。
【授業時間外学修】指使いに注意しながら、ホ短調の音階を練習する。平行調への転調を意識する。(1.0hr)

第９回　子どものうた②
【　到達目標　】
新しい「子どものうた」の伴奏に取り組む。
【授業時間外学修】
「子どものうた」（既習曲５曲）を復習する。(1.0hr)

第10回　ブルクミュラー19番
【　到達目標　】
レガート奏法を学ぶとともに、ペダルの踏み方を再確認する。
【授業時間外学修】
「アヴェ・マリア」という曲の意味を調べ、同名の他の作品を鑑賞してみる。(1.0hr)

第11回　ブルクミュラー23番
【　到達目標　】
主旋律がどこにあるのかを確認し、メロディーラインをきれいに歌う。
【授業時間外学修】
和音を揃えて弾くことができるようにする。(1.0hr)

第12回　ブルクミュラー25番
【　到達目標　】
情景を思い浮かべ、音楽的に演奏する。3連符、16分音符などの速さを正確に演奏する。
【授業時間外学修】
この曲の情景を言語化し、物語を創作する。(1.0hr)

第13回　クレメンティ(op.36-1) 1楽章
【　到達目標　】
ソナタ形式を理解して演奏する。
【授業時間外学修】クレメンティという作曲家について、また彼が生きた時代の音楽について調べる。(1.0hr)

第14回　ブルクミュラー19・23・25番、クレメンティ(op.36-1) 1楽章
【　到達目標　】
ブルクミュラー19・23・25番、クレメンティ 1楽章の中から１曲暗譜して弾くことができる。
【授業時間外学修】
曲の全体像をとらえながら演奏ができるように練習する。(1.0hr)

第15回　発表会
【　到達目標　】
曲想を感じ表現するとともに、技術の向上と確実な暗譜をめざす。
【授業時間外学修】
緊張の中でも演奏できるように、曲を弾きこむ。(1.0hr)

【学修上の留意点】

読譜を正確におこなったうえで、毎日の練習を欠かさずおこなう。また、教員が注意した部分を取り出して練習する。

【学修上の留意点】

レッスン時に練習するだけでは進歩しないので、毎日ピアノに触り練習することを課する。個人レベルに差があるため、シラバス通りには進まない場合が多い。教員が認めた場合、バッハ・モーツァルト・シューマン・ショパンなどの曲に進む場合もある。その際は、教員より楽譜を指定する。

【教科書・参考書など】

「バイエル」（全音楽譜出版）、「ブルクミュラー２５の練習曲」（全音楽譜出版）、「幼稚園教育要領」文部科学省、
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省、その他適宜楽譜を配布する

【成績評価方法】

実技演奏能力80%、授業における課題達成度・練習量20%で評価する。

科 目 名	器械運動			担当者	森井　大樹	
英 文 名	Apparatus Exercise					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門基礎・選択
授業形態	実技	科目ナンバー	CBE115		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

達成スポーツとしての器械運動では、さまざまな運動が行われる。その運動は「技」と呼ばれ、「技」は運動構造によって易しいものからむずかしいものへと体系的に分類されている。その体系にしたがって基本的な技を正しく習得すると発展的な技の習得も容易となる。本授業では、器械運動の基本的な技について、その基礎技能も含めいろいろな段階的練習方法を通して身につけていく。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
マット運動の基本的な技の技能	欠点がなく、安定した実施ができる。	多少の欠点はあるが、安定した実施ができる。	技の成立条件を満たす実施ができない。
とび箱運動の基本的な技の技能	欠点がなく、安定した実施ができる。	多少の欠点はあるが、安定した実施ができる。	技の成立条件を満たす実施ができない。
鉄棒運動の基本的な技の技能	欠点がなく、安定した実施ができる。	多少の欠点はあるが、安定した実施ができる。	技の成立条件を満たす実施ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　マット運動の基礎技能
【　到達目標　】
(1)器械運動に必要な動きと練習方法を理解する。
(2)マット運動の基礎技能の習熟を図る。

【授業時間外学修】
次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第２回　マット運動（倒立の基礎・接転系の技）①
【　到達目標　】
(1)倒立の基礎知識・技能を習得する。
(2)前転、後転の基礎知識・技能を習得する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第３回　マット運動（倒立の基礎・接転系の技）②
【　到達目標　】
(1)倒立の静止技能および歩行技能を習得する。
(2)前転、後転の変形技を習得する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第４回　マット運動（倒立の基礎・接転系の技）③
【　到達目標　】
(1)倒立前転の技能を習得する。
(2)伸膝後転の技能を習得する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第５回　マット運動（倒立の基礎・接転系の技）④
【　到達目標　】
(1)倒立前転の技能テスト。
(2)伸膝後転の技能テスト。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第６回　マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）①
【　到達目標　】
(1)側方倒立回転習得のための基礎知識・技能を習得する。
(2)ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第７回　マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）②
【　到達目標　】
(1)側方倒立回転の技能を習得する。
(2)ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第８回　マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）③
【　到達目標　】
(1)側方倒立回転の技能テスト。
(2)ハンドスプリングの技能を習得する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第９回　マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）④
【　到達目標　】
(1)ハンドスプリングの技能テスト。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第10回　とび箱運動（反転系の技の基礎技能）
【　到達目標　】
(1)反転系の技の基礎知識・技能を習得する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第11回　とび箱運動（反転系の技・開脚とび）
【　到達目標　】
(1)開脚とびの技能を習得する。
(2)開脚とびの技能テスト。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第12回　とび箱運動（反転系の技・閉脚とび）
【　到達目標　】
(1)閉脚とびの技能を習得する。
(2)閉脚とびの技能テスト。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第13回　鉄棒運動（支持回転系の技）①
【　到達目標　】
(1)鉄棒運動の基礎知識・技能を習得する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第14回　鉄棒運動（支持回転系の技）②
【　到達目標　】
(1)支持回転系の技の技能を習得する。
(2)支持回転系の技の技能テスト。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第15回　課題の達成度と身体知
【　到達目標　】
(1)技の習得に必要な身体知について理解する。
(2)達成できた動きの身体知について理解する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

【学修上の留意点】

課題として取り上げられた技は、体育教員として身につけておきたい最低限のものである。授業では、それぞれの技の感覚を順を追って習得していく。すでに、課題をできる受講生にとっては、あらためて動きができるための「道しるべ」を確認することになり、中学・高等学校時に器械運動の授業を受けていない学生にとっては、新たな「身体知」を獲得する場となる。積極的な参加を望む。

【教科書・参考書など】

＜参考書＞
「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友・著（大修館書店）

【成績評価方法】

課題技の達成度　100%

科 目 名	サッカー			担当者	大槻　茂久	
英 文 名	Soccer					
単 位 数	1	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3	／選択の区別				専門基礎・選択
授業形態	実技	科目ナンバー	CBE116		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

サッカー競技のゲーム実戦に求められる状況判断・コミュニケーション・テクニックを習得し、サッカーの特性を理解することが本授業の目的である。そのために、授業毎のテーマを意識したウォームアップからトレーニング・ゲームを実施する。①ゲーム実践の中で判断を伴うテクニックを身につける②チーム構成員同士が勝利を目指し協力し合う態度を学ぶ③試合を円滑に行うためのルール、審判法、試合運営方法を学ぶ。
　以上のことを目的として本授業を展開する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
サッカーにおける基礎的な技能について	試合での技能発揮に優れ、実技テストの得点が90%以上である	基礎的な技能が試合で発揮でき、実技テストの得点が60～89%である	試合での技能・実技テストの得点が60%に満たない
サッカーにおける基礎的な理論について	参照資料がなくとも理論の説明・実践ができる	参考書や資料参照のもと理論の説明ができる	基礎的な理論の理解が不十分で説明できない
サッカーにおける基礎的な戦術・戦略について	参照資料無しで基礎的な戦術・戦略の説明・実践ができる	参考書や資料参照のもと基礎的な戦術・戦略の説明ができる	基礎的な戦術・戦略の理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　コミュニケーションのトレーニングとゲーム
【　到達目標　】
(1)サッカーに必要なコミュニケーション方法を学ぶ。

【授業時間外学修】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第２回　テクニック（パス＆コントロール）とゲーム
【　到達目標　】
(1)テクニック（パス＆コントロール）の構成要素を理解し、実践できるようにする。

【授業時間外学修】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第３回 テクニック（ドリブル）とゲーム
【　到達目標　】
(1)テクニック（ドリブル）の構成要素を理解し、実践できるようにする。

【授業時間外学修】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第４回　テクニック（シュート）とゲーム
【　到達目標　】
(1))テクニック（シュート）の構成要素を理解し、実践できるようにする。

【授業時間外学修】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第５回　テクニック（守備）とゲーム
【　到達目標　】
(1)テクニック（守備）の構成要素を理解し、実践できるようにする。

【授業時間外学修】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第６回　個人戦術（攻撃）とゲーム
【　到達目標　】
(1)攻撃の個人戦術を理解し、実践できるようにする。

【授業時間外学修】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第７回　個人戦術（守備）とゲーム
【　到達目標　】
(1)守備の個人戦術を理解し、実践できるようにする。

【授業時間外学修】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第８回　ゴールキーパとゲーム
【　到達目標　】
(1)ゴールキーパーのテクニックと個人戦術を理解し、実践できるようにする。

【授業時間外学修】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第９回　攻守の切り替えとゲーム
【　到達目標　】
(1)攻守の切り替えの重要性や方法を理科し、実践できるようにする。

【授業時間外学修】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第10回　状況判断とゲーム
【　到達目標　】
(1)状況判断の重要性や方法を理科し、実践できるようにする。

【授業時間外学修】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第11回　様々なゲーム（オーガナイズ）
【　到達目標　】
(1)様々なオーガナイズのゲームを理解し、実践できるようにする。

【授業時間外学修】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第12回　フットサル①
【　到達目標　】
(1)フットサルのテクニックを理解し、実践できるようにする。

【授業時間外学修】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第13回　フットサル②
【　到達目標　】
(1)フットサルの個人戦術を理解し、実践できるようにする。

【授業時間外学修】
時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)

第14回　ゲーム
【　到達目標　】
(1)試合の方法・運営を理解し、ゲームを実践できるようにする。

【授業時間外学修】
サッカーの競技規則を学習しておく。(1.0hr)

第15回　振り返り・確認試験（サッカーの知識）
【　到達目標　】
(1)全体の授業を通しての総括し、振り返りを行う。
(2) サッカーの知識・理論について確認する

【授業時間外学修】
サッカーの知識や理論を学習する。(1.0hr)

【学修上の留意点】
　実習が中心となるため、互いに安全に気をつけて活動すること。服装、身だしなみは体育実技に相応しいものとすること。
グループの活動の中での活動では、自主的・積極的に活動すること。またグループ構成員同士はよく協力すること。
　前回の技術的課題を意識し、授業を重ねるにつれて、サッカーの技能を向上させる。

【教科書・参考書など】
　特になし。必要な教材は担当教員が印刷し配布する。

【成績評価方法】
以下の割合にて評価し、点数化する。
　①授業への取り組み方・参加度６０%、②技術点（実技テスト）１０%、③知識点（理論テスト）１０%、④準備点（服装・ゼッケン等の準備）２０%。

科 目 名	ことばの研究			担当者	並木　真理子	
英 文 名	Language Studies					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4					専門基礎・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CBE303		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】
「ことば」に関する教材や先行研究、書籍、ケーススタディを再現するロールプレイなどから、人との関係性を育む「ことば」のあり方について理解を深める。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
子どもや大人のことばに関する教材や研究、文献について	内容を理解し、相手に分かるように説明できる	内容を理解し、資料等を参照しながら説明できる	理解が不十分で説明できない
現代のことばに関する実情と課題について	内容を理解し、相手に分かるように説明できる	内容を理解し、資料等を参照しながら説明できる	理解が不十分で説明できない
ことばを介して信頼関係を築く方法について	内容を理解し、相手に分かるように説明できる	内容を理解し、資料等を参照しながら説明できる	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
授業の概要と進め方を知り、学習の心構えを形成する。発表の準備の方法を理解する。
【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業計画表を読み込み授業の見通しをもつ。課題に取り組む(4.0hr)

第２回　絵本研究①
【　到達目標　】
絵本に関する教材や文献に触れ、絵本における「ことば」の在り方を学ぶ。
【授業時間外学修】
配付資料を読み、先行研究内容に興味をもつ。課題に取り組む。(4.0hr)

第３回　絵本研究②
【　到達目標　】
絵本に関する教材や文献に触れ、絵本における「ことば」の在り方を学ぶ。
【授業時間外学修】
配付資料を読み、先行研究内容に興味をもつ。課題に取り組む。(4.0hr)

第４回　視聴覚教材研究①－ディズニー映画におけることばの効果①－
【　到達目標　】
視覚教材における印象に残ることばについて考察する。
【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を復習しながら課題に取り組む。(4.0hr)

第５回　視聴覚教材研究②－ディズニー映画におけることばの効果②－
【　到達目標　】
視覚教材における印象に残ることばについて考察する。
【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を復習しながら課題に取り組む。(4.0hr)

第６回　視聴覚教材研究③－ジブリ映画におけることばの効果①－
【　到達目標　】
視覚教材における印象に残ることばについて考察する。
【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を復習しながら課題に取り組む。(4.0hr)

第７回　視聴覚教材研究④－ジブリ映画におけることばの効果②－
【　到達目標　】
視覚教材における印象に残ることばについて考察する。
【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を復習しながら課題に取り組む。(4.0hr)

第８回　人を育てることば①－「褒める」とは－
【　到達目標　】
人を育てることばとは何かを理解し、ロールプレイを通して子どもや大人とことばとの関係性を考える。特に人を伸ばす「褒め方」について考える。
【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を復習しながら課題に取り組む。(4.0hr)

第９回　人を育てることば②－「怒る」と「叱る」－
【　到達目標　】
人を育てることばとは何かを理解し、ロールプレイを通して子どもや大人とことばとの関係性を考える。特にアンガーマネジメントと人を伸ばす叱り方について考える。
【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を復習しながら課題に取り組む。(4.0hr)

第10回　表現とことば①－レッジョエミリアにみる造形とことば－
【　到達目標　】
イタリアのレッジョエミリアについて理解を深め、表現とことばの関係性やドキュメンテーションについて考える。
【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を復習しながら課題に取り組む。(4.0hr)

第11回　表現とことば②－J-popの歌詞におけることば－
【　到達目標　】
J-popの歌詞に使われることばを分析し、感情への影響を考察する。
【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を復習しながら課題に取り組む。(4.0hr)

第12回　オノマトペ①－ことばの発達におけるオノマトペー
【　到達目標　】
ことばの発達におけるオノマトペの効果について理解を深める。
【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を復習しながら課題に取り組む。(4.0hr)

第13回　オノマトペ②－多領域（語学、医療、経済など）におけるオノマトペー
【　到達目標　】
様々な分野で活用されているオノマトペの効果について理解を深める。
【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を復習しながら課題に取り組む。(4.0hr)

第14回　デジタルネイティブ世代とSNSにおけることば
【　到達目標　】
デジタル・ネイティブと呼ばれる世代におけるデジタル文化について理解を深め、SNSの利用に関するメリットデメリット及び配慮すべき点を理解する。
【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を復習しながら課題に取り組む。(4.0hr)

第15回　授業内発表
【　到達目標　】
言葉を生業とする人物について、パワーポイントを使った発表を行う。
【授業時間外学修】
配付資料とノートを読み返して、授業での学びを振り返る。(4.0hr)

【学修上の留意点】
・積極的に「ことば」に関する先行研究や関連文献を読み、研究的視点をもって授業に参加すること。
・グループワークやディスカッションに積極的に参加し、多角的な考え方を身につけること。
・毎回、授業での学びをまとめる授業シートを記入する。

【教科書・参考書など】
教科書は特に指定せず、授業資料を配付する。
参考文献は授業内で適宜紹介する。

【成績評価方法】
授業内発表40%、グループワークや提出物60%として総合的に評価する。

科目名	スポーツ社会学			担当者	溝口　紀子	
英文名	Introduction to Sociology of Sport					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4					専門基礎・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CBE208		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

スポーツの歴史や文化史を通して、スポーツの社会的役割、文化的意義について考察する。グローバル社会の多様な側面や文化的特徴についてスポーツという切り口から理解を深める。「人種・民族」「ジェンダー」「暴力」「マスメディア」「ドーピング」「政治」の視点からスポーツがどのように社会や人と関わりを持っているのかを社会学の視点から考察する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スポーツ社会学における基礎的知識	知識を理解し自らまとめて説明できる。	知識を教科書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
スポーツ社会学の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。
スポーツ社会学の研究知見の活用に関する事項	知見の活用について意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス（授業の進め方　スポーツ権）
【　到達目標　】
スポーツ社会学におけるスポーツのとらえ方、考え方及び社会学の学問的性格について理解する。

【授業時間外学修】
出してみる。(4.0hr)

第２回　遊びとスポーツ　－「ホモ・ルーデンス」・「遊びと人間」を読み解く－
【　到達目標　】
スポーツの定義、遊び、eスポーツについて理解する。

【授業時間外学修】
eスポーツについて調べる。(4.0hr)

第３回　スポーツの近代化と武道の誕生
【　到達目標　】
スポーツの誕生から近代スポーツの誕生、そして現在のグローバル化社会におけるスポーツの急速な変容について理解する（小レポートを実施）。

【授業時間外学修】武士道、武道の違いについて、文献やインターネット等で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第４回　スポーツとナショナリズム
【　到達目標　】
スポーツと政治の親和性について考えていく。ナショナリズムや国家的なスポーツ政策について、メディアとの関係性も踏まえて理解する。

【授業時間外学修】スポーツと政治の関係性に関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第５回　プロパガンダとオリンピック（美の祭典・民族の祭典）
【　到達目標　】
プロパガンダの作用について学習する。
民族の祭典、美の祭典の映画鑑賞、スポーツ文化について取り上げる。

【授業時間外学修】
プロパガンダの意味を調べる。プロパガンダの具体的な例を調べる。(4.0hr)

第６回　五輪とボイコット（冷戦下のスポーツ）
【　到達目標　】
スポーツが政治とどのように結びつくのか、冷戦時代を例にボイコットについて取り上げる。

【授業時間外学修】
五輪ボイコットに関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第７回　子どもの健康・経済格差
【　到達目標　】
子どもの経済格差について、スポーツの環境視点から検証する。

【授業時間外学修】「子どもの経済格差」について調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第８回　スポーツとジェンダー
【　到達目標　】
女性アスリートのメディア・イメージやパターナリズムの理解から、スポーツにおけるジェンダーの課題と展望について論じることができる（小レポート実施）。
人見絹枝が残したスポーツの功績を考える。
【授業時間外学修】スポーツに限定せず、自分が経験した、または社会に存在するジェンダーバイアスに関して整理する。(4.0hr)

第９回　女性と身体
【　到達目標　】
女性の身体を社会学の視点から考察する。
セクシュアリティ、ダイバーシティといった視点から身体を読み解く。

【授業時間外学修】
セクシュアリティ、DSDについて調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第10回　武道の国際化－文化変容とは何か－
【　到達目標　】
武道を例に、文化相対主義、文化変容について理解する。

【授業時間外学修】
海外のスポーツの流入、武道の流出に関して調べる。(4.0hr)

第11回　障がいスポーツ
【　到達目標　】
障がいスポーツの基礎知識、課題について理解する。

【授業時間外学修】
障がいスポーツ種目、パラアスリートについて調べる。(4.0hr)

第12回　スポーツと危機管理（安全配慮義務）
【　到達目標　】
スポーツと事故、安全配慮について、社会学的観点から議論できるようになる。スポーツと体育の関係性、課外活動における諸問題等も社会学的観点から理解する(小レポートを実施）。

【授業時間外学修】
自分のスポーツ経験・体験におけるスポーツ事故をまとめる。(4.0hr)

第13回　スポーツと倫理（ドーピングの問題性とスポーツの本質）
【　到達目標　】
ドーピング問題とは何かについて理解し、スポーツにおけるドーピング問題を社会秩序の観点から論じることができるようにする。

【授業時間外学修】
パラドーピング、日本選手のドーピング事件を調べる。(4.0hr)

第14回　スポーツと体罰
【　到達目標　】
スポーツを身体、規律、訓練の視点から考察する。
指導者と生徒の関係性、課外活動におけるハラスメント題等も社会学的観点から理解する。

【授業時間外学修】
自分のスポーツ経験・体験について、教師や指導者との関係性に関してまとめてみる。(4.0hr)

第15回　1964東京五輪と東京2020
【　到達目標　】
1964年東京五輪の当時の時代背景、スポーツ政策はいかに進められたかを理解する。
2020東京のレガシーについて考察する。

【授業時間外学修】
1964年,2020年のそれぞれの東京五輪の問題点について調べる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

1. テキストの難しい言葉については、あらかじめ読み方と意味を調べておく。
2. 現代スポーツの動きや問題について関心を持つようにする。
3. 感染予防、静かな授業環境を維持するためのルール、マナー、エチケットに各自が留意する。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しないが、必要に応じて、資料等を配布する。
参考図書：「現代スポーツのパースペクティブ」菊幸一他編著（大修館書店）2006 、「性と柔－女子柔道史から問う－」溝口紀子著（河出書房新社）2013、「よくわかるスポーツ文化論」 井上俊・菊幸一編著（ミネルヴァ書房）2012、「日本の柔道　フランスのJUDO」溝口紀子著（高文研）2015

【成績評価方法】

試験：60%（試験は試験期間中に別途実施。持込不可）、授業中の小レポート（3回）及びリアクションペーパーへの記述内容：40%、良好な出席状況は当然の前提である。

科 目 名	スポーツ史			担当者	都筑　真	
英 文 名	Sport History					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4					専門基礎・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CBE209		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

社会の変化に伴うスポーツのこれまでの変化について理解し、説明できるようになる。そして、各時代毎ではなく、現代のスポーツを理解する上で重要と思われるテーマ毎に、これまでのスポーツの歴史を理解していくことを通じて、今後のスポーツのあり方について自らの考えを表明できるようになる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スポーツ史学の基礎的事項	基礎的事項を理解し自らまとめて説明できる。	基礎的事項を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
スポーツ史学の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。
スポーツ史学の研究知見の活用に関する事項	知見の活用について意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
(1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。

【授業時間外学修】
参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)

第２回　スポーツ史を学ぶ意義
【　到達目標　】
(1)スポーツ史がどのような学問分野であるかを理解し、説明することができる。
(2)スポーツ史を学ぶ意義について理解し、説明することができる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第３回　スポーツのルーツへのまなざし
【　到達目標　】
(1)スポーツのルーツが人間のどのような活動にあるかを理解し、説明することができる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第４回　各時代の社会におけるスポーツ
【　到達目標　】
(1)スポーツの時代毎の変化を理解し、説明することができる。
(2)近代までのスポーツと現代のスポーツとの類似点や相違点について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第５回　スポーツ種目の誕生と変容
【　到達目標　】
(1)われわれの身近にあるスポーツ種目の誕生と変容を理解し、説明することができる。
(2)これまでのスポーツの変容を踏まえ、今後のスポーツのあり方について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第６回　欧米スポーツの日本への移入
【　到達目標　】
(1)欧米スポーツの日本への導入・普及過程について理解し、説明することができる。
(2)欧米スポーツが日本に普及した意義について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第７回　体操、身体教育、スポーツ教育
【　到達目標　】
(1)古代の体操､近代の身体教育に関する理論と歴史を理解し、説明することができる。
(2)古代の体操､近代の身体教育とスポーツ教育との類似点や相違点について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第８回　スポーツの技術、ルールの歴史的変容
【　到達目標　】
(1)スポーツの技術やルールの歴史的変容を理解し、説明することができる。
(2)スポーツの技術やルールが今後どのように変化していくのかについて自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第９回　近代の戦争と体育・スポーツ
【　到達目標　】
(1)近代における体育・スポーツと戦争との関係について理解し、説明することができる。
(2)体育・スポーツが戦争と関係する理由について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第10回　オリンピックムーブメントと世界平和
【　到達目標　】
(1)オリンピックムーブメントがどのような運動であるかを理解し、説明することができる。
(2)オリンピックが国際親善や世界平和につながる理由について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第11回　日本のスポーツ振興政策とスポーツ基本法
【　到達目標　】
(1)日本のスポーツ振興政策を概観しながら、スポーツ基本法制定へと至る過程や理由を理解し、説明することができる。
(2)これまでのスポーツ振興政策踏まえて、今後とるべき振興政策について自らの考えを表明できる。
【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第12回　スポーツ産業の歴史的発展とスポーツの経済効果
【　到達目標　】
(1)スポーツの発展に貢献した「モノ」「場」「サービス」の歴史を理解し、説明することができる。
(2)スポーツの経済効果について理解し、説明することができる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第13回　女性スポーツの展開と現在
【　到達目標　】
(1)女性にとってのスポーツの歴史を理解し、説明することができる。
(2)女性にとってスポーツが今後どのようななものとなっていくかについて自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第14回　スポーツとメディア
【　到達目標　】
(1)スポーツとメディアの歴史的関係を理解し、説明することができる。
(2)スポーツとメディアの今後の関係について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第15回　スポーツと環境問題
【　到達目標　】
(1)スポーツと環境問題の関係を理解し、説明することができる。
(2)スポーツ界における環境保全の取り組みを理解し、説明することができる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)

【学修上の留意点】
講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義では毎回、講義内容の理解を深めるために、小レポートを課す。「スポーツ原論」と併せて履修することが望ましい。

【教科書・参考書など】
特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。
『体育・スポーツ史概論』(木村吉次編著、市村出版)と『スポーツの歴史と文化』(新井博／榊原浩晃編著、道和書院)を講義の参考書として利用すること。

【成績評価方法】
講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。合格基準は60％である。

科目名	保育者論			担当者	百瀬　ユカリ	
英文名	Theory of Nursery Teacher					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CMR101		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

保育士、幼稚園教諭の制度的位置づけを理解し、保育者の役割と倫理について認識している。子どもの前に立つ者としての自覚と責任を持っている。また、保育の仕事は、保育者間で連携し協働していくことの必要性を理解している。さらに今日では、子育て支援を担う役割が保育者に求められており、園外の専門職や地域の関係機関との連携を推し進めていくことの大切さを踏まえ、乳幼児の保育と保護者支援に取り組む保育の専門性について理解している。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保育士、幼稚園教諭の制度的位置づけを理解している	保育士、幼稚園教諭の制度的位置づけを理解し、説明できる。	保育士、幼稚園教諭の制度的位置づけを理解し、教科書等を参照しながら説明できる。	保育士、幼稚園教諭の制度的位置づけを説明できない。
保育者の役割と倫理についての認識している	保育者の役割と倫理について説明でき、保育者としての自覚と責任を持っている。	保育者の役割と倫理について教科書等を参照しつつ説明でき、保育者としての自覚と責任を持っている。	保育者の役割と倫理について理解に乏しく、保育者としての自覚と責任を持っていない。
乳幼児の保育と保護者支援に取り組む保育の専門性について理解している	園内での協働、子育て支援を担う役割、地域の関係機関等の連携について理解し説明できる。	園内での協働、子育て支援の役割、地域の関係機関等の連携について教科書等を参照しつつ説明できる。	園内での協働、子育て支援を担う役割、地域の関係機関等との連携について説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　保育者の現在（いま）
【　到達目標　】
(1)保育者を志す者としての自覚と責任を持つ。
(2)保育者の仕事と置かれている状況等について説明できる。

【授業時間外学修】
「保育者になりたい」自分を振り返る。(4.0hr)

第２回　保育者の制度的位置づけ
【　到達目標　】
(1)保育の法的根拠を理解している。
(2)保育者の仕事と資格・要件等について理解し説明できる。

【授業時間外学修】
児童福祉法、学校教育法、認定こども園法の該当箇所を読む。(4.0hr)

第３回　保育士と幼稚園教諭
【　到達目標　】
(1)保育士の制度的位置づけや職務内容について理解し説明できる。
(2)幼稚園教諭の制度的位置づけや職務内容について理解し説明できる。

【授業時間外学修】
保育者の職務内容を書き記す。(4.0hr)

第４回　保育者の役割と責務
【　到達目標　】
(1)保育者の役割について理解し説明できる。
(2)保育者の責務について理解し説明できる。

【授業時間外学修】
保育者の役割について、テキストで確認する。(4.0hr)

第５回　保育者の倫理
【　到達目標　】
(1)保育者の倫理について考察する。
(2)守秘義務や社会的責任について理解し説明できる。

【授業時間外学修】
保育者の倫理について資料を見て確認する。(4.0hr)

第６回　保育者の資質・能力
【　到達目標　】
(1)保育者の資質・能力について理解し説明できる。
(2)保育者に求められる知識・技術について理解し説明できる。

【授業時間外学修】
テキストを読む。(4.0hr)

第７回　保育者の専門性
【　到達目標　】
(1)子どもの保育に関する専門性について理解し説明できる。
(2)保護者支援に関する専門性について理解し説明できる。

【授業時間外学修】
保育者の専門性について、他の職種との違いを考える。(4.0hr)

第８回　保育者の一日
【　到達目標　】
(1)保育者の一日について理解し説明できる。
(2)保育者の援助について理解し説明できる。

【授業時間外学修】保育者のタイムスケジュール表を作成し、保育（子どもとかかわる）以外の仕事を考えてみる。(4.0hr)

第９回　保育園・幼稚園の一日
【　到達目標　】
(1)映像資料や実践記録を通して保育所の一日について理解し説明できる。
(2)映像資料や実践記録を通して幼稚園の一日について理解し説明できる。

【授業時間外学修】
写真や資料を通して園生活及び保育者の仕事の全体像を把握する。(4.0hr)

第10回　園での協働
【　到達目標　】
(1)保育における職員間の連携、協働について理解し説明できる。
(2)保育の場の運営（チームとしての園のあり方、チーム学校運営）について理解し説明できる。

【授業時間外学修】
保護者への保育の情報提供の方法について考えて書き記す。(4.0hr)

第11回　専門機関との連携
【　到達目標　】
(1)療育機関との連携について理解し説明できる。
(2)教育機関との連携について理解し説明できる。

【授業時間外学修】
保育現場と小学校との連携について考えて書き記す。(4.0hr)

第12回　保護者支援を担う保育者
【　到達目標　】
(1)保護者支援の必要性について理解し説明できる。
(2)保護者支援の方法と内容について理解し説明できる。

【授業時間外学修】
保育現場における保護者支援に関する取組を調べる。(4.0hr)

第13回　地域社会との連携
【　到達目標　】
(1)保育所等の社会的役割について理解し説明できる。
(2)地域の関係機関等との連携について理解し説明できる。

【授業時間外学修】
保育現場における地域交流の場面を写真などで見る。(4.0hr)

第14回　保育者の専門的成長
【　到達目標　】
(1)専門性の発達について理解し説明できる。
(2)他職種との連携について理解し説明できる。

【授業時間外学修】
保育の専門性について考えるところを書き記す。(4.0hr)

第15回　生涯発達とキャリア形成
【　到達目標　】
(1)保育者としてのキャリアアップについて自分の考えを述べることができる。
(2)保育者のライフサイクルについて理解し説明できる。

【授業時間外学修】
保育者として成長していくために必要なことを考える。(4.0hr)

【学修上の留意点】

教科書を中心に、具体的事例を確認しながら進める。毎時間配布する小レポートを作成し、復習に役立て、理解度の確認をすること。小レポートの内容は、次回の授業時にフィードバックを行う。必要に応じて映像資料も提示し理解を深める。保育者を志す者としての自覚と責任をもち、保育者の専門性とは何かを常に問いながら意欲的に学んでほしい。なお、理解度確認のため授業内試験を行う。

【実務経験のある教員による授業科目】

保育現場で実務経験のある教員が、保育活動場面における事例考察を行いながら、自身の保育経験などを踏まえ、保育者の役割と倫理について講義を行う。

【教科書・参考書など】

教科書：井上孝之・山﨑敦子編『子どもと共に育ちあう　エピソード保育者論』（第2版）株式会社みらい、 村上かつら作・百瀬ユカリ監修『新人保育者物語・さくら』小学館
参考書：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館（最新版）、厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館(最新版)

【成績評価方法】

授業内の小レポート及び課題提出により50%､理解度確認のための授業内試験結果を50%として総合的に評価する。

科目名	教育原論			担当者	小堀　哲郎	
英文名	Theory of Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CMR102		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

「教育とは何か」というテーマについて考えることは、教職を志す上で不可欠の作業である。また今日の日本は深刻な教育問題を抱えており、こうした問題の解決を考えるためには幅広い教育的素養が求められる。本科目においては、以上の課題について、基本的な知識を身につけるとともに、いくつかの側面から考察を加え、教育に関する洞察を深めることを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
教育原論の基礎的事項・理論について	基礎的事項を理解し自ら説明できる。	基礎的事項を教科書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
教育原論の研究知見に関する事項について	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。
教育原論の研究知見の活用にする事項について	知見の活用に際し意見を述べることができる。	知見の活用に際し、資料などを参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で、意見を述べられない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　教育とは何か
【　到達目標　】
本授業で学習する内容の概要を理解し、学習への意欲を高める。
【授業時間外学修】
幼児における教育の役割とはなにか、その基本的な意味を学ぶ。(4.0hr)

第２回　幼児教育を築いた人々（1）ールソーの思想
【　到達目標　】
ルソーの思想を中心に近代の教育思想を理解する。
【授業時間外学修】
ルソー『エミール』を読む中で、近代教育の特徴を学ぶ。(4.0hr)

第３回　幼児教育を築いた人々（2）ーペスタロッチ、フレーベルの思想
【　到達目標　】
ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリの幼児教育を中心にその思想を理解する。
【授業時間外学修】
ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリの幼児教育の特徴を学ぶ。(4.0hr)

第４回　我が国の幼児教育と保育の歴史（1）ー戦前の幼児教育・保育
【　到達目標　】
戦前・戦中日本の幼児教育の発展過程を、人物を中心に理解する。
【授業時間外学修】
日本で幼児教育が生まれる背景やその内容を学ぶ。(4.0hr)

第５回　我が国の幼児教育と保育の歴史（2）ー戦後の幼児教育・保育
【　到達目標　】
戦後日本の幼児教育の発展過程を、人物を中心に理解する。
【授業時間外学修】
戦後日本において、幼稚園や保育園における学習内容を学ぶ。(4.0hr)

第６回　子どもの発達と教育
【　到達目標　】
ピアジェの発達論を中心にその意義を理解する。
【授業時間外学修】
ピアジェの発達論を通して人の環境に対する認識方法を学ぶ。(4.0hr)

第７回　教育と児童福祉における目的と目標
【　到達目標　】
教育基本法やその他の法規から、幼稚園・保育所の目的や役割を理解する。
【授業時間外学修】
幼児教育に関する基本的な法令を学ぶ。(4.0hr)

第８回　日本の幼児教育・保育の制度
【　到達目標　】
日本の幼児教育・保育制度について、その目的や課題を理解する。
【授業時間外学修】
幼稚園と保育園の二元体制が生まれた背景と、幼保一元化にむけた動きを学ぶ。(4.0hr)

第９回　諸外国の保育制度
【　到達目標　】
アメリカ、中国、オランダなど諸外国の保育制度の特徴を理解する。
【授業時間外学修】
諸外国の幼児教育の実態を知るとともに、その特徴を学ぶ。(4.0hr)

第10回　教育課程・保育課程
【　到達目標　】
教育課程や保育課程の全体的、基本的な事項について理解する。
【授業時間外学修】
幼児教育の教育計画の理念、作成方法、留意点などを学ぶ。(4.0hr)

第11回　子どもの発達の特徴と遊び
【　到達目標　】
子どもの発達にとって遊びが重要な役割を果たしていることを理解する。
【授業時間外学修】
子どもが発達する上で遊びが重要であることを学ぶ。(4.0hr)

第12回　特別支援教育とは
【　到達目標　】
日本の障害児教育の歴史を理解する。
【授業時間外学修】
障害幼児の特性と特別支援教育の理念について学ぶ。(4.0hr)

第13回　障害児に対する支援
【　到達目標　】
特殊教育から特別支援教育に変わって障害児への支援の仕方が変化したことを理解する。
【授業時間外学修】
障害の特性に応じた指導方法について学ぶ。(4.0hr)

第14回　生涯学習社会における幼児教育と保育
【　到達目標　】
生涯学習社会における幼児教育や保育のもつ意味について理解する。
【授業時間外学修】
生涯教育社会において幼児教育を知ることの意味について学ぶ。(4.0hr)

第15回　幼児教育とはなにか
【　到達目標　】
幼児教育とはなにか、学生一人一人が自分の基本的な考え方をまとめる。
【授業時間外学修】
幼児にとって教育の意味とはなにか、その基本を学ぶ。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業は教員による講義形式に加え、アクティブラーニングを導入する。毎回の授業の際に「授業内レポート」等を作成し、評価に算入する。私語その他、他の学生に迷惑となる行為は厳禁。場合によっては退出してもらうこともある。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。適宜、資料等を配布。
参考書等については授業時に紹介する。

【成績評価方法】

各回の授業課題（45%）、期末レポート課題（55%）。

科目名	幼児体育			担当者	森田　陽子	
英文名	Physical Education for Preschool Children					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR103		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

幼児期になぜ運動あそびが必要なのか、幼児期の運動プログラム、運動あそび指導の実践例などについて、実技とともに大きな単元ごとに講義を行う。この授業で保育実践に必要な教材・教具・遊具の特性について理解し、実際の保育において適切な援助や補助、環境構成ができるようになることを目的とする。
実際に幼稚園児・保育園児とかかわりながらさらにその理解を深める。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
幼児体育の基礎的事項・理論と実践	幼児体育の基礎的事項の理論を理解し、模範的に実践することができる。	幼児体育の基礎的事項の理論を理解し、実践することができる。	幼児体育の基礎的事項の理論を理解し、実践することができない。
幼児体育の応用的事項・理論と実践	幼児体育の応用的事項の理論を理解し、模範的に実践することができる。	幼児体育の応用的事項の理論を理解し、実践することができる。	幼児体育の応用的事項の理論を理解し、実践することができない。
保育現場における幼児体育の実践	保育現場における幼児体育の実践において適切な援助や補助、環境構成ができる。	保育現場における幼児体育の実践において、援助や補助、環境構成ができる。	保育現場における幼児体育の実践（適切な援助や補助、環境構成）ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション・コミュニケーションゲームなど
【　到達目標　】
(1)授業の予定を知り、授業を受けるためのルールを理解する。
(2)コミュニケーションゲームで、人とかかわる楽しさ・大切さを知る。

【授業時間外学修】
指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)

第２回　①ボールを使って
【　到達目標　】
(1)ボールの特性を考えたり、大きさや感触の違いを感じる。

【授業時間外学修】
ボールを使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)

第３回　②縄を使って
【　到達目標　】
(1)縄の特性を考えたり、素材の違いを知る。
(2)一人・二人・大人数で、どんな跳び方ができるか挑戦する。

【授業時間外学修】
縄を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)

第４回　③フープを使って
【　到達目標　】
(1)フープの特性を考えたり、素材の違いを知る。
(2)回す、転がす、投げる、受ける、くぐるなどに挑戦する。

【授業時間外学修】
フープを使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)

第５回　④棒を使って
【　到達目標　】
(1)棒の特性を考えたり、素材の違いを知る。
(2)バランスをとったり、リズムに合わせてあそぶ。

【授業時間外学修】
棒を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)

第６回　⑤マットを使って
【　到達目標　】
(1)マットの特性を知る。
(2)前転のバリエーションを体験する。
(3)後転のバリエーションを体験する。
【授業時間外学修】
マットを使った遊びでの学び、前転の指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)

第７回　⑥鉄棒を使って
【　到達目標　】
(1)固定遊具に関する知識を得る。
(2)鉄棒の基本動作と逆上がりの段階的な指導法を学ぶ。

【授業時間外学修】
鉄棒を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)

第８回　⑦鉄棒を使って―その2―
【　到達目標　】
(1)基本動作を実践する。
(2)逆上がりを実践する、補助の仕方を習得する。

【授業時間外学修】
鉄棒を使った遊びでの学び、指導ポイント、補助のポイント等をレポートする。(4.0hr)

第９回　⑧跳び箱を使って
【　到達目標　】
(1)跳び箱運動に必要な感覚を養うあそびを体験する。

【授業時間外学修】
跳び箱を跳ぶことにつなげる遊び、跳び箱の指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)

第10回　⑨サーキット遊び
【　到達目標　】
(1) いろいろな道具を組み合わせて遊ぶ。

【授業時間外学修】
サーキット遊びの指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)

第11回　⑩布を使って
【　到達目標　】
(1) いろいろな大きさの布を使って遊ぶ。

【授業時間外学修】
布を使った遊びの指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)

第12回　⑪身近にあるものを使って
【　到達目標　】
(1) 身近にあるいろいろなものを使った運動遊びを体験する。

【授業時間外学修】
身近にあるものを使った遊びの指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)

第13回　⑫リズム表現遊び
【　到達目標　】
(1)音楽に合せてからだを動かすことを楽しむ。

【授業時間外学修】
音楽に合せて体を動かす遊びの指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)

第14回　運動会
【　到達目標　】
(1)13回までの授業のまとめとして運動会を実施する。
(2)楽しくからだを動かすことを体験する。

【授業時間外学修】いろいろな遊具を使った遊びでの学び、指導ポイント、この授業のまとめ等をレポートする。(4.0hr)

第15回　運動会（子どもたちとともに）
【　到達目標　】
(1)14回までの授業のまとめとして子どもたちとの運動会を実施する。
(2)楽しくからだを動かすことを体験する。
（附属幼稚園、附属保育園、近隣保育園の子どもたちの参加）
【授業時間外学修】いろいろな遊具を使った遊びでの学び、実際にこどもと関わりながら学んだことを
指導ポイント・言葉かけ等　この授業のまとめをレポートする。(4.0hr)

【学修上の留意点】

指導者として子どもの前に立つ場面を想定して身支度を整えて授業に臨むこと。
各単元の到達目標を達成できるよう努力するとともに、授業内容を振り返りレポートにまとめる。

【教科書・参考書など】

『0歳児から5歳児運動あそび12ヶ月』小学館（2022年）
『保育者のための幼児の運動遊び指導』幼児体育研究会編　不昧堂、
『幼稚園教育要領』（最新版）文部科学省、『保育所保育指針』厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）内閣府文部科学省厚生労働省

【成績評価方法】

単元ごとの実技テスト80%、レポートおよび授業内の提出物の内容20%。

科目名	保育・教育課程論			担当者	百瀬　ユカリ	
英文名	Theory of Curriculum for Early Childhood Care and Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CMR201		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

保育所、幼稚園における保育や教育の目標達成をめざし、どのように保育・教育を進めていくのか。その内容を明らかにするために編成されるのが、保育の全体的な計画・教育課程である。そういった意味で保育所や幼稚園の根幹をなすものである。本科目では、保育の全体的な計画・教育課程の編成や作成の意義、指導計画の実際、評価と改善の過程を理解することがねらいである。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保育の全体的な計画・教育課程の編成や指導計画作成の意義を理解し、説明することができる。	保育の全体的な計画・教育課程の編成や指導計画作成の意義を理解し十分説明することができる。	保育の全体的な計画・教育課程の編成や指導計画作成の意義を理解し、説明することができる。	保育の全体的な計画・教育課程の編成や指導計画作成の意義の理解が不十分で、説明できない。
乳幼児の発達の特徴を理解し、指導計画を作成することができる。	乳幼児の発達の特徴を理解し、指導計画を十分に作成することができる。	乳幼児の発達の特徴を理解し、資料等を参照しながら指導計画を作成することができる。	乳幼児の発達の特徴を理解し、資料等を参照しながら指導計画を作成することができない。
保育における計画・実践・評価・改善の過程を理解し、指導計画作成に活かすことができる。	保育における計画・実践・評価・改善の過程を十分に理解し指導計画作成に活かすことができる。	保育における計画・実践・評価・改善の過程を理解し、指導計画作成に活かすことができる	保育における計画・実践・評価・改善の過程の理解が不十分で、指導計画作成に活かせない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　保育の全体的な計画・教育課程と保育者の仕事
【　到達目標　】
保育の全体的な計画・教育課程が社会において果たす役割や機能を理解する。また、教育課程編成の基本原理を理解する。その上で、保育者の一日の仕事を理解し､記録はすべて一律に必要なものではなく､各園の実情に合わせて柔軟に使われるべきことを理解する。
【授業時間外学修】
保育所や幼稚園における「記録」の種類やその意味を学ぶ。(4.0hr)

第２回　保育者にとっての保育・教育課程
【　到達目標　】
保育者にとって保育・教育課程はなぜ必要なのかを理解する。教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解する。とくに、各園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行う意義を理解する。
【授業時間外学修】
幼稚園や保育所において保育・教育計画がなぜ必要なのか、その理由を学ぶ。(4.0hr)

第３回　保育の全体的な計画・教育課程とは何か
【　到達目標　】
保育の全体的な計画・教育課程とは何か、その目的と計画の手順を理解する。とくに、幼稚園教育要領や保育所保育指針の性格及び位置付け並びに保育の全体的な計画・教育課程編成の目的を理解する。
【授業時間外学修】
実際に保育計画を作成する際の手順や留意点について学ぶ。(4.0hr)

第４回　子どもの遊びの理解
【　到達目標　】
保育の全体的な計画・教育課程の編成を理解する一歩として、子どもの遊びを理解する方法を学ぶ。とくに、子どもの遊びを発達段階別に分けて援助方法と環境設定の在り方を理解する。
同時に、長期的な視野に立って教育課程や指導計画を検討することを理解する。
【授業時間外学修】
幼稚園や保育所における幼児の遊びの意味を学ぶ。(4.0hr)

第５回　子どもの発達と個性
【　到達目標　】
子どもの発達を理解し､併せて発達に応じた教育とはどうあるべきかを理解する。とくに､配慮すべき点として、子どもの発達は一律ではなくそれぞれ個別に違うことを理解する。同時に、長期的な視野に立って教育課程や指導計画を検討することを理解する。
【授業時間外学修】
幼児の発達の特性についてこれまでの発達論が示した内容を学ぶ。(4.0hr)

第６回　幼稚園教育要領とはなにか
【　到達目標　】
幼稚園教育要領とはなにか、その変遷の歴史を理解する。とくに、教育要領は絶対的なものではなく、常に子どもにとって必要な計画とはなにかという問いの中から生まれてくるものである。その意味でカリキュラム・マネジメントの在り方も理解する。
【授業時間外学修】
幼稚園教育要領とはなにか、その歴史的背景や時代ごとの特徴を学ぶ。(4.0hr)

第７回　保育所保育指針とはなにか
【　到達目標　】
保育所保育指針とはなにか、その性格、位置づけ及び教育課程編成上の目的を理解する。内容と歴史を理解する。とくに、保育指針は絶対的なものではなく、常に子どもにとって必要な計画とはなにかを考えて生まれることから、カリキュラム・マネジメントの在り方も理解する。
【授業時間外学修】
保育所保育指針とはなにか、その歴史的背景や時代ごとの特徴を学ぶ。(4.0hr)

第８回　援助計画の種類と書き方①－0～2歳児を対象に
【　到達目標　】
0～2歳児を対象に、援助計画の作成方法を理解する。とくに、計画の作成に際しては、領域を横断して教育内容を選択・配列することを理解する。

【授業時間外学修】
0～2歳児を対象とする指導計画を作成する際の留意点について学ぶ。(4.0hr)

第９回　指導計画の種類と書き方②－3～5歳児を対象に
【　到達目標　】
3～5歳児を対象に、指導計画の作成方法を理解する。とくに、計画の作成に際しては、領域を横断して教育内容を選択・配列することを理解する。
実際に指導計画案を作成してみる。
【授業時間外学修】
3歳～5歳児の指導計画を作成する際の留意点を学ぶ。(4.0hr)

第10回　環境構成の方法
【　到達目標　】
幼児の主体性を引き出す環境はどのように構成されるべきか、その方法を理解する。
とくに、環境構成をする際には教育課程の編成の基本原理を理解するとともに、教育課程や指導計画を検討する際には幼児・児童の実態を踏まえる重要性を理解する。
【授業時間外学修】
幼児の主体性を引き出すための保育環境とはどうあるべきか学ぶ。(4.0hr)

第11回　保育・教育実践計画
【　到達目標　】
「設定保育」の意味を知り、縦割り保育や延長保育、預かり保育など、様々な保育方法の意味や課題を理解する。とくに、単元、学期、学年をまたいだ長期的視野から、教育課程や指導計画を検討することを理解する。
【授業時間外学修】
「設定保育」の意味を知り、様々な保育制度や保育方法について学ぶ。(4.0hr)

第12回　実践に応じた保育・教育課程の工夫
【　到達目標　】
地域・家庭との連携など、新たな課題に応じた保育の全体的な計画・教育課程の作成方法を理解する。
とくに認定こども園の課題や、小学校の連携を深める際の課題を理解する。
また子どもの実態に沿ったカリキュラム・マネジメントの必要性を理解する。
【授業時間外学修】
最近の幼児教育における諸課題について学ぶ。(4.0hr)

第13回　実践の向上を図る記録のあり方
【　到達目標　】
カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解し､保育・教育課程作成のための記録の必要性を知り、様々な記録方法があることを理解する。併せて記録がカリキュラム評価の重要な資料となることを理解する。
【授業時間外学修】
保育・教育課程を作成する際の「記録」の活用の仕方について学ぶ。(4.0hr)

第14回　保育実践の向上とこれからの保育・教育課程
【　到達目標　】
保育実践における個別性、多様性、偶発性の意味を理解し、これからの保育の全体的な計画・教育課程に必要な課題を理解する。とくに、幼児・児童や地域の実態を踏まえて教育課程を検討することを理解する。
【授業時間外学修】
保育実践の個別性、多様性、偶発性といった特徴を事例を通して学ぶ。(4.0hr)

第15回　保育の専門性の向上をめざして
【　到達目標　】
この講義で重要だと思われる事項を再度確認し､あらためて幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解する。

【授業時間外学修】
保育の全体的な計画・教育課程論の全体像を理解し、かつ重要事項をあらためて振り返る。(4.0hr)

【学修上の留意点】

実際に保育の全体的な計画・教育課程を活用して、保育指導計画を作成する活動を通して諸理論や課題についての理解を深めること。

【教科書・参考書など】

参考図書　「カリキュラム論―教育・保育の計画と評価―」安部孝編著（みらい）
「乳幼児の教育保育課程論」北野幸子編著(建帛社)
「幼稚園教育要領」（最新版）文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（最新版）内閣府文部科学省厚生労働省、「保育所保育指針」（最新版）厚生労働省

【成績評価方法】

授業内課題50%、理解度確認のための授業内試験50%

科目名	保育指導法			担当者	百瀬　ユカリ	
英文名	Methods of Guidance for Child Care					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CMR202		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

保育現場において求められる、「環境を通して」の保育や「遊びや生活を通して」子どもの育ちを促すことについて理解している。乳幼児を対象とする保育の方法、内容について理解し、その指導法を説明できる。子どもの意欲や自主性を尊重し、その主体的な活動を保障するための保育の指導法について理解し活用できる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保育の基本：環境を通しての保育、遊びや生活を通して子どもの育ちを促すことについて	環境を通しての保育について及び遊びや生活を通して子どもの育ちを促す意義について説明できる。	環境を通しての保育について及び遊びや生活を通して子どもの育ちを促す意義を理解している。	環境を通しての保育について及び遊びや生活を通して子どもの育ちを促す意義を理解していない。
保育現場における乳幼児を対象とする保育の方法、内容についての理解と指導法について	5領域の基本的な内容と具体的な活動展開について把握し、指導法の全体構造を説明できる。	5領域の基本的な内容と具体的な活動展開について理解している。	5領域の基本的な理解と具体的な活動展開について理解していない。
子どもの意欲や自主性を尊重し、その主体的な活動を保障するための保育の指導法	保育の基本及び指導法の学びを活かし、保育指導案を立案し模擬保育を行うことができる。	保育の基本及び指導法の学びを活かし、保育指導案を立案できる。	保育の基本及び指導法の学びを活かし、保育指導案を立案できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　保育における指導
【　到達目標　】
(1)保育の全体構造及び保育者の役割について理解している。
(2)子どもの育ちを支える保育環境の重要性について理解している。

【授業時間外学修】
保育と指導の違いまたは共通点について考えて記す。(4.0hr)

第２回　環境を通して行う保育
【　到達目標　】
(1)保育のねらい及び内容について理解している。
(2)視聴覚教材を活用しながら保育の環境構成について理解している。

【授業時間外学修】
環境構成と指導の関係について考えて記す。(4.0hr)

第３回　子どもの発達過程に応じた保育
【　到達目標　】
(1)乳幼児期の発達過程と適切な対応（指導、援助）について理解している。
(2)個別支援が必要な子どもの援助・指導について理解している。

【授業時間外学修】
発達の課題や支援の方法について調べて記す。(4.0hr)

第４回　保育における個と集団の指導
【　到達目標　】
(1)個の成長に寄り沿った援助・指導について理解している。
(2)集団としての成長の過程に寄り沿った指導について理解している。

【授業時間外学修】
幼児期の集団活動や集団遊びを考えて書く。(4.0hr)

第５回　生活にかかわる援助・指導の方法
【　到達目標　】
(1)生活習慣の習得に関する指導の方法を理解している。
(2)生活技術の習得及び社会生活に関する指導の方法を理解している。

【授業時間外学修】
必要な生活習慣を考えて書く。(4.0hr)

第６回　遊びにかかわる援助・指導の方法①(教材への理解)
【　到達目標　】
(1)遊びの意義及び遊具の種類や果たす役割について理解している。
(2)遊びに必要な教材について理解している。

【授業時間外学修】
遊具のリストを作成する。(4.0hr)

第７回　遊びにかかわる援助・指導の方法②(活動展開への理解)
【　到達目標　】
(1)遊びの導入・内容について理解している。
(2)遊びの発展・展開について理解している。

【授業時間外学修】
遊びのリストを作成する。(4.0hr)

第８回　健康の領域にかかわる援助・指導の方法
【　到達目標　】
(1)園庭の環境やその遊びについて自分の考えを述べることができる。
(2)運動遊びの指導法について具体的に理解している。

【授業時間外学修】
運動遊びのリストを作成する。(4.0hr)

第９回　人間関係の領域にかかわる援助・指導の方法
【　到達目標　】
(1)役割遊び、ごっこ遊び、けんかの場面について理解している。
(2)視聴覚教材を活用しながら、遊びやけんかの場面への対応・指導法について理解している。

【授業時間外学修】
ごっこ遊びのリスト（必要な遊具や用具等も含めて）を作成する。(4.0hr)

第10回　環境の領域にかかわる援助・指導の方法
【　到達目標　】
(1)自然との関わりや自然を活かした保育について理解している。
(2)文字や記号など認識力に関する指導法について、小学校へのつながりと共に理解している。

【授業時間外学修】
自然に関わる遊びや活動のリストを作成する。(4.0hr)

第11回 言葉の領域にかかわる援助・指導の方法
【　到達目標　】
(1)話す、聴く、言葉の感覚を養うための指導法について、小学校のつながりとともに理解している。
(2)絵本やお話を活用した指導法について理解している。

【授業時間外学修】
絵本のリストを作成する。(4.0hr)

第12回　表現の領域にかかわる援助・指導の方法
【　到達目標　】
(1)絵画・造形に関する指導法について理解している。
(2)音楽・身体表現に関する指導法について理解している。

【授業時間外学修】
絵画造形に関する素材や道具等のリストを作成する。(4.0hr)

第13回 保育実践に向けて①(指導計画案について)
【　到達目標　】
(1)指導計画案の作成と保育の展開について理解している。
(2)指導計画案の理解と指導の多様性について理解している。

【授業時間外学修】
指導計画を作成し、何通りかの実践を考える。(4.0hr)

第14回 保育実践に向けて②(模擬保育)
【　到達目標　】
(1)模擬保育の計画を立案することができる。
(2)模擬保育の振り返りにより、保育の改善点を理解している。

【授業時間外学修】
指導計画を改善する。(4.0hr)

第15回　保育の総合性
【　到達目標　】
(1)遊びの連続性、総合性を踏まえた保育実践について理解している。
(2)養護と教育の一体性を踏まえた指導法について理解している。

【授業時間外学修】
保育における指導と何かを再考する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

具体的な保育場面を想定した多岐にわたる保育の方法、指導の内容を主体的に学んでいく。これまでの体験、子どもとのかかわり、そして、授業や教科書、資料などから得たことをもとに、保育実践の基礎を築いてほしい。レスポンスシートにより、理解度に応じて次回にフィードバックを行う。なお、理解度確認のため授業内試験を行う。

【実務経験のある教員による授業科目】

保育現場で実務経験のある教員が、豊富な保育活動の実践事例を通し、保育内容及び活動展開、保育計画、具体的な保育活動の指導方法について講義を行う。

【教科書・参考書など】

百瀬ユカリ著『実習に役立つ保育技術』創成社
文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）
その他、資料プリントを配布する。

【成績評価方法】

各回の授業時での課題50%、理解度確認のための試験結果を50%として総合的に評価する。

科目名	保育内容（健康）	担当者	森田　陽子
英文名	Child Care Studies (Child Health)		

単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR203		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容の取扱いについて理解し、健康な体と心を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保育内容「健康」の基礎的事項・理論	保育内容「健康」の基礎的事項・理論について説明できる。	保育内容「健康」の基礎的事項・理論について授業資料を参照しながら説明できる。	保育内容「健康」の基礎的事項・理論について説明できない。
保育内容「健康」の応用的事項・理論	保育内容「健康」の応用的事項・理論について説明できる。	保育内容「健康」の応用的事項・理論について授業資料を参照しながら説明できる。	保育内容「健康」の応用的事項・理論について説明できない。
保育内容「健康」の保育での実践（指導法含む）	保育内容「健康」の保育での実践（指導法含む）について指導案を立案できる。	保育内容「健康」の保育での実践（指導法含む）について授業資料を参照しながら指導案を立案できる。	保育内容「健康」の保育での実践（指導法含む）について指導案を立案できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　近年の子どもたちの状況
【　到達目標　】
(1)近年の子どもたちの育ちに見る変化と実態を理解する。
(2)幼児期とはどのような時期なのかを理解する。

【授業時間外学修】
近年の子どもたちの状況についての学びをレポートする。(4.0hr)

第２回　保育における「健康」とは
【　到達目標　】
(1)要領および指針の意義と改訂の趣旨を理解する。
(2)領域「健康」の位置づけと意味を理解する。

【授業時間外学修】保育所保育指針、幼稚園教育要領「健康」、幼保連携型認定こども園教育・保育要領についての学びをレポートする。(4.0hr)

第３回　健康管理と安全能力を育む援助
【　到達目標　】
(1)子どもの生活とケガや事故について理解する。
(2)安全生活の習慣や態度の形成について理解する。

【授業時間外学修】危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動することについての学びをレポートする。(4.0hr)

第４回　健康な心と体を育む保育の構想（計画立案１）
【　到達目標　】
(1)基本的生活習慣の概要、その形成を理解する。
(2)安全生活の習慣や態度の形成について理解する。
(3)情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。
【授業時間外学修】
健康指導・安全指導についての学びをレポートする。(4.0hr)

第５回　健康な心と体を育む保育の構想（教材研究１）
【　到達目標　】
(1)健康指導の実際を知る。
(2)安全指導の実際を知る。

【授業時間外学修】
保育の中の健康指導・安全指導についての学びをレポートする。(4.0hr)

第６回　健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育１）
【　到達目標　】
(1)健康指導の指導案の立案をする。
(2)安全指導の指導案の立案をする。
(3)幼児の動機づけや意欲などを配慮した健康指導・安全指導の在り方を知る。
【授業時間外学修】
健康指導・安全指導の指導上の留意点についてレポートする。(4.0hr)

第７回　健康な心と体を育む保育の評価と改善１
【　到達目標　】
(1)健康な心と体を育む保育の評価方法について理解する。
(2)健康な心と体を育む保育の改善方法について理解する。

【授業時間外学修】
立案した指導案を評価し、改善点をレポートする。(4.0hr)

第８回　多様な動きの経験を促す援助
【　到達目標　】
(1)遊びや生活の中の動きの経験を促す環境構成について理解する。
(2)遊びや生活の中の動きの経験を促す援助の仕方を理解する。

【授業時間外学修】
多様な動きの経験を促す援助方法についての学びをレポートする。(4.0hr)

第９回　領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助
【　到達目標　】
(1)気になる子、障がい児、肥満児等に応じた援助の仕方を理解する。
(2)家庭経験、性格特性に応じた援助の仕方を理解する。

【授業時間外学修】領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助についての学びをレポートする。(4.0hr)

第10回　健康な心と体を育む保育の構想（計画立案２）
【　到達目標　】
(1)様々な運動遊びを知る。
(2)運動遊びを中心とした具体的な指導の在り方を理解する。
(3)情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。
【授業時間外学修】
いろいろな運動遊びについて、その指導の在り方をレポートする。(4.0hr)

第11回　健康な心と体を育む保育の実践（教材研究２）
【　到達目標　】
(1)保育における運動遊びの実際をビデオで確認する。
(2)空間や遊具の配置等運動遊びにおける環境構成を理解する。

【授業時間外学修】
運動遊びの指導案を立案する。(4.0hr)

第12回　健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育2）
【　到達目標　】
(1)指導案の実践。
(2)情報機器の活用法を理解する。

【授業時間外学修】
ビデオを見ながら、模擬保育を振り返りレポートする。(4.0hr)

第13回　健康な心と体を育む保育の評価と改善２
【　到達目標　】
(1)模擬保育の実践を評価する。
(2)模擬保育の実践を反省する。

【授業時間外学修】
模擬保育の評価と反省から指導案の再構成を行う。(4.0hr)

第14回　幼児期に育まれる健康な体と心と小学校の生活や学習に活かされる力
【　到達目標　】
(1)幼児期の体や運動発達における発達課題と小学校における運動発達との関係性を確認する。
(2)小学校の教科等とのつながりについて理解する。

【授業時間外学修】幼児期に育まれる健康な体と心と小学校の生活や学習に活かされる力についての学びをレポートする。(4.0hr)

第15回　領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践
【　到達目標　】
(1)幼児を取り巻く現代的課題を確認する。
(2)領域「健康」の指導の方向性を考察し、保育実践の動向をする。

【授業時間外学修】
領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践についての学びをレポートする。(4.0hr)

【学修上の留意点】

幼稚園教育要領等に示された基本を踏まえ、保育内容「健康」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける.
授業時間外の学習に積極的に取り組むこと。毎回の授業を自筆のノートにまとめ、理解に繋げること。

【教科書・参考書など】

テキスト：『保育内容「健康」―幼児期の教育と小学校教育をつなぐ』ミネルヴァ出版（2023年）
参考書：『幼稚園教育要領』（最新版）文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）内閣府文部科学省厚生労働省、
『保育所保育指針』（最新版）厚生労働省

【成績評価方法】

①授業への取り組みに対する意欲や態度（20%）、②毎回の講義内容に対する課題レポート作成（40%）、③最終課題レポート作成（40%）

科目名	保育内容（環境）			担当者	北澤　明子	
英文名	Child Care Studies (Environment)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR204		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

現代の子どもを取り巻く環境や子どもと環境とのかかわりなどの専門的事項を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容について理解を深めていく。また、領域「環境」のねらい、内容について具体的な保育場面での事例等をみながら、実際の展開について学ぶとともに、グループワークや討議などを行いながら、実際の保育の環境とかかわりその意義・領域「環境」の現代的課題について理解を深める。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保育内容の領域「環境」のねらい及び内容について理解する。	領域「環境」のねらい及び内容について自らまとめて説明できる。	領域「環境」のねらい及び内容について教科書や資料を見ながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
保育内容の領域「環境」のねらい及び内容の展開の実際について理解する。	領域「環境」のねらい及び内容の具体的展開の実際について事例から自分で説明をできる。	領域「環境」のねらい及び内容の具体的展開の実際について教科書や資料を見ながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
領域「環境」の現代的課題について理解する。	領域「環境」の現代的課題をいくつかあげ、自らまとめ説明できる。	領域「環境」の現代的課題について、教科書や資料を見ながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　保育における「環境」の捉え方について
【　到達目標　】
保育における「環境」の捉え方について説明できる。
環境を通した保育について説明できる。

【授業時間外学修】
事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておく。(4.0hr)

第２回　領域「環境」について
【　到達目標　】
幼稚園教育要領および保育所保育指針における「環境」の意義と目的を理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習を行い、10の姿について確認する。(4.0hr)

第３回　資質・能力及び１０の姿／評価について
【　到達目標　】
資質・能力及び１０の姿と領域「環境」との関係について理解する。
保育・幼児教育における評価の考え方を理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習を行い、教科書を読み予習を行う。(4.0hr)

第４回　領域「環境」のねらい、内容の実際の展開１―自然とのかかわり―
【　到達目標　】
子どもが自然と関わることの意義と実際の展開について理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習を行い、教科書を読み予習を行う。(4.0hr)

第５回　領域「環境」のねらい、内容の実際の展開２―身近なものとのかかわり―
【　到達目標　】
子どもが身近なものとかかわることの意義と実際の展開について理解する。
年齢・発達に応じたものとのかかわりについて理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習を行い、教科書を読み予習を行う。(4.0hr)

第６回　領域「環境」のねらい、内容の実際の展開３―標識・文字等とのかかわり―
【　到達目標　】
保育の場で子どもが標識や文字等とどのようにかかわっているのかについて理解を深める。
子どもの標識や文字等とのかかわりを支える援助や環境構成について理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習を行い、教科書を読み予習を行う。(4.0hr)

第７回　領域「環境」のねらい、内容の実際の展開４―数量・図形等とのかかわり―
【　到達目標　】
子どもが遊びや生活のなかで数量や図形とどのようにかかわっていくのかについて理解する。
子どもの発達と数量・図形について理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習を行い、教科書を読み予習を行う。(4.0hr)

第８回　標識・文字・数量・図形等の体験１
【　到達目標　】
標識・文字・数量・図形に関わる活動から１つ選び実際に子どもの活動や遊びを考え、まとめる。

【授業時間外学修】
次回の授業で発表できるように授業内で終わらなかった資料作成を行う。(4.0hr)

第９回 標識・文字・数量・図形等の体験２
【　到達目標　】
標識・文字・数量・図形に関わる活動から１つ選んだ活動や遊びをまとめたものを発表する。

【授業時間外学修】
他の人の発表を聞き、学んだことをまとめる。(4.0hr)

第10回　「環境」のねらい、内容の実際の展開５―様々な文化や伝統とのかかわり―
【　到達目標　】
保育の場における伝統や文化とのかかわりについて理解する。
多様な文化があることに気付き、理解を深めることができるようにする。

【授業時間外学修】
生活のなかで子どもが出会う文化について調べてまとめる。(4.0hr)

第11回　領域「環境」のねらい、内容の実際の展開６―身近な施設・地域とのかかわり―
【　到達目標　】
保育の場における地域の施設・人々との関わりについて理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習を行い、教科書を読み予習を行う。(4.0hr)

第12回　遊びを通した総合的な指導の展開
【　到達目標　】
子どもの遊びと5領域の関係や実践事例との関連について学ぶ。

【授業時間外学修】
授業の内容を復習し、教科書を読み予習を行う。(4.0hr)

第13回　小学校との連携・接続の実践
【　到達目標　】
幼児期から小学校以降の学び・接続について理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習を行い、教科書を読み予習を行う。(4.0hr)

第14回　領域「環境」にかかわる現代的な課題１
【　到達目標　】
ESDと保育の関係について理解する。
保育における多文化共生について理解する。
インクルーシブ保育について理解する。
【授業時間外学修】
それぞれのテーマについて自分で視点を持ち、調べまとめる。(4.0hr)

第15回　領域「環境」にかかわる現代的な課題２
【　到達目標　】
自分で調べたことを発表する。

【授業時間外学修】
他の人の発表も聞き、領域「環境」に関する現代的課題についてレポートにまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

教科書、配布資料での説明、映像資料を見ながらの説明、実践等を行いながら学んでいく。しっかりメモをとり、グループワーク等では発言するなど積極的な参加が臨まれる。授業の内容については教材や季節により多少前後することがある。廃材、自然物、ハサミ、のり、色鉛筆、テープなどの持参をお願いする回がある。その場合、授業内で説明する。

【教科書・参考書など】

教科書：「実践例から学びを深める保育内容・領域　環境　指導法」　小櫃智子編著／小櫃智子・小山朝子・北澤明子他　わかば社
参考書：「体験する　調べる　考える　領域「環境」」田中緑著／萌文書林　「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

【成績評価方法】

各回に関しては振り返り用紙の記入をもって評価する。それらの評価が15%、15回のうちの1回小テストを実施しその評価が50%（時期は授業内で提示）、レポート提出を35%（時期は授業内で提示）として総合的に評価する。

科 目 名	保育内容（言葉）			担当者	並木　真理子	
英 文 名	Child Care Studies (Language)					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR205		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

言葉の機能や言語獲得のメカニズム、子どもの言葉の発達の流れを理解し、『幼稚園教育要領』及び『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育保育要領』における子どもの言葉の育ちを支える保育のあり方を学ぶ。また、子どもの発達や姿を意識した部分実習指導案の立案と実践方法を学ぶ。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
言葉の機能や子ども言葉の発達について	知識を習得し自らまとめて説明できる	知識を習得し、資料等を参照しながら説明できる	知識が不十分で説明できない
要領・指針における保育内容「言葉」について	十分に理解し自らまとめて説明できる	内容を理解し、資料等を参照しながら説明できる	理解が不十分で説明できない
子どもの言葉に関する様々な課題と支援について	十分に理解し自らまとめて説明できる	内容を理解し、資料等を参照しながら説明できる	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス／領域「言葉」とは
【　到達目標　】
授業の概要や進め方を理解し、学習の心構えを形成する。
幼稚園教育要領・保育所保育要領 領域「言葉」のねらいと内容について理解する。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)

第２回　言葉の機能と獲得
【　到達目標　】
言葉の機能と子どもの言語獲得のメカニズムについて理解し、子どもの言葉の育ちにおける保育者の支援の重要性を認識する。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)

第３回　子どもの言葉の発達（１）
【　到達目標　】
視聴覚教材を視聴しながら乳児期の言葉の発達について理解する。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)

第４回　乳児保育における言葉の援助
【　到達目標　】
『保育所保育指針』の乳児保育における保育者の援助のあり方について理解する。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)

第５回　子どもの言葉の発達（２）
【　到達目標　】
視聴覚教材を視聴しながら低年齢期（１～２歳）の言葉の発達について理解する。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)

第６回　子どもの言葉の発達（３）
【　到達目標　】
視聴覚教材を視聴しながら幼児期前期（２～３歳）の言葉の発達について理解する。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)

第７回　低年齢児保育における言葉の援助
【　到達目標　】
『保育所保育指針』の1歳以上3歳未満児保育の領域「言葉」における保育者の援助のあり方について理解する。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)

第８回　子どもの言葉の発達（４）
【　到達目標　】
視聴覚教材を視聴しながら幼児期中期（３～４歳）、後期（４～５歳）の言葉の発達について理解する。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)

第９回　幼児期における言葉の援助
【　到達目標　】
『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の領域「言葉」における保育者の援助のあり方について理解する。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)

第10回　書き言葉の発達と小学校への連携
【　到達目標　】
幼児期の書き言葉の発達について理解し、小学校への連携について理解を深める。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)

第11回　言葉に関して配慮を必要とする子どもへの支援と現代の子どもの言葉の課題
【　到達目標　】
発達上の課題を抱える子どもや多様なルーツを持つ子どもに対する言葉の支援を理解する。
子どもの言葉を取り巻く現代的な課題について理解し、その課題を踏まえた言葉の保育について理解する。
【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)

第12回　子どもの言葉を育む指導計画①
【　到達目標　】
保育における指導計画について理解し、部分実習指導案の立案の仕方を学ぶ。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)

第13回　子どもの言葉を育む指導計画②
【　到達目標　】
子どもの姿や発達を意識し、絵本を題材に部分実習指導案を立案する。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)

第14回　言葉に親しむ保育教材の作成
【　到達目標　】
部分実習指導の導入に活かせる保育教材を作成する。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)

第15回　部分実習指導案の実践と振り返り
【　到達目標　】
部分指導案の実践を行い、指導案立案の反省と課題をまとめる。

【授業時間外学修】
配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)

【学修上の留意点】

・授業は講義と演習を組み合わせて行う。グループワークやディスカッションには積極的に取り組み、多角的に授業内容の理解に努めること。
・自主的に『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を読みこなし、内容の理解を深めること。
・毎回、授業での学びをまとめる授業シートを記入する。授業シートをもとに次回授業でフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書：『乳幼児の言葉が生まれ・育っていくために　保育内容　言葉』河合優子 監修／並木真理子・桐川敦子 編集（アイ・ケイコーポレーション）2024年
『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）2018
『保育所保育指針解説』厚生労働省（フレーベル館）2018
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）2018

【成績評価方法】

グループワークや提出物50%、試験課題50%として総合的に評価する。

科 目 名	保育内容（人間関係）			担当者	角田　和也	
英 文 名	Child Care Studies(Social Relation of Nursery School and Kindergarten Teacher)					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR206		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、および保育所保育指針に示されている、領域「人間関係」について学ぶ。発達過程に即した子どもの人間関係の変化を様々な視点から概観するとともに、子どもの状況に応じた援助の仕方について検討する。また、保育者同士および保護者や地域とのかかわりについても理解を深める。そして、これらの学習した内容を踏まえながら、指導案作成時に配慮すべきポイント等について、年齢ごとに理解を深める。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
領域「人間関係」の基本的事項について	基本的事項について自らの意見を示すことができる	基本的事項について理解している	理解が不十分で説明できない
子どもとのかかわり方について（各論）	子どもとのかかわり方について自らの意見を示すことができる	子どもとのかかわり方について理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない
保育展開と指導計画について	保育展開及び指導計画を自ら立案できる	保育展開と指導計画について理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション／領域「人間関係」における保育および教育の目標
【　到達目標　】
(1)人間関係を取り巻く現代社会の状況を理解する。
(2)幼保連携型認定こども園、幼稚園、保育所、それぞれの教育・保育の基本および目標を理解する。
【授業時間外学修】
課題への取り組み。(4.0hr)

第２回　領域「人間関係」におけるねらいと内容
【　到達目標　】
(1)幼保連携型認定こども園、幼稚園、保育所、それぞれの教育・保育のねらいおよび内容を理解する。
(2)「評価」の考え方を理解する。
【授業時間外学修】
課題への取り組み。(4.0hr)

第３回　身近な人とのかかわりと発達
【　到達目標　】
(1)人間関係の発達の指標となる発達課題について具体的に学ぶ。
(2)それぞれの発達課題が、その後の人間関係の成長にどのような影響を与えていくのかを理解する。
【授業時間外学修】
課題への取り組み。(4.0hr)

第４回　保育者に求められている人間関係Ⅰ
【　到達目標　】
(1)乳児期の子どもたちとのかかわりを理解する。
(2)幼児期の子どもたちとのかかわりを理解する。
(3)情報機器を活用した人とのかかわりを支援する方策について理解する。
【授業時間外学修】
課題への取り組み。(4.0hr)

第５回　保育者に求められている人間関係Ⅱ
【　到達目標　】
(1)保育者同士のかかわりについて理解する。
(2)保育者と保護者のかかわりについて理解する。
(3)情報機器を活用した関係づくりの方策について理解する。
【授業時間外学修】
課題への取り組み。(4.0hr)

第６回　仲間とのかかわりと発達
【　到達目標　】
(1)自己調整力に育ちについて理解する。
(2)道徳性と規範意識の芽生えについて理解する。
【授業時間外学修】
課題への取り組み。(4.0hr)

第７回　遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割Ⅰ　―イメージの共有―
【　到達目標　】
(1)事例を基に、子どもたちの「イメージの共有」を支援する保育者のあり方について理解を深める。
【授業時間外学修】
課題への取り組み。(4.0hr)

第８回　遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割Ⅱ　―試行錯誤の過程―
【　到達目標　】
(1)事例を基に、子どもたちの「試行錯誤の過程」を支援する保育者のあり方について理解を深める。
【授業時間外学修】
課題への取り組み。(4.0hr)

第９回　遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割Ⅲ―自己主張・葛藤・育ち合い―
【　到達目標　】
(1)事例を基に、子どもたちの「自己主張」「葛藤」「育ち合い」を支援する保育者のあり方について理解を深める。
【授業時間外学修】
課題への取り組み。(4.0hr)

第10回　遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割Ⅳ―共同的遊び―
【　到達目標　】
(1)事例を基に、子どもたちの「共同的遊び」を支援する保育者のあり方について理解を深める。
【授業時間外学修】
課題への取り組み。(4.0hr)

第11回　人とのかかわりが難しい子どもへの支援
【　到達目標　】
(1)事例を基に、「人とのかかわりが難しい子ども」を支援する方策について理解を深める。
【授業時間外学修】
課題への取り組み。(4.0hr)

第12回　領域相互の関連性と保育展開Ⅰ―指導計画の意義・作成実践例（0～2歳児）―
【　到達目標　】
(1)未満児への指導計画を作成する際のポイントを理解する。
(2)模擬保育とその振り返りから、改善すべきポイントを見つけ出すことができる。
【授業時間外学修】
課題への取り組み。(4.0hr)

第13回　領域相互の関連性と保育展開Ⅱ―指導計画の意義・作成実践例（3歳児）―
【　到達目標　】
(1)3歳児への指導計画を作成する際のポイントを理解する。
(2)模擬保育とその振り返りから、改善すべきポイントを見つけ出すことができる。
【授業時間外学修】
課題への取り組み。(4.0hr)

第14回　領域相互の関連性と保育展開Ⅲ―指導計画の意義・作成実践例（4歳児）―
【　到達目標　】
(1)4歳児への指導計画を作成する際のポイントを理解する。
(2)模擬保育とその振り返りから、改善すべきポイントを見つけ出すことができる。
【授業時間外学修】
課題への取り組み。(4.0hr)

第15回　領域相互の関連性と保育展開Ⅳ―指導計画の意義・作成実践例（5歳児）―
【　到達目標　】
(1)5歳児への指導計画を作成する際のポイントを理解する。
(2)模擬保育とその振り返りから、改善すべきポイントを見つけ出すことができる。
【授業時間外学修】
課題への取り組み。(4.0hr)

【学修上の留意点】

①基本的にPowerPoint画像や動画を使用し、プロジェクターもしくはモニターに投影して授業を進める。使用する穴埋め方式のプリント教材に即して説明するが、口頭で補足および詳細な説明も併せて行うので、集中してメモを取り、保育実践時に活用できるオリジナル資料の作成を目指す必要がある。
②授業内容の理解を深めることを目的とした実践的な課題レポートの作成を、授業時間外学習で毎回求める。この課題は後日インターネット上の指定されたURLに提出してもらい、評価に反映させる（下欄「成績評価方法」の「提出物の総合評価」に該当）。また、提出された課題は、翌週の授業で授業資料として使用し、主に口頭でさらに補足や追加の説明を加えながら、他の受講者の意見を共有し自身のものの見方・考え方を広げ、より実践力を高めるようフィードバックしていく（当然メモは必須）。
③期末試験は、授業時に説明した基本的な事項や知識の定着の確認、および授業時間外学習で取り組んだ課題とその後のフィードバックで学習した実践的な力の定着の確認を目的として実施する。したがって、ルーブリックの「標準的な到達レベル」から「理想的な到達レベル」で出題されることになるので、授業時間外での日常的な自主学習・復習および実践的な研鑽を積み重ねることが求められる。
④出席を確認するため、授業は座席指定で行う。前方での受講を希望する場合は、その旨を申告することで座席の配置を考慮する。

【教科書・参考書など】

教科書：市販の教科書は使用せず、毎回授業時に配布するプリント教材を使用する。
参考書：テキスト内に授業回ごとの参考文献を示してあるので、そちらを参照のこと。

【成績評価方法】

・提出物の総合評価（50%）と期末試験の結果（50%）を合算して総合成績（100%）を算出する。合格基準は60%である。
・試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	保育内容（表現Ａ）			担当者	堤　由衣	
英文名	Child Care Studies (Expression A)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR207		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し子どもたちの発達を踏まえた上で、表現領域の一分野である音楽の楽しさを子どもたちに伝え、また子どもたちからさまざまな表現を引き出すことのできる指導法を身につける。１年次の「歌唱法」で取り扱ってきた教材を、実際に子どもたちと歌ったり、楽器で演奏したり、音楽に合わせて動いたりしながら、子どもの「表現」を実際に感じ取る。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保育者としての応用力	子どもとともに表現を楽しむ工夫ができる	子どもの表現に寄り添うことができる	子どもの表現を受けとめる気持ちが不十分である
感性を育む働きかけ	保育者として豊かな感性を持っている	保育者として感性を育む努力をしている	保育者として感性を育む努力が乏しい
音楽環境の整備	子どもに与える音楽環境を整えることができる	子どもに与える音楽環境を、ある程度整えることができる	子どもに与える音楽環境を整えることができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　領域「表現」のねらい及び内容の理解
【　到達目標　】
幼児教育の基本及び領域「表現」のねらい・内容について理解する。
表現活動について、３・４・５歳を中心に、育みたい資質・能力について具体的に考える。

【授業時間外学修】
「発育発達論」や「保育・教育心理学」など、１年次に学習してきたことを復習する。(4.0hr)

第２回　指導の進め方・教材研究
【　到達目標　】
年長児に適した教材を選択し、指導案の作成についてモデル指導案を基に学ぶ。
ICTを活用した音楽表現活動の実践例を学ぶことにより、その効果について考える。

【授業時間外学修】
いろいろな指導案の書き方を比較検討する。(4.0hr)

第３回　指導の進め方・教材研究
【　到達目標　】
年中児に適した教材を選択し、指導案の作成についてモデル指導案を基に学ぶ。
ICTを活用した音楽表現活動の実践例を学ぶことにより、その効果について考える。

【授業時間外学修】
いろいろな指導案の書き方を比較検討する。(4.0hr)

第４回　指導の進め方・教材研究
【　到達目標　】
年少児に適した教材を選択し、指導案の作成についてモデル指導案を基に学ぶ。
ICTを活用した音楽表現活動の実践例を学ぶことにより、その効果について考える。

【授業時間外学修】
いろいろな指導案の書き方を比較検討する。(4.0hr)

第５回　グループ①による体験授業
【　到達目標　】
年長児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。
その振り返りを通して保育の改善について考える。

【授業時間外学修】
グループ①を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)

第６回　グループ②による体験授業
【　到達目標　】
年長児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。
その振り返りを通して保育の改善について考える。

【授業時間外学修】
グループ②を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)

第７回　グループ③による体験授業
【　到達目標　】
年長児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。
その振り返りを通して保育の改善について考える。

【授業時間外学修】
グループ③を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)

第８回　グループ④による体験授業
【　到達目標　】
年中児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。
その振り返りを通して保育の改善について考える。

【授業時間外学修】
グループ④を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)

第９回　グループ⑤による体験授業
【　到達目標　】
年中児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。
その振り返りを通して保育の改善について考える。

【授業時間外学修】
グループ⑤を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)

第10回　グループ⑥による体験授業
【　到達目標　】
年中児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。
その振り返りを通して保育の改善について考える。

【授業時間外学修】
グループ⑥を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)

第11回　グループ⑦による体験授業
【　到達目標　】
年少児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。
その振り返りを通して保育の改善について考える。

【授業時間外学修】
グループ⑦を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)

第12回　グループ⑧による体験授業
【　到達目標　】
年少児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。
その振り返りを通して保育の改善について考える。

【授業時間外学修】
グループ⑧を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)

第13回　グループ⑨による体験授業
【　到達目標　】
年少児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。
その振り返りを通して保育の改善について考える。

【授業時間外学修】
グループ⑨を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)

第14回　指導の進め方・教材研究
【　到達目標　】
ダルクローズなど海外の音楽メソッドの特色を学び、実践方法について考える。

【授業時間外学修】
国内外における音楽メソッドについて、どのようなものがあるか調べる(4.0hr)

第15回　お楽しみ会を開こう
【　到達目標　】
卒園を間近に控えた年長児たちと共に、子どもたちが喜ぶ表現活動を考える。
小学校の教科とのつながりを意識し、音楽だけでなく、造形・動きも取り入れた活動をする。

【授業時間外学修】「内容が年齢に応じているか」「ことば掛けは適切か」などの観点をもち、活動を工夫する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

教材や指導方法など万全の準備を怠らない努力が必要であるが、それとともに実際の子どもとかかわるので、子どもの様子を観察し臨機応変に対応していく柔軟性が求められる。そのため、日頃から、ボランティアなどで子どもと接する機会があることが好ましい。園側の都合により、必ずしもシラバス通りには進まない場合もある。

【教科書・参考書など】

『子どものうた140選』ドレミ楽譜出版社、および１年次「歌唱法」の授業時に配ったプリント。
文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）
その他、適宜楽譜を配布する。

【成績評価方法】

「指導の記録」およびレポート40%、グループ発表ならびに毎授業時における子どもとのコミュニケーション能力60%で評価する。

科目名	保育内容（表現Ｂ）	担当者	本永　直子
英文名	Child Care Studies (Expression B)		

単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR208		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

幼児期における表現活動の意義と特質、子どもの姿や発達を促す要因について造形遊びを中心に学び、幼児の感性や創造性を豊かにする基本的教材について、素材、技法、ねらいや環境構成、指導上の留意点、評価方法等に関する専門的事項について実践的に理解する。また他の表現活動も視野に入れ、幼児の総合的な表現の可能性を考察する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
幼児期における造形表現活動の意義と特性について	理解に基づき、説明することが出来る。	資料等を参照しながら説明すること出来る。	理解が不十分で説明することが出来ない。
保育の造形表現活動における専門事項の理解について	理解に基づき、説明することが出来る。	資料等を参照しながら説明すること出来る。	理解が不十分で説明することが出来ない。
保育の造形表現活動における専門事項の実践について	理解に基づき、適切に実践することが出来る。	資料等を参照しながら適切に実践ことが出来る。	理解が不十分で適切に実践することが出来ない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　領域「表現」について（造形を中心に）
【　到達目標　】
子どもの表現活動を広く理解し、領域「表現」の位置づけについて説明できる。

【授業時間外学修】
子どもの発達や行動を観察すると共に、子どもの世界における造形表現に触れる。(4.0hr)

第２回　幼児を支える造形遊び（心とからだ 繋がる造形）
【　到達目標　】
幼児期の造形表現の特質と乳幼児期(0.1歳）の発達段階を理解し、作品の見方や環境設定等の知識を身につける。

【授業時間外学修】
子どもの発達や行動を観察すると共に、子どもの世界における造形表現に触れる。(4.0hr)

第３回　幼児を支える造形遊び（心とからだ 育む造形）
【　到達目標　】
幼児期の造形表現について、幼児期（2.3歳）の発達段階に合わせた楽しさを生み出す指導上のポイントを理解する。

【授業時間外学修】
子どもの発達や行動を観察すると共に、子どもの世界における造形表現に触れる。(4.0hr)

第４回　幼児を支える造形遊び（思考・心・からだ 育む造形）
【　到達目標　】
幼児期の造形表現について、幼児期（4.5歳）の発達段階に合わせた楽しさを生み出す指導上のポイントを理解する。

【授業時間外学修】
子どもの発達や行動を観察すると共に、子どもの世界における造形表現に触れる。(4.0hr)

第５回　幼児と自然と造形遊び
【　到達目標　】
自然の中にある造形素材との出会いと発見について学び、子どもの興味を増すような造形遊びの展開を実践的に理解する。

【授業時間外学修】
児童文化や美術、工芸作品等、広く造形表現に触れる。(4.0hr)

第６回　幼児と生活と造形遊び
【　到達目標　】
日常の中にある造形素材との出会いと発見について学び、子どもの興味を増すような造形遊びの展開を実践的に理解する。

【授業時間外学修】
児童文化や美術、工芸作品等、広く造形表現に触れる。(4.0hr)

第７回　子どもになりきる造形活動（企画・計画・グループ分け）
【　到達目標　】
ごっこ遊び・なりきり遊び・ゲーム大会・迷路作りなど、子どもたちの思いや想像・願望等を実現する造形遊びについて学び、共同で作り上げる造形活動の展開を実践的に理解する。

【授業時間外学修】
保育園・幼稚園の活動や行事について調べる。また、各作業の遅れを補う。(4.0hr)

第８回　子どもになりきる造形活動（準備・制作）
【　到達目標　】
決定した行事に向けて制作計画を立て、適した素材・材料、用いる道具とは何かについて考え、それらを調達し、制作の準備を進める。また、制作を進めることで共同で作り上げる造形活動の展開を実践的に理解する。
【授業時間外学修】
制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第９回　子どもになりきる造形活動（制作）
【　到達目標　】
決定した行事に向けて、素材・材料を活かし、道具を活用する方法を試行錯誤しながら制作を進め、皆で力を合わせながら作り上げる造形活動の展開を実践的に理解する。

【授業時間外学修】
制作進度の遅れを補う。(4.0hr)

第10回　子どもになりきる造形活動（発表）
【　到達目標　】
自らが企画した活動を実際に体験することで、総合的な造形遊びの意義について学ぶ。
また、共同で作り上げる造形活動の実践について振り返り、造形活動・造形遊びによって育まれる思いや気づきについて理解する。
【授業時間外学修】
各作業の遅れを補う。(4.0hr)

第11回　子どもと関わる造形表現（制作計画・参考資料探し）
【　到達目標　】
絵本・紙芝居・指人形・おもちゃなど、子どもと関わる保育用品や教材について理解する。
また、自らが子どもたちと関わる際に用いる保育用品や教材について検討する。

【授業時間外学修】
保育園・幼稚園で用いられる保育用品や教材について調べる。また、各作業の遅れを補う。(4.0hr)

第12回　子どもと関わる造形表現（対象と内容決め・制作）
【　到達目標　】
制作計画を立て、適した素材・材料、用いる道具とは何かについて考え、手法について検討し、制作の準備を進める。また、対象となる子どもたちの様子や思いを想像しながら制作することで、造形作品を介した子どもたちとの関わりを実践的に理解する。
【授業時間外学修】
各作業の遅れを補う。(4.0hr)

第13回　子どもと関わる造形表現（対象と内容決め・制作）
【　到達目標　】
準備した素材・材料、道具、手法について検討しながら、制作を進める。また、対象となる子どもたちの様子や思いを想像しながら制作することで、造形作品を介した子どもたちとの関わりを実践的に理解する。
【授業時間外学修】
各作業の遅れを補う。(4.0hr)

第14回　子どもと関わる造形表現（対象と内容決め・制作）
【　到達目標　】
準備した素材・材料、道具、手法について検討しながら、制作を進める。また、対象となる子どもたちの様子や思いを想像しながら制作することで、造形作品を介した子どもたちとの関わりを実践的に理解する。
【授業時間外学修】
各作業の遅れを補う。(4.0hr)

第15回　子どもと関わる造形表現（発表・まとめ）
【　到達目標　】
造形作品の発表を通して保育・教育現場における子どもたちとの関わり方を理解すると共に、制作過程や発表を振り返ることで造形表現・造形活動の意義を理解する。

【授業時間外学修】全員の発表が終了しない場合は補講を行う。また、授業で学んだ造形表現・造形活動についての学びや気づきについて、各自レポートを提出する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

実習が中心になるので自律的に活動すること。造形作業のしやすく汚れても良い服装を心掛け、基本的な用具（画材や文房具等）は各自で用意する。適宜、学生相互の作品鑑賞を行い、教員や学生同士で意見を交換することでフィードバックを行う。なお、受講生の状況にあわせて内容の組かえや調整を行うことがある。

【教科書・参考書など】

文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、厚生労働省『保育所保育指針』（最新版）
文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）
参考文献は適宜紹介し、資料プリントを配布する。

【成績評価方法】

制作過程を60%、ノートやワークシート等の提出物を20%、課題作品や発表20%として総合的に評価する。

科 目 名	音楽表現			担当者	堤　由衣・森　立子 辛島　安妃子	
英 文 名	Music for Children					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR209		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

子どもの「表現」の育ちを支えていくためには、まず子どもが潜在的に持っている資質を理解することが必要である。この授業では「表現」のなかでも「音楽」に焦点を当て、子どもが自らを豊かに表現できる環境づくりに寄与できる保育者となれるよう、「ソルフェージュ（楽典）」「歌唱法」「器楽Ⅰ」など１年次に習得した音楽の知識をより実践的かつ統合的に学ぶ。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保育者として必要とされる技量	子どもとともに音楽を楽しむことができる	子どもを意識して演奏ができる	子どもを意識して演奏することができない
音楽的な表現	うたと伴奏のバランスを考え音楽的に表現できる	一つの曲を止まらずに演奏できる	止まらずに演奏することができない
楽譜の理解	読譜が完全にでき、移調など応用ができる	読譜はできているが、応用ができない	読譜能力が不十分である

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　音楽による「表現」の教育
【　到達目標　】
領域「表現」のねらい及び内容について理解を深める。
環境と音について考える。

【授業時間外学修】
身近にいる子どもの様子を観察する。(4.0hr)

第２回　ハ長調のうたの弾き歌い
【　到達目標　】
平易な曲で、歌いながら弾くことに慣れる。
「子どもの豊かな感性を引き出すような伴奏とはどういうものか」を考えながら弾く。

【授業時間外学修】
１年生で使用した「バーナム・ピアノテクニック」を使い、指を動かす練習をする。(4.0hr)

第３回　和音で伴奏する４拍子曲
【　到達目標　】
簡単な和音進行を理解し、マーチを弾く。

【授業時間外学修】
「バイエル」の中から任意に選んだ曲を復習する。(4.0hr)

第４回　園生活のうたの弾き歌い①
【　到達目標　】
「おはようのうた」「おべんとう」を正確に弾く。

【授業時間外学修】
「おはようのうた」「おべんとう」のうたを覚える。(4.0hr)

第５回　園生活のうたの弾き歌い②
【　到達目標　】
「おかえりのうた」を正確に弾く。

【授業時間外学修】
「おかえりのうた」を覚える。(4.0hr)

第６回　動きと表現について
【　到達目標　】
音楽と動きのかかわりについて、舞踊学的観点から学ぶ。

【授業時間外学修】
子どもの動きを観察する。(4.0hr)

第７回　マーチ・ランニング・スキップのリズム
【　到達目標　】
リズムを変えたり、調を移調したりして弾く。

【授業時間外学修】
「歩く」「走る」「スキップする」というそれぞれのリズムを身体で覚える。(4.0hr)

第８回　季節のうたの弾き歌い①
【　到達目標　】
春・夏のうたを取り上げ、きれいに歌いながら弾く。

【授業時間外学修】「歌唱法」で習った春・夏のうたを復習する。(「先生とおともだち」「うみ」など)(4.0hr)

第９回　季節のうたの弾き歌い②
【　到達目標　】
秋・冬のうたを取り上げ、きれいに歌いながら弾く。

【授業時間外学修】「歌唱法」で習った秋・冬のうたを復習する。(「どんぐりころころ」「お正月」など)(4.0hr)

第10回　歌唱と伴奏のバランスの理解①
【　到達目標　】
うたに合った伴奏の音量や表現を理解する。
また、音響機器や映像機器の活用および注意点について理解する。

【授業時間外学修】
うたとピアノを別々に十分練習する。(4.0hr)

第11回　歌唱と伴奏のバランスの理解②
【　到達目標　】
うたに合った伴奏の音量、またペダルの使用について理解する。

【授業時間外学修】
適宜ペダルを踏みながらピアノを弾く練習をする。(4.0hr)

第12回　ヘ長調・ニ長調の曲の弾き歌い
【　到達目標　】
調号の♯やｂに注意しながら弾く。

【授業時間外学修】
「ソルフェージュ（楽典）」で習った調性について復習する。(4.0hr)

第13回　良く歌われている子どものうたの弾き歌い①
【　到達目標　】
子どもの好きなうたを余裕を持って演奏する。
「さんぽ」などの曲を通して、小学校「音楽科」とのつながりを理解する。

【授業時間外学修】
「きのこ」「さんぽ」など、子どもの好きなうたを１曲選び、うたを覚える。(4.0hr)

第14回　良く歌われている子どものうたの弾き歌い②
【　到達目標　】
子どもの好きなうたを余裕を持って演奏する。
「さんぽ」などの曲を通して、小学校「音楽科」とのつながりを理解する。

【授業時間外学修】
「きのこ」「さんぽ」など、子どもの好きなうたを１曲選び、うたを覚える。(4.0hr)

第15回　発表会
【　到達目標　】
子どもたちがいることを想定し、うたと伴奏のバランスを考えながら人前で演奏する。
また自身の演奏が子どもの感性を呼び覚ますものとなるよう、表現を工夫する。

【授業時間外学修】
うたとピアノを別々に十分練習する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

レッスン時に練習するだけでは進歩しないので、毎日ピアノに触り練習することを課する。ピアノだけに力を注ぐのではなく、うたの部分をきれいに歌うことが肝心である。個人レベルに差があるため、必ずしもシラバス通りには進まない場合もある。

【教科書・参考書など】

「子どものうた140選」（ドレミ楽譜出版社）
文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）
その他適宜楽譜を配布する。

【成績評価方法】

実技演奏能力80%、授業における課題達成度・練習量20%で評価する。

科 目 名	特別支援教育・障害児保育			担当者	北澤　明子	
英 文 名	Special Needs Education・ Childcare for Children with Disabilities					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR210		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

障害のある子ども、その他の特別な配慮を要する子どもを理解し、個別のニーズに対応するために必要な基礎的知識と支援方法を習得することを目的とする。
障害児保育・特別支援教育を支える理念や歴史的変遷について学び、個々の特性や心身の発達に応じた支援の方法や配慮について具体的に理解する。さらに、家庭への支援、関係機関との連携・協働、障害児保育（特別支援教育を含む）の現状と課題を理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
特別の支援を必要とする子どもの特性や心身の発達に関する基礎的事項の習得について	基礎的事項を十分理解し、説明できる	基礎的事項を、資料を参照しながら説明できる	基礎的事項の理解が不十分で、説明できない
個別のニーズに対応するための支援方法・技術に関する習得について	支援方法・技術を十分理解し、説明と実践的思考ができる	支援方法・技術を理解し、説明できる	支援方法・技術の理解が不十分で、説明できない
子ども家庭支援を行う専門職としての資質と職務遂行に必要な理論・方法の習得について	特別支援保育の理論・方法を十分理解し、専門職として説明と実践的思考ができる	特別支援保育の理論・方法を理解し、専門職として説明できる	特別支援保育の理論・方法の理解不足で、専門職として説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　障害児保育・特別支援教育を支える理念
【　到達目標　】
(1)障害の概念、障害児保育・特別支援教育の歴史的変遷について理解する。
(2)自立、地域社会への参加、インクルージョンなどの理念について理解する。
(3)合理的配慮の考え方について理解する。
【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第２回　障害のある子どもの理解と支援（１）視覚・聴覚・言語障害
【　到達目標　】
(1)「国際生活機能分類」による障害の捉え方を説明できる。
(2)視覚・聴覚・言語障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
【授業時間外学修】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第３回　障害のある子どもの理解と支援（２）肢体不自由、重症心身障害、病弱、医療的ケア児
【　到達目標　】
(1)肢体不自由・重症心身障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
(2)病弱、医療的ケア児について理解し、支援のあり方を説明できる。
【授業時間外学修】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第４回　障害のある子どもの理解と支援（３）知的障害
【　到達目標　】
(1)知的障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
【授業時間外学修】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第５回　障害のある子どもの理解と支援（４）LD、ADHD
【　到達目標　】
(1)LD-学習障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
(2)ADHD-注意欠陥多動性障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
【授業時間外学修】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第６回　障害のある子どもの理解と支援（5）自閉スペクトラム症
【　到達目標　】
(1)ASD-自閉スペクトラム症について理解し、支援のあり方を説明できる。
【授業時間外学修】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第７回　障害のある子どもの運動発達支援
【　到達目標　】
(1)障害のある子どもの発達を支援する運動あそびの理論と実際を理解する。
(2)支援課題に結び付けた環境設定（遊具等）の方法を理解する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。(4.0hr)

第８回　障害はないが特別の支援ニーズのある幼児の把握や支援
【　到達目標　】
(1)母国語の違い、LGBT、貧困、虐待、DV、社会的養護等、特別な支援を必要とする子どもの、学習上または生活上の困難について理解する。
(2)多様な特別支援ニーズをもつ子どもへの、組織的な対応の必要性を理解する。
【授業時間外学修】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第9回　障害児保育の実際（１）記録・評価、個別の指導計画・支援計画
【　到達目標　】
(1)行動観察、成育歴、検査等による発達の記録と評価について理解する。
(2)保育所保育指針および特別支援教育課程の趣旨に基づき、個別の指導計画・支援計画の作成について理解する。
【授業時間外学修】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第10回　障害児保育の実際（２）環境づくり、子ども同士の育ち合い
【　到達目標　】
(1)個々の発達を促す生活や遊びの環境・体制の整備方法を具体的に理解する。
(2)子ども同士の関わりと育ち合いについて理解する。
(3)障害児保育における子どもの健康と安全について理解する。
【授業時間外学修】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第11回　障害児保育の実際（３）職員間の連携・協働
【　到達目標　】
(1)クラス内の人的配置、保育所・幼稚園内の連携体制を理解する。
(2)情報の共有と守秘義務について理解する。
(3)特別な保育ニーズをもつ子どもへの保育者の専門性を理解する。
【授業時間外学修】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第12回　家庭への理解と支援
【　到達目標　】
(1)障害のある子どもを育てる家庭への子育て支援について理解する。
(2)ライフステージに応じた親やきょうだいへの支援について理解する。
(3)保護者間の交流や支え合いの意義とその支援について理解する。
【授業時間外学修】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第13回　関係機関との連携
【　到達目標　】
(1)保育機関と児童発達支援センター・医療機関等との連携について理解する。
(2)保育機関と地域の小学校、教育委員会との連携について理解する。
(3)特別支援教育コーディネーターの役割について理解する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。(4.0hr)

第14回　特別のニーズのある子どもの現状と課題（１）保健・医療
【　到達目標　】
(1)保健をめぐる特別のニーズのある子どもの現状と課題を理解する。
(2)医療をめぐる特別のニーズのある子どもの現状と課題を理解する。
【授業時間外学修】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第15回　特別のニーズのある子どもの現状と課題（２）福祉・教育
【　到達目標　】
(1)福祉をめぐる特別のニーズのある子どもの現状と課題を理解する。
(2)教育をめぐる特別のニーズのある子どもの現状と課題を理解する。
(3)地域における支援の場の広がりとつながりを理解する。
【授業時間外学修】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイントと補足資料を用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら理解を深めていく。講義内容に関する小レポートにより、理解度を確認し、適宜ディスカッションにつなげていく。

【教科書・参考書など】

教科書、資料プリント、ビデオ教材等使用。授業時に指示する。

【成績評価方法】

各回の授業時での小レポート・感想等の課題20%、理解度確認のための授業内試験を80%として評価する。

科目名	幼児リトミック			担当者	森田　陽子	
英文名	Eurhythmics for Children					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR211		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

リトミックは、リズムという素材を生かし、音楽に反応して動くことにより、感じる心、想像力や創造力を養うものである。また、心で感じたものを、からだを使って自分なりに表現することで心とからだの協調・調和を作り出そうとするものである。授業では、天野式リトミックを基本に現在の保育の現場にあったリトミックを模索することで、保育者自身に必要な基礎的能力を養う。また、保育現場でのリトミックの取り入れ方を実践的に学び、応用する力をつける。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
幼児リトミックの基礎的事項・理論	基礎的事項・理論について説明できる。	基礎的事項・理論について授業資料を参照しながら説明できる。	基礎的事項・理論についての理解が不十分で説明できない。
幼児リトミックの基礎的事項・実技	基礎実技を体得し、模範的な実践できる。	基礎実技を体得し、実践ができる。	基礎実技の体得が不十分で実践ができない。
幼児リトミックの基礎的事項等の理解とその応用（指導）	基礎的事項（理論・実技）に基づき年齢に応じた指導ができる。	基礎的事項（理論・実技）に基づき指導ができる。	基礎的事項（理論・実技）に基づいた指導ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
オリエンテーション：リトミックについて
リトミックの特性について認識する。

【授業時間外学修】
は保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)

第２回　基礎リズム①
【　到達目標　】
リズムとは何かを理解する。

【授業時間外学修】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらに
は保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)

第３回　基礎リズム②
【　到達目標　】
身体や教具を用いて、基礎リズムを表現することができる。

【授業時間外学修】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらに
は保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)

第４回　リズムパターン①
【　到達目標　】
記憶したリズムパターンを身体表現することができる。

【授業時間外学修】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらに
は保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)

第５回　リズムパターン②
【　到達目標　】
リズムパターンを作成し、教具で表現できる。

【授業時間外学修】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらに
は保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)

第６回　拍子①
【　到達目標　】
拍子の種類、各拍の役割について理解する。

【授業時間外学修】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらに
は保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)

第７回　拍子②
【　到達目標　】
各拍子に合わせた動作を表現することができる。

【授業時間外学修】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらに
は保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)

第８回　音楽反応
【　到達目標　】
和音遊び、拍子練習、音符の表現を理解する。

【授業時間外学修】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらに
は保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)

第９回　子どもへの指導①
【　到達目標　】
実際の保育現場を想定し、模擬授業を行なう。
担当学生の指導を体験し、授業評価を行いながら、学びを深める。

【授業時間外学修】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらに
は保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)

第10回　子どもへの指導②
【　到達目標　】
実際の保育現場を想定し、模擬授業を行なう。
担当学生の指導を体験し、授業評価を行いながら、学びを深める。

【授業時間外学修】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらに
は保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)

第11回　子どもへの指導③
【　到達目標　】
実際の保育現場を想定し、模擬授業を行なう。
担当学生の指導を体験し、授業評価を行いながら、学びを深める。

【授業時間外学修】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらに
は保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)

第12回　子どもへの指導④
【　到達目標　】
実際の保育現場を想定し、模擬授業を行なう。
担当学生の指導を体験し、授業評価を行いながら、学びを深める。

【授業時間外学修】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらに
は保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)

第13回　子どもへの指導⑤
【　到達目標　】
実際の保育現場を想定し、模擬授業を行なう。
担当学生の指導を体験し、授業評価を行いながら、学びを深める。

【授業時間外学修】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらに
は保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)

第14回　子どもへの指導⑥
【　到達目標　】
実際の保育現場を想定し、模擬授業を行なう。
担当学生の指導を体験し、授業評価を行いながら、学びを深める。

【授業時間外学修】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらに
は保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)

第15回　年齢別カリキュラム
【　到達目標　】
3・4・5歳児のカリキュラムについて理解する。

【授業時間外学修】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらに
は保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

本授業は演習実技なので、動きやすい服装、素足で行う。授業で経験した活動、幼児のための指導については必ずノートをとり、気付いたことなど書きとめておくようにすること。　授業後半には、ピアノを弾きながら、年齢に応じた模擬授業の実践を行なう。

【教科書・参考書など】

天野式「幼児リトミック」第１集　永倉栄子編（チャイルド本社）
天野式「幼児リトミック」第２集　永倉栄子編（チャイルド本社）

【成績評価方法】

授業の習熟度、授業での課題及び提出物の評価50%、実技試験・年齢に応じた模擬授業50%。

科目名	教育社会学	担当者	小堀　哲郎
英文名	Sociology of Education		

単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CMR301		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

学校や児童生徒に関する社会的かつ具体的問題について考える。その上で様々な教育問題は学校だけで解決できるものではなく、ひろく家庭、地域、社会との連携が必要であることを理解することが本科目の目的である。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
教育社会学の基礎的事項・理論について	基礎的事項を理解し自ら説明できる。	基礎的事項を教科書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
教育社会学の研究知見に関する事項について	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。
教育社会学の研究知見の活用にする事項について	知見の活用に際し意見を述べることができる。	知見の活用に際し、資料などを参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で、意見を述べられない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　日本の学校と教育の在り方について考える
【　到達目標　】
日本の学校を支える理念とはなにかを理解する。とくに、教育制度を支える教育行政の理念と仕組みについて理解する。併せて近年の学校をめぐる様々な変化について理解する。

【授業時間外学修】
日本の学校と教育の特徴について学ぶ。(4.0hr)

第２回　教師の指導力を考える
【　到達目標　】
学校における体罰を例に教師の指導力とはなにかを理解する。併せて教師をめぐる教育関連法規法を理解するとともに、指導力を高める際に必要な学級経営の仕組みと効果的な方法を理解する。
【授業時間外学修】
教員や幼稚園教諭、保育士の体罰から指導力について学ぶ。(4.0hr)

第３回　小学校における最近の児童の実態を考える
【　到達目標　】小学校高学年における学級崩壊の様子を映像などを通して知り、具体的な事例などを参考にしながら、その問題点を理解する。とくに子どもの生活の変化を踏まえ指導上の課題を理解する。こうした取組を通して学級経営の仕組みやPDCAサイクルなど効果的な指導方法も併せて理解する。
【授業時間外学修】
小学校高学年の実態を学級崩壊の実態から学ぶ。(4.0hr)

第４回　中学校における最近の生徒の実態を考える
【　到達目標　】
中学校における荒れの実態を知るととともに、どのような生徒指導が必要か、その在り方を探る。とくに、最近の子どもの変化、社会の変化と関連させ、教職員が協同して取組む必要性を理解する。こうした取組を通して学級経営の仕組やPDCAサイクルの重要性を理解する。
【授業時間外学修】
中学校における生徒の実態を荒れる実際から学ぶ。(4.0hr)

第５回 幼小の連携の在り方を考える
【　到達目標　】
幼児教育と小学校とのスムーズな連携を図るために、どのような取組が必要かを理解する。とくに近年の教育政策の動向を理解し、小1プロブレムのような問題を起こさないためにスタートカリキュラム等の実践例を挙げて、その特徴を理解する。
【授業時間外学修】
保育所、幼稚園と小学校の連携のあり方について学ぶ。(4.0hr)

第６回　不登校の歴史とその特徴を考える
【　到達目標　】
登校拒否から不登校に至る歴史とその特徴について理解する。その際には社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響と不登校を生み出す学校制度をめぐる諸課題についても理解する。併せて、子どもの生活の変化を踏まえ指導上の課題を理解する。
【授業時間外学修】
不登校の歴史的経過や最近の実態について学ぶ。(4.0hr)

第７回　インクルーシブなカリキュラムを考える
【　到達目標　】
不登校や障害者問題を契機に学校におけるインクルーシブ教育の在り方を理解する。とくに、地域との連携をもとに開かれた学校づくりの観点から障がい者と健常者が一体となった学びの在り方を理解するとともに、最近の特別支援教育の動向も理解する。
【授業時間外学修】
多文化共生社会にあって、どのようなカリキュラムが必要になるかを学ぶ。(4.0hr)

第８回　学校外の教育活動について考える。
【　到達目標　】
フリースクールや学習塾など、学校外で教育を保障する活動を理解する。具体的にはフリースクールや予備校、塾などの果たす役割を公教育の原理及び理念と絡めて理解する。また、諸外国の教育事情と、関連させながら理解する。
【授業時間外学修】
学校教育以外の教育活動の実態とその特徴を学ぶ。(4.0hr)

第９回　いじめ問題の歴史とその特徴を考える
【　到達目標　】
いじめが学校問題として登場した背景とその特徴について理解する。とくに近年の子どもの変化を踏まえ、指導上の課題を探る。また諸外国の教育事情や教育改革の動向と関連させて理解する。
【授業時間外学修】
いじめの歴史について、とくにいじめが学校問題となった経緯や背景を学ぶ。(4.0hr)

第10回　いじめ対策の在り方を考える
【　到達目標　】
いじめ対策の一例として長野県の取り組みを中心にその具体策を探る。いじめ対策は地域との連携を基とする開かれた学校づくりが大切であることを理解する。また、公教育制度を構成する教育関連法規と関連させていじめ対策に取組む必要性や学級経営上の留意点等を理解する。
【授業時間外学修】
いじめ対策は学校だけで取組むのではなく、家庭、地域が一体になる必要性を学ぶ。(4.0hr)

第11回　子どもの病気や怪我を考える
【　到達目標　】
不幸にして病気や事故で大きなハンディーを負う子どもがいる。そこで、学校の管理下で起こる事件、事故、災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。
【授業時間外学修】いじめによる自殺者や病気・事故による子どもの死から大人の果たすべき役割を学ぶ。(4.0hr)

第12回　世界の中の日本の子どもを考える
【　到達目標　】
各種の統計・実態調査を使って、諸外国の教育事情と教育政策の動向と比較して理解する。とくに、教育制度を支える教育理念の違いや教育制度をめぐる諸課題を日本と比較して理解する。

【授業時間外学修】
日本の子どもの実態について世界と比較しながら学ぶ。(4.0hr)

第13回　子どもの貧困とその対策を考える
【　到達目標　】
日本の子どもの貧困について理解する。とくに、子ども食堂など、ボランティアによる支援など、子どもの貧困問題の解決には地域との連携・協力が欠かせないことを理解する。こうした子どもへに配慮する、効果的な学級経営の方法や指導法を理解する。
【授業時間外学修】
貧困に関する日本や世界の実態を統計から学ぶ。(4.0hr)

第14回　子どもの健康・安全について考える
【　到達目標　】
子どもの健康や安全の視点から、学校は地域とどのように連携・協力すべきか、その具体的な対策について考える。とくに学校事故を未然に防ぐための安全管理、安全教育の両面から具体的な取組を理解する。
【授業時間外学修】
日本における子どもの健康の実態とその対策の歴史を学ぶ。(4.0hr)

第15回　これからの学校・教育の在り方を考える
【　到達目標　】
第1回～第14回の講義を踏まえ、これからの学校や教育の在り方を探る。とくに公教育の原理及び理念を理解する。また、学校を巡る近年の様々な状況の変化も併せて理解する。

【授業時間外学修】
これからの学校に必要なものとはなにか、教師に必要な資質とはなにかを学ぶ。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業は教員による講義形式に加え、アクティブラーニングを導入する。毎回の授業の際に「授業内レポート」等を作成し、評価に算入する。私語その他、他の学生に迷惑となる行為は厳禁。場合によっては退出してもらうこともある。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。適宜、資料等を配布。
参考書等については授業時に紹介する。

【成績評価方法】

各回の授業課題（45%）、期末レポート課題（55%）。

科目名	教育方法学			担当者	北澤　明子	
英文名	Methodology of Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CMR302		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

これからの社会を担う子どもに求められる資質・能力を育成するために必要な教育について広く捉え、教育者としての素養と実践へとつながる基礎として、適切な教育方法及び技術、教材や情報機器等の活用の仕方に関する知識・技能を身につける。さらに幼児期に必要とされる教育の役割について理解を深め、子どもの主体的な遊びや育ちを支える保育者のあり方について学ぶ。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
教育方法学の基礎的事項・理論について	基礎的事項・理論を理解し自らまとめて説明できる。	基礎的事項を資料を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
教材や情報機器等の活用について	優れた技術、発想、表現を行い、知見の活用について意見を示すことができる。	知見の技術を発揮し、発想、表現を工夫しようとしている。	知見の活用に関する理解が不十分で説明できない。
教育方法及び技術について（指導案作成）	指導案の要点を丁寧に分かりやすくまとめ、説明することができる。	指導案の要点をまとめ、説明することができる。	指導案の内容が不十分で説明ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　教育方法の基礎理論
【　到達目標　】
教育方法の基礎的な理論を理解する。
【授業時間外学修】
「教育原論」等で学習した内容、授業内容を復習し、ポイントをまとめる。(4.0hr)

第２回　日本の幼児教育方法の歴史
【　到達目標　】
日本の幼児教育方法の変遷と歴史について理解する。
【授業時間外学修】
「保育原理」等で学習した内容、授業内容を復習し、ポイントをまとめる。(4.0hr)

第３回　学級指導について（幼稚園）
【　到達目標　】
学級・児童及び生徒・教員・教室・教材等,授業・保育を構成する基礎的な要件を理解する。
【授業時間外学修】
先輩が作成したものや公開されている指導案について調べる。(4.0hr)

第４回　教材研究・指導案作成１
【　到達目標　】
基礎的な指導理論を踏まえて、目標・内容を教材・教具、授業・保育展開、学習形態
評価基準等の視点を含めた指導案を作成することができる。
【授業時間外学修】
教材研究と指導案作成の不足を補う。(4.0hr)

第５回　教材研究・指導案作成２
【　到達目標　】
基礎的な指導理論を踏まえて、目標・内容を教材・教具、授業・保育展開、学習形態
評価基準等の視点を含めた指導案を作成することができる。
【授業時間外学修】
教材研究と指導案作成の不足を補う。(4.0hr)

第６回 模擬授業１
【　到達目標　】
数グループに分かれ、学生を幼児に見立てて、各自指導案に基づいた模擬授業（活動）を
行い、互いに講評しあうアクティブラーニング通じて、話法を始めとする保育を行う上
での基礎的な指導技術を身につける。
【授業時間外学修】
模擬授業に向けての教材等の準備を行う。(4.0hr)

第７回　模擬授業２
【　到達目標　】
数グループに分かれ、学生を幼児に見立てて、各自指導案に基づいた模擬授業（活動）を
行い、互いに講評しあうアクティブラーニング通じて、保育を行う上での基礎的な指導技術
を身につける。
【授業時間外学修】
模擬授業に向けての教材等の準備を行う。(4.0hr)

第８回　環境を通して行う教育　子どもの育ちと物的環境
【　到達目標　】
これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方
（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。
【授業時間外学修】
幼稚園設置基準、幼稚園教育要領の復習を行う。(4.0hr)

第９回　環境を通して行う教育　子どもの育ちと人的環境
【　到達目標　】
これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方
（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。
【授業時間外学修】
幼稚園設置基準、幼稚園教育要領の復習を行う。(4.0hr)

第10回　幼児教育・保育における情報機器（ICT）の活用
【　到達目標　】
子どもたちの興味・関心を高めたり学習内容を振り返ったりするために、幼児の体験と関連
を考慮しながら、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。
【授業時間外学修】
情報機器等の教育的使用例をインターネットなどで調べる。(4.0hr)

第11回　情報機器等の活用１
【　到達目標　】
子どもたちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。
【授業時間外学修】
情報機器等の教育的使用例をインターネットなどで調べる。(4.0hr)

第12回　情報機器等の活用2
【　到達目標　】
子どもたちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。
【授業時間外学修】
情報機器等の教育的使用例をインターネットなどで調べる。(4.0hr)

第13回　幼児教育・保育における遊び
【　到達目標　】
授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける。
【授業時間外学修】
幼稚園設置基準、幼稚園教育要領の復習を行う。(4.0hr)

第14回　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程
【　到達目標　】
育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解する。
【授業時間外学修】
幼稚園設置基準、幼稚園教育要領の復習を行う。(4.0hr)

第15回　幼児教育・保育のこれから
【　到達目標　】
これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の
在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。
各自要点をまとめ発表する。
【授業時間外学修】
発表に向けて準備をする。(4.0hr)

【学修上の留意点】

適宜小レポート、発表を課すので、授業内容について教育実践を念頭において、考えをまとめる習慣をつけておく。適宜メモをとり、グループでの活動の際には
発言するなど積極的参加を求める。模擬保育の際には、その教材の材料を自分で準備する、廃材、自然物、ハサミ、のり、色鉛筆、テープなどの持参をお願いする回がある。その場合、授業内で説明する。

【教科書・参考書など】

参考書：「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」小櫃智子（編者）田中君枝　小山朝子、遠藤純子（わかば社）
「いまがわかる教育原理」西本望（みらい）
「幼稚園教育要領解説」（最新版）文部科学省　　資料のプリントも配付する。

【成績評価方法】

授業内における小レポートと指導案の合計を50%、全授業終了時点でのまとめのレポート50%を実施し、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。

科目名	保育内容（総合）			担当者	百瀬　ユカリ	
英文名	Child Care Studies (Seminar)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR303		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

保育内容の５領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）及び養護に関する保育の内容が、関連性をもって総合的に展開されることを具体的な保育実践につなげて理解している。多様な要素を含む子どもの遊びの内容や、その展開を助けるための環境構成に関する知識・技術について理解し活用できる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保育・幼児教育現場の基本的な保育理念、保育内容、保育活動展開、子どもの育ちについての理解	保育所保育指針・幼稚園教育要領等における保育・幼児教育の基本について説明できる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領等における保育・幼児教育の基本について理解している。	保育所保育指針・幼稚園教育要領等における保育・幼児教育の基本について理解していない。
保育・幼児教育における5領域の内容及総合的な展開について	5領域の内容と性質を理解したうえで、それらの総合的な展開について具体的に説明でき実践できる。	5領域の内容と性質を理解したうえで、それらの総合的な展開について説明できる。	5領域の内容とそれらの総合的な展開について説明できない。
保育の環境・教材・計画に対する理解と指導計画の立案	保育の環境・教材・計画への理解を深め、長期的視野に立った具体的な指導計画の立案ができる。	保育の環境・教材・計画への理解を深め、具体的な指導計画の立案ができる。	保育の環境・教材・計画に対する理解が不十分で、指導計画の立案ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　幼児教育・保育の基本
【　到達目標　】
(1)環境を通して行う教育・保育について理解している。
(2)幼児期に育みたい資質・能力について理解している。

【授業時間外学修】
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について資料を読み、理解を深める。(4.0hr)

第２回　幼稚園の一日
【　到達目標　】
(1)幼稚園の一日の流れについて理解している。
(2)保育内容と保育者の援助について具体的に理解している。

【授業時間外学修】保育者の援助の観点から幼稚園の一日について振り返る。認定こども園についても考察する。(4.0hr)

第３回　保育所の一日
【　到達目標　】
(1)保育所の一日の流れについて理解している。
(2)保育内容と保育者の援助について具体的に理解している。

【授業時間外学修】保育者の援助の観点から保育所の一日について振り返る。認定こども園についても考察する。(4.0hr)

第４回　保育内容の考え方・捉え方
【　到達目標　】
(1)幼稚園教育要領と保育内容について説明できる。
(2)保育所保育指針と保育内容について説明できる。

【授業時間外学修】
幼稚園教育要領、保育所保育指針等を読み、授業内容の理解を深める。(4.0hr)

第５回　子どもの発達過程と保育内容①　－3歳未満児について－
【　到達目標　】
(1)３歳未満児の発達過程について理解している。
(2)３歳未満児の発達に応じた保育内容について理解している。

【授業時間外学修】
３歳未満児の資料により、発達的な特徴を捉える。(4.0hr)

第６回　子どもの発達過程と保育内容②　－3歳以上児について－
【　到達目標　】
(1)３歳以上児の発達過程について理解している。
(2)３歳以上児の発達に応じた保育内容について理解している。

【授業時間外学修】
３歳～５歳児の資料により、発達的な特徴を捉える。(4.0hr)

第７回　保育の計画①―保育計画の理解―
【　到達目標　】
(1)保育課程と指導計画について理解している。
(2)指導計画の内容について理解している。

【授業時間外学修】
保育課程及び指導計画に関する教科書の該当箇所を読み、理解を深める。(4.0hr)

第８回　保育の計画②―指導計画について―
【　到達目標　】
(1)指導計画に基づく保育実践を理解している。
(2)具体的な指導計画案を作成できる。

【授業時間外学修】
保育現場の指導計画を参考に、指導計画案を作成する。(4.0hr)

第９回　模擬保育の実践（グループ学習）
【　到達目標　】
(1)指導計画案に沿って模擬保育を行い、問題点を理解している。
(2)保育を改善するための視点を持ち活用できる。

【授業時間外学修】
模擬保育の後に、指導計画案を修正する。(4.0hr)

第10回　保育環境の構成と再構成
【　到達目標　】
(1)環境構成の重要性やその意図について理解している。
(2)環境の再構成について具体的に理解している。

【授業時間外学修】
保育の事例を調べ、環境構成の重要性を理解する。(4.0hr)

第11回　遊びの導入と展開①（グループ学習）―基礎的内容の理解―
【　到達目標　】
(1)遊びの導入の方法について理解している。
(2)視聴覚教材の活用により遊びの展開の方法について理解している。

【授業時間外学修】
導入－展開に関する教科書の該当箇所から、理解を深める。(4.0hr)

第12回　遊びの導入と展開②　―実践的内容の理解―
【　到達目標　】
(1)遊びの導入と展開を具体的に理解している。
(2)遊びの導入と展開を考察し、適切な教材について理解している。

【授業時間外学修】
映像や写真から遊びの導入と展開を予測したり考えたりする。(4.0hr)

第13回　遊びと保育内容①　―保育者の援助の理解―
【　到達目標　】
(1)遊びをみる視点と保育者の援助について理解している。
(2)「物とのかかわり」「人とのかかわり」について理解している。

【授業時間外学修】
遊びをみる視点に関する教科書の該当箇所から、理解を深める。(4.0hr)

第14回　遊びと保育内容②（グループ学習）―遊びの総合的指導について―
【　到達目標　】
(1)５領域の特性に応じた保育実践と総合的指導について理解している。
(2)視聴覚教材を活用しながら遊びの援助の実際を理解している。

【授業時間外学修】
”○○ごっこ”を５領域の観点から分析してみる。(4.0hr)

第15回　保育内容の更なる充実をめざして
【　到達目標　】
(1)接続期（年長～小１）のカリキュラムについて理解している。
(2)長期指導計画・短期指導計画について再確認し理解している。

【授業時間外学修】
小学校との連続性に関する資料やアプローチカリキュラムについての資料を読む。(4.0hr)

【学修上の留意点】

保育内容を総合的に理解しているために、様々な科目と関連づけて学ばなければならない。今後の保育実習や実践に活かすべく、具体的な保育場面を想定しながら学びを深めてほしい。毎時間、授業内容に関する小レポートを作成し、次回の授業にフィードバックをして理解度を深める。模擬保育及び視聴覚教材によるグループ学習からの学びも大切にすること。なお、理解度確認のため授業内試験を行う。

【教科書・参考書など】

教科書：津金美智子、新井美保子編　安部孝、伊藤博美、 百瀬ユカリ他著『子どもの主体性を育む保育内容総論』（株式会社みらい）
参考書：文部科学省『幼稚園教育要領解説書』(最新版)、厚生労働省『保育所保育指針解説書』（最新版）、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』(最新版)（フレーベル館）

【成績評価方法】

各回の授業時での課題60%、理解度確認のための授業内試験の結果を40%として総合的に評価する。

科目名	保育指導法演習			担当者	百瀬　ユカリ	
英文名	Seminar in Method of Child Care					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR304		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

保育現場では、「環境を通して」の保育や「遊びや生活を通して」子どもの育ちを促すことが保育の基本とされている。こうした基本を踏まえ、以下の項目を本授業の目標とする。①子どもの発達、興味・関心に適した保育活動の展開について理解し、適切な方法を選択できる。②乳幼児を対象とする保育の方法、内容について理解し、保育指導計画案を立案できる。③子どもの主体的な活動を保障するために適切な保育の指導法を理解し活用できる。④実践した内容を振り返り、次の活動に活かせるようにする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
子どもの発達、興味・関心に適した保育活動の展開について理解し適切な方法を選択できる。	子どもの発達、興味・関心に適した保育活動展開を十分に理解し、適切な方法を選択できる。	子どもの発達、興味・関心に適した保育活動展開について理解し、適切な方法を選択できる。	子どもの発達、興味・関心に適した保育活動の展開について理解が不十分である。
乳幼児を対象とする保育の方法、内容について理解し、保育指導計画案を立案、活用できる。	乳幼児を対象とする保育の方法、内容を十分に理解し、保育指導計画案を立案、活用出来る。	乳幼児を対象とする保育の方法、内容について理解し、保育指導計画案を立案、活用できる。	保育指導法について理解が不十分で、保育指導計画の立案、活用ができない。
自らの実践を振り返り課題を見出し、必要に応じて保育計画案の修正ができる。	実践を振り返りながら自己課題を明確にし、必要に応じて計画を修正することができる。	実践を振り返り自己課題を明確にし、資料などを参照しながら計画を修正することができる。	実践の振り返りが不十分であり、自己課題を見出すことができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　本授業におけるオリエンテーション
【　到達目標　】
幼稚園教育要領や保育所保育指針で述べられている保育の基本的な考え方について確認する。
保育指導計画を立案、附属幼稚園で実践し実践を振り返る等の授業全体の流れを理解する。

【授業時間外学修】
配布資料の確認をする。(4.0hr)

第２回　保育形態・保育の流れ
【　到達目標　】
保育形態について学び、これからの実践に備える。
一日の保育の流れと、活動展開について確認し、適切な保育展開を理解する。

【授業時間外学修】
保育の形態についての復習をする。(4.0hr)

第３回　保育活動の指導計画作成
【　到達目標　】
保育活動の指導計画の立て方について確認する。
保育指導計画の立案に際し、ねらい及び内容、指導上の留意点を考慮する。

【授業時間外学修】
指導計画の立案をする。(4.0hr)

第４回　保育活動の準備
【　到達目標　】
附属幼稚園での活動の対象となる子どもを想定して、教材研究を行う。
生活場面の援助に関する活動について保育活動の計画をする。

【授業時間外学修】
教材研究を行う。(4.0hr)

第５回　実践に向けての模擬保育
【　到達目標　】
グループで、各自が計画した保育活動の模擬保育を行う。
教材や方法などについて検討し、改善点などを明らかにする。

【授業時間外学修】
活動を振り返り、計画の修正をして実践に備える。(4.0hr)

第６回 保育活動の実践１ ―保育現場での実践からの学び―
【　到達目標　】
附属幼稚園にて、自身が計画した保育活動を実践し、子どもたちとかかわりを通して学ぶ。

【授業時間外学修】
活動の振り返りを行い、記録をする。(4.0hr)

第７回　保育活動の実践2　―健康領域に関する活動―
【　到達目標　】
健康領域に関する活動に参加し、安全な保育環境について考える。
幼児の実態を再認識し、活動計画及び援助等に活かせるようにする。

【授業時間外学修】
活動の振り返りを行い、記録をする。(4.0hr)

第８回　実践に向けての準備・模擬保育
【　到達目標　】
附属幼稚園での活動経験を活かし、次の実践に備え教材研究を行い指導計画を立てる。
グループで、各自が計画した人間関係・関係領域に関する保育活動の模擬保育を行う。

【授業時間外学修】
教材や方法などについて検討し、改善点などを明らかにする。(4.0hr)

第９回　保育活動の実践3　―人間関係・環境領域に関する活動―
【　到達目標　】
附属幼稚園で、人間関係・環境の領域に関する活動について保育活動の実践をする。
子どもたちとのかかわりを通して、保育活動展開について学ぶ。

【授業時間外学修】
今回の実践を振り返り、反省点・改善点をまとめる。(4.0hr)

第10回　実践に向けての準備・教材研究・指導計画
【　到達目標　】
言葉・表現の領域に関する活動について保育活動の計画をする。
対象となる子どもを想定して、実践しようとする活動について教材研究をする。
2回の実践に向けての準備を進める(保育指導計画案・実技)。
【授業時間外学修】
次の実践への準備活動をする。(4.0hr)

第11回　実践に向けての準備・模擬保育
【　到達目標　】
2回の実践を視野に、実践に向けての準備を進める(保育指導計画案・実技)。
自主的にグループでの模擬保育に取り組む。

【授業時間外学修】
次の実践への準備活動をする。(4.0hr)

第12回　実践に向けての準備・模擬保育・計画の修正
【　到達目標　】
附属幼稚園での活動を考え、子どもが意欲的に取り組む工夫をする。
保育実践に向けての準備を進める(模擬保育・保育指導計画案修正)。

【授業時間外学修】
次の実践への準備活動をする。(4.0hr)

第13回　保育活動の実践4　―言葉・表現領域に関する活動―
【　到達目標　】
附属幼稚園にて、自身が計画した保育活動を実践し、子どもたちとかかわりを通して学ぶ。
子どもの興味・関心に適した保育活動計画を実践する。

【授業時間外学修】
今回の実践を振り返り、反省点・改善点をまとめる。(4.0hr)

第14回 保育活動の実践5　―言葉・表現領域に関する活動―
【　到達目標　】
附属幼稚園にて、自身が計画した保育活動を実践し、子どもたちとかかわりを通して学ぶ。
子どもの反応に合わせて臨機応変に活動展開ができるようにする。

【授業時間外学修】
今回の実践を振り返り、反省点・改善点をまとめる。(4.0hr)

第15回　実践の全体的な振り返り
【　到達目標　】
これまでの保育実践を総合的に振り返り､保育指導法について理解を深める。
保育実習・教育実習で実践経験を活かせるよう、指導計画案を整理する。

【授業時間外学修】
今後の活動に活かせるよう最終課題に取り組みを完成させる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

保育指導法で学んだ内容を踏まえて、実際に保育活動を展開することを想定し、保育指導計画案を立案したり模擬保育を行うことで、保育実習及び幼稚園実習への準備として取り組んでほしい。附属幼稚園で、保育実践を通して子どもたちとかかわり学びを得る機会を設けるため、保育者を目指す学生の真剣な取り組みを期待する。

【実務経験のある教員による授業科目】

保育現場で実務経験のある教員が、保育活動の位置づけ、指導計画の作成、教材研究などについて、具体的な実践的の場を設定し指導を行う。

【教科書・参考書など】

教科書「実習に役立つ保育技術」百瀬ユカリ著(創成社)
参考書「幼稚園教育要領」（最新版）文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（最新版）文部科学省厚生労働省

【成績評価方法】

授業内の取り組み(保育実践への準備、模擬保育、保育実践活動等)50%、提出課題(保育実習指導案を含む)30%、最終課題20%　(※但し、保育実践は3回以上実施、最終課題の提出を必須とする。)

科 目 名	子どもの保健			担当者	神庭　睦実	
英 文 名	Children's Health					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CME101		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

本科目では、子どもの健康問題、保健活動の意義とあり方について解説するとともに、保健活動を展開していくための方法について学ぶ。具体的には、発育・発達、健康状態の把握方法、疾病と予防・対応方法、保育環境と衛生管理、母子保健、他職種間の連携について取り扱い、保健活動のあり方と健康教育を展開していくための方法について考える。到達目標は２点とする。
①保健活動の意義および健活動を展開していくために必要な基本的知識について説明できる。
②子どもの健康に関する知識を踏襲し、健康に関する身近な出来事と関連付けながら保健活動を展開していくための工夫を提案できる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
子どもの健康に関する基本的事項・理論	基本的知識（理論やエビデンス）について説明できる。	基本的知識（理論やエビデンス）について、教科書や資料を参照しながら説明できる。	基本的知識（理論やエビデンス）について、理解が不十分なため説明できない。
保健活動や健康教育を展開していくための工夫や提案	基本的事項や理論を踏まえ、展開していくための工夫を自らの言葉で説明し、提案できる。	基本的事項や理論を踏まえ、展開していくための工夫を教科書や資料を参照しながら説明し、提案できる。	理解が不十分なため、説明が乏しく提案できない。
健康に関する身近な出来事への活用	身近な出来事の課題解決や知見の活用に向けて、学習状況を把握し、必要に応じて粘り強く思考し探求できる。	身近な出来事の課題解決や知見の活用に向けて、学習状況を把握し、教科書や資料を参照しながら探求できる。	身近な出来事と学習内容が結びつかず、探求できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】

第１回　保健活動の意義と目的
【　到達目標　】
・保育における保健活動の意義や目的を説明できる。
・保育における保健活動の基本的な法令や指針、基本的な保健統計について説明できる。
・子どもの保健活動のあり方について考察できる。
【授業時間外学習】
理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。

第２回　子どもの発育・発達と保健
【　到達目標　】
・日本における子どもの健康課題と母子保健対策について説明できる。
・体のしくみと子どもの発育・発達について説明できる。
【授業時間外学習】
理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。

第３回　子ども健康状態の把握（１）
【　到達目標　】
・子どもの健康状態の把握方法について説明できる。
【授業時間外学習】
理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。

第４回　子ども健康状態の把握（２）
【　到達目標　】
・感染症の種類と感染経路について理解できる。
・子どもの特徴について理解できる。
・体調のよくない子どもへの対応（発熱、下痢、嘔吐、咳）について説明できる。
【授業時間外学習】
理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。

第５回　子どもの病気とその予防（１）
【　到達目標　】
・学校保健安全法と予防接種の意義について説明できる。
・学校感染症の種類について理解できる。
【授業時間外学習】
理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。

第６回　子どもの病気とその予防（２）
【　到達目標　】
・学校感染症（第二種感染症）の症状について理解し説明できる。
・学校感染症（第二種感染症）の症状に合わせた対応をシュミレーションできる。
【授業時間外学習】
理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。

第７回　子どもの病気とその予防（３）
【　到達目標　】
・学校感染症（第三種感染症）の症状について理解し説明できる。
・学校感染症（第三種感染症）の症状に合わせた対応をシュミレーションできる。
【授業時間外学習】
理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。

第８回　子どもの事故（１）
【　到達目標　】
・子どもの視野を体験し、大人との異同について説明できる。
・子どもの視野に起因する事故や誤飲予防について考察することができる。
【授業時間外学習】
理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。

第９回　子どもの事故（２）
【　到達目標　】
・子どもの事故死の特徴について理解できる。
・発達段階ごとに起こりやすい事故について説明できる。
【授業時間外学習】
理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。

第10回　子どもに多いケガへの対応
【　到達目標　】
・けがの種類と対処方法（外傷、口腔内、目、頭部、やけど等）について理解できる。
・子どもの事故・怪我場面における対応をシミュレーションできる。
【授業時間外学習】
理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。

第11回　慢性・急性疾患への理解
【　到達目標　】
・慢性・急性疾患の種類と特徴について理解し説明できる。
・慢性・急性疾患の対応方法について説明できる。
【授業時間外学習】
理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。

第12回　アレルギー疾患への理解
【　到達目標　】
・アレルギー疾患の特徴について説明できる。
・集団生活におけるアレルギー疾患児について説明できる。
・アレルギー疾患児への配慮点について考察できる。
【授業時間外学習】
理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。

第13回　保育環境
【　到達目標　】
・保育環境の整備や安全管理に関する法律やガイドラインについて理解できる。
・望ましい保育環境について説明できる。
・熱中症予防と対応について説明できる。
【授業時間外学習】
理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。

第14回　保健活動の実際
【　到達目標　】
・保健活動の実際について理解できる。
・ほけんだよりを作成し、保健活動の具体的な内容について提案できる。
【授業時間外学習】
各自が設定したテーマに合わせてレビューを行い、情報を整理する(4.0hr)。

第15回　総括
【　到達目標　】
・第１～14回までの学習内容を踏まえ、健康に関する身近な出来事と関連付けながら考察できる。
【授業時間外学習】
第１～14回までのテキストの該当箇所及び資料を繰り返し確認し、知識の定着を図る。(4.0hr)

【学習上の留意点】

教科書や配布資料を用いて講義を進めていく（※のり＆ハサミを持参すること）。授業時間外学習については、授業内で適宜説明する。
子どもの健康や病気、事件や事故に関する書籍やニュース等、日頃から子どもの保健に関連する情報を収集する習慣を身につけ授業に臨んで欲しい。

【教科書・参考書など】

教科書：これだけはおさえたい！　保育者のための「子どもの保健」 創成社
その他：必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価方法】

平常点および提出課題50%、期末試験50%で総合的に評価する。不適切な受講態度と判断した学生は、減点対象とする。

科目名	子ども家庭福祉			担当者	小堀　哲郎	
英文名	Child and Family Welfare					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CME201		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

子どもや家庭を取り巻く社会的環境は大きく変化し、子どもの育ちという側面からみても、子育てという側面からみても、昨今多様な課題をもたらしている。
本講義では、子どもの育ちや子育てを社会的に支える仕組みや制度について、基礎的事項を学ぶことを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
子ども家庭福祉に関する法制度や実施体制の習得について	法制度や実施体制を十分理解し、説明できる	法制度や実施体制を、資料を参照しながら説明できる	社会福祉の法制度や実施体制の理解が不十分で、説明できない
子ども家庭福祉の動向と課題の理解と、課題解決に向けた論理的思考について	動向や課題について十分理解し、課題解決に向け、論理的に考えることができる	動向や課題について理解し、課題解決に向け、ある程度論理的に考えることができる	動向や課題の理解が不十分で、課題解決に向け、論理的に考えることができない
子ども家庭支援を行う専門職としての資質と職務遂行に必要な理論・方法の習得について	子ども家庭福祉の理論・方法を十分理解し、専門職として的確な説明と意見表明ができる	子ども家庭福祉の理論・方法を理解し、専門職として的確に説明できる	子ども家庭福祉の理論・方法の理解が不十分で、専門職として的確に説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　子ども家庭福祉の理念・概念
【　到達目標　】
(1)現代社会における子ども家庭福祉の理念を理解する。
(2)現代社会における子ども家庭福祉の概念について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第２回　子ども家庭福祉の歴史的変遷
【　到達目標　】
(1)日本の子ども家庭福祉の歴史的変遷について理解する。
(2)欧米の子ども家庭福祉の歴史的変遷について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第３回　現代の養育環境
【　到達目標　】
(1)子どもの育ち、子育てをめぐる社会の変容を理解する。
(2)現代社会の子ども家庭をめぐる多様な問題を理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第４回　子どもの人権擁護
【　到達目標　】
(1)子どもの人権擁護の歴史的変遷を理解する。
(2)児童の権利に関する条約について理解する。
(3)子どもの人権擁護と現代社会における課題を理解する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第５回　子ども家庭福祉の法体系
【　到達目標　】
(1)児童福祉法をはじめとする児童福祉六法について説明できる。
(2)その他の子ども家庭福祉関連法の概要を理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第６回　子ども家庭福祉の実施体制、行財政、専門職
【　到達目標　】
(1)子ども家庭福祉行政の実施機関、児童福祉施設について説明できる。
(2)子ども家庭福祉の財政、専門職について説明できる。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第７回　少子化と地域子育て支援
【　到達目標　】
(1)少子化と子育て支援・次世代育成支援施策の動向を理解する。
(2)地域における子育て支援サービスの概要を理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第８回　多様な保育ニーズへの対応
【　到達目標　】
(1)保育制度と保育施策の現状と課題について説明できる。
(2)多様な保育ニーズに対応するサービスについて説明できる。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第９回　母子保健と子どもの健全育成
【　到達目標　】
(1)母子保健施策の現状と課題を理解する。
(2)子どもの健全育成施策の現状と課題を理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第10回　障がいのある子どもとその家族への支援
【　到達目標　】
(1)障がいのある子どもと家族について現状と課題を理解する。
(2)障がいのある子どもと家族を支援する制度について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第11回　社会的養護・少年非行等と家族への支援
【　到達目標　】
(1)社会的養護について、現状と課題を理解する。
(2)非行児童とその家族を支援する制度について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第12回　児童虐待防止への取り組み
【　到達目標　】
(1)児童虐待の定義、現状と課題について説明できる。
(2)子どもを虐待から保護する仕組みについて説明できる。

【授業時間外学修】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第13回　ドメスティックバイオレンスへの対応
【　到達目標　】
(1)ドメスティックバイオレンスの現状と課題を理解する。
(2)ドメスティックバイオレンスへの対応について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第14回　現代的課題への対応
【　到達目標　】
(1)貧困家庭、ヤングケアラー、外国籍の子どもとその家庭への対応について理解する。
(2)地域における連携・協働とネットワークについて理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第15回　諸外国の動向
【　到達目標　】
(1)諸外国の子ども家庭福祉の動向を理解する。

【授業時間外学修】
授業全体を振り返り、ポイントをまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業は教員による講義形式に加え、アクティブラーニングを導入する。毎回の授業の際に「授業内レポート」等を作成し、評価に算入する。私語その他、他の学生に迷惑となる行為は厳禁。場合によっては退出してもらうこともある。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。適宜、資料等を配布。
参考書等については授業時に紹介する。

【成績評価方法】

各回の授業課題（45%）、期末レポート課題（55%）。

科 目 名	乳児保育Ⅰ			担当者	北澤　明子	
英 文 名	Early Child Care Ⅰ					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CME202		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び社会的役割等について学び、保育所、乳児院等、多様な保育の現場における乳児保育の現状と課題について理解する。その際、３歳未満児の心身の発育・発達過程の特徴や環境とのかかわりを理解し、保育所保育指針を踏まえた保育計画のあり方、地域交流、関係機関との連携など、現代における保護者支援と乳児保育の役割について理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
乳児保育の意義、目的と役割、現状と課題について理解する	意義、目的、役割、現状と課題について理解し自分でまとめて説明できる	意義、目的、役割、現状と課題について教科書等を参考にしながら説明できる。	意義、目的、役割、現状と課題について理解が不十分で説明できない
乳児保育の発育・発達を踏まえた内容や体制を理解する	乳児保育の内容や体制について理解し自分でまとめて説明できる	乳児保育の内容や体制について教科書等を参考にしながら説明できる。	乳児保育の内容や体制について理解が不十分で説明できない
職員間の協働や関係機関等との連携を理解する	職員間の協働や関係機関等との連携について理解し自分でまとめて説明できる	職員間の協働や関係機関等との連携について教科書等を参考にしながら説明できる。	職員間の協働や関係機関等との連携について理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回 乳児保育とは何か
【　到達目標　】
「乳児」とは何か、乳児保育はどこで行われているのか、なぜ必要かなど乳児保育を学ぶうえでおさえておきたいことを理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第２回　「保育所保育指針」における乳児保育の理念と目標
【　到達目標　】
保育所保育指針における乳児保育の理念と目標について理解する。
児童福祉施設の設置及び運営に関する基準について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第３回　乳児保育の歴史的変遷
【　到達目標　】
乳児保育のニーズの高まりや成立した背景、社会的支援の必要性について理解する。
乳児保育の歴史的変遷について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第４回　多様な場における乳児保育の展開
【　到達目標　】
保育所・認定こども園・幼稚園における乳児保育の展開について理解する。
保育者の勤務体制や役割について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第５回　０・１・２歳児の発達
【　到達目標　】
乳幼児の心の発達について理解する。
０～２歳児の発達の特徴と過程について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第６回　乳児の生活と遊びの基本的事項
【　到達目標　】
乳児の生活と遊びの考え方について理解する。
乳児の発達と遊びの関係について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第７回 乳児の生活１
【　到達目標　】
乳児の生活の基本となる食事・睡眠のポイントについて理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第８回　乳児の生活２
【　到達目標　】
乳児の生活の基本となる排泄・着脱・清潔などのポイントについて理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第９回 乳児保育の環境構成
【　到達目標　】
０・１・２歳児の保育に必要な環境構成について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第10回 乳児保育における安全対策・防災対策
【　到達目標　】
乳児保育における安全対策・防災対策などについて理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第11回　乳児保育における子育て支援
【　到達目標　】
乳児保育と3歳児神話について自分の考えをまとめる。
保育者に求められる子育て支援について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第12回　乳児保育における連携・保育者の専門性
【　到達目標　】
職員間、家庭、地域などとの連携について理解する。
乳児保育における保育者の専門性について理解し、自分の考えを考えをまとめる。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、自分の考えをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第13回　乳児院における乳児保育
【　到達目標　】
乳児院における乳児保育についての理解を深める。施設の特徴とその役割に合わせた乳児保育のあり方について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第14回　家庭的保育等における乳児保育
【　到達目標　】
家庭的保育事業と家庭的保育室で行われる保育の特徴について理解する。
「子ども・子育て支援新制度」における保育施設の位置づけや地域型保育事業について理解する。

【授業時間外学修】
乳児保育の現状と課題についていくつか提示した視点から自分の関心を選び調べてくる。(4.0hr)

第15回　乳児保育の現状と課題
【　到達目標　】
乳児保育の現状と課題について調べてきたことをグループで発表をする。
それぞれが調べてきたことに対して、グループで考察をする。

【授業時間外学修】
他の人の発表を聞いた学びや自分が取り組んだ課題のポイントをまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

配布資料や教科書を用いて授業を進める。また、グループワーク等を取り入れながら、相互に学びあう機会を多く設けたり、動画をもとにディスカッションできる機会を設けるため積極的に参加すること。

【教科書・参考書など】

参考資料「講義で学ぶ乳児保育」小山朝子編著／亀崎美沙子・善本眞弓著／わかば社

【成績評価方法】

課題達成度（20%）、授業内小テスト（80%）にて総合的に評価する。

科 目 名	子ども家庭支援の心理学			担当者	角田　和也	
英 文 名	Psychology for Child and Family Support					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CME203		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。また、家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。さらに、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解するとともに、子どもの精神保健とその課題についても理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
生涯発達について	生涯発達について自らの意見を示すことができる	生涯発達について理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない
家族・家庭の理解と子育て家庭に関する現状と課題について	家族・家庭の理解と子育て家庭に関する現状と課題について自らの意見を示すことができる	家族・家庭の理解と子育て家庭に関する現状と課題について理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない
子どもの精神保健とその課題について	子どもの精神保健とその課題について自らの意見を示すことができる	子どもの精神保健とその課題について理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　子ども家庭支援とは
【　到達目標　】
(1)子ども家庭支援が必要になった背景を理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第２回　中年期の発達
【　到達目標　】
(1)成人期の発達の概要を理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第３回　老年期の発達
【　到達目標　】
(1)老年期の発達の概要を理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第４回　家族システム
【　到達目標　】
(1)家庭の意義と機能を理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第５回　家族の発達段階
【　到達目標　】
(1)親になることの発達について理解する。
(2)家族の発達システムについて理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第６回　親と子の発達を支える
【　到達目標　】
(1)親子間の相互作用システムについて理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第７回　ライフコースと仕事・子育て
【　到達目標　】
(1)親子の間で安定した愛着が形成されるためのメカニズムを説明できる。
(2)子育て家庭を取り巻く現状と保育者にとっての支援課題について理解を深める。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第８回　多様な家族とその理解（1）　ひとり親
【　到達目標　】
(1)ひとり親について理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第９回　多様な家族とその理解（2）　貧困
【　到達目標　】
(1)貧困家庭について理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第10回　多様な家族とその理解（3）　子育て支援のネットワーク
【　到達目標　】
(1)家庭と地域をつなぐ関係機関の連携体制について理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第11回　多様な家族とその理解（4）　ステップファミリー
【　到達目標　】
(1)ステップファミリーについて理解する。
(2)外国にルーツがある子どもたちについて理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第12回　多様な家族とその理解（5）　育児不安
【　到達目標　】
(1)育児不安について理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第13回　多様な家族とその理解（6）　心の不調
【　到達目標　】
(1)心の不調について理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第14回　しつけと虐待
【　到達目標　】
(1)虐待の実態と対応、保育所保育指針による保育士の役割を理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第15回　愛着の発達
【　到達目標　】
(1)愛着の発達プロセス、愛着の世代間伝達、愛着障害の出現について理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成。(4.0hr)

【学修上の留意点】

①基本的にPowerPoint画像や動画を使用し、プロジェクターもしくはモニターに投影して授業を進める。使用する穴埋め方式のプリント教材に即して説明するが、口頭で補足および詳細な説明も併せて行うので、集中してメモを取り、保育実践時に活用できるオリジナル資料の作成を目指す必要がある。
②授業内容の理解を深めることを目的とした実践的な課題レポートの作成を、単元毎に授業時間外学習で求める。この課題は後日インターネット上の指定されたURLから提出してもらい、評価に反映させる（下欄「成績評価方法」の「提出物の総合評価」に該当）。また、提出された課題は、提出翌週以降の授業内で授業資料として使用し、主に口頭でさらに補足や追加の説明を加えながら、他の受講者の意見を共有し自身のものの見方・考え方を広げ、より実践力を高めるようフィードバックしていく（当然メモは必須）。
③期末試験は、授業時に説明した基本的な事項や知識の定着の確認、および授業時間外学習で取り組んだ課題とその後のフィードバックで学習した実践的な力の定着の確認を目的として実施する。したがって、ルーブリックの「標準的な到達レベル」から「理想的な到達レベル」で出題されることになるので、授業時間外での日常的な自主学習・復習および実践的な研鑽を積み重ねることが単位取得のためには必須である。
④出席を確認するため、授業は座席指定で行う。前方での受講を希望する場合は、その旨を申告することで座席の配置を考慮する。

【教科書・参考書など】

教科書：市販の教科書は使用せず、毎回授業時に配布するプリント教材を使用する。
参考書：プリント教材内に授業回ごとの参考文献を示してあるので、そちらを参照のこと。

【成績評価方法】

・提出物の総合評価（50%）と期末試験の結果（50%）を合算して総合成績（100%）を算出する。合格基準は60%である。
・試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	乳児保育Ⅱ			担当者	北澤　明子	
英文名	Early Child Care Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME204		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

乳児保育Ⅰで学習した内容をもとに、３歳未満児の発育・発達の過程や特性をふまえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。また、養護および教育の一体性をふまえ、３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法および環境、配慮について具体的に理解したうえで、乳児保育における計画の作成について理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
3歳未満児の発達の特性を踏まえた援助や関わり、配慮について理解する。	3歳未満児の発達の特性を踏まえた援助や関わり、配慮について理解し自分でまとめて説明できる。	3歳未満児の発達の特性を踏まえた援助や関わり，配慮について教科書等を参考にしながら説明できる。	3歳未満児の発達の特性を踏まえた援助や関わり，配慮について理解が不十分で説明できない。
3歳未満児の生活や遊びと保育の方法や環境の構成について理解する。	3歳未満児の生活や遊びと保育の方法、環境について理解し自分でまとめて説明できる。	3歳未満児の生活や遊びと保育の方法、環境について教科書等を参考にしながら説明できる。	3歳未満児の生活や遊びと保育の方法、環境について理解が不十分で説明できない。
乳児保育における計画の作成について理解する。	乳児保育における計画の作成について理解し自分でまとめて説明できる。	乳児保育における計画の作成について教科書等を参考にしながら説明できる。	乳児保育における計画の作成について理解が不十分で説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　乳児保育の基本
【　到達目標　】
乳児保育Ⅰでの学びを振り返り、乳児保育の基本について理解を深める。
【授業時間外学修】
乳児保育Ⅰの復習と6ヵ月未満の子どもの育ちについて教科書等を読み予習を行う。(4.0hr)

第２回　子どもの育ちと保育内容１―6カ月未満の子ども―
【　到達目標　】
6ヵ月未満の子どもの育ちと保育内容の関係、その発達の特性に応じた援助や配慮について理解する。
【授業時間外学修】
授業のまとめを行い、オムツ交換について予習を行う。(4.0hr)

第３回　排泄―オムツ交換―
【　到達目標　】
乳児の排泄の発達について理解し、オムツの種類やオムツ交換を行う際の技術について理解する。
【授業時間外学修】
オムツ交換の復習を行い、着替え、おんぶ紐の使い方について予習をする。(4.0hr)

第４回　衣服の着脱・おんぶ紐の使い方
【　到達目標　】
衣服の着脱の仕方、おんぶ紐の使い方について実践できるように理解する。
【授業時間外学修】
衣服の着脱・おんぶ紐の使い方の復習を行い、授乳について予習を行う。(4.0hr)

第５回 授乳
【　到達目標　】
乳児の栄養摂取、授乳の際のポイントについて理解する。
【授業時間外学修】
授乳について復習を行い、6ヵ月以上1歳未満の子どもの育ちについて予習をする。(4.0hr)

第６回　子どもの育ちと保育内容２―6カ月以上1歳未満―
【　到達目標　】
6ヵ月以上１歳未満の子どもの育ちと保育内容の関係、援助や配慮について理解する。
【授業時間外学修】
授業のまとめを行い、離乳食について予習を行う。(4.0hr)

第７回　離乳食
【　到達目標　】
離乳食の進め方とその際の援助・配慮について理解する。
【授業時間外学修】
離乳食について復習し、トイレットトレーニングについて予習する。(4.0hr)

第８回　子どもの育ちと保育内容３―1歳以上2歳未満―
【　到達目標　】
１歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容の関係、援助や配慮について理解する。
【授業時間外学修】
1歳以上2歳未満の睡眠、食事、排泄などについてまとめ、2歳～3歳の育ちの予習をする。(4.0hr)

第９回　子どもの育ちと保育内容４―2歳～3歳の子ども―
【　到達目標　】
2歳～3歳の子どもの育ちと育ちと保育内容の関係、援助や配慮について理解する。
【授業時間外学修】
授業のまとめを行い、乳児が遊ぶ手作り玩具について調べる。(4.0hr)

第10回　子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境１
【　到達目標　】
子どもの発達と遊び、保育環境の関係について理解する。
手作り玩具を作成する。
【授業時間外学修】
授業の内容を復習し、乳児の遊びについて調べる。(4.0hr)

第11回 子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境２
【　到達目標　】
手作り玩具を１つ完成させる。
触れ合い遊びを覚えて実践する。
【授業時間外学修】
授業の復習を行い、手作り玩具を完成し提出できるようにする。(4.0hr)

第12回　集団での生活、環境の変化や移行に対する配慮
【　到達目標　】
乳児保育における集団生活に対する考えかた、配慮、個と集団の在り方について考察する。
進級の際の環境の配慮について理解する。
【授業時間外学修】
授業の復習を行い、保護者への支援について調べる。(4.0hr)

第13回　保護者とのパートナーシップ
【　到達目標　】
乳児保育における保護者とのパートナーシップの大切さについて理解する。
【授業時間外学修】
授業の復習を行い、指導計画について予習をする。(4.0hr)

第14回　乳児保育における指導計画１
【　到達目標　】
3歳児未満児における指導計画について理解する。
【授業時間外学修】
授業について復習を行い、次回提出できるよう指導計画の作成を進める。(4.0hr)

第15回　乳児保育における指導計画２
【　到達目標　】
3歳未満児の特徴を理解し指導計画を立てる。
【授業時間外学修】
授業で学んだことを課題レポートとしてまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

・配布資料や教科書を用いての説明とともに、実践や相互に学びあう機会、動画をもとにディスカッションできる機会を多く設けるので、積極的に参加すること。
・手作り玩具を作る際の材料は各自準備する。廃材、自然物、ハサミ、のり、色鉛筆、テープなどの持参をお願いする回がある。その場合、授業内で説明する。

【教科書・参考書など】

参考書：「講義で学ぶ乳児保育」小山朝子編著／亀崎美沙子・善本眞弓著／わかば社

【成績評価方法】

手作り玩具等の課題提出（20%）、実技（20%）、小テスト（60%）にて総合的に評価する。

科目名	子どもの健康と安全			神庭　睦実		
英文名	Children's Health and Safety					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME205		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

本科目では、「子どもの保健」での学びを踏まえ、子どもの健康と安全を守るために必要な対応方法について教授する。具体的には、日常に必要な健康観察技術、身体計測・生理機能計測技術、疾病と予防と対処法、救急時の対応、事故防止のため危機管理や安全管理について取り扱い、演習（実践）を通して現場で必要な技能を身につける。本科目の到達目標は以下の２点である。
①保育施設における適切な健康管理、安全管理、環境管理方法について理解し説明できる。
②こどもの健康と安全を守るため、体調不良時の対応、応急処置、緊急時の対応について適切に実践できる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
子どもの健康と安全を守るために必要な基礎理論・基本技術	基礎理論と技能のポイントについて、実践を交えて説明できる。	基礎理論と技能のポイントについて、教科書や資料を参照しながら実践を交えて説明できる。	基礎理論と技能のポイントについて、理解が不十分なため実践を交えて説明できない。
施設や子どもの状況に応じて保健活動や健康教育を展開していくための工夫や提案	施設や子どもの状況に応じた対応と工夫を基礎理論と技能を踏まえ、実践を交えて説明し提案できる。	施設や子どもの状況に応じた対応と工夫を教科書や資料を参照しながら、実践を交えて説明し提案できる。	施設や子どもの状況に応じた対応と工夫について理解が不十分なため、説明が乏しく、実践を交えて説明し提案できない。
健康・安全に関する身近な出来事への活用	身近な出来事の課題解決や知見の活用に向けて、学習状況を把握し、必要に応じて粘り強く思考し探求できる。	身近な出来事の課題解決や知見の活用に向けて、学習状況を把握し、教科書や資料を参照しながら探求できる。	身近な出来事と学習内容が結びつかず、探求できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】

第１回　子どもの健康観察と保育環境（講義・演習）
【　到達目標　】
・子どもの環境を整えるための保育環境整備について説明できる。
・関連法規・ガイドラインに基づく基準を個別対応と集団管理について理解できる。
・子どもの日常の保育に必要な技術（抱っこ・おんぶ）について実践を交えて説明できる。
【授業時間外学習】
テキストの該当箇所を読み、指示した資料を調べ整理する。(4.0hr)

第２回　保育における保健的対応１：身体計測と評価（演習）
【　到達目標　】
・子どもの健康診断の意義とポイントについて説明できる。
・身体計測方法と発育評価について理解できる。
・身体計測と評価について正しく実践することができる。
【授業時間外学習】
テキストの該当箇所を読む。身体計測と評価を行い実践結果を記録する。(4.0hr)

第３回　保育における保健的対応２：観察項目の測定方法と評価（演習）
【　到達目標　】
・子どもの健康観察の意義とポイントについて説明できる。
・健康観察の計測方法と評価方法について理解できる。
・子どもの健康観察と評価について正しく実践することができる。
【授業時間外学習】
テキストの該当箇所を読み、健康状態の測定と評価を行い実践結果を記録する。(4.0hr)

第４回　３歳未満児への対応１：排泄・沐浴・衣服の着脱に関する保健技術（演習）
【　到達目標　】
・保健的対応の基本的な考え方や３歳未満児への援助のあり方について説明できる。
・排泄・沐浴・衣服の着脱の方法について理解できる。
・３歳未満児を想定し排泄・沐浴・衣服の着脱についてポイントを押さえて実践することができる。
【授業時間外学習】
テキストの該当箇所を読み、指示した資料を参考に繰り返しシミュレーションする。(4.0hr)

第５回　３歳未満児への対応２：調乳・授乳・離乳食・歯磨き・午睡時の対応に関する保健技術（演習）
【　到達目標　】
・保健的対応の基本的な考え方や３歳未満児への援助のあり方について説明できる。
・調乳・授乳・離乳食・歯磨き・午睡時の対応の方法について理解できる。
・３歳未満児を想定し排泄・沐浴・衣服の着脱についてポイントを押さえて実践することができる。
【授業時間外学習】
テキストの該当箇所を読み、指示した資料を参考に繰り返しシミュレーションする。(4.0hr)

第６回　衛生管理（講義）
【　到達目標　】
・環境衛生の基準、室内外の衛生管理、職員の衛生管理のポイントについて説明できる。
・児童福祉施設の設置及び運営に関する基準と学校保健安全法の意義と目的について理解できる。
・衛生管理に関する関連法規・ガイドラインを参照し、適切な対応を実践案や例を挙げ説明できる。
【授業時間外学習】
テキストの該当箇所を読み、指示した資料を調べ整理する。(4.0hr)

第７回　衛生管理（演習）
【　到達目標　】
・嘔吐物処理についてポイントを押さえて実践することができる。
・プール時の残留塩素測定についてポイントを押さえて実践することができる。

【授業時間外学習】
テキストの該当箇所を読み、指示した資料を参考に繰り返しシミュレーションする。(4.0hr)

第８回　事故防止と安全管理・危機管理（講義）
【　到達目標　】
・事故防止と安全管理のあり方について説明できる。
・危機管理（防災、防犯など）のポイントについて説明できる。
・災害対策計画の整備及び対応マニュアルの作成の必要性を理解し、適切な対応を実践案や例を挙げ説明できる。
【授業時間外学習】
テキストの該当箇所を読み、指示した資料を調べ整理する。(4.0hr)

第９回　子どもの体調不良と傷害発生時の対応（講義・演習）
【　到達目標　】
・事例をもとに、体調不良時（熱中症含む）の適切な対応方法についてシミュレーションできる。
・事例をもとに、薬の扱いと与薬の適切な対応方法についてシミュレーションできる。
・事例をもとに、応急手当ての適切な対応方法についてシミュレーションできる。
【授業時間外学習】
テキストの該当箇所を読み、指示した資料を参考に繰り返しシミュレーションする。(4.0hr)

第10回　子どもの応急手当て：主な怪我等への対応、止血法、包帯法（演習）
【　到達目標　】
・主な怪我への対応についてポイントを押さえて実践することができる。
・止血の方法についてポイントを押さえて実践することができる。
・包帯の方法についてポイントを押さえて実践することができる。
【授業時間外学習】
テキストの該当箇所を読み、包帯法について繰り返し練習する。(4.0hr)

第11回　一次救命措置（講義・演習）
【　到達目標　】
・一時救命措置の重要性について説明できる。
・心配蘇生法についてポイントを押さえて実践することができる。
・気道異物の除去についてポイントを押さえて実践することができる。
【授業時間外学習】
テキストの該当箇所を読み、指示した資料を参考に繰り返しシミュレーションする。(4.0hr)

第12回　感染症の予防対策と罹患後の対応（講義・演習）
【　到達目標　】
・感染症の集団発生の予防と感染症対策のあり方について説明できる。
・事例をもとに、適切な対応方法をふまえた計画を立案できる。
・事例をもとに、状況に応じた保健活動や健康教育を展開していくための工夫を提案できる。
【授業時間外学習】
テキストの該当箇所を読み、指示した資料を参考に繰り返しシミュレーションする。(4.0hr)

第13回　個別な配慮を必要とする子どもへの対応：アレルギー（講義・演習）
【　到達目標　】
・アレルギー疾患の特徴と個別の配慮点について説明できる。
・アレルギー対応の基本原則を理解し、症状に応じた適切な対応を実践案や例を挙げ説明できる。
・アナフィラキシーショック時の対応についてポイントを押さえて実践することができる。
【授業時間外学習】
テキストの該当箇所を読み、指示した資料を参考に繰り返しシミュレーションする。(4.0hr)

第14回 個別な配慮を必要とする子どもへの対応：　慢性疾患と障害（講義・演習）
【　到達目標　】
・慢性疾患および障害の特徴と個別の配慮点について説明できる。
・事例をもとに、各慢性疾患の特徴に応じた適切な対応方法と配慮についてシミュレーションできる。
・事例をもとに、各障害の特徴に応じた適切な対応方法と配慮についてシミュレーションできる。
【授業時間外学習】
テキストの該当箇所を読み、指示した資料を参考に繰り返しシミュレーションする。(4.0hr)

第15回　総括：保育現場における健康・安全への取り組み
【　到達目標　】
・事例レポートにより学びの達成度を把握し、各自の学習課題を整理する。
・子どもの健康と安全を守るために、状況に応じて必要な情報と技能を判断し活用方法を提案できる。
・第1～14回までの学習内容を踏まえ、健康と安全に関する身近な出来事と関連付けながら考察できる。
【授業時間外学習】
子どもの健康と安全を守るための実践ポイントについて、第1～14回を踏まえ自分の言葉で整理する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

教科書や配布資料を用いて演習を進めていく（※必要に応じてのり＆ハサミを持参すること）。授業時間外学習については、授業内で適宜説明する。
授業開始の前後は、予習復習を丁寧に行い、限られた授業時間内で十分に演習（実践）できるよう意識し、授業に臨んで欲しい。
子どもの健康や安全（事故や災害等含む）に関する書籍やニュース等、日頃から情報を収集する習慣を身につけ、授業に臨んで欲しい。

【教科書・参考書など】

教科書：これだけはおさえたい！　保育者のための「子どもの健康と安全」［改訂版］ 創成社
その他：必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価方法】

平常点および提出課題50%、期末レポート課題50%で総合的に評価する。不適切な受講態度と判断した学生は、減点対象とする。

科目名	子どもとあそび			担当者	北澤　明子	
英文名	Children's play					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME206		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

子どものあそびに対する理解を深め、その意義について学ぶ。保育の場におけるあそびの位置づけとおおまかな分類について知り、それぞれの遊びが子どものどのような力を育むのかについて理解する。また、子どもの発達と遊びの関係、保育者の援助について学ぶ。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
子どものあそびの基礎的事項、理論について	子どものあそびの基礎的事項、理論について理解し、自らまとめて説明することができる。	子どものあそびの基礎的事項、理論を理解し、資料を参照しながら説明することができる。	子どものあそびの基礎的事項、理論についての理解が不十分で説明することができない。
子どもの発達とあそびについて	子どもの発達とあそびについて基礎的事項、理論を理解し、自らまとめて説明できる。	子どもの発達とあそびについて基礎的事項、理論について理解し、資料を用いて説明できる。	子どもの発達とあそびについて基礎的事項、理論について理解が不十分で説明ができない。
保育現場におけるあそびと保育者の援助について	あそびと保育者の援助について基礎的事項、理論を理解し、自らまとめて説明できる。	あそびと保育者の援助について基礎的事項、理論を理解し、資料を用いて説明できる。	あそびと保育者の援助について基礎的事項、理論の理解が不十分で説明することができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　あそびの意義と子どもを取り巻く環境
【　到達目標　】
子どもにとってあそびとは何かを考え、その意義について理解する。
近年の子どもを取り巻く環境の変化やあそびの実態について知る。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第２回　保育の場における遊びの変遷と位置付け
【　到達目標　】
保育の場における遊びの位置づけ、捉え方の変遷について理解する。
保育の場における遊びを中心とした生活について理解する。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第３回　子どもの発達とあそび
【　到達目標　】
子どもの発達と遊びの関係について理解する。
遊びのおおまかな分類と子どもがそれらの遊びを通してどのような力を育んでいくのかについて理解をする。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第４回　手や指を使うあそび・構成あそびの意義と発達
【　到達目標　】
手や指を使うあそびの発達とその意義を理解する。
積み木やブロックなど物を構成するあそびの発達とその意義を理解する。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第５回　ごっこあそびと発達
【　到達目標　】
ごっこあそびにおける発達とその意義を理解する。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第６回　ルールのあるあそびと発達１―身体あそび・運動あそび―
【　到達目標　】
鬼ごっこなどルールのある身体を使ったあそびの発達とその意義を理解する。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第７回 ルールのあるあそびと発達２―カードゲーム・アナログゲーム等―
【　到達目標　】
トランプ・かるたなどを代表とするカードゲームやアナログゲーム等のあそびの発達とその意義を理解する。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第８回 あそびにおける玩具の役割１
【　到達目標　】
あそびにおける玩具の役割について理解する。
既成の玩具を選１つ選び、その玩具の遊び方とその玩具で育まれる力についてまとめる。

【授業時間外学修】
事後学習として、自分の興味のある玩具について１つ調べ、まとめる。(4.0hr)

第９回 あそびにおける玩具の役割２
【　到達目標　】
既成の玩具を選び、その玩具の遊び方とその玩具で育まれる力についてまとめ、自分の考えを発表する。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第10回　ふれあい遊び・わらべ歌
【　到達目標　】
ふれあい遊び・わらべ歌の楽しさやその意義を理解する。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第11回　伝承あそびなどの実践
【　到達目標　】
伝承あそびなどを理解し、体験する。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第12回　自然あそびと発達１
【　到達目標　】
自然あそびの意義や子どもの発達との関係について理解する。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第13回　自然あそびと発達２
【　到達目標　】
季節のあそびを体験し、その楽しさや意義について理解する。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第14回　絵本から広がる子どものあそび
【　到達目標　】
絵本から広がるこどもの遊びの事例を読み、絵本とあそびの関係について理解する。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第15回　子どものあそびと保育者の役割・援助
【　到達目標　】
保育者として子どものあそびにどのようにかかわっていくべきか理解する。
子どもがあそびこむことができる環境構成について考える。

【授業時間外学修】
教材研究とレポートを作成する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

・自然教材や郊外学習の時期や状況に応じて授業内容が前後する場合がある。その場合は適宜、授業内で伝える。
・ハサミ・のり・色鉛筆・ペン・テープ・廃材などの持参をお願いする場合がある。その場合、授業時に適宜指示をする。
・全ての授業に対し積極的にかつ自主的に学習すること。講義においては必要に応じてパワーポイントを用いて要点を示し、口頭で説明する。具体的な子どもの姿を思い浮かべるために適宜、動画等も使用する。あそびの体験や教材研究の回においても、子どもの視座に立ち受講することが求められる。適宜、感想と学びのまとめの用紙を配布し、理解度の確認を行う。
・ルールのある遊びや自然あそびの回において、近隣の公園（プレーパーク）へ行き、実際に子どもと触れ合ったり遊んでみる実践を行う予定である。子どもとかかわることができ、汚れてもよい服装や身支度を行うこと。具体的には授業内で説明をする。

【教科書・参考書など】

教科書「保育の活動・遊び」パーフェクトガイド　小山朝子・小櫃智子他　わかば社
参考書「環境構成の理論と実践」高山静子　郁洋舎　「新版　保育とおもちゃ　発達の道すじにそったおもちゃの選び方」瀧薫著／エイデル研究所

【成績評価方法】

授業の中の課題・発表（40%）、レポート（60%）　総合的に評価する。

科 目 名	社会的養護			担当者	小堀　哲郎	
英 文 名	Child Care and Protection					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CME301		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

社会的養護とは、保護者のない児童、被虐待児など家庭環境上養護を必要とする児童などに対し、公的な責任として社会的に養育し保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことである。本講義では、社会的養の基礎的事項を理解することを目的とする。特に、現代の社会的養護において、施設養護中心から家庭養護へと大きな政策転換が推進されていることを理解することが重要である。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
社会的養護の法制度や実施体制の習得について	社会的養護の法制度や実施体制を十分理解し、説明できる	社会的養護の法制度や実施体制を、資料を参照しながら説明できる	社会的養護の法制度や実施体制の理解が不十分で、説明できない
社会的養護の動向と課題の理解と、課題解決に向けた論理的思考について	社会的養護の動向や課題について十分理解し、課題解決に向け論理的に思考できる	社会的養護の動向や課題について理解し、課題解決に向け、ある程度論理的に思考できる	社会的養護の動向や課題の理解が不十分で、課題解決に向け論理的に思考できない
子ども家庭支援を行う専門職としての資質と職務遂行に必要な理論・方法の習得について	社会的養護の理論・方法を十分理解し、専門職として的確な説明と意見表明ができる	社会的養護の理論・方法を理解し、専門職として的確に説明できる	社会的養護の理論・方法の理解が不十分で、専門職として的確に説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　現代社会における社会的養護の意義
【　到達目標　】
(1)子どもの養育問題の現状と社会的養護の必要性を理解する。
(2)社会的養護の理念と概念を理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第２回　社会的養護の歴史的変遷
【　到達目標　】
(1)社会的養護の歴史的変遷について理解する。
(2)社会的養護にかかわる先駆者の取り組みについて理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第３回　子どもの人権擁護と社会的養護
【　到達目標　】
(1)社会的養護における子どもの権利の捉え方について理解する。
(2)社会的養護における子どもの権利擁護とその課題について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第４回 社会的養護の基本原則
【　到達目標　】
(1)社会的養護の理念に基づく基本原則を理解する。
(2)運営指針と第三者評価について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第５回　社会的養護における保育士等の倫理と責務
【　到達目標　】
(1)社会的養護におけるケアと倫理について理解する。
(2)専門職の倫理としての職業倫理について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第６回　社会的養護の制度と法体系
【　到達目標　】
(1)社会的養護の制度の根幹としての「措置制度」について理解する。
(2)社会的養護の基本法とさまざまな関連法の概要を理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第７回　社会的養護の仕組みと実施体系
【　到達目標　】
(1)社会的養護の基本的な仕組みを理解する。
(2)社会的養護に関する実施体系の現状と課題を理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第８回　社会的養護の対象
【　到達目標　】
(1)社会的養護の対象となる子どもの特徴と背景について理解する。
(2)社会的養護の対象となる子どもの家庭、親子関係について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第９回　家庭養護と施設養護
【　到達目標　】
(1)家庭養護と施設養護の実際について理解する。
(2)施設の小規模化、里親委託等の推進について、具体的に理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第10回　社会的養護に関わる専門職
【　到達目標　】
(1)社会的養護において求められている職員の資質・専門性について理解する。
(2)社会的養護に関わる専門職について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第11回　社会的養護に関する社会的状況
【　到達目標　】
(1)社会的養護問題と家庭・地域・社会的状況との関連について理解する。
(2)家庭支援の重要性について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第12回　施設等の運営管理
【　到達目標　】
(1)施設等の運営管理にかかわる法制度、基準、利用類型、財源等について理解する。
(2)施設等の運営管理の現状と課題について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第13回　被措置児童等の虐待防止
【　到達目標　】
(1)被措置児童等虐待防止の経緯と現状について理解する。
(2)被措置児童等虐待の発生要因と虐待防止の課題について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第14回　社会的養護と地域福祉
【　到達目標　】
(1)社会的養護関係の施設と地域とのかかわりについて理解する。
(2)社会的養護関係の施設の地域貢献のあり方、諸機関との連携について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第15回　社会的養護の今後の課題
【　到達目標　】
(1)施設養護中心から家庭養護への大きな政策転換とその推進について理解する。
(2)社会的養護の今後の課題を理解する。

【授業時間外学修】
授業全体を振り返り、ポイントをまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業は教員による講義形式に加え、アクティブラーニングを導入する。毎回の授業の際に「授業内レポート」等を作成し、評価に算入する。私語その他、他の学生に迷惑となる行為は厳禁。場合によっては退出してもらうこともある。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。適宜、資料等を配布。
参考書等については授業時に紹介する。

【成績評価方法】

各回の授業課題（45%）、期末レポート課題（55%）。

科 目 名	社会的養護内容			担当者	小堀　哲郎	
英 文 名	Practice in Care and Protection of Children					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME302		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

社会的養護とは、保護者のない児童、被虐待児など家庭環境上養護を必要とする児童などに対し、公的な責任として社会的に養育し保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことである。社会的養護の基礎的事項を具体的に理解し、子どもとその家庭の理解を踏まえ、援助にあたり必要となる実践力を習得することを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容の具体的習得について	基礎的内容を十分理解し、具体的に説明できる	基礎的内容を、資料を参照しながら具体的に説明できる	基礎的内容の理解が不十分で、具体的に説明できない
施設養護・家庭養護に関わる相談援助の方法・技術に関する習得について	相談援助の方法・技術を十分理解し、実践的な思考ができる	相談援助の方法・技術を理解し、実践的な思考がある程度できる	相談援助の方法・技術の理解が不十分で、実践的な思考ができない
子ども家庭支援を行う専門職としての資質と職務遂行に必要な理論・方法の習得について	施設・家庭養護の理論・方法を十分理解し、専門職として的確な説明と意見表明ができる	施設・家庭養護の理論・方法を理解し、専門職として的確に説明できる	施設・家庭養護の理論・方法の理解が不十分で、専門職として的確に説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　社会的養護の視点
【　到達目標　】
(1)社会的養護の基本理念と原理について具体的に理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第２回　社会的養護が必要な子どもと家庭の理解
【　到達目標　】
(1)子どもの貧困・家庭の孤立など、子どもと家庭を取り巻く現状と課題を理解する。
(2)被虐待児、障害のある子ども等、社会的養護における子どもの理解を深める。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第３回　施設養護と家庭養護
【　到達目標　】
(1)施設養護（入所施設・通所施設）の生活特性と実際について理解する。
(2)家庭養護の生活特性と実際について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第４回　個別の支援計画
【　到達目標　】
(1)社会的養護における計画・記録・自己評価の実際を理解する。
(2)アセスメントと個別支援計画の作成について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第５回　相談支援の方法・技術
【　到達目標　】
(1)施設養護における基本的な相談支援の方法・技術について理解する。
(2)里親委託等における基本的な相談支援の方法・技術について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第６回　施設ごとの支援の実際（１）乳児院
【　到達目標　】
(1)乳児院での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。
(2)乳児院における保育の専門性に関わる知識・技術とその実践を理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第７回　施設ごとの支援の実際（２）児童養護施設
【　到達目標　】
(1)児童養護施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。
(2)児童養護施設における保育の専門性に関わる知識・技術とその実践を理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第８回　施設ごとの支援の実際（３）母子生活支援施設
【　到達目標　】
(1)母子生活支援施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。
(2)DV被害者への支援について具体的に理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第９回　施設ごとの支援の実際（４）児童自立支援施設
【　到達目標　】
(1)児童自立支援施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。
(2)自立支援、リービングケア、アフターケアについて具体的に理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第10回　施設ごとの支援の実際（５）児童心理治療施設
【　到達目標　】
(1)児童心理治療施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。
(2)被虐待児への治療的支援のあり方について具体的に理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第11回　施設ごとの支援の実際（６）障害児入所施設・児童発達支援センター
【　到達目標　】
(1)障害児入所施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。
(2)児童発達支援センターにおける専門的支援について具体的に理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第12回　家庭的養護　里親制度・ファミリーホーム
【　到達目標　】
(1)子どもと里親との関係形成について具体的に理解する。
(2)里親委託・ファミリーホーム等の家庭的養護の推進について理解する。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第13回　社会的養護の支援の実際（１）
【　到達目標　】
(1)施設実習と関連づけながら、社会的養護の実際を考察する。
(2)レポート作成およびプレゼンテーションを行い、理解を深める。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第14回　社会的養護の支援の実際（２）
【　到達目標　】
(1)施設実習と関連づけながら、社会的養護の実際を考察する。
(2)レポート作成およびプレゼンテーションを行い、理解を深める。

【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第15回　今後の課題と展望
【　到達目標　】
(1)社会的養護における家庭支援の重要性を理解する。
(2)社会的養護の課題を理解し、家庭的養護の推進等、今後の展望を考察する。

【授業時間外学修】
授業全体を振り返り、ポイントをまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

社会的養護をめぐる問題は、入所型児童福祉施設に限らず、保育所や教育機関等、すべての子どもの現場に共通の課題となっている。厳しい環境に置かれた児童の社会的養護を日常生活場面で担う保育士の福祉専門職としての役割を十分認識して、学びを深めてほしい。

事例分析では、毎回異なるメンバーのグループで検討および合意形成を行い、各グループの結果発表という形式で授業を進める。施設実習と関連付けながら、学生によるプレゼンテーションも実施し、実践への基礎づくりに取り組む。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。適宜、資料等を配布。
参考書等については授業時に紹介する。

【成績評価方法】

各回の授業課題（45%）、期末レポート課題（55%）。

科 目 名	子どもの食と栄養			担当者	秋山　佳代	
英 文 名	Child Nutrition and Diet					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME207		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

食事をおいしく楽しく摂ることは、子どもが心身ともに健康に育つ上で基本となる。本授業は、現代の子どもの食生活の現状や課題について理解し、子どもの望ましい食生活、保育施設等での食の支援のあり方や食育の重要性について考えるとともに、子どもの発育の段階や身体状況に対応した食生活の支援が適切に行えるようになることをねらいとする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
子どもの心身の健康にかかわるの基礎的事項・理論について	理論を理解し自らまとめて説明できる	理論を教科書等を参照しながら説明できる	理解が不十分で説明できない
子どもの心身の健康にかかわる研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる	研究知見を資料等を参照しながら説明できる	知見の理解が不十分で説明できない
子どもの心身の健康にかかわる研究知見の活用に関する事項	知見の活用について意見を示すことができる	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス　子どもの健康と食生活の意義①
【　到達目標　】
授業内容や進め方について理解する。
子どもの心身の健康と食生活の関わりや子どもの食生活の現状と課題について理解する。

【授業時間外学修】
テキスト第１章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)

第２回　子どもの健康と食生活の意義②
【　到達目標　】
食生活指針および食事バランスガイドについて理解するために自身の食生活について現状を把握する。
食事摂取基準や食品分類について理解する。
保育所等における「食」に関する指針について理解する。
【授業時間外学修】
テキスト第２章の該当箇所を読み、予習する。また、三日間の食事記録を行う。(4.0hr)

第３回　子どもの健康と食生活の意義③
【　到達目標　】
食事バランスガイドを用いて自身の食生活について現状を把握する。
食事の重要性、特に朝食の意義について理解し、理想の朝食内容を考える。
理想の朝食内容を、食事バランスガイドを用いて考える。
【授業時間外学修】
食事バランスガイドを踏まえ、栄養バランスのとれた一日分の献立を考える。(4.0hr)

第４回　子どもの発育・発達と栄養生理①
【　到達目標　】
偏食、少食、肥満、やせの現状と原因について理解する
保育現場での食事指導のポイントについて理解する

【授業時間外学修】
テキスト第２章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)

第５回　子どもの発育・発達と栄養生理②
【　到達目標　】
子どもの発育と発達、及び食べ物の消化吸収など栄養生理について理解する。
小テスト①を行う。

【授業時間外学修】
テキスト第４章を読み、予習する。実習内容を理解する。(4.0hr)

第６回　食品と栄養①
【　到達目標　】
食品の分類と特徴について理解する
食品の栄養について理解する

【授業時間外学修】
テキスト第４章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)

第７回　食品と栄養②
【　到達目標　】
食品の選び方および表示の見方について理解する。

【授業時間外学修】
テキスト第４章の該当箇所を読み、予習する。実習内容を理解する。(4.0hr)

第８回　子どもの発育・発達と食生活①
【　到達目標　】
授乳期及び離乳期の意義と食生活について理解する。
小テスト②を行う。

【授業時間外学修】
テキスト第４章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)

第９回　子どもの発育・発達と食生活②
【　到達目標　】
離乳の段階や摂食機能の発達に応じた離乳食について理解を深める。

【授業時間外学修】
テキスト第５章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)

第９回　子どもの発育・発達と食生活③　実習
【　到達目標　】
離乳の段階や摂食機能の発達に応じた離乳食について理解を深める。

【授業時間外学修】
テキスト第５章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)

第１０回　子どもの発育・発達と食生活④
【　到達目標　】
幼児期の食生活の特徴及び献立について理解を深める。

【授業時間外学修】
テキスト第６章を読み、予習する。(4.0hr)

第１２回　特別な配慮を要する子どもの食と栄養
【　到達目標　】
家庭や児童福祉施設における食事と栄養について理解する。
疾病や体調不良の子ども、食物アレルギーや障がいのある子等の対応について理解する。
食を通した保護者への支援について具体的に考える。
【授業時間外学修】
市販されている食物アレルギー対応の食品について調査する。(4.0hr)

第１３回　特別な配慮を要する子どもの食と栄養②　実習　食物アレルギー児のおやつ
【　到達目標　】
食物アレルギーに配慮したおやつを調理し、食物アレルギー対応について理解を深める。

【授業時間外学修】
食物アレルギーへの対応について症例をもとに対策を考える。(4.0hr)

第１４回　食育の基本と内容①
【　到達目標　】
保育における食育の意義について理解する。
食育の具体例をもとに食育指導計画及び食育媒体の作成方法や食育のあり方を考える。
小テスト④を行う。
【授業時間外学修】
テキスト第６章を読み、予習する。食育指導計画及び食育媒体を考える。(4.0hr)

第１５回　食育の基本と内容②　演習　食育媒体の作成
【　到達目標　】
食育だよりを作成し、正しい食育情報のまとめ方や発信方法について理解を深める。

【授業時間外学修】
食育だよりの活用方法について調査する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

日頃から子どもを取り巻く食生活や栄養に関心を持ち、授業内容と関連付けて考える。
パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。パワーポイントの資料を配布し、重要語句について穴埋めできるようにする。授業内で4回の小テストを行い、学修内容の定着を図る。また、授業で学修した内容について実習（演習）を通じて理解を深めていく。実習（演習）やグループ活動に積極的に参加し、自身の視野を広げたり、考えを深めたりする。授業中に理解できなかったことや疑問に思ったことなどは質問する。授業中の飲食・携帯使用・私語は厳禁とする。

【教科書・参考書など】

「子どもの食と栄養演習（第４版）」　小川雄二編著　建帛社
各種「指針」や「ガイドライン」およびその他の参考図書は授業中に適宜紹介する。

【成績評価方法】

原則として、試験の結果（50%）、実技（演習）の達成度（20%）、レポート（30%）を用いて評価する。

科 目 名	子育て支援			担当者	北澤　明子	
英 文 名	Childcare Support					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME303		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

保育士が保育の専門性を背景として保護者に対して行う相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。また、様々な場や対象に即した子育て支援の内容と方法および技術を実践事例やロールプレイ等を通して具体的に理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保育の専門性を背景とした保護者に対する保育相談支援の特性と展開の習得について	保育相談支援の特性と展開を十分理解し、説明できる	保育相談支援の特性と展開を、資料を参照しながら説明できる	保育相談支援の特性と展開の理解が不十分で、説明できない
保育士の行う子育て支援の方法・技術に関する実践的な習得について	保育士の行う子育て支援の方法・技術を十分理解し、実践的な思考ができる	子育て支援の方法・技術を理解し、実践的な思考がある程度できる	子育て支援の方法・技術の理解が不十分で、実践的な思考ができない
子ども家庭支援を行う専門職としての資質と職務遂行に必要な理論・方法の習得について	子育て支援の方法・技術を十分理解し、専門職として的確な説明と意見表明ができる	子育て支援の方法・技術を理解し、専門職として的確な説明ができる	子育て支援の方法・技術の理解が不十分で、専門職として的確な説明ができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　子どもの保育とともに行う保護者の支援
【　到達目標　】
保育と子育て支援のつながりについて理解する。
子育て支援における最善の利益について理解する。
保育士が行う子育て支援の内容について理解する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第２回　日常的・継続的なかかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係のかたち
【　到達目標　】
日常的・継続的な関わりを通じた保護者の支援について理解する。
保護者との相互理解と信頼関係の形成について理解する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第３回　現代社会における子育て家庭についての理解
【　到達目標　】
現代社会における子育て家庭の状況を把握する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第４回　保護者や家庭の抱える支援ニーズへの気づきと多面的な理解
【　到達目標　】
保護者や家庭の抱える支援のニーズについて理解する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第５回　子ども・保護者が多様な他者とかかわる機会や場の提供
【　到達目標　】
子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供について理解する。
保育士の行う子育て支援の特性についてまとめる。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第６回　保育士として子育て支援を行うために
【　到達目標　】
保育士として自己理解・他者理解が求められる理由とその方法を理解する。
自他の価値観の違いを理解する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第７回　子育て支援のプロセス1
【　到達目標　】
子ども・保護者の状況・状態の把握について理解する。
支援の計画・環境構成について理解する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第８回　子育て支援のプロセス2
【　到達目標　】
支援の実践・記録・評価・カンファレンスについて理解する。
園内の他職種との連携・協働について理解する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第９回　子育て支援のプロセス3
【　到達目標　】
社会資源の活用について理解する。
自治体・関係機関・専門職との連携・協働について理解する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第10回　保育士の行う子育て支援とその実際
【　到達目標　】
保育所・認定こども園等における支援とその実際について理解する。
通園施設における支援とその実際について理解する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第11回　地域の子育て家庭に対する支援
【　到達目標　】
地域の子育て家庭に対する支援とその実際について理解する。
地域子育て支援拠点における支援とその実際について理解する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第12回　特別な配慮を要する子ども及び家庭に対する支援
【　到達目標　】
特別な配慮を要する家庭の生活の状況とその背景を理解する。
支援として活用できる制度や社会資源について理解する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第13回　子ども虐待の予防と対応
【　到達目標　】
子ども虐待の定義と発生要因について理解する。
子ども虐待の関係機関について理解する。
事例を通して、子ども虐待の予防と対応について学ぶ。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第14回　要保護児童等の家庭に対する支援
【　到達目標　】
要保護児童等の家庭に対する支援とその実際について理解する。
入所施設における支援とその実際について理解する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第15回　保育士の行う子育て支援についての総合考察
【　到達目標　】
子どもを産むことについてビデオを通して理解する。
産み育てるなかでの困難や苦労・そこへの支援の際に必要な視点についてまとめる。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、レポート作成に向け、ポイントをまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

保育者として知っておくべき事項や現場で遭遇することの多い出来事について、事例を提示し、演習形式で子育て支援の理論や技術を学ぶ。保育現場で活用できる実践力を身につけるため、体験的な学びを重視する。演習内容ごとに小レポートを数回作成し、理解度を確認する。
　演習に先立ち、パワーポイントと補足資料を用いて要点を示し、口頭でその詳細を説明する。必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら理解を深めていく。事例分析では、グループワークにより検討および合意形成を行う。

【教科書・参考書など】

参考書『ちょっとした言葉かけで変わる保護者支援　新ルール10の原則』大豆田啓友　著メイト

【成績評価方法】

授業時での課題40%、理解度確認のためのレポート結果を60%として評価する。

科 目 名	子どもの理解と援助			担当者	角田　和也	
英 文 名	Child understanding and support					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME304		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。また、子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。さらに、子どもを理解するための具体的な方法を理解するとともに、子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本についても理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
子どもの実態に応じた発達や学びの把握について	子どもの実態に応じた発達や学びの把握について自らの意見を示すことができる	子どもの実態に応じた発達や学びの把握について理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない
子どもを理解する視点・方法について	子どもを理解する視点・方法について自らの意見を示すことができる	子どもを理解する視点・方法について理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない
子どもの理解に基づく発達援助について	子どもの理解に基づく発達援助について自らの意見を示すことができる	子どもの理解に基づく発達援助について理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回 保育における「子どもの理解」
【　到達目標　】
(1)保育における「子どもの理解」の意義について理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第２回　気質
【　到達目標　】
(1)気質について理解する。
(2)遺伝的要因と環境的要因から子どもの育ちを考える。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第３回　子ども理解に基づく養護と教育の一体的展開
【　到達目標　】
(1)「子どもの理解」に基づく養護および教育の一体展開について理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第４回　子ども理解と援助の関係
【　到達目標　】
(1)子ども理解と援助の関係を考える

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第５回　子ども理解と共感的理解の関係
【　到達目標　】
(1)事例を通じて共感的理解の理解を深める

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第６回　感情
【　到達目標　】
(1)感情の発達の視点から、子どもを理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第７回　社会性の発達（1）
【　到達目標　】
(1)葛藤やつまづき場面における援助について考える。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第８回　社会性の発達（2）
【　到達目標　】
(1)モノや人との関わり方から子どもの発達を推測する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第９回　個と集団
【　到達目標　】
(1)集団の視点で保育を考える。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第10回 保育環境の理解や構成
【　到達目標　】
(1))保育環境の重要性について理解する

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第11回　職員間の対話　ー保育環境の視点からー
【　到達目標　】
(1)「子どもの理解」に基づく園内研修・保育カンファレンスについて具体的に理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第12回　保護者との情報共有　ー保育環境の視点からー
【　到達目標　】
(1)「子どもの理解」を保護者と共有し、援助につなげていくことについて理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第13回 発達の課題に応じた援助と関わり　ー保育環境の視点からー
【　到達目標　】
(1)発達の課題に応じた保育者の援助と関わりについて理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第14回　特別な配慮を要する子どもの理解と援助
【　到達目標　】
(1)個々の子どもに応じた発達支援のあり方を理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第15回　発達の連続性と就学への支援
【　到達目標　】
(1)発達の連続性について理解する。
(2)「幼保小連携」の今日的課題を知り、就学に向けた支援について理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成。(4.0hr)

【学修上の留意点】

①基本的にPowerPoint画像や動画を使用し、プロジェクターもしくはモニターに投影して授業を進める。使用する穴埋め方式のプリント教材に即して説明するが、口頭で補足および詳細な説明も併せて行うので、集中してメモを取り、保育実践時に活用できるオリジナル資料の作成を目指す必要がある。
②授業内容の理解を深めることを目的とした実践的な課題レポートの作成を、授業時間外学習で毎回求める。この課題は後日インターネット上の指定されたURLに提出してもらい、評価に反映させる（下欄「成績評価方法」の「提出物の総合評価」に該当）。また、提出された課題は、翌週の授業で授業資料として使用し、主に口頭でさらに補足や追加の説明を加えながら、他の受講者の意見を共有し自身のものの見方・考え方を広げ、より実践力を高めるようフィードバックしていく（当然メモは必須）。
③期末試験は、授業時に説明した基本的な事項や知識の定着の確認、および授業時間外学習で取り組んだ課題とその後のフィードバックで学習した実践的な力の定着の確認を目的として実施する。したがって、ルーブリックの「標準的な到達レベル」から「理想的な到達レベル」で出題されることになるので、授業時間外での日常的な自主学習・復習および実践的な研鑽を積み重ねることが単位取得のためには必須である。
④出席を確認するため、授業は座席指定で行う。前方での受講を希望する場合は、その旨を申告することで座席の配置を考慮する。

【教科書・参考書など】

教科書：市販の教科書は使用せず、毎回授業時に配布するプリント教材を使用する。
参考書：プリント教材内に授業回ごとの参考文献を示してあるので、そちらを参照のこと。

【成績評価方法】

・提出物の総合評価（50%）と期末試験の結果（50%）を合算して総合成績（100%）を算出する。合格基準は60%である。
・試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	保育実習指導Ⅰ			担当者	小堀　哲郎・百瀬　ユカリ	
英文名	Childcare Training Instruction Ⅰ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

保育所及び児童福祉施設等（保育所以外）における実習の意義、目的、内容、方法（観察、実践、記録、評価）を理解するとともに、自らの実習の課題を明らかにする。
子どもの人権と最善の利益、プライバシーの保護、守秘義務を理解する。
実習後の事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
実習についての基礎的事項について	実習についての基礎的事項を理解し、自らまとめて説明できる。	実習についての基礎的事項を理解し、テキストを参照しながら説明できる。	実習についての基礎的事項の理解が不十分で、説明できない。
保育所実習Ⅰ（保育所実習、施設実習）について理解し、準備をする。	保育所実習Ⅰについて理解し、十分に準備をすることができる。	保育所実習Ⅰについて理解し、準備をすることができる。	保育所実習Ⅰについての理解が不十分である。
保育所実習Ⅰを振り返り、今後の課題を明確化する。	保育所実習Ⅰを振り返り、今後の課題を明確化し、自らまとめて説明できる。	保育所実習Ⅰを振り返り、今後の課題を明確化し、説明できる。	保育所実習Ⅰの振り返りが不十分であり、今後の課題を見出すことができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回 授業の目的と流れ
【　到達目標　】
保育実習Ⅰ（施設実習・保育所実習）の目的と全体的な流れを理解する。
【授業時間外学修】
テキストを見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第２回　施設の社会的役割や業務内容について
【　到達目標　】
施設の社会的役割や業務内容について理解する。
【授業時間外学修】
保育所保育指針の理解を深める。(4.0hr)

第３回　施設実習における実習の意義
【　到達目標　】
施設実習における実習の意義や心構えを理解する。
【授業時間外学修】
テキストや配布資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第４回　施設実習における目標の設定
【　到達目標　】
施設実習における目標の立て方を理解する。
【授業時間外学修】
テキストや配布資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第５回　施設実習における文書について
【　到達目標　】
実習記録の意味を理解し、記入の仕方を修得する。
【授業時間外学修】
テキストや配布資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第６回　施設実習に関する全体的な学習
【　到達目標　】
子どもの人権の尊重、守秘義務、プライバシーの保護など、保育士の職業倫理と
社会的責任について理解する。
【授業時間外学修】
テキストや配布資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第７回　施設実習に関する個別的指導
【　到達目標　】
実習を行う施設ごとに個別の課題を見出す。
【授業時間外学修】
配布資料を見直しながら個別の課題に取り組む(4.0hr)

第８回　施設実習の振り返り
【　到達目標　】
施設実習終了後に実習の振り返りを行う。
【授業時間外学修】
レポートを作成する。(4.0hr)

第９回　保育所実習における実習の意義と心構え
【　到達目標　】
保育所実習における実習の意義と心構えについて理解する。
【授業時間外学修】
テキストや配布資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第10回　保育所の社会的役割や業務内容についての理解
【　到達目標　】
保育所の社会的役割や業務内容について理解する。
【授業時間外学修】
テキストや配布資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第11回 保育所実習の目標の設定
【　到達目標　】
保育所実習における目標の立て方を理解する。
【授業時間外学修】
テキストや配布資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第12回 保育実習における文書について
【　到達目標　】
実習記録の意味を理解し、記入の仕方を修得する。
【授業時間外学修】
テキストや配布資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第13回　保育実習における指導案について
【　到達目標　】
指導計画について理解し、部分指導案を作成する。
【授業時間外学修】
指導案を作成する。(4.0hr)

第14回　保育実習に関する実践的指導
【　到達目標　】
子どもの姿をイメージしながら模擬保育を行う。
【授業時間外学修】
実践できる教材を研究する。(4.0hr)

第15回　保育実習の振り返り
【　到達目標　】
保育実習終了後に実習の振り返りを行う。
【授業時間外学修】
レポートを作成する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

初めての保育実習に向けての準備となる授業であるため、全ての授業回への出席は前提として取り組むこと。また、毎時間、実習への準備課題等があるので、積極的にかつ自主的に学習すること。書類の提出は期限を守ること。授業時間内に、各自への課題（実習目標や計画、提出書類の添削指導・評価等）を解説したり、個人指導を行う。毎時間の積み重ねとなるので、正当な理由が無く保育実習指導を欠席した場合及び提出物が無い場合等、保育所実習、施設実習に参加中止に至る場合もあるので留意すること。なお、授業時間外にガイダンスや講座、ワークショップ、補講なども行われるので、それにも必ず出席すること。

【教科書・参考書など】

教科書「よくわかる保育所実習[第6版]」百瀬ユカリ著（創成社）「保育実習の手引き」日本女子体育大学体育学部子ども運動学科
参考書「より深く理解できる施設実習―施設種別の計画と記録の書き方」藤京子他著（萌文書林）
「保育所保育指針」厚生労働省、フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館

【成績評価方法】

事前課題（実習必要書類、保育計画を含む）50%、実習後の振り返り課題(実習報告会関係を含む)50%により総合成績を出す。

科目名	保育実習指導Ⅱ			担当者	百瀬　ユカリ	
英文名	Childcare Training Instruction Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME402		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

保育実習指導Ⅰや既習の教科の内容との関連性を踏まえ、観察、記録、事例研究、実践を通して自己課題を明確にし、保育士の専門性と職業倫理について理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
「保育実習Ⅱ」の意義・目的・内容、「保育」について、総合的に理解する。	保育実習Ⅱについての内容等、保育について総合的に理解し、自らまとめて説明できる。	保育実習Ⅱの内容等、保育について総合的に理解し、テキストを見ながら説明できる。	保育実習Ⅱについての内容等、保育についての理解が不十分で、説明できない。
保育実習指導Ⅰや既習の教科の内容との関連性を踏まえ、保育実習への準備をする。	保育所実習Ⅱについて理解し、十分に準備をすることができる。	保育所実習Ⅱについて理解し、準備をすることができる。	保育所実習Ⅱについての理解、準備が不十分である。
保育の観察、記録、計画立案、模擬保育から評価・省察し、保育の改善ができるようなる。	十分に保育の観察、記録、計画立案、模擬保育から評価・省察し、保育の改善ができる。	実習に必要な保育の観察、記録、計画立案、保育実践、自己評価、保育の改善ができる。	保育の観察、記録、計画立案、保育実践、自己評価、保育の改善の学びが不十分である。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
「保育実習Ⅱ」の実習の意義、目的、実習の流れなどについて確認する。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第２回　保育所の社会的役割、保育士の専門性と職業倫理
【　到達目標　】
保育所の役割と機能、保育士の職務及び職業倫理を理解し、自己課題へ結び付ける。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第３回　保育所保育と保育所の子ども理解を深める①（乳児クラスについて）
【　到達目標　】
乳児クラスでの実習(子どもの発達の特徴及びかかわり方)の理解する。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第４回　保育所保育と保育所の子ども理解を深める②（3歳未満児クラスについて）
【　到達目標　】
3歳未満児クラスでの実習(子どもの発達の特徴及びかかわり方)を理解する。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第５回　保育所保育と保育所の子ども理解を深める③（3歳以上満児クラスについて）
【　到達目標　】
3歳以上児クラスでの実習(子どもの発達の特徴及びかかわり方)を理解する。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第６回 日誌の書き方①（時系列記録の場合）
【　到達目標　】
時系列の日誌の書き方、基本の確認を行い、適切な記入ができるようにする。
【授業時間外学修】
事後学習として、保育実習Ⅰの日誌をもとに1日分の実習日誌を作成する。(4.0hr)

第７回 日誌の書き方②（エピソード記録の場合）
【　到達目標　】
エピソード記録の書き方の確認を行い、適切な記入ができるようにする。
【授業時間外学修】
事後学習として、保育実習Ⅰの日誌をもとにエピソード記録を作成する。(4.0hr)

第８回　保育内容の理解・指導案作成準備
【　到達目標　】
子どもの発達に即した教材研究をし、部分実習指導案の作成に繋げる。
具体的な実習指導案の立て方について理解する。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第9回　保育の計画と実践①（部分指導案立案）
【　到達目標　】
対象となる子ども及び環境等をイメージしながら部分指導案の構想をする。
保育全体の見通しをもって立案、作成する。
【授業時間外学修】
授業での学習内容を踏まえ、指導案を作成する。(4.0hr)

第10回　保育の計画と実践②（模擬保育）
【　到達目標　】
立案した部分実習指導案に沿って、模擬保育を行う。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第11回　保育の計画と実践③（実践後の自己評価と改善）
【　到達目標　】
作成した指導案について、模擬保育の振り返り(評価・省察）に基づく修正をする。
【授業時間外学修】
授業での学習内容を踏まえ、指導案を加筆・修正し、新たな指導案も作成する。(4.0hr)

第12回　実習オリエンテーションガイダンス
【　到達目標　】
2回目の保育所実習に備え、オリエンテーションでの確認事項をおさえる。
（これまでの準備について不足が無いか、再点検する。）
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)

第13回　保育の計画と実践④（責任実習指導案立案 ）
【　到達目標　】
対象となるクラスの保育所の１日の流れをイメージし、1日責任実習指導案を作成する。
【授業時間外学修】
授業での学習内容を踏まえ、作成した責任実習指導案を加筆・修正する。(4.0hr)

第14回　「保育実習Ⅱ」直前準備確認
【　到達目標　】
実習直前準備、実習の心構え及び実習事後の手続きについて理解する。
実習準備状況の最終確認(日誌・指導案の再点検を含む）をする。
【授業時間外学修】
「実習日誌」に必要事項を記入する。(4.0hr)

第15回　自己課題の明確化
【　到達目標　】
自己評価を通して実習を振り返り、今後の自己課題を明確にできるようにする。
【授業時間外学修】
レポートを作成する。(4.0hr)

【学修上の留意点】
保育実習Ⅰで学んだ理論と実践を基に保育実習Ⅱに臨めるよう、保育実習Ⅰでの記録や資料等を整理しておくこと。2回目の保育実習に向けての準備となる授業であるため、全ての授業回への出席は前提として取り組み、積極的にかつ自主的に学習すること。書類の提出は期限を守ること。授業時間内に、各自への課題（実習目標や計画、提出書類の添削指導・評価等）を解説したり、個人指導及びグループワーク等を行う。毎時間の積み重ねとなるので、正当な理由が無く保育実習指導を欠席した場合及び提出物が無い場合等、保育所実習の参加中止に至る場合もあるので留意すること。

【実務経験のある教員による授業科目】

保育現場での実務経験および実習指導の実績を活かし、観察・記録・事例研究・実践を通して自己課題を明確にし、保育士の専門性と職業倫理等について理解できるよう演習を行う。

【教科書・参考書など】
「よくわかる保育所[第6版]」百瀬ユカリ著（創成社）　※参考書はその都度提示する

【成績評価方法】
実習事前課題（指導計画案計画を含む）70%、実習事後レポート30%により総合成績を出す。

科目名	保育実習Ⅰ			担当者	小堀　哲郎・百瀬　ユカリ	
英文名	Practice of Child Care Ⅰ					
単位数	4	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門・選択
授業形態	実習	科目ナンバー	CME403		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【目的とねらい】

保育所の日常保育に参加し、０歳～６歳児の発育発達を実習を通して理解し、養護と教育がいかに具体化されるかを学ぶと共に、保育所の機能と保育士の職務を学ぶ。
児童福祉施設等（保育所以外）の養護と機能を実習を通して具体的に学習し、施設を利用する対象児とその養護内容の理解、現状の問題点を考察する。
様々な職種の専門教職員との中で働く保育士の職務内容を理解すると共に、具体的な支援方法を学ぶ。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保育所の日常保育に参加し、保育所の機能と保育士の職務を学ぶ。	保育所の日常保育に参加し、保育所の機能と保育士の職務を学び具体的に説明できる。	保育所の日常保育に参加し、保育所の機能と保育士の職務を学び説明できる。	保育所の保育に参加する中で保育所の機能と保育士の職務に対する学びが不十分である。
児童福祉施設等（保育所以外）の養護と機能を実習を通して具体的に学習する。	施設等における実習を通して、施設等の機能と保育士の職務を学び具体的に説明できる。	施設等における実習を通して、施設等の機能と保育士の職務を学び説明できる。	施設等の実習に参加する中で、保育士の職務に対する学びが不十分である。
保育所と児童福祉施設等での実習を通して保育士の職務内容を理解すると共に、支援方法を学ぶ。	実習を通して保育士の職務内容を理解し、支援方法を学び、具体的に説明できる。	実習を通して保育士の職務内容を理解し、支援方法を学び、説明できる。	実習を通して保育士の職務内容を理解し、支援方法を十分に学ぶことができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

【保育所】
９月上旬を標準的期間として１２日間の保育所実習を行う。終了後は実習報告会を行う。

【児童福祉施設等（保育所以外）】
１１月を標準的期間として１２日間の児童福祉施設等（保育所以外）の実習を行う。終了後は、実習報告会を行う。

【到達目標】

【保育所】
1.保育の一日の流れを理解し、保育所の生活に参加する。
2.子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。
3.保育計画・指導計画を理解する。
4.生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する。
5.職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
6.記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する。
7.安全・疾病予防への配慮の実際を理解する。
【施設】
1.児童福祉施設等（保育所以外）の生活に参加し、施設の実際（養護の一日の流れ）を理解する。
2.子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。
3.援助計画・内容の実際を理解する。
4.生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。
5.職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
6.記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する。
7.安全・疾病予防への配慮の実際を理解する。

【授業時間外学修】

実習記録の記入及び翌日の実習に向けた準備。実習最終日は、実習の成果と課題の整理を行う。

【授業時間外学修】

保育実習Ⅰに参加するためには、保育実習の派遣資格（履修条件）を満たす必要がある。※学生便覧で確認すること。

【教科書・参考書など】

教科書「よくわかる保育所実習[第6版]」百瀬ユカリ著（創成社）「保育実習の手引き」日本女子体育大学体育学部子ども運動学科
参考図書「より深く理解できる施設実習―施設種別の計画と記録の書き方」藤京子他著（萌文書林）

【成績評価方法】

レポート30%、実習日誌30%、園からの評価40%によって総合的に評価する。

科 目 名	保育実習Ⅱ			担当者	百瀬　ユカリ	
英 文 名	Practice of Child Care Ⅱ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門・選択
授業形態	実習	科目ナンバー	CME404		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【目的とねらい】

保育所の日常保育に参加し、０歳～６歳児の発育発達を実習を通して理解し、養護と教育がいかに具体化されるかを学ぶと共に、保育所の機能と保育士の職務を学ぶ。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
具体的な保育実践を通して、保育所の機能や役割、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する。	具体的な保育実践を通して、保育所の機能や役割、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解し、十分に説明できる。	具体的な保育実践を通して、保育所の機能や役割、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解し、説明できる。	具体的な保育実践を通して、保育所の機能や役割、子どもの保育及び保護者支援について総合的な理解が不十分である。
保育の計画、観察、記録、記録に基づく省察と自己評価について、部分実習・責任実習への取り組みを通して具体的な理解を深める。	保育の計画、観察、記録、省察と自己評価等、部分・責任実習への取り組みを通して具体的な理解を深め、十分に実践に対応できる。	保育の計画、観察、記録、記録に基づく省察と自己評価等、部分・責任実習への取り組みを通して具体的な理解を深め、実践に対応できる。	保育の計画、観察、記録、記録に基づく省察と自己評価について、部分実習・責任実習への取り組みを通して具体的な理解が不十分である。
専門職としての保育士の業務内容や職業倫理について実践に結び付けて学び、実習の総括として、実習における自己課題を明確化する。	保育士として求められる資質、業務内容、職業倫理等を理解し、自己の課題を確認し自らまとめ説明できる。	保育士として求められる資質、業務内容、職業倫理等を理解し、自己の課題を確認しテキストを参照し説明できる。	保育士として求められる資質、業務内容、職業倫理等について理解が不十分であり、自己課題を確認できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

2月中旬を標準的期間として保育所等において12日間（90時間以上）学外実習を行う。既習の知識や技術を基盤として、参加実習、部分実習を行った後、全日（責任）実習を行う。実習全般を通して、乳幼児の発達に応じた援助の方法、保育内容の理解、指導計画の立案、実践、保護者への子育て支援や地域社会との連携の実際など、保育士の職務や保育所の機能・役割と意義を、主体的かつ実践的に学ぶ。

【到達目標】

1.保育所の機能や役割について、具体的な保育実践を通して理解を深める。
2.観察の視点や子どもとの関わりの視点を明確にし、保育の理解を深める。
3.生活や遊びの一部分又は全日の生活の指導を経験することを通して、子どもの保育及び保護者の支援について総合的に理解する。
4.保育の計画、観察、記録、記録に基づく省察と自己評価について、部分実習・責任実習への取り組みを通して具体的な理解を深める。
5.専門職としての保育士の業務内容や職業倫理について、部分実習・責任実習への取り組みを通して実践に結び付けて学ぶ。
6.保育士としての業務内容や職業倫理について、部分・責任実習等の具体的な実践に結び付けて理解し、実習の総括として自己課題を確認する。

【授業時間外学修】

実習記録をまとめ、毎日の振り返りにより実習課題の達成度を確認し、次の実習に活かしていく。また、部分・責任実習の準備、振り返りを行う。

【授業時間外学修】

実習には、誠実に意欲的に取り組み、遅刻・欠席をせず、課題や実習日誌等の提出期限を厳守すること。
なお、上記について、指導を重ねても改善がみられない場合は、実習中止に至る場合があるので留意すること。保育実習指導Ⅱの授業を受講し、準備を行うこと。

【実務経験のある教員による授業科目】

保育現場での実務経験および実習指導経験のある教員が、保育実習に関する個別の事前事後指導および巡回指導を行う。

【教科書・参考書など】

教科書「よくわかる保育所実習[第6版]」百瀬ユカリ著（創成社）
参考書『保育所保育指針解説』厚生労働省編（フレーベル館）他

【成績評価方法】

レポート30%、実習日誌30%、園からの評価40%によって総合的に評価する。

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）			担当者	北澤　明子・百瀬　ユカリ	
英文名	Practical Seminar for the Teaching Profession					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4					専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME405		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

この科目は、教職課程及び保育士養成課程の総仕上げとなる科目である。4年間の学習内容を振り返り、自らの課題を発見し、教員・保育士としての基本的な資質能力を確かなものとする。本授業の目標は以下の通りである。①保育者として必要な専門的知識・技術、教養・総合的な判断力、専門職としての倫理観を身に付けているか、これまでの学修を振り返り把握する。②自己にとって何が課題であるのか自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図る。③保育・教育実習での自らの体験や収集した知識・技術等と保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育者、保育現場、地域、社会が求められていることは何か、多様な視点から考察することができる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保育者として必要な専門的知識・技術等及び職業倫理について、これまでの学修を振り返り把握する。	保育者として必要な専門的知識・技術等及び職業倫理について学修状況を把握し十分説明できる。	保育者として必要な専門的知識・技術等及び職業倫理について学修状況を把握し説明できる。	保育者として必要な専門的知識・技術等及び職業倫理について学修状況の把握が不十分である。
自己課題を明確にし、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図る。	自己課題を明確にし、必要に応じて不足している知識や技能等を十分に補い、その定着を図る。	自己課題を明確にし、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図る。	自己課題を明確にできず、不足している知識や技能等を補うことができない。
実習での体験や知識・技術等と、保育に関する現代的課題を分析し、多様な視点から考察できる。	実習体験や知識・技術等と保育に関する現代的課題を分析し、多様な視点から十分に考察できる。	実習での体験や知識・技術等と、保育に関する現代的課題を分析し、多様な視点から考察できる。	実習での体験や知識・技術等と、保育に関する現代的課題を分析、考察ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス　自己評価
【　到達目標　】
本授業の目標、進行方法等について説明する。
４年間の学びを振り返り、履修カルテを記入する。
「保育者としての学び」に対して自己評価を行い、自己課題を設定する。
【授業時間外学修】
実習の振り返りに関するレポートを作成する。(4.0hr)

第２回　子どもの理解を深め適切な援助へ
【　到達目標　】
実習の履修カルテの記入を通し、これまでの実習を振り返る。
子どもとのかかわり方について討論し、適切な援助の在り方について理解を深める。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)

第３回　保育者の服務と研修、保育者としてのライフサイクルと成長の課題（講話）
【　到達目標　】
現職保育者を招き、講話を聞くことにより、保育者の服務と研修、保育者としてのライフスタイルの実情について学ぶ。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)

第４回　子育て・家庭支援について
【　到達目標　】
事例検討を行い、グループ討議により意見交換をしながら、適切な支援の在り方を理解する。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)

第５回　行事について考える
【　到達目標　】
実習園等における幼稚園及び保育所の保育の方針と行事の在り方について討論する。
【授業時間外学修】
幼稚園、保育所における行事の在り方に関するレポートを作成する。(4.0hr)

第６回　保護者との連携についての理解（講話）
【　到達目標　】
現職保育者を招き、講話を聞くことにより、保護者との連携の現状を知り、連携のために必要とされていることについて学ぶ。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)

第７回　前半の授業のまとめ
【　到達目標　】
前半の授業を通して得た知見をもとに、自己の課題を整理する。
自己課題解決に向けての取り組みについて計画し、不足している知識や技能を補うようにしていく。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)

第８回　教職の意義と教員の役割、子どもに対する責任（講義）
【　到達目標　】
今日の教育について理解を深め教職の意義、教員の役割について考える。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)

第９回　教職の意義と教員の役割、子どもに対する責任（討論・発表）
【　到達目標　】
学生によるグループ討論と発表を行い、保育者としての自己課題を明確化し、
卒業までの個人としての目標を確認する。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)

第10回　学級経営、園経営、保育技術についての理解（講話）
【　到達目標　】
学級の経営や園経営の実際を理解する。
講師によるレクリエーションを通して保育技術の習得を行う。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)

第11回　小学校との連携について
【　到達目標　】
保幼小の連携の実態について調べたことを報告、グループ討議し、
スタートカリキュラムの内容を理解する。
【授業時間外学修】
事後学習として、話し合った内容をまとめる。(4.0hr)

第12回　保育者として求められる社会性・対人関係能力
【　到達目標　】
これまでの授業を通して得た知見をもとに討論し、保育者にとっての
保護者とのコミュニケーションの重要性について理解を深める。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)

第13回　自己課題解決に向けての取り組みの成果発表と学生間の相互評価１
【　到達目標　】
自己課題を認識し、解決するまでのプロセスを発表をして、自分の課題をより相対化する。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)

第14回　自己課題解決に向けての取り組みの成果発表と学生間の相互評価２
【　到達目標　】
自己課題を認識し、解決するまでのプロセスを発表をして、自分の課題をより相対化する。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)

第15回　魅力ある保育者を目指してーレポート作成と意見交換ー
【　到達目標　】
保育者としての資質能力（実技・知識・教職の適性等）及び職業倫理の再確認をする。
【授業時間外学修】
本科目のまとめに関するレポートを作成する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

・履修カルテに、４年間の学びや各自の課題等についてまとめ提出する。そのため、各実習中に作成した指導案や資料等は整理しておくこと。・毎時間レスポンスカードを配布し、理解度の確認を行うと共に、授業でフィードバックしていく。・これまでの学修や教育実習及び保育実習の経験を振り返り、自己課題について認識するとともに、発表やグループ討論により、学生一人ひとりが自己の課題解決のための学修を積極的に進めていってほしい。・自らの保育者（幼稚園教諭・保育士）となるための自己課題を明確にし、補う必要のある知識・技能等が明らかになり次第、それを実施し、定着させていくことが重要である。

【教科書・参考書など】

教科書　「幼稚園教育要領解説」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府文部科学省厚生労働省、「保育所保育指針解説」厚生労働省
参考書・参考資料等：教育実習事前指導である「教育実習」の授業時に作成する教職課程履修チェックリスト、教育実習・保育実習時に作成する指導案、「実習日誌」等

【成績評価方法】

各種レポート課題（50%）、授業時の発表(作成資料等を含む)（50%）

科目名	保育実習指導Ⅲ	担当者	小堀　哲郎
英文名	Childcare Training Instruction Ⅲ		

単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4					専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME406		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

事前指導では、保育実習Ⅰで学んだ理論と実践をもとに、保育所以外の児童福祉施設で行う実習を意義について理解している。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、施設における保育士としての課題を認識している。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
児童福祉実習についての基礎的事項について	保育実習Ⅰを踏まえ、実習についての基礎的事項を理解し、自らまとめて説明できる。	保育実習Ⅰを踏まえ、実習についての基礎的事項を理解し、テキストを参照しながら説明できる。	実習についての基礎的事項の理解が不十分で、説明できない。
保育実習Ⅲについて理解し、準備をする。	保育実習Ⅲについて理解し、実習課題を明確にし、自ら充分な実習準備をすることができる。	保育実習Ⅲについて理解し、保育実習Ⅰを踏まえた自己課題を明確にした実習準備ができる。	保育実習Ⅲについての理解が不十分で準備が出来ない。
児童福祉施設実習を振り返り、自己課題を明確化する。	施設実習を振り返り、自己評価をより具体的にする中で、新たな学習に繋げ自らの課題を説明できる。	施設実習を振り返り自己評価を行い、自己課題を明確化している。	施設実習の振り返りが不十分であり、自己評価から今後の課題を見出していない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　保育実習Ⅰを振り返る①
【　到達目標　】
保育実習Ⅰを振り返り、保育者を目指すものとしての自己課題を理解している。
【授業時間外学修】
保育実習Ⅰの実習日誌や自己評価などを見直す。(4.0hr)

第２回　保育実習Ⅰを振り返る②
【　到達目標　】
保育実習Ⅲの進め方と概要、評価方法について確認し、保育実習Ⅲの目標と内容を理解している。
【授業時間外学修】
これまでの振り返りをもとに、実習の課題を明らかにして書き記す。(4.0hr)

第３回　児童福祉施設の種類、役割、機能の具体的理解
【　到達目標　】
それぞれの実習希望先に応じて、事例（資料）を用いて、施設の役割や機能について理解している。
【授業時間外学修】
施設や児童養護に関する事例（資料）を収集し、整理する。(4.0hr)

第４回　児童福祉施設の種類、役割、機能の具体的理解
【　到達目標　】
それぞれの実習希望先に応じて、事例検討を行い、施設の役割や機能について理解している。
【授業時間外学修】
施設や児童養護に関する事例から必要な支援や関わりを考えて書く。(4.0hr)

第５回　児童福祉施設の種類、役割、機能の具体的理解
【　到達目標　】
それぞれの実習希望先に応じて、グループ活動を通して、テーマを明確にする。
【授業時間外学修】
資料及び参考文献を用いて施設への理解を深め、グループ内報告の準備をする。(4.0hr)

第６回　児童福祉施設の種類、役割、機能の具体的理解
【　到達目標　】
グループごとに事例検討を行い、それぞれの施設の役割や機能について理解している。
【授業時間外学修】
グループ報告での内容を整理し、子どもの心理や行動を理解しようとする。(4.0hr)

第７回　施設を利用する子どもの理解
【　到達目標　】
子どもの観察と記録および援助のかかわりについて具体的に理解している。
【授業時間外学修】
教科書を読み、観察の観点や記録の重要性を知る。(4.0hr)

第８回　一人一人の子どもの状態に応じた援助やかかわりの理解
【　到達目標　】
入所の事由や子どもの状態に応じたかかわりや援助の実際について理解している。
【授業時間外学修】
参考文献を読む等して、援助の実際を知る。(4.0hr)

第９回　個別の支援計画の理解
【　到達目標　】
個別の支援計画について理解し、対象児にあわせて立案することができる。
【授業時間外学修】
施設における個別の支援計画に目を通し、その意図等を理解している。(4.0hr)

第10回　支援の計画・実践・評価
【　到達目標　】
個別の支援計画に基づく実践を評価し、改善点等について理解している。
【授業時間外学修】
作成した個別の支援計画を再考する。(4.0hr)

第11回　子どもをとりまく環境を踏まえた地域社会との連携
【　到達目標　】
子どもをとりまく環境や生活状況等を理解し、地域社会との連携や支援体制について理解している。
【授業時間外学修】
新聞記事や雑誌などを通して子どもを取り巻く環境を考察する。(4.0hr)

第12回　職員間の連携や役割分担の理解
【　到達目標　】
保育士等の職員間の連携や役割分担について理解している。
【授業時間外学修】
施設の職員の職種とその役割をまとめる。(4.0hr)

第13回　専門職としての倫理と子どもの最善の利益の理解
【　到達目標　】
子どもの人権の尊重、プライバシーの保護と守秘義務等の職業倫理について具体的に理解している。
【授業時間外学修】
子どもの権利条約や人権擁護にかかわる法律等を読み、理解する。(4.0hr)

第14回　実習の振り返りと自己評価
【　到達目標　】
実習を振り返り、子どもへの支援や養護的かかわり等について理解している。
【授業時間外学修】
自己評価の観点を踏まえて実習を自己評価する。(4.0hr)

第15回　実習に基づく自己課題の明確化
【　到達目標　】
自己評価をもとに新たな課題や学習目標を明確にする。
【授業時間外学修】
施設からの実習評価と自己評価を照らし合わせながら自己課題を見出す。(4.0hr)

【学修上の留意点】

個人学習及びグループ学習を通して、児童福祉や社会的養護の学びを踏まえ、施設に入所する子どもへの理解や施設の役割についての理解を深め、支援の内容や方法を具体的に学んでほしい。また、実習先となる施設と異なる種類の施設についても、事前学習や実習報告等様々な機会を利用して理解できるよう努めることが望ましい。実習で得た学びを、自己評価するとともに、実習生全体の学びとして共有できるよう、フィードバックしていく。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。適宜、資料等を配布。
参考書等については授業時に紹介する。

【成績評価方法】

各回の授業課題（45%）、期末レポート課題（55%）。

科目名	保育実習Ⅲ			担当者	小堀　哲郎	
英文名	Practice of Child Care Ⅲ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4					専門・選択
授業形態	実習	科目ナンバー	CME407		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【目的とねらい】

保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、施設の役割や機能について実習を通して理解を深める。また、保育士の職業倫理について具体的に理解し、入所児童の人権やプライバシーに配慮しながら子どもへの理解を深める。さらに、施設の現状や課題に着目しながら、様々な専門職と連携を図り子どもと保護者を支援する保育士の役割や、具体的な支援の内容について学び、保育士としての自己課題を明確にする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
児童福祉施設等の役割や機能について実習を通して理解を深める。	保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、施設の役割や機能について実習を通して理解し説明できる。	保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、施設の役割や機能について実習を通して理解している。	保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、施設の役割や機能について実習を通しての理解していない。
施設における支援の実際を理解する。	基本的な施設保育士の態度、支援内容を理解し、長期的視野に立った個別支援計画作成・実践が出来る。	基本的な施設保育士の態度、支援内容を理解し、個別支援計画作成・実践が出来る。	基本的な施設保育士の態度、支援内容を理解が不十分で、個別支援計画作成・実践ができない。
保育士の職業倫理、子どもへの理解を深め、保育士としての自己課題を明確にする。	保育士の職業倫理及び役割を理解しており、実践に結び付けた自己課題が明確になっている。	保育士の職業倫理及び役割を理解しており、自己課題が明確になっている。	保育士の職業倫理及び役割が理解できておらず、自己課題が明確になっていない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

１１月を標準的期間として、１２日間の児童福祉施設での実習を行う。終了後は、実習報告会を行う。

【到達目標】

1.児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能について、実習を通して理解している。
2.施設における支援の実際を理解している。
　①受容し、共感する態度
　②個人差や生活環境に伴うニーズの把握と子ども理解
　③個別支援計画の作成と実践
　④子どもの家庭への支援と対応
　⑤多様な専門職との連携
　⑥地域との連携
3.保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解している。
4.保育士としての自己課題が明確になっている。

【授業時間外学修】

子ども一人一人の理解を深めるために、社会的養護や児童養護に関わる書物や資料を読む。また、新聞や雑誌などで現代の家庭や社会が抱える問題・課題に関する記事を読み、考察する。

【授業時間外学修】

現代社会における児童福祉や社会的養護の重要性について理解を深めながら、施設の在り方や子どもの最善の利益を踏まえた支援の実際について意欲的に学んでほしい。施設実習の経験は保育や福祉の根幹にかかわる重要な学びとなり、貴重な経験になることを踏まえ、課題意識をもって実習に臨んでほしい。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。適宜、資料等を配布。
参考書等については授業時に紹介する。

【成績評価方法】

レポート30%、実習日誌30%、施設からの評価40%によって総合的に評価する。

科目名	教育実習（事前・事後指導を含む）			担当者	北澤　明子	
英文名	Guidance Teaching Practice					
単位数	5	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4					専門・選択
授業形態	実習	科目ナンバー	CME408		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

「教育実習」は大学での「事前・事後指導」（１単位）と幼稚園での４週間の「幼稚園実習」（４単位）からなる。
幼稚園における実際の保育にかかわり、幼稚園教育（教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等）の理解を深め、保育者としての資質を高めることを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
事前指導において、教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等を理解する。	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任を理解し自らまとめて説明できる。	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任をテキストを参照しながら説明できる。	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任への理解が不十分で説明できない。
幼稚園で実際の保育に関わり、子どもや保育者から学びながら保育者としての資質を高める。	実際の保育に関わり、保育者としての資質を高め、そのことを自らまとめ説明できる。	実際の保育に関わり保育者としての資質を高め、そのことをテキストを参照しつつ説明できる。	実際の保育に関わりながら、保育者や子どもから十分に学ぶ事ができない。
実習を振り返り、自己課題を明確にする。	実習を振り返り、自己課題を明確にし、自らまとめ、説明できる。	実習を振り返り、自己課題を明確にし、テキストなどを参照しながら説明できる。	実習の振り返りが不十分で、自己課題を見出すことができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　幼稚園実習について
【　到達目標　】
授業の進め方について理解する。
幼稚園教育要領、幼稚園生活の流れなどを学ぶ。
附属幼稚園での実習の仕方、記録の書き方を学ぶ。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。

第２回　子どもの理解
【　到達目標　】
様々な角度から子どもを理解する方法を学ぶ。
保育者は子どもとどのように向き合っていくべきか考える。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。

第３回　附属幼稚園での見学、参加実習１
【　到達目標　】
附属幼稚園で見学、参加実習を行い､子どもの発達や個々の様子について理解を深める。
実習記録（時系列）の取り方を学ぶ。記録の取り方については個人指導を受ける。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。

第４回　附属幼稚園での見学、参加実習２
【　到達目標　】
附属幼稚園で見学、参加実習を行い、子どもの発達や個々の様子について理解を深める。
実習記録（時系列）の取り方を学ぶ。記録の取り方については個人指導を受ける。
【授業時間外学修】
事後学習として、観察記録を書き指導を受ける。

第５回　附属幼稚園での見学、参加実習３
【　到達目標　】
附属幼稚園で見学、参加実習を行い､子どもの遊びや人間関係について理解を深める。
実習記録（エピソード）の取り方を学ぶ。記録の取り方については個人指導を受ける。
【授業時間外学修】
事後学習として、観察記録（エピソード）を書き指導を受ける。

第６回　附属幼稚園での見学、参加実習４
【　到達目標　】
附属幼稚園で見学、参加実習を行い､子どもの遊びや人間関係について理解を深める。
実習記録（エピソード）の取り方を学ぶ。記録の取り方については個人指導を受ける。
【授業時間外学修】
事後学習として、観察記録（エピソード）を書き指導を受ける。

第７回　指導計画立案
【　到達目標　】
幼稚園教育課程を学び、指導案を作成する。
指導案作成の際の注意事項などを学ぶ。
教育要領に基づく教育課程の理解を深める。
【授業時間外学修】
事後学習として、指導案を書く作業をすすめる。

第８回　教材研究
【　到達目標　】
絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアターの教材研究を行い、オリジナルのものを作成する、造形あそび、リズムあそびなど様々なあそびの研究も行う。造形あそび、リズムあそびなど様々なあそびの研究も行う。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。

第９回　保育実践の留意点
【　到達目標　】
作成した指導案を展開することにより、保育に取り組む姿勢などを学ぶ。
指導案については個人指導を受ける。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。

第10回
【　到達目標　】
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。

第11回 実習に向けての心構え
【　到達目標　】
実習中、実習前後の心構えについて理解する。
服装、持ち物、健康管理など、実習中の詳細について確認する。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。

第12回　実習の振り返りと自己評価①
【　到達目標　】
実習を振返り、自己評価を行う。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。

第13回　実習の振り返りと評価面談
【　到達目標　】
個別面談にて実習の振り返りと園からの評価を伝え、今後の自己課題を明確にする。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。

第14回　実習報告会
【　到達目標　】
実習で学んだことを報告し合い、互いに共有するとともに下学年に対し経験を伝える。
実習で得たものを今後にどのように活かしていくかを考える。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。

第15回　実習ノートの分析・評価面談
【　到達目標　】
返却された実習ノートを読み返しながら自己の課題について認識する。
評価面談を並行して行い自己課題を明確化する。
【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。

【学修上の留意点】

全ての授業に対し、幼稚園教諭免許状取得を目指し、実習に臨む積極的な態度で臨むこと。課題には自主的に取り組み、提出物は必ず期限を守り提出すること。講義においてはパワーポイントを用いて要点を示し、口頭で詳細を説明する。具体的な子どもの姿を思い浮かべながら受講することが大切である。

【教科書・参考書など】

教科書：「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」小櫃智子編著（わかば社）、「幼稚園教育要領」文部科学省／参考書：「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省
参考書：「保育記録のとり方・生かし方」関章信編著（すずき出版）

【成績評価方法】

事前事後の授業でのレポート・課題の評価（30%）
実習日誌についての評価（20%）
実習園からの評価（50%）

科 目 名	スポーツ・舞踊活動特別実習			担当者	井筒　紫乃	
英 文 名	Specially Sport Methods in Club Activities					
単 位 数	3	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1～3					専門・選択
授業形態	実習	科目ナンバー	CME208		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【目的とねらい】

本学における部活動を通して、得られた経験や成果をまとめ、より専門的なスポーツ活動に繋げることを目的とする。１年次から３年次まで継続して活動することが単位取得のための必要条件となる。選手だけではなく、選手をサポートするマネージャー等も受講対象とする。

履修者は、１年次から３年次まで年次ごとに活動報告書を作成し、優れた成績や自らのパフォーマンス向上に繋がるような分析や考察をすることが求められる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スポーツ・舞踊活動報告書について	今後の活動に活かすことのできる報告書を提出することができる	十分な内容の報告書を期日までに提出することができる	報告書を期日までに提出することができない
それぞれのスポーツ・舞踊活動に対する主体性・積極性について	スポーツ・舞踊活動に対して主体的・積極的に非常によく取り組むことができる	スポーツ・舞踊活動に対して主体的・積極的に取り組むことができる	スポーツ・舞踊活動に対して主体的・積極的に取り組むことができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

１、１年次 ４月：ガイダンス
授業の目的やねらいについて説明を行う。また、活動報告書の作成方法及び提出についても説明する。
２、１年次：
部活動を継続して行い、その活動報告書を作成し、提出する（１月末）。日々の部活動の練習状況や、それ以外の自主的な練習の状況、トレーニングなどについて実際に行った内容を中心にまとめる。戦績についても、競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。また、２年次以降の充実につながるような目標を記す。１２月頃、ガイダンスを行う。
３、２年次：
部活動を継続して行い、その活動報告書を作成し、提出する（１月末）。日々の部活動の練習状況や、それ以外の自主的な練習の状況、トレーニングなどについて実際に行った内容を中心にまとめる。戦績についても、競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。また、３年次以降の充実につながるような目標を記す。１２月頃、ガイダンスを行う。
４、３年次：
部活動を継続して行い、その活動報告書を作成し、提出する（１月末）。日々の部活動の練習状況や、それ以外の自主的な練習の状況、トレーニングなどについて実際に行った内容を中心にまとめる。戦績についても、競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。また、最終年次、部活動の集大成としての具体的な目標を記す。さらに、大学での競技を終え、卒業後にこの経験をどのように生かしていくのかについても記す。１２月頃、ガイダンスを行う。

【到達目標】

継続した活動を通して、競技者として競技力を向上させ、より優れた成績を残すことが到達目標となる。さらに、大学生競技者として、年次を重ねるごとに人間的にも成長していることを実感できることが目標となる。卒業後、競技者の継続を希望する者、指導者を希望する者等、将来の自分をイメージしながら日々の活動を行い、報告書を作成することが望ましい。

【授業時間外学修】

日々の部活動には、目的意識をもって取り組み、練習ノート等にその日の練習内容に加えて、反省すべき点や今後活かせる点等も記録する。自らの課題を解決するために必要な情報については、授業や書籍等を活用しながら、それらを積極的に取り入れ、より有効な活動ができるようにする。

【授業時間外学修】

大学でスポーツ活動を実施する学生が、さらにそのスポーツ活動を継続させて実施する場合に受講できる。受講を希望する学生は、スポーツ活動に関する書類を事前に提出し、受講可否の審査を審査を受ける。受講学生は、１年ごとに実施したスポーツ活動の内容について報告書を提出する。不定期でガイダンスを実施するので、掲示をよく見て、必ず出席すること。また、学年をまたいでの課題提出はいかなる理由であっても認めない。その場合は、次年度の履修は取り消しとなるので注意すること。

【教科書・参考書など】

各競技種目に関する専門書や指導書など。

【成績評価方法】

３年間を通したスポーツ活動実績と活動報告書に基づき総合的に評価を行う。

科 目 名	卒業研究			担当者		
英 文 名	Graduation Thesis					
単 位 数	6	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3～4					専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME409		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【目的とねらい】

子ども運動学科において展開されるカリキュラムの中から、一つの専門の領域や分野（研究室）を選択し、各自の興味や関心にふさわしいテーマについて卒業論文として完成させる。３年次からの２年間にわたる活動をとおして幼児発達の理解をさらに深めるとともに、専門的な能力を高める。さらに、具体的な研究手法の実践、自分の考えや研究結果をまとめ、プレゼンテーション（発表）を行う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
卒業研究の基礎的事項の理解	卒業研究の基礎的事項を十分理解し、自ら積極的に取り組むことができる。	卒業研究の基礎的事項を理解し取り組むことができる。	卒業研究の基礎的事項を十分理解していない。
卒業研究計画の設定と研究活動の展開	研究計画を設定し、自ら進んで研究活動を展開している。	研究計画を設定し、研究活動を展開している。	研究計画通りに、研究活動を展開していない。
卒業論文の作成と成果の発表	卒業論文の作成に積極的に取り組み、研究成果を発表することができる。	卒業論文の作成に取り組み、研究成果を発表することができる。	卒業論文を作成することができず、研究成果を発表することができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

1.基本的な研究課題・内容、研究方法、研究手順の理解
2.研究テーマと基本的な研究計画の設定
3.研究活動の展開
4.結果の考察とまとめ
5.論文の作成、研究成果の発表

【到達目標】

1.基本的な研究課題・内容、研究方法、研究手順の理解
　専門的に学ぶ分野の先行研究の概要や、問題の所在を充分に理解する。
2.研究テーマと基本的な研究計画の設定
　対象分野の研究の動向や、研究方法及び手法の特色を理解し、各自のテーマと方法を構想する。
3.研究活動の展開
　各自のテーマと研究計画を明確にして、具体的に展開する。
4.結果の考察とまとめ
　論文のまとめを構想しながら、さらに研究を進め、考察を深める。
5.論文の作成、研究成果の発表
　構成を練り、論理的にまとまりよく、的確に伝えることができる。

【授業時間外学修】

各担当教員の指示による。

【授業時間外学修】

各担当教員の指示による。

【教科書・参考書など】

状況に応じて参考図書・資料等を紹介する。

【成績評価方法】

２年間の論文作成に至る過程での状況と、論文の内容を総合的に評価する。